

よみうり新聞彙報欄「よみうり抄」・大正十五年(昭和元年)

生住, 昌大
九州大学比較社会文化研究院

石川, 巧
九州大学比較社会文化研究院

小川, 竜紀
九州大学比較社会文化研究院

楠田, 剛士
九州大学比較社会文化研究院

他

<https://doi.org/10.15017/8681>

出版情報 : 比較社会文化. 12, pp.1-108, 2006-03-20. Graduate School of Social and Cultural Studies, Kyushu University

バージョン :

権利関係 :



よみうり新聞彙報欄 「よみうり抄」・大正十五年（昭和元年）

作 成 者

生 住 昌 大（いきずみ・まさひろ）
石 川 巧（いしかわ・たくみ）
小 川 竜 紀（おがわ・たつり）
楠 田 剛 士（くすだ・つよし）
河 内 重 雄（こうち・しげお）
小 林 雄 己（こばやし・ゆうき）
徐 忍 宇（ソ・イヌ）
白 潔（バイ・ジェー）
平 川 梓（ひらかわ・あづさ）

研究の目的

この研究は「読売新聞」の文芸彙報欄として明治三十一年十月六日にはじまった「よみうり抄」（同月二日から掲載された「秋風録」を改題して「よみうり抄」とした）をデータ・ベース化することによって、文学はもとより、歴史、芸術、文化などの諸領域における学術研究に関する新たな情報を提供することを目的としている。

近年の近代文学研究においては、「作家」という主体をテキストから切り離し、テキストを構成する一要素とみなす傾向が強い。そのため、「作家」の伝記的領域に関する事項、あるいは、同時代的な状況との照合を必要とする実証研究においても、新たな調査を行わず、既成の資料をそのまま受け容れたかたちで論を展開しているものも数多くみられる。しかし、新聞・雑誌をはじめとするマス・メディアの発達とともに「商品」として販売戦略の一端を担うことになり、固有名そのものが偶像化され（志賀直哉に「小説の神様」というレッテルを貼ったり、自然主義作家を変態趣味のもちぬしとして表象したりする行為などはその典型だろう）、偶像として文学史的な位置づけがなされる「作家」なるものの位相を考えると、同時代の新聞が報じた「作家」の諸情報をデータ・ベース化し、生身の人間としての「作家」ではなく、メディアの力によって構築された肖像としての「作家」像を分析することは極めて重要な意味をもつ。

本稿が研究対象とする「よみうり抄」は、作家はもとより、芸術家、学者、文化人らの短信・消息・ゴシップについて、マスコミが率先して情報提供を行うようになった企画の嚆矢である。「よみうり抄」の登場は、当時の新聞読者から高く評価され、その後、他の新聞や雑誌でもこうした彙報欄が一般化していくのである。

作家や文化人たちが、いつどこに出かけ、誰と会い、何をしたのかといった消息を日々の記録として集積していく彙報欄の登場によって、読者は出来あがった作品だけでなく、その創作過程や作品の背景にも精通できるようになった。講演会や研究会などといった活動がどのようにに組織されていたのかとか、作家たちがどのような人間関係で結ばれていたのかといった情報にも目配りを働かせることができるようになった。

「よみうり抄」の特徴は、作家たちの旅行・滞在に関する記事、ジャーナリズムに関する情報提供、講演会・展示会・研究会などの情報提供、単行本の刊行に関する情報提供（事前の情報ゆえ、実際には刊行に至らなかったりタイトルが変更されていたりする場合もあり、きわめて興味深い情報が得られる）、在外・外遊などに関する情報、闘病・療養などに関する情報、転居情報などを幅広く含んでいる。また、文学だけでなく、美術や学術の方面についても詳細な情報が提供されており、同時代の文化全体を包括する内容になっている。こうした情報をデータ・ベース化することによって、これまで特定の人

物の言説（それは「文壇」に象徴されるように、それぞれの文化領域を構成する集団の中心にいればいるほど広く行きわたり、中心から離れるほどかき消されていく）やその周辺に生きた人々の証言を通して形成されてきた近代の文学・文化・芸術に関する諸情報は、より事実関係に即したかたちで編み直し、日々変化していく動きとして再構築し、さらに、検索機能によって諸情報を項目別・目的別に編集し直されることになる。もう少し具体的にいえば、①報道記事を通して、作品の成立過程、人物の動向、人と人との交友関係などが詳らかになり、これまで曖昧だった伝記情報、書誌情報が確定できるようになる、②このデータ・ベースを回路として、近代文学史、文化史、芸術史、出版史などの領域を横断的に研究できるようになる、③近代名家はもろろんのこと、現在ではほとんど顧みられることがなくなっている人物に光をあて、研究の空白領域を埋めることができるようになる、④マス・メディアが誰をどのように報じているかが明らかにすることで、特定の人物の神話化、ゴシップによるイメージ作りの戦略など、人間が「商品化」されていく過程を追跡することができる、⑤様々な事実関係を多角的に検索できるようなデータ・ベース（例えば、「熱海」という項目で検索すれば、「熱海」を訪ねた作家・文化人の足跡はもとより、そこで行われた様々な行事なども明らかにになり、近代文化史における「熱海」の役割が鮮明になる）の構築によって新しい研究の視点を用意する、⑥「彙報欄」のあり方を通して、マス・メディアと文化現象の相互性を明らかにする、⑦事前に広告されながら、実際には刊行されなかったり、タイトルや内容が変わっていたりする著作物に着目し、そこにどのような力が加えられていたのかを考察する手がかりとする、などといったかたちで、幅広く活用することができるだろう。また、こうした情報を共有し、より多くの人物に関

する実像／虚像を考察できるようなシステムを作れば、このデータ・ベースは人文科学研究に広く応用できるはずである。

本稿は、そうしたデータ・ベースを構築するための第一段階として、まずは大正十五年（昭和元年）の「よみうり抄」を入力することによって、今後、どのような点に留意し、どのような計画で作業を進行させていくべきかを考察したものである。データの打ち込みは、九州大学大学院比較社会文化研究院で教員の石川巧が担当した授業科目「調査研究方法論」に参加した受講生が分担し、授業のなかで正確な書誌情報との照合を行うとともに、誤字・誤植・誤記に関して可能な限りの校定を加えたものである。詳細は「凡例」に委ねたいが、この仕事は基本的に、膨大な「よみうり抄」をデータ・ベース化していくためのサンプルであることをお断りしておく。

凡例

一、本稿は、大正十五（一九二六）年一月一日から、昭和元年（一九二六）年十二月三十一日までに、「読売新聞」に掲載された「よみうり抄」を収録したものである。作成に当たっては、マイクロフィルム版「読売新聞」（読売新聞社、一九七四年作成）を原板とした。本稿が大正十五年をサンプルとして選んだのは、この年度についての詳細な情報を記した「文芸年鑑」およびそれに類する年報が存在せず、この時期の文学状況を研究するための資料として活用することができないかと考えたからである。

一、字体は、原則として新字体とした。但し、人名・団体名・作品名などの固有名については、現在でも旧字体・正字表記が一般的と思われる場合に限り、旧字体・正字のまま記した（例「芥川龍之介」「和辻哲郎」など）。

一、本文作成においては、仮名遣い、送り仮名、反復記号な

どの表記の混用については、清濁も含めて、明らかな誤り以外は原版通りとした。但し、人名・団体名・作品名などの固有名については、明らかな誤りでも原版を尊重して本文を作成し、その誤りは【注記】で訂正した。

一、特に外国人名や片仮名表記の固有名には揺れが目立ち、濁点と半濁点の識別が困難なものも多い。その場合（例えば「イブセン」あるいは「イブセン」）は、現在一般的に通用している呼称（「イブセン」）に統一した。

一、原版活字の摩滅などの理由により識別が困難である箇所については、■で補った。但し、前後の文脈から推測が可能なもの、あるいは、調査の結果明らかになったものに関しては、特に言及することなく、適宜補ってある。

一、句読点や中点、「」や「」などの符合は、原則として原版通りとしたが、脱落していたり、行末にくるなどして消去されていると判断されたものについては、適宜補った。

一、「よみうり抄」が掲載されなかった日は「なし」と記した。

一、「読売新聞」には、「よみうり抄」以外にも刊行物の案内記事が見られるが、定価等が入っているものは広告とみなし除外した。

一、「カフエ」、「世田ヶ谷」、「ピリニヤク」などの表記については、すべて「カフエ」、「世田ヶ谷」、「ピリニヤク」といった具合に統一した。

一、新聞表記と実際に発表された際の表記が異なる場合も多いが、その点については、いくつかの例外（コピーをとりよせて照合した箇所など）を除いて新聞発表のママにしてある。

本稿では、将来的に電子情報としてまとめることを企図しているため検索の便を第一とし、原版に以上のような校定を施した。

大正十五年一月一日

- ▲文芸春秋社の観劇会 五日に歌舞伎座八日に市村座で観劇会を催し寄稿家、関係者を招待する
- ▲日本美術院の新年会 二日午前十一時から谷中の同院で園遊会を催す
- ▲太平洋画会の新年会 五日十時から研究所で
- ▲水絵同盟成る 赤城泰舒、後藤工志、河上左京、小山周次、古賀春江、望月省三の六同人で組織商務は室内社の西田で扱ふ
- ▲小林古径氏 十五日頃伊勢参宮をする
- ▲正宗白鳥氏 新著「白鳥随筆集」を人文会出版部から近刊
- ▲江口渙氏 府下吉祥寺安養寺住宅地五一へ転居
- ▲畑耕一氏 大森新井宿一四五一へ転居
- ▲小牧近江氏 レイモン・ラディグの小説「魔がさす」を人文会出版部から近刊
- ▲邦枝完二氏 近く大阪朝日に中篇「雨中双景」を連載する
- ▲平岡権八郎氏 病氣重態一切の面会謝絶中だ
- ▲尾崎喜八氏 詩集「曠野の火」ロマン・ロオランの「新評論集」ピエル・ジャン・ジューヴの「生けるロマン・ロラン」を近刊
- ▲黒田鵬心氏 八日頃別府の講演旅行から帰る
- ▲南江二郎氏 七日迄京都府亀岡に滞在
- ▲石井香夢氏 新著「日本五大御家騒動」を誠文堂から近刊
- ▲柳田泰蔵氏 深川区西平野町一に転居電話本所一九一八が開通
- ▲山川景太郎氏 雑誌「脳髓」を廿日水戸から創刊
- ▲村井武生氏 金沢へ帰省中
- ▲鮫島利久氏 荒城季夫氏と共に日仏芸術社に入る

- ▲宮下茂氏 土肥温泉水口に転居
 - ▲高橋康氏 夫人の病氣で帰京
 - ▲童謡詩人会 来る卅一日締切で一般から一方五篇以内を募集す事務所は牛込矢来新潮社内
 - ▲「変態心理」新年号 一ヶ所を削除して発禁を免れた
- 大正十五年一月二日 なし

大正十五年一月三日 なし

大正十五年一月四日

- ▲文芸春秋ドラマ・リーグ 五日歌舞伎座、八日市村座、九日本郷座、十日並に廿四日築地小劇場を観劇する
- ▲河井醉茗氏 散文集「生ける風景」をアルスから近刊
- ▲水守亀之助氏 雑誌「随筆」を復活する
- ▲中西伊之助氏 鮮文新聞「朝鮮日報」に印度民族運動を主題とする長篇「熱風」を連載する
- ▲吉屋信子氏 市外下落合二一〇八へ転居
- ▲勝本清一郎氏 復活する「三田文学」を編輯す
- ▲田辺尚雄氏 「日本音楽の研究」を京文社から近刊
- ▲大野麦風氏 紀州新宮瑞泉寺僧院に滞在
- ▲北川金鱗氏 下谷区中根岸二九へ転居
- ▲山口八九子氏 和歌山市外高商西横に引籠中
- ▲百田宗治、大関五郎氏の短冊頒布会を中野三三三二の大鳥居方に置いた
- ▲十日会新年会 来る十日夕五時神田いろはで
- ▲発売禁止一つ 椎名其二氏訳エミール・ゾラの「野へ」(エルノス発行)は発禁された

大正十五年一月五日

- ▲徳田秋声氏 夫人故はま子氏の告別式は本日午後一時から三時まで下谷々中(逢初橋下車)臨江寺に於て挙行
- ▲服部宇之吉博士 「支那の国民性と思想」を京文社から出版した
- ▲山田応水氏 「河水清」写真展を六日から十二日迄丸善で
- ▲綿貫六助氏 小石川区高田老松町四十七に移転
- ▲渡辺渡氏 十日頃まで宝塚上川面大道町竹内俊一氏方に滞在
- ▲井上康文氏 新著「現代の詩史及詩講話」を交蘭社から近刊
- ▲飯島貞氏 第二歌集「雨と図書館」を自由詩社から出版
- ▲新良孝平氏 処女詩集「月夜の狩獵」を抒情詩社から近刊
- ▲小島与三郎氏 第二詩集「暁」を新進詩人社から近刊
- ▲豊島逃水氏 短歌雑誌「幻住」を兵庫今津から発刊した
- ▲小池夢坊氏 七日から神戸聚楽座で菊池寛氏の「恋愛病患者」を上演すべく舞台装置をした
- ▲松本静太郎氏 市外日暮里町二十へ転居
- ▲小松原雋氏 聚英閣を辞し歩兵六聯隊へ入営
- ▲多田文三氏 二日夜西下
- ▲田中宇一郎氏 山形県鶴岡市に帰省中
- ▲全北海道詩集 札幌の札幌詩学協会から発刊された
- ▲川柳きやり吟社 十日夕五時から日本橋旧明治座対向浪花会館に句会開催
- ▲創刊二つ 日夏耿之介氏の監修で「詩囚」が積文堂から◇水戸から「黒点」が夫々出た
- ▲「労働運動」一月号発禁 知識階級と自由平等正義運動、無政府主義者は斯く答ふ(岩佐)禁止解散前後の

農民労働党（近藤憲二）等

大正十五年一月六日

▲小説家協会並に劇作家協会共議 七日午後二時から
本郷燕楽軒にて開催

▲正宗白鳥氏 夫妻丸ノ内ホテルに滞在中

▲北原白秋氏 岡本一平、清原齊の三氏から成る三人社
第一回美術展は九日から十五日迄横浜鶴屋で開く

▲生田蝶介氏 萩原新生氏と共に伊東温泉湯本館に滞在

▲真野紀太郎氏 本日静岡富土駅へ赴く

▲高信峽水氏 雑誌「少女愛の泉」を発刊した

▲板垣守正氏 一幕「宿場の嘆き」及び現代劇三幕物をも脱稿近く第一戯曲集を近刊尚ほ東京政治学校雄弁部講師に招聘された

▲和田垣良雄氏 市外巢鴨町一三四一へ転居

▲「いばらぢ」新年歌会 七日四時巢鴨宮下山室方へ

大正十五年一月七日

▲フォン・プレッセン男（ドイツ画家）蘭領インドに

滞留の上ゾルフ大使の客として滞京中の氏は二月初旬に個展を催すべく七、八、九の三日間独大使館で作品の特別展を催す

▲読画会の新年会 十日朝九時から神田明神開華楼で

▲並樹秋人氏 五日朝隣家から失火類焼を免れた

▲塚本三吉氏 コルシユの「マルクス主義と哲学」を訳了日本労働学院から近刊

▲黄燈（にひり改題）句会 八日夜六時半神楽坂倶楽部で

大正十五年一月八日

▲「女性」二月号創作 戯曲「夫婦」（豊島）「戯作者京

伝」（永田衛吉）小説「傷ついた獣」（岡田）「青桐」（広津）「大阪の宿」（水上）「彼等と彼女達」（武者小路）

▲笹川臨風博士 京北中学校、京北実業学校々長兼京北幼稚園長に就任

▲山本鼎氏 明日信州へ

▲小室翠雲氏 母堂重態の由

▲尾竹竹坡氏 九日一時から自宅で新年試筆会を催す

▲武野藤介氏 文芸日本社発行の長篇「男犯」が発禁となつたので新たに長篇「結婚前後」を起稿

▲川崎長太郎氏 小田原から帰京下戸塚五二五法栄館にト居

▲福富静児氏 「新しい短詩の作り方」をミスマル社から近刊

▲文化生活研究会 石井時彦氏の「文鳥と十姉妹」今村久兵衛氏の「鶯」岡島■一氏の「ウヅラとシヤコ」を近刊

大正十五年一月九日

▲第七回中央美術展 鑑査員は石井柏亭、橋本関雪、川

端竜子、片多徳郎、鎗木清方、田辺至、蔦谷竜岬、黒田重太郎、安井曾太郎、安田鞆彦、松岡映丘、平福百穂、森田恒友の十三氏と決定した

▲和田三造氏 京城で例の総督府の大壁画にとりかゝつてゐるが十五日頃帰京する

▲服部亮英氏 今明日銀座明菓で近作小品個展を開く

▲「草の実」新年会 十日一時大和村倶楽部で

▲香蘭短歌会 十日一時から角筈田中方で

大正十五年一月十日

▲文芸家協会 今後弔慰金の贈与内規は金貳拾円以上式

百円迄とし幹事一任に決した、尚ほ最近夫人を喪つた徳田秋声氏に弔慰金を贈つた

▲「大衆文芸」二月号 老雑兵物語（長谷川伸）ふだらく船（土師清二）江戸から東京へ（挿雲）山窩の恋（史郎）風流試胆会（萩舟）日清戦争（芦江）お梅（不如丘）三つの痣（不木）雑音（三十三）探偵小説は大衆

文芸か（乱歩）独楽の話（喬二）今年の芝居（芦江）新聞紙上の医事（不如丘）

▲「解放」二月号創作 山の鍛冶屋（宮島資夫）闇の声へ（渡部信義）華麗な街（新居格）等

▲埴原久和氏 流感重態東京都医院に入院中

▲川瀬巴水氏 京橋築地二の廿三へ転居

▲霜田史光氏 永島不二男氏と共に来る廿三、四日呉服橋アーケードで東明会第五回公演の舞台監督をする

▲中村如正氏 駒込坂下町二〇八に彫金作品頒布会を置く

▲福井茂氏 第二回舞踏公演を十六日夜報知講堂で

▲渋谷句会 本日正午芝協調会館

大正十五年一月十一日

▲徳富健次郎氏 愛子夫人と合作長篇小説「富士」の第二巻を紀元節に福永書店から発行特製一千部を限り著者等の自署をして頒つ

▲萩原井泉水氏 京都今熊野剣宮十六に滞在

▲南部修太郎氏 夫人此程次男を出産した

▲三宅やす子夫人 千葉県御宿に十八日頃まで滞在

▲河合卯之助氏 越後長岡に在り廿日頃までスキー行脚をする

▲池田桃川氏 三年ぶりで上京

▲小早川清氏 十七日柳橋倶楽部で頒画会を開く

▲高田豊氏 八日帰京した

▲八田元夫氏 新潟西船見町聴瀟山荘に滞在

▲成田義雄氏 茨城県行方郡武田村に転居

▲劇場建築研究会 佐藤武夫、蔵田周忠、木村栄二郎、

遠山静雄氏等で組織十五日から十九日迄丸善で近代劇

場建築研究資料展を開く

▲「解放」発禁を免る 新年号は中西伊之助氏の「或農夫の一家」青野氏の「大衆的闘争」能智氏の「無政府主義の人々」某氏獄中画の「謎の絵」で其筋から注意を今回限り大目に見て貰った

大正十五年一月十二日

▲与謝野寛氏 晶子夫人と共に箱根から帰京

▲長田幹彦氏 湯ヶ原から帰京

▲前日夕暮氏 伊豆旅行中の一昨日帰京

▲石井柏亭氏 箱根で写生中

▲佐藤八郎氏 一月一杯兵庫県武庫郡鳴尾西畑佐藤紅緑方に滞在

▲塚本篤夫氏 処女詩集「貧しき収穫」を日本芸術家協会から近刊

▲「新興大和絵会」 四月上旬三越呉服店に於て開催

▲文芸雑誌「果樹園」 堺市出島町其社から二月創刊する

▲木曜会文芸座談会 十四日夕六時から西巢鴨三家二四

○一鈴木方に開催

▲劇夜学生募集 小石川駕籠町新劇研究所では第十三期同生を募集する

▲和光社女流美術展 本日から十六日まで銀座松坂屋楼

○一月八日 「鶯」は「うぐいす」として刊行された

○一月八日 「岡島■一氏」は「間島謙一氏」の誤り。「ウツラとシヤコ」は「鷗」にして刊行された

○一月十二日 「前日夕暮氏」は「前田夕暮氏」の誤り

上にて開催

▲蒼原会新年会 十五日夜赤坂一ツ木町金子方で例会は十七日小山周次氏方で茶話会を催す

▲支那古陶磁展 第二回を十三日から十八日迄高島屋で開催

▲「解放」二月号 「人と作品号」として「新居格氏の作品とモダンガール」(木村毅)「小牧近江のこと若干」(青野季吉)「中西伊之助君の回想と批評」(尾崎士郎)「高島氏と改訳資本論」(平林初之輔)その他

大正十五年一月十三日

▲春陽会第四回展 二月廿七日から三月廿日迄竹之台陳列館北部及中央を占めて開催例に依て鑑査を公開春陽

会賞金を贈る、一般出品は二月十九、廿日の両日中に会場へ搬入の事出品者全部に純益金配分も例年通りだ

▲槐樹社第三回展 来る廿九日から二月十日迄日本美術協会別品館で開催と決定廿四、五の両日会場で一般出

品を受附ける今回から素描も特に歓迎する槐樹賞並に田中奨励賞は本年も出す

▲川端竜子氏 来月雪の越後へ出かける予定

▲藤沢清造氏 一所不住の生活を廃し市外井荻村上荻窪六〇六に新居を構へた

▲佐藤孝任氏 天津で越年近く大連に向かう

▲綿貫六助氏 鎌倉材木座加藤別邸に滞在中

▲亀井信氏 広島県の郷里に帰省中だが近く出京

大正十五年一月十四日

▲「輪廻」禁止さる 森田草平氏の長篇「輪廻」(新潮社発行)は昨日発売を禁止されたので約四十頁を削除して改版を出す

▲吉江喬松氏 胃腸病静養のため約十日の予定で伊豆に赴いた

▲土岐善麿氏 腸チブスのため赤十字病院に入院中

▲畑喜代司氏 東北の旅から帰京

▲三好十郎氏 市外世田ヶ谷代田一一四五へ転居

▲古賀残星氏 伊東で病後静養中

▲大沢重夫氏 市外淀橋角筈六六八岡方へ転居

▲岡村二一氏 信州から帰京した

▲チサト大竹氏 四月十二日の白山丸で渡欧と決す

▲「日本文化」の創刊 里見岸雄氏主催日本文化の国際的研究雑誌が二月一日西宮市から発刊日英独三ヶ国語を用ふ

▲土を慕ふものの会 十七日一時半下落合大山大方で新年会を開く

▲「ネオ・ドナチ・コメット」 十六日に創刊、芸術觀念の意識的転回、電飾されたせむし美人(宮川慶一郎)私たちの劇団(花柳はるみ)一人行け(雨雀)

▲零座脚本朗読会 卅日夕五時浅草あづま新聞社ホールでシュニツレルの「短剣を持ちたる女」メエテルリングの「タンタジールの死」を上演

▲同人社東京句会 十六日夕五時半清水谷皆香園で

▲「詩世紀」 「新詩人」と合併滝の川中里四一二で二月から月刊とす

▲日本芸術家協会 四谷荒木町八の同会劇研究所では雑誌「日本芸術」を創刊同人の著書出版や劇と舞踊等の発表につくす

▲大河内清光氏 (夜江改め) 京都鹿ヶ谷法然院町十八
へ転居

▲酒井精一氏 旧臘帰朝小石川大塚仲町三六へト居

大正十五年一月十五日

▲「婦人公論」二月号創作 大道無門(里見淳) 黄ろい
花(犬養健) 阿真夫人(宇野千代) 停車場より(正宗
白鳥) 金欄車(白井喬二)

▲芥川龍之介氏 神経衰弱静養のため湯ヶ原に赴いた

▲久米正雄氏 佐々木茂索氏と共に赤倉でスキイ練習中

▲小金井良精博士 新著「人類学研究」を大岡山書店か
ら近刊

▲尾竹国観氏 本郷丸山新町廿一の新宅で移転披露旁々
新年試筆会を十六日二時から催す竹坡、鳳仙氏等の余
興がある

▲伊蔵忒氏 本郷区元町二の五二田中方へ転居

▲村井武生氏 金沢から帰京

▲森田一静氏 (彫金家) 後援会発企で十六日二時湯島
天神末松で新年会を催す

▲満月会 第廿三回例会は十五日夕五時海上ビル中央亭
で開催

▲若葉会新年会 十七日山内多門氏邸で新年試筆会を開
く

▲五月信子演劇研究会 田島淳、巖谷三一、田中総一郎、
水木京太氏等を顧問及び講師として小石川林町十一に
事務所を置き男女生を募集中

▲句会三つ 赤い実の句会は十六日夜笑風居で◇掌句会
は廿三日夜松宮寒骨氏宅で夫々開く◇石楠句会は十六
日夜九段洗心亭

▲「詩人倶楽部」の創作 白鳥省吾氏を顧問井上康文氏
を編輯主任とし三月号から文芸日本社で発行

▲「低気圧」創刊号 加藤、岡本、矢橋、村山、萩原氏
等執筆

▲詩篇時代社 市外代々木初台四七倉橋方へ移転

▲「短誦」の創刊 下田惟直、井上好澄の両氏で出す

▲日本美術協会 第七十一回展は彫塑、美術工芸品書及
篆刻を以て三月廿七日から四月廿七日迄開催と決定

大正十五年一月十六日

▲「改造」二月号創作 女房に逃げられた男の心理描写
(武林無想庵) 白霧(中条百合子) 網の上の少女(片
岡鉄兵) 霜から生れる一日(小川未明) この三つのも
の(佐藤春夫) 或る犬の品評会(武者小路実篤)

▲ボリス・ピリニヤツク氏 フェヴオロツド・イワノ
フ氏と共に二月中旬モスコオ発来朝日本芸術研究の傍
らソヴィエト文学の紹介をする滞在は約三カ月イン
ドにも立寄る心組みだと

▲小栗風葉氏 豊橋の自宅で病む危篤の由

▲横山大観氏 去る十日修善寺から帰京した

▲武者小路実篤氏 既報の通り奈良市水門町五二へ転居

▲吉田絃二郎氏 伊豆修善寺温泉に滞在中

▲吉野作造博士 「現代政治講話」を文化生活研究会か
ら近刊

▲岸田国士氏 府下杉並町阿佐々谷四七五に転居

▲山崎斌氏 上京本郷森川町一有終館に滞在

▲片山敏彦氏 ロマン・ロオランの「愛と死との戯れ」
を作者から翻訳権を得て訳了叢文閣から近刊

▲高田博厚氏 もロマン・ロオランの「ペートオエン」
の翻訳権を得て訳了叢文閣から近刊

▲峯岸宝光氏 チブスで四谷番衆町多納病院入院中

▲橋不二雄氏 市外西大久保一〇一菅原方へ転居

▲多田文三氏 黒田哲也氏と共に十四日帰京

▲平木二六氏 第一詩集「若冠」を近代詩社から近刊

▲新フエビアン協会発起人会 安部磯雄、秋田雨雀、山

崎今朝弥、大宅壮一の四氏創立委員となり十七日夕六
時安部氏宅で開く

▲ロオランの友の会 既報同会の発起人会は本日一時銀
座タバン食堂で開く

▲イブセン会例会 十八日中村吉蔵氏宅で

▲口語歌人大会 本日一時上野韻松亭でからすき社、郷
愁社、新時代社、短歌革命社、芸術と自由社の聯合主
催で開かれる

▲とねりこ新年歌会 十七日一時角管多聞院で

▲常春歌会 十七日一時十二社林間居で開く

▲東京写真研究会 第十五回展を二月廿五日から三月十
九日迄竹之台陳列館で開催と決定創立二十年記念とし
て「芸術写真」の特別陳列をする、出品締切は二月十
八日

▲「文芸市場」二月号創作 神は熟睡し給ふ(高橋新吉)
指環(青山倭文二) 慳の木(鷹野つぎ) 気の抜けた仇
討(金子洋文)

▲「スツルム運動」同志と共に起し編輯所を浅草材木
町四狩野鐘太郎氏方に置いた

大正十五年一月十七日

▲三田文学会大会「三田文学」が四月から再刊に就て廿
日二時慶大ホールで開き五時から晚餐会を催す当日の
講演者は水上、久保田、南部、井汲、小島、水木、加
宮、勝本氏等だ

▲「新青年」特別増刊 探偵小説傑作集にはデケンズ作
探偵小説の解決(天溪) 探偵小説と神秘小説(亀雄)
探偵小説壇の諸傾向(初之輔) 癲癇性朦朧状態中の惨劇
(浅田一博士) 国際秘密探偵の話(柳井義雄) 法医学

上の問題となる個人識別(古畑博士) 小酒井博士訳百五十枚の「孔雀の樹」外短篇二十二篇

▲森田恒友氏 近県旅行中

▲正宗白鳥氏 小説「見て過ぎた女」を「婦人倶楽部」二月号に寄す

▲青野季吉氏 ロバート・オーエンの最初の訳書「人類に与ふ」を人文会出版部から出した

▲三上知治氏 昨年末帰朝滞欧作廿余点を廿三日から開く太平洋画会展で別室陳列す

▲柴山武矩氏 十五日東京西巢鴨二一四九に当分滞在

▲伊藤精氏 小石川区雑司ヶ谷町一二五へ転居

▲南江二郎氏 京阪から帰京

▲湯浅真生氏 ■ヶ月振りで出京市外板橋中丸三〇六に転居

▲石井漢氏 小浪氏と共に昨日発九州各地で舞踏詩を公演二月初旬帰京の筈

▲白井大翼氏 第一歌集「私燭」出版記念会は廿四日夜帝国ホテルで

▲仲省吾氏 大森新井宿大村別邸下地蔵前へ転居

▲中村亮平氏 十五年画会を朝鮮大邸で起した

▲端館鶴川氏 襖画揮毫の為め鎌倉に滞在

▲大村主計氏 十日類焼上駒込六七七星川方へ避難

▲高山菊次郎氏 夫妻で大森病院入院中

▲石倉翠葉氏 の俳諧誠道社では本日二時和泉橋倶楽部で勅題句披露式を挙行す

▲源氏物語全講会 廿三日二時国学院内で

大正十五年一月十八日

▲片山潜氏 モスコウ病院に在つて「タイム・ウィル・

テル」を「解放」二月号に寄せた

▲織田一磨氏 廿日迄平水画房で石版個展を開催中

▲河野通勢氏 チブスで入院中

▲今野賢三氏 秋田から帰京

▲大山広光氏 「ミユツセ詩選集」を聚英閣から「ラブレエ物語」を文教書院から近刊

▲大河内夜江氏 既報の改名を取消した由

▲月曜会 第五回展を廿三日から銀座松坂屋で開く

▲新劇研究所 第十二回私演を廿三、四日夜景山氏の「第二の悲劇」若月氏の「姉」雨雀氏の「二十一房」等上演

▲近代劇場 第一回童話劇公演を廿八日から四日間毎夕六時半込会館で

大正十五年一月十九日

▲吉江喬松氏 二十日頃伊豆から帰京

▲小寺融吉氏 訳グリム童話中の「小雪姫の物語」五場は近代劇場童話劇として上場

▲山川景太郎氏 樺太から出た雑誌「ダダダダ」には無関係だ

▲大阪演劇聯盟研究会 二十日午後七時から南船場大紙倶楽部に開催「出発前」に就て(山上貞一氏)「あじろ船」に就て(高安月郊)の講演がある

▲「文芸行動」二月号 「年頭文壇瞥見」(星湖)「現代十作家論」(新進十氏)その他小剣、鳶魚、御風、浩二、武雄、白鳥、伸、花袋、喬松、秋江、青峯

▲「人形正月句会」一月二十日夕六時から神楽坂クラブにて開催

▲「日光」二月号「古風俚謡鈔」(白秋)「雪と野菜」(夕暮)

▲「下氏の恋」(沙人)「冬の一日」(白秋、夕暮、与一、純)その他

▲「風貌」三月号 「ホイットマント自分の詩」(宇佐美文蔵訳)「潮に訴るもの」(西谷勢之介)「独語片々」(田内長太郎)「芭蕉と句集」(石井庄司)「傍聴と默戯」(桜田常久)

▲「人間群」二月号 お光、不思議な物語(浩太郎)

▲「二人」二月新歌人号 沙羅双樹の花(茂吉) 毒草(北村) 雪後(川崎)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲「新詩潮」二月号 蕪村の句(米次郎) 象徴主義の回想(グルモン村岡訳)

▲福岡の仏展 廿四日迄市役所で開催中黒田鵬心氏は廿七日帰京

▲日本犯罪学会 今夕五時東京駅精養軒で泉二新熊、生江孝之両氏の帰朝歓迎会を開く

▲破魔弓句会 廿一日夕六時牛込簗笥町真宗説教所で

▲「美術文展」の創刊 既報の通り井家忠男、瀧川薫両氏で三月から美術家の雑文随筆誌として発刊

▲「解放」二月号 合法的なるが為の関心(青野)サンヂカリスト論(中西)齊藤翁の追憶(堺)日本フエビアン協会(新居)社会運動内面史(山崎)等

▲「石楠」二月号 連歌時代の発句集(亜浪)芭蕉の手紙(夢々)等

▲帝大ローマ字会 第一回學術座談会を廿二日夕第二学生控所で開き尾佐竹猛氏の講話がある

▲東京春陽会 写真展は廿一日から廿五日迄丸善で

▲日本芸術家協会 廿三日銀座で第二回ビラまきをする

大正十五年一月二十一日

▲「中央公論」二月号創作 戯曲「安土の春」(正宗白鳥)「画像」(豊島与志雄)小説「光子」(網野菊)「もぐら」(葛西善蔵)

▲秋田雨雀氏 戯曲「モーゼの殺人」を脱稿「テアトル」創刊号に寄す

▲前田夕暮氏 岡落葉氏と箱根に在り「朝かけを水にしたせる山々のひだあぎやかに日のあたりをり」

▲菊池寛氏 旅から帰った

▲田中貢太郎氏 新著「桂月伝記」を某書店から近刊

▲畑耕一氏 大森不入斗一〇三へ再転居

▲古賀残星氏 伊豆から帰京

▲峯岸宝光氏逝く 十八日死去告別式は本日二時から四時迄柏木一二三の自宅で執行

▲「文芸行動」二月号創作 秋雲水子(古館清太郎)勘兵衛とその死(和田伝)老ひ込み(近松秋江)

▲太平洋画会展 二十二回を廿三日から二月十七日迄竹之台陳列館で

▲国民文学歌会 廿四日一時上野三宜亭で

▲ロオラン祭記念講演 昨日は村松正俊千葉亀雄の両氏だつたが本日は秋田雨雀新城和一の両氏

▲「みづゑ」二月号 本邦洋風画の発達に就て(一磨)素人の見た昔の工芸(達吉)耳鳴録(吾郎)

▲「祖国」二月号 素人の芸術(如是閑)我心江湖にあり(加藤武雄)日本を救へ(内藤)チエホフ(武藤)路傍(花世)母親(星川)帰る(かど江)

▲エス語教科編入の議會請願を 石黒修、梶弘和、倉知治夫、柴田義勝、豊川善暉の五氏実行委員となり麴町五番町六国際語研究社内で賛成者の署名を求め再び今議會へ提出する

▲「日仏芸術」二月号 ラフエリが画題の範圍(柏亭)フランス近代画概観(ローザンタール)富貴寺を觀る(黒田)メヂス皇太后とリユーベンス(太田三郎)芸術に關する隨筆(竹内)

▲「歌林」の創刊 比叡短歌会同人により四月発刊

大正十五年一月二十二日

▲「文芸春秋」二月号 アンテナ(広津)新聞記者時代(片岡)新機運(成吉)「苦命」たち(土郎)七階の住人(百合子)懸賞当選作「父と子と」(力石平三)炉辺雜記(関雪)正当防衛(武雄)断片(宇野千代)塘芽堂漫筆(劉生)断片語(実篤)土を飲ました話(亀雄)島流し(水蔭)鉢の雜草(御風)テーブル、スピーチ(利彦)よしなし事(寛)等

▲「社会科学」二月号 ソヴィエト、ロシアの民法(米川博)伊太利及びブルーマニアの小作法(沢村康)マルクス

農業理論及び政策の輪廓(河西太一郎)否定判断論(ライナツハ)正倉院御物中の法政史料について(滝川政次郎)マルクスに就て(エンゲルス)イタリヤの法律哲学(高柳賢三)等

▲故大須賀乙字氏 七周忌記念句碑建立の除幕式並に句会は廿四日正午雜司ヶ谷鬼子母神境内本納寺で生方敏郎、吉田冬葉、川俣馨一氏等に依て開催

▲高谷竜岬氏 の鐸鈴社発会式兼新年会は廿五日上野寛永寺内で

▲真野紀太郎氏 台湾再遊は二月八日発に變更

▲高村真夫氏 十九日御宿から帰京した

▲鈴木金平氏 市外下落合八〇〇へ転居

▲辻潤氏 別府で静養中

▲多田文三氏 日本芸術家協会並に同劇研究所では無関係だと

▲国井淳一氏 詩集「瘦枯れた土」を文芸日本社から近刊

▲「奇蹟」の会 舟木、谷崎、光用三氏の幹事で雑誌「奇蹟」時代の旧友の会が二十三日午後五時半から京橋の喜仙で開かれる

▲書物同好会例会 廿三日一時安藤正次氏の講演「古訓古事記の校刻につきて」がある

▲オホゾラ文芸茶話 廿五錢会は廿四日夕六時六本木誠志堂ビル

▲歌集「山帰来」の会 生田、楠田、矢島三氏合著の記念会は廿四日夕五時銀座千足屋で

▲虚無思想研究社 芝西久保巴町三四に移転

▲演劇聯盟 十五年度新会員を大阪木幡町の同事務所で募集開始

▲「心の花」二月号 歌と社会生活(下村宏)新井洗君の追憶(安田鞆彦)長塚節に就て(中村憲吉)日本詩歌の体系を読む(藤田徳太郎)新聞に入りてを読む(新村出)竹

柏漫録(信綱)わたり鳥(牧野英一)一谷懷古賦(順)

大正十五年一月二十三日

▲吉野作造博士 主宰 木村毅氏編輯で思想文芸雑誌

「反響」が四月銀座の福永書店から発刊

▲池上秀敏氏 廿一、二の両夜自宅で新年会を催した

▲広島晃甫氏 中村大三郎氏と各十五点宛の近作個展を

廿六日から卅日迄高島屋で開く

▲椿貞雄氏 鎌倉扇ヶ谷一九二へ転居

▲五島耕敏氏 妙高山の雪の写生から本日帰る

▲村山知義氏 心座上演台本一幕物「孤児の処置」を「テ

アトル」創刊号に寄す

▲川柳久良岐氏 五十八回誕辰会は廿四日夕六時本郷燕

楽軒で

▲浅野薫氏 本郷区駒込林町一九〇金沢方へ転居

▲坂本哲郎氏 流感で臥床中

▲青山俊文二氏 文芸市場社に入り編輯に当る

▲石原亮氏 雑誌「直覚」を「二行詩」と改題二号を近

刊

▲「人生創造」座談会 三十一日正午半三田南台寺で開

く

▲近代劇場 廿八日から四日間牛込会館で「人形」(小山

内薫)「按摩と雷」(長谷部孝)を上演

▲岡本文弥会 小集を廿六日夜本銀町銀閣で開き文弥の

新作「小猿七之助」を発表する

▲文芸宣戦市場 「現代文芸」主催廿四日名古屋万松寺

筋青山書店で現代作家原稿半折等を展覧

▲「詩世紀」編輯部 を本郷動坂金の星ハウス十七号室

に移す

▲京都代表作家展 廿四日から廿八日迄銀座松屋で

▲蒼原会 人体研究例会を廿五日から三十日迄上中里

多々羅アトリエで

▲「文芸時代」二月号 喜劇(石浜)冷か(菅)続伊豆の踊

子(川端)より新時代(鈴木彦次郎)心の影(中河)明日の

為に(片岡)年末年始の日記(同人一同)

▲「アララギ」二月号 短歌(麓、茂吉、文明、赤彦、百

穂、耕平、邦子)ふゆくさ評(赤彦)

▲「芸術と自由」二月号 自由律と定音律(陽吉)準町よ

り(東村)短歌の形式(花岡)詩歌(千家、勝、西村等)

▲「短歌革命」二月号 宣言(同人)歌(渡辺、宮川、花岡)

▲「中央美術」二月号 ダヴィンチの彫刻(西村貞)革命

芸術家の生涯(辻恒彦)色彩と描線の女性(千葉亀雄)山

中信天翁(古川修)モスコ劇場の近状(竹内逸)画僧雲

室(中川紀元)竹之台陳列館袂別記(柏亭、秀太、幡山、

紫雲、掬汀)堂本印象論(勝之助、福田恵一)苦業十年(泰

舒、吾郎)

▲近刊五つ ◇薮田久雄の個人誌「山脈」は小田原から

近刊◇一条二三夫、平間もと子の「思ひ出の父」を新

興詩壇社から◇文芸誌「新人聯盟」は藤崎、西沢、片

桐等十三同人で牛込若松町帝都文壇社から◇大島唯

夫、桑島信三、矢口洋之の「人間詩派」田中聖二の「情

熱時代」は夫々創刊

▲「無風帯」 本年度第一号を二月一日出す

▲「乾杯群」第三号 詩(宮沢、黄、岡田)評論(草野)

▲版画集「メイフラワー」 今後ミス・ウキリー・ペー

ツが当る

▲「氾濫」(朝改題)第三輯 詩(佐藤、大鹿、草野等)評

論(手塚、岡村、赤松)

▲「劇場」二月号 青年(善太郎)幕(モルナア)文学的価

値のない翻訳(本田)等

▲「郊外」二月号 大衆文芸に就て(鰻魚)古代の遊女(白

雲庵)等

▲「戯曲研究」二月号 環境(古田)笛(島村)不遇(升本)

大正十五年一月二十四日

▲「思想」二月号 カントに於ける具体的普遍(木村素衛)

初期 仏教資料の取扱ひ方(和辻哲郎)ゲーテ研究資料

(阿部次郎)宇宙研究者の手記(山本一清)衛戍病院(中

勘助)

▲「文芸戦線」二月号 文学運動の忠実(山内)表現主義

小考(金子)暴露文学としてのジャングル(孝丸)オート

バイ競技場(前田河)新しき類型の創造(平林)

▲「不同調」二月号 五十一名家の雑誌新年号観と創作

は「アリア人の孤独」(松永延造)「矛盾」(木蘇穀)「鼠

(金子洋文)「純の一面」(間宮茂輔)「春の霧」(藤井真

澄)

▲坪内逍遙博士 長篇「脚本に関する訴訟事件の鑑定」

を「早文」二月号に寄す

▲故岩崎精起氏 の告別式は廿六日一時から市外雑司ヶ

谷九五〇の白宅で営む

▲滝井孝作氏 奈良上高畑へ転居

▲吉田絃二郎氏 短篇集「父」を改造社から近刊

▲藤森成吉氏 短篇集「悩み笑ふ」を改造社から近刊

▲坂崎坦氏 東京朝日の調査部員となる

▲高木長葉氏 資生堂意匠部に入つた

○一月二十一日 「倉知治夫」は「倉地治夫」の誤り

○一月二十一日 「ラフェリ」は「ラファエリ」、「フランス近代画概観(ローザンタール)」、「ロオザンタール」、「富貴寺を観る(黒田)」は「富貴寺を観る(鵬心生)」、「メヂシ

ス皇太后」は「メデイシス皇太后」として掲載された

○一月二十四日 「文学運動の忠実」は「文芸運動の中心点」として掲載された

▲仲省吾氏 既報の大森新井宿根岸一四六〇へ移つたので黒田邸内にあつたリーチの遺業東門窯も同所へ置いた

▲池谷信三郎氏 ベディンスキーの「一週間」を訳了改造社から近刊

▲高橋康氏 再び札幌へ

▲定立塊石氏 (巨勢小石門で先年秋のサロンに観音図を出した)此程帰朝した

▲ロオラン祭講演者 昨日は山田珠樹、吉江喬松の両氏本日はメタクサ伯夫人と秋田雨雀氏明日は片山敏彦、尾崎喜八、高村光太郎の三氏

▲支那文芸講演会 今夕六時神田青年会館で今東光、福地信世、田中貢太郎、宮原民平、有島生馬、佐藤春夫、笹川臨風の七氏が出講

▲明治聖徳記念学会 本日一時半帝大御殿で沼波武夫氏の「大津事件の回顧」原田淑人氏の「楽浪古蹟から見た漢代文化」ある

▲日本漫画会 二月七日三越で一般の漫画似顔絵を会員全部で揮毫会員の病氣見舞金に充てる由

▲槐樹社第三回展 廿九日から二月十日迄美術協会で開催

▲「演劇研究」二月号 劇葉(長谷部孝)大姫(弘津千代)猛火に飛込む男(大山広光)大道具について(榎本)菊五郎君に写真主義(佐々木積)映画劇の進化(真澄)新劇団一昔話(伊庭)

▲「サバト」二月号 佐藤春夫、堀口大学、矢野峯人、日夏耿之介の四氏執筆す

大正十五年一月二十五日

▲島崎藤村氏 その後健康よろしき方に向つた

▲足立源一郎氏 奈良から上京昨日信州へ

▲倉田白羊氏 鳥渡出京昨日山本鼎氏と共に信州へ

▲荻原井泉水氏 亡母三周忌で昨日帰京

▲江戸川乱歩氏 牛込区築土八幡町三四へ転居

▲饒平名智太郎氏 改造社を辞し牛込区市ヶ谷田町三の廿一で当分静養

▲鈴木けん子氏 仙台から上京中

▲佐藤八郎氏 大阪から帰京

▲「新小説」二月号 預り娘(民樹)微妙な嫉妬(貴鷹)郷土(千樫)十円札とキビガラ(千代)山中鹿之助(悉、義朗、真澄)菊池寛論(健)豊後の浄瑠璃(成吉)犬繩、又犬(ふさ)日向ぼっこ(高野博士)不満と抑制(不木)月岡芳年(一葉)島の剣客(荻舟)等

▲「ホトトギス」二月号 和歌と俳句の境地の相違(虚子)温亭楽堂(浅茅)満州雜記(虚子)其角研究(若樹、鼠骨)

▲「講談倶楽部」三月号 名剣秘伝(田中総一郎)源基喬(横山健堂)

▲「日露芸術」二月号 片上伸氏の「ロシヤ文化研究の標準」を始め、米川、茂森、沢、スバルイン氏等執筆

▲「文芸時報」下旬号 藤村、春夫、与志雄、犀星、利一、東光、味津三、与一、米次郎氏等執筆

▲「白山文学」二月号 敏子断片(杉本)午前の病室(中川)

▲「造型」日暮里谷中本一〇八九へ事務所を移し三月初旬第一回展を開く

▲黙示座第五回試演 橋本敏彦氏の「青年座」は上演禁止となつた

▲草土吟社句会 本夕五時愛国生命娯楽室で

大正十五年一月二十六日

▲太平洋画会賞 小田島義、塚本茂、斎木益雄の三氏、弘誓賞は田村ヤスジ、荒井一郎、浅見三郎の三氏と決定

▲三宅やす子氏 滋賀県大津方面へ旅行中、廿八日頃帰京する

▲水谷まさる氏 米仏伊抒情記『遠き幻』を交蘭社から近刊

▲松原友規小品頒布会 毎月五円づつ十二ヶ月払込として作品は本年七月頃より順次頒布する詳細は府下世田ヶ谷三宿六十四同氏方へ

▲エスベラント談話会 新極東協会主催の同会は廿八日午後六時から神田錦町中央大学前松本亭にて開催

▲「文芸街道」二月号 三村、室町、安間、越中、高辻氏等執筆

▲宇津野計二氏 歌集「秋晴」を天才詩人社から近刊

▲「青杉」二月号 「真間の手児奈」(佐土郎甫)「仰望を続けて」(岡本文弥)その他

▲「主潮」二月号 「真白な道」(小宮山)「白銅」(尾崎)「詩」(村田)「アンドリエーエフと神の問題の序」(小宮山)

▲演劇雑誌 「テアトル」三月号創刊と決定

▲「新進詩人」二月号 理性と愛に基く叛逆(汪洋)詩(初子)竹夫

▲「潮流」二月号 一線を越ゆる(坪田)聖なる淫楽(岡田)三人(土屋)

▲「牧人」二月号 冬の表情(哀浪)哀傷(残星)

▲「美術春秋」二月号 「鑑賞家への言葉」(荒木十畝)「日本画を描く心を語る」(北村西望)「本音を吐く」(川端竜子)「日本画洋画の問題」(中川紀元)その他

▲白虹会脚本朗読研究会 二十七日夕六時から浅草並木町梅家カフェにて

▲「ラ・ミノリテ」二月号創刊号 宮島資夫、小野十三

郎、岡本潤その他数氏執筆

▲「饗宴」二月号 「ジ、ケ、マンロオの戯曲」(山本修二)「デ・コステルと其主作」(橋本)その他

▲「講座」二月号 「思维形式の自己規定」(紀平正美)

「浪漫的イロニー」(吹田順助)「ミユラーの文化学と清造学」(市之沢寅雄)その他

大正十五年一月二十七日

▲「早文」正月明治文学号 売切れ廿五日再版を発行した

▲綿貫六助 小石川区高田老松町四六へ転居

▲鈴木金平氏 下落合八〇〇で油絵作頒布会を起した

▲村雲毅一氏 市外下渋谷一八〇エビス倶楽部に転居

▲北村寿夫氏 近代劇場童話劇の演出を担当「小さな悲劇」を「お蝶礼讃」と改題上演す

▲戯曲発表会例会 廿九日夕六時駕籠町新劇研究所で

▲黙示座第五回試演 二月十日築地小劇場で開演に変更

▲白鳥座 二月一日から新宿園で童話歌劇「燈台物語」
「森の鐘造り」「黙らす姫」を上演

▲新進童話作家茶話会 二月七日一時小石川倶楽部で

▲「世界詩人」二月号 雨雀、ノグチ、資夫、新居、西川、赤松、柳瀬、中西氏等執筆

▲「洪柿」二月号 六つ物(寅日子、蓬里雨、東洋城)不易流行(坪谷)七匹の鼠(東洋城)

▲「朱門」二月号創作 見苦しき臨終(久板)夜の物語(古沢)狂執時代(舟橋)女像(阿部)

▲紅玉堂の新、近刊 ◇萩原月氏校訂種彦「頁おほひ、横本頁おほひ」清十郎「ついせんやこはいかい」◇川

島露石氏著「一茶俳句新釈」◇加藤介春氏詩集「眼と眼」◇勝田香月氏詩集「哀別」◇植松寿樹氏「新釈橘曙覧歌集」◇中村孝助氏歌集「土の歌」

大正十五年一月二十八日

▲「黒旗」第二号 発売禁止さる

▲「美の国」二月号 モローの芸術(幸太郎)線画を廻りて(亦太郎)清長の芸術(静也)名人を懐ふ(清方)独与語(未醒)仙石原(柏亭)飛行機(竜子)土蔵相摸を見る(荘八)印の趣味(春城)

▲「文芸」二月号 創作(野村英二、野川隆、井東憲、飯田豊二)評論(吉田一穂、伊藤欽二、諸井貫一、間宮茂輔、赤松月船、村山知義)

▲小室翠雲氏 「長与山荘夜話」を「キング」三月号から連載

▲寺崎武男氏 滞伊作品展を二日から八日迄三越で

▲須藤鐘一氏 編輯で雑誌「文芸道」が三月創刊される

▲清水孝祐氏 浅草区左衛門町二一ノ一中島方へ転居

▲分離派建築会 第五回展を卅一日迄白木屋で開催中

▲半島歌人大会 卅一日横須賀で開催

▲黙示座第五回試演 佐藤春夫氏の「夏の夜」今井達夫氏の「薄暮小曲」武者小路実篤氏の「カチカチ山」と決す

▲「青年文壇」二月号 みちのく紀行(蝶介)虫と語る(新生)私の素描(敏郎)鴉の今昔(東吉)

▲「辻馬車」二月号 レイクホテルの半年(崎山正毅)池を見た夜の話(小野)橋(崎山猷逸)

▲「新思潮」二月号 薄明(秋山)途上(前山)ある老人(前川)人気ある女(手塚)

大正十五年一月二十九日

▲「早文」二月号創作 おれは行く(今野賢三)地酒(犬田卯)園園(和田伝)玉菊(木村富子)合戦(中山義秀)

▲「虚無思想」の発刊 「虚無思想研究」を四月から改題大雑誌とする

▲岩野英枝氏 日本芸術家協会に加入した

▲木谷千種氏 「講談倶楽部」三月号の爲め「八百屋お七」を描いた

▲並樹秋人氏 卅一日横須賀に赴き三崎半島廻りをする

▲黒田忠次郎氏 俳句評論集「嵐の来る時」を文正堂から近刊

▲井上信子氏 の句集が柳樽寺川柳会から近刊

▲「青色の室」詩批評会 卅一日吉江喬松氏宅で開く

▲古書籍即売展 京北書林会主催で卅、卅一日小川町東京図書倶楽部に開く

▲日本芸術家協会 内藤辰雄氏の「祖国」と合併した

▲「マロニエ」二月号 油絵職人(寺内)画作難(坂本展覧会の新様式(与里)等

大正十五年一月三十日

▲斎藤茂吉博士 青山脳病院来月中旬府下松沢村字松原に新築落成と同時に院長となる

▲吉野臥城氏 市外長崎村地藏堂九三八に転居「明治詩集」を訂正増補の上昭文堂から近刊

▲遠山静雄氏 今夜六時半照明学会で舞台照明に関し講演をする

▲三宅一朗氏 蒼空邦画会主催で二月廿二日から白木屋に個展を開く

○一月二十四日 「ペディンスキ」は「ユリイ・リベティンスキ」の誤りか
○一月二十八日 「土蔵相摸を見る」は「土蔵相摸を見る」の誤り

▲萩原恭次郎氏 向ふ一ヶ月前橋市外上石倉に住む尚ほ「死刑宣告」の再版を出した

▲渡辺渡氏 小石川区表町一〇九松本方へ転居

▲貞金敏明氏 千葉市川騎砲兵大隊第一班に入営した

▲日本芸術家協会 四谷区荒木町八に移した

▲日本大学劇研究会 卅一日夕五時半大講堂で蒲田脚本朗読会を催し秋田氏の「国境の夜」倉田氏の「俊寛」中村氏の「牛と闘ふ男」アンドレエフの「人の一生」を上演す

▲駒沢大学英学会 本日二時英文学講演会を開き竹友藻風、石黒魯平両氏が出講

▲早大俳句会 本日一時創立句会を大隈会館で

▲芭蕉社 では柳原樺子氏短冊半切頒布会を本郷五の九の発行所で起した

▲零座 本夕五時半浅草合羽橋際川村新聞店で脚本素劇研究会を開く

▲「鶯の巣」二月号 批評号として新年諸雑誌総評(富沢、内山、松永)同人雑誌総評(石田、佐々木、鈴木、富沢)等百余頁に亘つて小説を満載

大正十五年一月三十一日

▲小室翠雲氏 母堂フキ刀自廿九日死去二月二日一時から三時迄中六番町四十の自宅で告別式を営む由

▲平福百穂氏 廿九日結城素明、石川宰三郎氏と共に熱海に坪内博士を訪ひ「逍遙選集」装幀の打合せをした

▲池上秀畝氏 臨模の上海六三園主人秘蔵の沈石田筆「雪景大長巻」並に氏自身の近作が昨日同気倶楽部で展列された

▲野口米次郎氏 「ボオ評伝」を近刊するため改訂中

▲谷譲次氏 鎌倉町乱橋材木座向福寺内へ転居

▲「サバト」二月号 船つき(ジャン・コクトオ堀口訳)

詩論(佐藤)墳墓(ロオデンバツハ矢野訳)緊箍呪(江夏)等

▲「戦車」二月号 人気(中河)セビイラの理髪師(久野)最後の一線(真人)論争に就て(鉄兵)

▲「橄欖」二月号 歌道金言抄(幾忠)牛窓遁語(梨郷)歌(庄亮等)

▲「陳痛時代」二月号 一刹那(古賀)掏摸(佐々木)放逐(■仲)渡蘭の女学生(宇賀三十三)

▲創刊二つ 「おれ達」を「交叉点」と改題、清水好太郎、塩田如漢の両君で大阪文人組合から◇「東洋鬼」(トウヤンキイ)が広島から夫々発刊される

大正十五年二月一日

▲槐樹賞と田中奨励賞 槐樹社展では卅日夕槐樹賞を上

野山清貢小森田三人の両名に田中奨励賞を福田新生、尾崎三郎、橋本八百二、堀田善代治、宮部進、小早川篤四郎、田中稲三、園部青、深沢紅子、杉本まつこの十名に贈る旨を発表した

▲東儀鉄甫氏一周年追悼会 四日夕五時坪内、高田、金子三博士、松居、中村、池田、巖谷、伊原氏等に依り大隈会館で営まれる

▲徳田秋声氏 門下の人々が雑談会を作り四日夕その第一回を同氏宅で催す

▲近藤浩一路氏 津田青楓氏と共に三条会の用務で出京本日帰洛

▲井上白楊氏 去る廿三日令兄を喪つた

▲山口剛氏 「江戸の民衆生活と歌舞伎」を「テアトル」創刊号に寄す

▲井東憲氏 卅日京阪旅行から帰つた

大正十五年二月二日 なし

大正十五年二月三日

▲「女性」三月号創作 サンタクロース(白鳥)或女の一日(犀星)慈善(広一郎)最後の花火(貫一)彼等と彼女達(実篤)大阪の宿(滝太郎)青桐(和郎)

▲小林古径氏 四日伊勢から帰る

▲長谷川昇氏 チプスで駒込病院入院中だが経過はよいと

▲亀岡崇氏 大磯から出京大森望翠楼ホテルに滞在

▲吉田卓氏 関西から台湾へ写生旅行中

▲森田晴明氏 高等工芸木材製作部を退き農民美術研究所製作部に入つた

▲黄瀛氏 常総地方を一ヶ月程旅行中

▲フオン・プレッセン男 予報通り六日から三日間独逸大使館で作品展を開く

▲帝大社会科学研究会 五日三十二番教室で大会を開き本荘可宗青野季吉両氏の講演がある

▲「百姓一揆」の会 高橋季暉氏の新著長篇戯曲の出版記念会は六日夜六時神楽坂倶楽部で開く

▲「井上信子句集」の会 剣花坊氏夫人の句集出版記念会は八日夕五時駿河台下カフェ・ブラジルで

▲大原女と川柳の会 三日一時丸ビルで開催

▲「演劇・映画」二月号 創作は岡本綺堂氏の「半七捕物帳」雑文は菊池、小山内、中村、藤沢、額田氏等

▲文芸街道社 市外代々木六三〇へ移転

大正十五年二月四日

▲佐藤春夫氏 の童話劇「夏の夜」は黙示座により上演す

▲平林初之輔氏 小石川区小日向台町二の十八へ転居

▲生田蝶介氏 夫人の死を機とし博文館編輯部を辞した

博文館記者生活十六年であつたと

▲真野紀太郎氏 五日夜発渡台三月末帰来の筈

▲栗原忠二氏 十日出京月末頃渡英す

▲不染鉄二氏 奈良市外都跡村五条唐招提寺塔中西方院内に転居

▲三須裕氏 中山文化研究所に入つた尚ほ矢部季氏も同所に入る

▲大村主計氏 低気圧社と共に上駒込七七三渡辺方に転居

▲原稿市場 文芸市場社では六日四時半から神田東京堂で開市す

▲讀画の会 諸家の画作に尾上柴舟氏が讀したもの四日から八日迄鳩居堂で展列す

▲蒼原会臨時写生会 七日東神奈川方面で催す

▲誕生句会 六日夕六時浜町鈴木方で

▲「若草」三月特大号 佐藤春夫、同惣之助、南部修太郎、川端康成、片岡鉄兵、今東光、稲垣足穂、水木京太、橋爪健氏等執筆

▲「芸術運動」二月号 松永延造の真価値(孝祐)俳優評的劇評を評す(潤二)一分六十秒の出来事(五十嵐等

▲「銅鑼」第七輯 詩(暮鳥、新吉、八郎、心平、十郎、黄)等

▲創刊四つ 「手風琴」は岩崎二郎、上田勇に依り大阪から◇「文芸戦士」は西村甲子雄、大松貞二により三月小石川宮下町七其社から◇「晴天」は近日上戸塚の其社から◇「新・未来派・街頭」は三河島の事務所から夫々発刊

大正十五年二月五日

▲ラスキン研究の小展覧会 御木本隆三氏が蒐集したラ

○一月三十一日 「陳痛時代」は「陣痛時代」の誤り

スキンに関する研究資料展が六日から八日迄丸善で開かれる

▲「大衆文芸」第三号創作 猶太の狗(浜江)灰神楽(乱歩)白い手の笑唇(清二)江戸から東京へ(挿雲)道真と時平(史郎)ひまんの話(伸)猿語人語(不如丘)天文比翼塚(秋舟)銭番論語(喬二)の外に「毒二題」(不木)「去来三代記予告話」(三十五)等

▲西条八十氏 本日神戸入港六日正午東京駅着フランスから帰る

▲武者小路実篤氏 新著「愛慾」を改造社から近刊

▲北原白秋氏「歌道一家言」及び短歌数十首を「香蘭」二月号に寄す

▲窪田空穂氏 編輯で雑誌「槻の木」が牛込天神町積文堂内其社から創刊された

▲堀江帰一氏 新著「國際經濟總論」を改造社から近刊

▲松永義雄氏 「英国労働組合法論」を世界文獻刊行会から近刊

▲中野秀人氏 戸をたたく座と共に市外雑司ヶ谷五六七に転居

▲岡本潤氏 京都市上京区等持院南町一〇へ転居

▲文芸講演会 本日一時早大学生ホールで早高第二学院文芸部主催で開く本間久雄、千葉亀雄、高須芳次郎、水守亀之助氏等

▲日本画会 十日夕四時上野精養軒で総会を開く

▲白紅会脚本朗誦会 六日夜六時浅草並木町梅家カフェーで

▲句会二つ ◇東京俳句会は七日正午浅草伝法院で◇さつき会句会六日夕五時錦町聯珠会館で

▲歌話会 西村陽吉、村野次郎、岡本かの子の三氏が幹事で七日五時銀座タイガーで開催

大正十五年二月六日

▲「演劇新潮」の創刊 文芸春秋社から四月発刊、三宅周太郎氏が編輯事務に従事

▲文芸家協会 は旧臘愛嬢を喪つた生方敏郎氏に弔慰金を贈つた

▲太平洋画会 創立廿五周年記念の出品者懇親会を七日一時谷中真島町の研究所内で開く

▲北原白秋氏 感冒で臥床中

▲三木羅風氏 昨日尼ヶ崎に赴いたが本日帰京する

▲秋田雨雀氏 一幕物「小盗伝」を「解放」三月号に寄す

▲和氣律次郎氏 消息に曰く「野依秀一氏と一緒に飯をくつてエムパイヤ座へ沙翁劇を見に行つた今夕は日本人会で同氏の講演がある」一月八日ロンドンにて

▲今野賢三氏 小説「坂」を「解放」三月号に寄す

▲石井漢氏 小浪氏と共に三日帰京した

▲遠地輝武氏 市外高田町雑司ヶ谷旭出四〇天明方に転居

▲福原武氏 市外滝の川西ヶ原八四三に転居

▲渋谷句会 七日正午協調会館で

▲青杉社遠足会 七日我孫子へ

▲「虚無思想」創刊号創作 如是閑、鉄兵、足穂、一夫、未明氏等が執筆

▲「大衆文芸叢書」の刊行 芳川赴氏の手で二松堂から近刊

▲「謝肉祭」 市外中野谷戸二四〇五春山方に発行所を移す

大正十五年二月七日

▲安部能成氏 本日四時東京駅着ドイツから帰朝する

▲川田順氏 上京中

▲生田蝶介氏 京阪旅行中

▲南木摩天楼氏 小石川区原町十二市川方に仮寓

▲並樹秋人氏 歌集「菓藁の卵」を常春社から近刊

▲武川重太郎氏 本郷区上富士前町三平和館方に転居

▲英美子氏 市外田端五五三へ転居

▲谷崎光吉氏 井出多慶子さんと結婚、市外南品川三ツ木一二四九へ転居

▲「自我人」禁止 第二巻第一輯は再び発禁となつた

▲「エスベラント文芸」の創刊 三月本郷竹町四方堂から発刊

▲「常春」三月号 「穂明」批評号として相馬御風氏等執筆

▲工富会美術展 十六日から廿一日迄銀座松坂屋で開く

大正十五年二月八日

▲「反響」の創刊 予報の通り吉野作造博士が主宰し木村毅氏の編輯福永重勝氏の経営で文化生活研究会から三月中旬四月号から創刊思想、科学、社会的色彩の新しい雑誌とす

▲「南翠伝」成る 故須藤南翠の七回忌(去る四日)にその子須藤真金君が出版した

▲内田魯庵氏 去月末から風邪で臥床中

▲帆足理一郎氏 ミルトンの「失樂園」の全訳を新生堂から近刊

▲野口雨情氏 藤沢衛彦氏等と十三日夕五時上野韻松亭の日本民謡詩人会で講演をする

▲三上知治氏 十一日から十六日迄三越で滞欧記念展を催す

▲馬場哲哉氏 ルナチャルスキーの「無産階級の美学」

を訳了人文会から近刊

▲菅忠雄氏 湯ヶ島から帰京した

▲麻生義氏 ボグダノフの「無産階級芸術論」を人文会から近刊

▲川添利基氏 市外下荻窪川南三四一へ転居

▲小宮山明敏氏 「アンドリエーエフの『黒き仮面』千九百八年作説の成立可能」を「日露芸術」三月号に寄す

▲「婦人倶楽部」三月号創作 美貌(武羅夫)愛染草(武雄)見えぬ愛(浩二)幸福物語(紅緑)想思夢(山中峯太郎)主権妻権(佐々木)

大正十五年二月九日

▲片上伸氏 二十日頃上紀州から帰京する

▲北原白秋氏 十日上京の筈

▲土岐善麿氏 「病床雑詠」(百三十首)を「日光」三月号で発表

▲佐々木味津三氏 戯曲物語「敵打以上」を「婦人倶楽部」三月号に寄せた

▲落谷虹児氏 巴里十五区フアルギエール小路十四番地に転居

▲奥村博史氏 新劇協会に復帰し三月公演の「ユーディット」に出演する

▲故清水晴風翁 遺作雛百種は駿河台の主婦之友社で九日から十五日迄特別展列される

▲三越自由大学講座 石垣会の主催で十一日から十八日迄毎夜開講、上杉慎吉、太田正孝、佐藤功一、大村西崖、服部宇之吉、藤原咲平、千葉亀雄、菊池寛、浜田四郎、北田内蔵司、林幸平氏等が出講

▲十日会例会 十日午後六時神田五車堂で開催

▲人形句会 十日夕六時錦町聯珠会館で

▲「更紗」の創刊 平野義男、北原創之介君が三月大阪から発刊

▲曲線図案社 橋本健吉、宇留河泰呂、野川隆、柳田伊秀、坂本謹の五氏で裝飾美術新社を創設事務所は京橋区西紺屋町二十三宇留河方(電銀三四二九)

大正十五年二月十日

▲「詩歌時代」の創刊 若山牧水氏編輯主任となり沼津の創作社から五月号を以て発刊特別大懸賞で短歌を募集中、一般投稿の選者は白秋、井泉水、牧水、雨情、善麿、福永漢の六氏である

▲光風会十三回展 は松方幸次郎氏蒐集の欧州近代画を特別陳列する由でこの廿四日から三月十九日迄竹の台で開催一般出品は十九、廿日に会場で受附ける優秀作には光風賞金を贈り次回を無鑑査の特典を与へる

▲中央美術展 出品受附は十一、十二日日本美術協会列品館鑑査は十四日で終り十六日から開く

▲村上華岳氏 五月初鮮金剛山に遊ぶ

▲近藤浩一路氏 京洛百題の個展を六月三越で開き近作百三十点を見せる

▲福田正夫氏 次女美佐緒さんは八日死去した

▲立正大学史学会 本日同大で原田淑人氏が「楽浪遺跡と古朝鮮文化」を講ず

▲木曜会文芸座談会 十一日夕六時浅草並木東洋軒で句会二つ 生光句会は十三日夕五時四谷伝馬町末広軒で◇瀬祭句会は十三日同刻指ヶ谷町蓮華寺で開く

▲「朱門」編輯所 赤坂青山北町一丁目■明館内へ移転創刊四つ 「十字街」は牛込其社から◇「デアポリエデア」は神戸から◇「黒鐘」は芝の感覚出版社から◇「帆船」と「更生」が解散して合併した「馬車」は調

布の帆船社何れも今月発刊

大正十五年二月十二日

- ▲いばらち如月歌会 十一日夜六時市外大畑弘進軒で
- ▲「北斗星」短歌会 十一日一時原宿辻方で開く
- ▲エス語講習 八日から六週間今川小路中央講習所で

大正十五年二月十一日

- ▲フランス絵画展 中央美術社主催で十六日から三月五日迄日本美術協会員品館で第七回中央美術展と共に開催
- ▲十菱愛彦氏 去る六日省電で右手挟まれ全治三週間の重傷を負った

- ▲生田蝶介氏 明日名古屋に国枝史郎氏を訪ねて帰京
- ▲安成三郎氏 「化粧史」を資生堂月報に連載す
- ▲能村潔氏 三月中旬迄下渋谷八三四山口方に仮寓
- ▲益田盛人氏 木彫八千代雛頒布会を上十条一一四四の自宅で起した

- ▲木村秀吉氏 論文集「心と言葉」を更正閣から近刊
- ▲イプセン会 二月例会は十五日四時中村吉蔵氏宅で開く

- ▲関西学院の文科祭 本日中央講堂で催す
- ▲橄欖歌会 十四日一時一つ橋学士会館で開く
- ▲南柯吟社例会十三日夕五時赤羽柳橋畔福井楼で
- ▲「わだつみ」二号 勅題と詠進（植松安）変な話（由岐雄）

- ▲「火花」の創刊 稲村喜一、奈谷三千男、高橋勝之、長谷川隣次郎で大森其社から発刊した

- ▲叢文閣近刊二種 ◇大沢章氏の「永遠を刻む心」熊野義孝氏の「愛の使徒ヨハネの書翰」

- ▲海港詩人倶楽部 竹中郁君詩集「黄蜂と花粉」を近刊

○二月七日 「安部能成氏」は「安倍能成氏」の誤り
○二月十二日 「板垣守克氏」は「板垣守正氏」の誤り
○二月十四日 「山本自■氏」は「山本純民氏」のこと

- ▲「探偵文芸」三月号、小牧近江、南幸夫、井東憲氏等創作を載す

- ▲佐藤春夫氏 敵父病氣見舞のため紀州新宮に帰省した
- ▲森本一■氏 歌集「さわらび」を常春社から近刊
- ▲雀原会 人体研究例会を十五日から廿日迄上中里十一多々羅アトリエで

- ▲常春歌会 十四日一時十二社林間居で

- ▲「自然」の復活 其社を上野桜ヶ岡に移し尾山篤二郎、米倉冷雨氏等で三月号から再刊

- ▲戸をたゞく座朗読会 十三日夜本郷森川町基督協会の堂で開き武者氏の「愛慾」豊島氏の「画像」を上演、高村光太郎、尾崎士郎、藤井真澄、恩地孝四郎氏の講演がある

大正十五年二月十四日

- ▲菊池寛氏 旅行から帰京

- ▲内ヶ崎作三郎氏 新著「人生学」を教育研究会から出版した

- ▲片岡鉄兵氏 処女戯曲「心なき業」を「テアトル」創刊号に寄す

- ▲邦枝完二氏 戯曲集「青春」を宝文館から近刊

- ▲山川亮氏 市外高田雑司ヶ谷六〇八に転居、三月から「思想人」を創刊する

- ▲鈴木彦次郎氏 市外世田ヶ谷太子堂二五五へ転居

- ▲山本自■氏 鋳銅の「壺」を池袋中原の自宅で頒つ

- ▲懐風会 十八日一時本郷燕楽軒で会合「東京府美術館に対する希望条件」（坂井犀水、垣見泰山両氏提案）「帝國美術院賞廃止の件」（近藤宅治氏提案）を議題とす

- ▲フランス絵画展 十六日から開く同展はヴィルドラツ

ク氏の送荷でサロン・ドートンヌの作家の出品百二十点を出陳中央美術展と共通入場券を発行すと

▲「婦人画報」三月号創作 淡雪（与志雄）或る男と女（絃二郎）殉教者（謙次）春と冬との間（源吉）山と恋（晶子）「自叙伝」の序（燐子）「星ヶ城夜話」の序（介山）

▲農民文芸例会 十五日一時大隈会館学生ホールで開く

▲「婦人公論」三月号創作 大道無門（亭）晩春（春夫）

▲阿真夫人（千代）終焉記（千秋）金欄戦（喬二）

▲「路上」三月号 加藤四郎詩集号とし「朝の旅人」等廿五篇を収む

▲「劇と人間」 三月号から月刊とする

▲「文芸道」創刊号 モダン・マリヤ（木村毅）電話（石

原純）年輪町（今東光）火の番（須藤鐘一）声と恋（武

野藤介）雑文（露伴、花袋、泣菫、晁、汪洋、喬二等）

▲「劇場」三月号 白河の姉御（善太郎）四民（小野金次郎）の戯曲二篇

▲「石楠」三月号 生活基調としての俳句（行人子）一

茶の江戸生活（蒼梧）等

大正十五年二月十五日

▲正宗白鳥氏 二十日頃郷里を出発上京する

▲武者小路実篤氏 上京中だつたが名古屋へ講演旅行中

▲賀川豊彦氏 新著「雲水遍路」を改造社から近刊

▲三上於菟吉氏 長篇「日輪」を新潮社から近刊尚ほ昨日大阪へ赴いた

▲川路柳虹氏 本日講演のため信州に赴く

▲故細井和喜蔵氏 長篇小説「奴隸」は改造社から近刊

▲西沢笛畝氏 十八日から三越で郷土玩具絵展を開く

▲平塚運一氏 木曾大葛屋に滞在

▲清原貞雄氏 新著「日本道徳論」を改造社から近刊

▲萩原新生氏 「東方公論」編輯に入る

▲「新小説」三月号 寒村（鉄兵）海の良人（東光）木

枯（千秋）別荘（秀人）寒月集（茂吉）ボードレール感想録（大学）文芸閑話休題（浩二）山栗君について（花袋）

▲「不同調」三月号創作 二人の老人（吉田絃二郎）空

気銃（浅原六朗）煙草と彼（野島辰次）赤い手帳（悦田喜和雄）

▲郷土会第十一回展 五月一日から七日間三越ギャラリーで開催と決定

▲共楽美術倶楽部 「文芸美術家愛蔵品展」を十七日から三日間東美倶楽部で「中世紀版画展」を廿三日から

廿八日迄銀座松坂屋で開催

▲「劇友」例会 十八日夜横浜弁天倶楽部で開会小林徳二郎、長田幹彦、山崎紫紅氏等講演がある

▲「獵人」二月号 休刊三月号を倍大とす

▲「新興芸術」 四月から復活

大正十五年二月十六日

▲「改造」三月号創作 戯曲「勝頼の最後」（正宗白鳥）

「父と子」（明石敏夫）「火を恋ふ」（谷崎精二）戯曲「道化役者？」（中村吉蔵）

▲松居松翁氏 帝国ホテル二五二号室に仮寓

▲北原白秋氏 「日光」三月号へ「古風俚謡鈔」「風景は動く」等四十枚を寄せた

▲小出檜重氏 兵庫県武庫郡精道村芦屋平田三九二に転居

▲勝本清一郎氏 麴町区下六番町二九へ転居

▲高木長葉氏 市外平塚村戸越三三八へ転居

▲梶原貫五氏 廿日から廿六日迄三越で個展を開く

▲歌集「真孤の花」の会 廿日夕五時著者大鳥居全氏の

為め駿河台下五車堂で開催

▲野長瀬正夫氏 個人詩誌「砂丘」を今月二十日奈良県吉野郡其社から発行

▲三条会展 岸田劉生氏新たに会員に加はり四月十三、四、五の三日間東京美術倶楽部で開催

▲「野葡萄」 暮鳥、二六、信実、弘三、その他数氏執筆

▲五月信子演劇研究会 第一回公演に故森鷗外博士「生田川」上演

▲帝大ローマ字会第二回学術座談会 「奇襲戦の歴史的觀察」（古荘大佐）二十日午後六時帝大構内山上御殿来聴隨意

▲「テアトロ・アナルコ」組織 村松正俊、加藤一夫、

麻生義、松本淳三、那珂川敏、大橋芳雄、林真珠、新居格の諸氏によつて組織実演は当分せず、但し私演は

毎隔月一回男女優募集中事務所市外吉祥寺井ノ頭公園大りん内尚ほ資本金は静岡県下の某氏提出の由

大正十五年二月十七日

▲吉田絃二郎氏 伊豆修善寺菊屋別荘に滞在中

▲佐々木茂索氏 片岡鉄兵氏と共に近くスキイをやりに赤倉に赴くと

▲犬養健氏 四谷の敵父の邸宅近くに新居の建築に取りかゝると

▲今東光氏 伊豆伊東温泉に在り長篇「海賊」を「文芸」に寄せた

▲山田邦子氏 長男が三番町木沢病院に入院中なので附き添つてゐる

▲長谷川昇氏 昨日駒込病院を退院した

▲上野山清貢氏 十八日から廿二日迄丸善で個展を開く

▲内山淳一氏 新潟へ帰省中

▲第一小劇場 生田登、高田保、俵光信、永田一修氏等
で小石川原町七八に創設

▲現代五十家新作展 白日荘が三月一日から七日迄三越
で催す

▲「新進詩人」三月号 ローザ・ルクセンブルグ嬢を懐
ふ(汪洋)窓(五郎)等

▲「芸術と自由」三月号 新時代の短歌(純)短歌の時
代性に就て(謙二)詩歌(康文、陽吉、光任、翠明)

▲「みづゑ」三月号 陶工として思ふ(憲吉)伝統復興
に関する一問題(武松)モデイリアニ(勝蔵)槐樹社
の人々(鉄五郎)岩崎君の死を悼む(元興)

大正十五年二月十八日

▲「中央公論」三月号創作 さまよへる琉球人(広津和
郎)彼等(高橋新吉)燐をのんで死んだ人(近松秋江)
ギチと吉公(悦田喜和雄)神経衰弱(徳田秋声)

▲「文芸戦線」三月号創作 新聞社を喰ふ(清三郎)齒
車と人間(岡下一郎)虐げ合ふ(洋文)童話みたいな
話(伊之助)隣家の鶏(雄三)窟の女(金重)無智(佐々
木俊郎)それや何だ(嘉樹)冷たい笑(平林たい子)
廻れ右(紀二)ミカエル少年(ボビンスキー)

▲中展の新会友 鑑査員及会友の評議に依り林重義、前
田寛治の両氏を会友に推挙した

▲三宅敏一博士 廿日二時刑務協会で「病的放火に就て」
なる講演をやる

▲堀義二氏 市ヶ谷台町久野病院入院中

▲麻生義氏 ロバートソンの「独逸文学史」訳了金星堂
から近刊

○二月十四日 「自叙伝」の序は「自叙伝」の序文、「星ヶ城夜話」の序は「星ヶ城夜話」の序文として掲載された
○二月十六日 「道化役者?」は「道化役者」として掲載された
○二月十八日 「燐をのんで死んだ人」は「燐を喰んで死んだ人」として掲載された

▲並樹秋人氏 浅間温泉に在り二十日帰京す
▲大島総一氏 日光湯本に滞在

▲同人社東京句会 廿日夕五時半清水谷皆香園で
大阪演劇聯盟研究会 廿日夜開催榎本清氏等の講演が
ある

▲発禁一つ 福井県金津町の「群衆人間」二月号は発売
禁止さる

▲パピヨン図案社 事務所を有楽町二の三に設置、織田
一磨氏外代表者として一般図案製作の講習会、展覧会、
出版事業及び工芸品、球根類食料品等の代理部を設け
た

▲「風貌」三月号 牛を見た(西谷)一ユートピアンと
して(宇佐美)寒鴉(泊露)

大正十五年二月十九日

▲中村彝画室保存会 遠山五郎、堀進二、鶴田吾郎、会
宮一念氏等作品一口式拾五円で頒ち故人の画室を保存
する申込は下落合四六四中村画室だ

▲「解放」三月号創作 戯曲「改宗者」(ステツプニアク・
房吉沢)坂(今野賢三)その頃の同志(吉田金重)或
る貯蓄心(小堀甚二)小盗伝(秋田雨雀)

▲長原孝太郎氏 新訳「ルーベンス評伝並に画集」をア
ルスから近刊

▲戸川秋骨氏 随筆集「凡人崇拜」をアルスから近刊
▲三宅やす子氏 短篇集「或る婦人の手紙」をアルスカ
ら近刊

▲黒沢隆信氏 「一茶俳句研究」を金星堂から近刊

▲小林量造氏 震災で作品全部を失った氏は下渋谷羽根

沢三四六石丸邸内で渡仏の為油絵を頒つ
▲土を慕ふものゝ会 廿一日夕六時半三田四国町竹内方
で

▲「群萌」三号 広がる愛(岩野英枝)(殿村紋平)等
▲「東壇」の創刊 俳歌誌として五月青山墓地其社から
発刊

▲「さつき」の創刊 萬朝報社内から三月如上俳誌が発
刊される

▲「芭蕉」三月号 俳句に對しての感想(芥川龍之介、
秋田雨雀、若山牧水、窪田空穂、沖野岩三郎氏等三十
余名)

大正十五年二月二十日

▲徳田秋声氏 故婦人はまさんの四十九日で昨日埋骨式
を営んだ

▲芥川龍之介氏 湯ヶ原に滞在創作中

▲林俊衛氏 南フランスのエツクスのセザンヌ画室に四
月半迄滞在五月三十日マルセイユ発七月十日頃六年振
りで帰朝する

▲北吟吉氏 風邪で臥床中

▲賀川豊彦氏 新著「大講演集」を雄弁会から近刊

▲佐藤紅緑氏 長篇「楽園の扉」を雄弁会から近刊

▲成田為三氏 市外西巢鴨宮仲二三〇四へ転居

▲中村進治郎氏 京都に滞在中

▲「文芸時代」三月号創作 ある話(茂索)運転手免許
証(真人)ある結末(鉄兵)帰郷断片(諏訪三郎)故
里へ(貴一)の外に「奇論の真理」(石浜金作)合評会
第一回速記がのる

▲「文芸行動」三月号創作 とほける子供等（成吉）靴
（三宅賢）或日のこと（民樹）瘋癲院（大岡竜男）憐
れなる彼の縁言（資夫）

▲「日光」三月号 雪と野菜（夕暮）風景は動く、古風
俚謡鈔（白秋）歌舞伎芝居（信夫）詩歌（善麿、千櫻、
純次郎、庄亮、白秋）

▲立大英文学会 本日二時文芸講演会を開催、沢村寅二
郎、モールの両氏が出席

▲白虹会 改名世紀座脚本朗読会は本夕開催

▲フランス画常設陳列 を日仏芸術社では開設近代名作
写真数百枚が新着した

▲蒼原会 写生例会は廿一日碑文谷附近で催す

▲句会二つ 赤い実の句会は廿日夜笑風居で◇歌泉社句
会は廿一日巢鴨草詩堂で

▲「テアトル」創刊号 戯曲（雨雀、知義、保、鉄兵）
研究（山口剛）随筆（寛、浩二等）

▲「劇場」三月号 ピランデルロの現実観（本田）劇場
と劇作家（鈴木）

▲「人間群」三月号創作 強い男（太郎）

大正十五年二月二十一日

▲吉江喬松氏 廿三日頃講演のため岡山方面に赴く

▲西条八十氏 吉江喬松氏外四氏発企で廿一日午後五時
半から丸の内中央亭で帰朝歓迎会を開催

▲江口渙氏 市外吉祥寺安養寺住宅地五一へ転居

▲森曉紅氏 中藤英哉、水島長太郎氏と共に「文芸倶楽
部」以外に五月号から「講談倶楽部」の編輯にも当る

▲額田六福氏 修善寺新井に在戯曲集「天一坊」を春秋
社から近刊

▲幡谷正雄氏 房州保田町渋谷■に滞在

▲井上織子氏 帰朝第一回独唱会を廿日夜七時報知講堂

で「リードとアリタの夕」としてコハンスキー教授の
伴奏で催す

▲破魔弓句会 本夕六時半込算筈町真宗説教所で
▲「社会科学」三月号 モンテスキューの研究（竹内謙
二）デュギの国家論（中島重）備前岡山の藩札（黒
正巖）マルクに就て（エンゲルス）英国消費組合研究
者（本位田祥男）否定判断論（ライナツハ）

▲「大衆」創刊号 労働党の教訓（山川均）無産階級運
動 理論と実際（大山郁夫）無産階級運動の危機（猪
俣津南雄）

大正十五年二月二十二日

▲裕伊之助氏 エスタックで製作中だが林倭衛氏の近信
に「彼は最近中々立派な仕事をしています」とある

▲加藤武雄氏 風邪で臥床中

▲荻原井泉水氏 京都に滞在

▲久保田米穂氏 新雑誌個展を廿四日迄松屋で開催中

▲田辺若男氏 第一回主演映画、「街の人々」の鑑賞会は
廿五日夜、「映画と詩」同人で同社に催す

▲高田豊氏 愛知県新舞子に滞在詩集「詭妄性詩集」は
三月新詩壇社から出版

▲保延武司氏 「草露集」を近く岩波書店から近刊

▲土俗雛展 趣味の絵会主催の同会と上村露子氏の西洋
芸術人形陳列会は廿五日から廿八日迄資生堂で開く

大正十五年二月二十三日

▲中展の授賞発表 中央美術賞を竹原嘲風君の「闘鶏の
図」斎藤二男君の「静物」プロックス賞を松宮錦水君
の「広野秋色」中村善策君の「森と港」

▲芥川龍之介氏 湯ヶ原から帰京

▲西条八十氏 「童謡読本」を編纂中だが興文社から順
刊する

▲土田杏村氏 英文に拠る東洋（支那、日本）の思想家
評伝を執筆中

▲山上、泉氏 長論文「修辭学上より観たる日蓮聖人の
文章法」を「立正大学々報」で発表す

▲幡谷正雄氏 「近代英詩叢書」（十冊）を新潮社から順
刊する

▲第一小劇場 廿四、五日ホテル演芸場で第一回公演を
し鈴木泉三郎氏の「彼等の獣」長谷川如是閑氏の「両
極の一致」横光利一氏の「現れた相手」田島淳氏の「歳
末挿話」を上演す

▲「探偵趣味」三月号 女性犯罪号とし小酒井博士の「結
婚詐欺」国枝史郎氏の「性のせり市」大阪警察の清水
氏の「犯罪捜査の第一歩」の外創作は「■夫人の肖像」
（斎藤恵太郎）「へそくり」（春日野緑）「浜のお政」（久
山秀子）「ピストル強盗」（妹尾詔夫）

▲武田晃氏 京都下賀茂中川原町三六へ転居

▲北野博美氏 日本精神医学会内に研究室を移し「変態
心理」の為に尽力

▲「死刑宣告」の会 著者萩原恭次郎氏の為め豊橋でも
開かれる

▲三崎文学会 廿八日夜五車堂で座談会を開く

▲「馬車」創刊号 同人詩誌瞥見（不二）冬枯れの山（浩
郎）中央詩壇時評（平沢）

大正十五年二月二十四日

▲「心の花」三月万葉研究号 人麿の修辞（沢瀉久孝）

小野朝臣老（橋本進吉）万葉と連歌（志田義秀）万葉
と天平時代（佐々木信綱）万葉主義の歌論（久松潜一）
万葉に現はれたる外来思想（藤田徳太郎）をはじめ鴻

巢盛広、児山信一、豊田八千代、元田修三氏等十四人の学者の論文を満載

▲ルネ・ムナール氏 作家で美術批評家の氏はフランス美術院同人に推された(ポルドウ無線バリ二十二日発電通)

▲内藤辰雄氏 水守亀之助、宮地嘉六氏等と廿八日水戸いばらき新聞別館で「祖国」主催の文芸講演会を催す

▲一氏義良氏 廿日シベリヤ經由エジプトに向け出発した

▲石崎孝氏 渡欧記念の個展を三月早々上田市で開く

▲岡本文弥氏 小歌集「こほろぎは啼いてゐた、私は仏書を読んでゐた」を青杉社から近刊

▲「歌舞伎研究」の創刊と会員募集 「歌舞伎」を更に高級誌とし歌舞伎座出版部で会員組織として頒つこととなつた

▲「美術特輯」第二輯 司馬江漢の西遊日記続篇(黒田博士)表現主義の思想的背景、シドウ、(園沢)京都画壇の覚醒的第一転機(神崎)

▲「轟々」三月号 岡田光一郎、山川景太郎、岡本潤氏等執筆す

▲「北日本詩人」 全東北及び北海道に亘る聯盟から復活号を出す

▲東京写真研究会 第十五回は廿五日から三月十九日迄竹之台陳列館で開催創立二十周年記念として「學術写真」を特別展列す

▲日本宗教研究会 「日本宗教新報」を本所原庭松嶺寺内から三月創刊

▲民謡舞踊の会 時雨音羽後援会主催で三月十四日日本青年館で開き野口雨情、藤間静枝、永井郁子氏等出演

▲洋画即売会 室内社主催で三月三日迄丸ビル二階で開

催中

▲「文芸市場」三月妖怪研究号 小剣、酔名、北明、憲、東光、修太郎、格、貢太郎、洋文、近江氏等執筆創作は未明、愛彦の両氏

▲「人生創造」三月号 梧平修身読本、孝行論の外、創作「理想国」「恋愛問答」等

▲「劇と人間」三月号 五皇提希夫人(若月保)幻の舞踏(菅原寛)小劇場向一幕物百種選

大正十五年二月二十五日

▲「早稲田文学」三月号 戯曲「父の仮面」(秋田雨雀)

▲「鳥帽子ヶ岳」(小川未明) 戯曲「山吹の里」(松居松翁)

▲「文芸春秋」三月戯曲号 創作「靴」(金子洋文)「鴉」(関口次郎)「吉利支丹信長」(小山内薫)「江戸城総攻」(真山青果)「麵麴屋文六の思案」(岸田国士)「ある住家」(阿川志津代懸賞小説)

▲故内藤鳴雪翁葬儀 本日午後三時から四時まで青山斎場に於て仏式で告別式を挙行

▲吉江喬松氏 月末中国各地の講演を終へ帰京

▲「ジャングル」と前田河広一郎の会 同書訳者前田河氏を中心としての会は廿七日午後六時から青山南町六丁目中川牛肉店に開催会費二円発起人堺、青野、山田の三氏

▲柳沢健氏 病氣のためニースで静養中

▲河竹繁俊氏 市外中渋谷大山七二六に転居

▲吉田一穂氏 詩雑誌「范洪」第四輯から同氏編輯する原稿毎月十日まで市外代々木本村七八四同氏へ

▲「饗宴」三月号 ジョオジ・エジヤトン(峰人)ジャ

ン・サルマンの俗作(施門)等

▲「辻馬車」三月号 小説(崎山、神崎、藤沢、上道)

随筆(宇野、十一谷、伊藤)

▲「常春」三月号 歌(光吉、宗治、秋人)「穂明」の作者に(御風)彼は檉の木(夕暮)等

大正十五年二月二十六日

▲「新潮」三月倍大号 長篇揃ひで戯曲「浦島と乙姫」

(武者小路実篤)「黒点」(豊島与志雄) 戯曲「ギリシヤに遊ぶ」(長与善郎)「恋敵」(宇野浩二) 戯曲「冬天」(久保田万太郎)「父子兄弟」(正宗白鳥)の六篇を掲載

▲正宗白鳥氏 岡山から東上大磯に帰つた

▲松居松翁氏 大阪中座で「山吹の里」上演の舞台の爲め下阪南区南炭屋町葉村屋に投宿

▲北原白秋氏 童謡詩人叢書第一篇として「からたちの花」を新潮社から近刊

▲千葉亀雄氏 今夜名古屋へ向ひ一週間程滞在す

▲久米正雄氏 「久米正雄全集」(現代小説全集)を来月初め新潮社から近刊

▲野口雨情氏 「ほたるの燈台」(童謡詩人叢書第二篇)を新潮社から近刊

▲能島武文氏 母堂病氣のため大阪へ帰省尚ほ「作劇の理論と実際」を新潮社から近刊

▲岩井尊人氏 滞欧個展を三月二日から七日迄三越で開く

▲「新主観派」の創刊 池田義信、畑喜代司、長沼重隆、工藤恒、黒田辰男、福田正夫、佐々木千之、水木伸一、白鳥省吾、井上康文氏等十九同人で世田ヶ谷下北沢八

○二月二十日 「歌舞伎芝居」は「歌舞伎芝居の成立」として掲載された
○二月二十六日 「恋敵」は「恋仇」として掲載された

○九の其社から四月発刊す

▲「演劇研究」三月号 戯曲「或強盗」(貞一)「逃避者」

(衝吉) 歌舞伎劇に就て(義博) 新劇壇の女性(古老四人)

▲「ウーマン・カレント」三月号 理論と実際と、このごろ、孔雀の眼(やす子) 故水野仙子女史と私(邦子) 女人一家言(かの子) 春のまどはし(喜志子)

▲「文学界」二月号から当分休刊

▲名作入札売立展 三月五日から四日間室内社画室で故黒田子の「習作」(第六回文展出品) 南薫造氏の「葡萄棚」(第九回文展二等賞) その他を羅列す

▲書物同好会 廿七日正午半南葵文庫で例会を開き外務省の須佐喜橋氏が「蒙古の典籍について」を講演す

▲「思想」三月号 「初期仏教資料の取扱ひ方に就て」(和辻哲郎)「原子理論と力学」(石原純)「受胎告知」(矢代幸雄)「文芸学上の新潮に就て」(雪山俊夫)「ゲーテ研究資料」(阿部次郎)その他

▲「青年文壇」三月号 鴉と今昔(東吉) 子(浩) 遠いこと(惟直)等

▲「文芸思潮」三月号 創作 家を捨てる(貴一) 夢中を往く(直治) 垢(富田常雄) 悲しきピエロ(雄三)

▲「白山文学」三月号 新しき散文詩を論ず(中川) 子(杉本)

▲「詩篇時代」三月号 星川清躬、今岡弘、倉橋弥一氏等執筆

▲創刊三つ ◇「土壺」は三月埼玉県深谷町から◇「搖籃時代」は三月中旬三田四国町其社から◇「新人聯盟」は牛込若松町一四二帝都文壇社から三月一日何れも発刊

大正十五年二月二十七日

▲「反逆情史」再禁止 藤田浪人氏の発禁となつて改訂再版した同書は又もや禁止され絶版とする

▲鳴海要吉氏 個人雑誌「新緑」を三月恵風館から創刊す

▲大宅壮一氏 和子氏と共に牛込区横寺町九芸術倶楽部内へ転居

▲中沢靈泉氏 府下和田堀ノ内村和泉字谷戸八五へ転居

▲飯田莫哀氏 市外下板橋町六一三冬日荘に移転

▲「太陽」三月号文芸欄 毒見(新井紀一) キヤラメル(前田河広一郎) 校兵の心配(川崎備寛) 真画の世界(坪田譲治) 時評(木蘇穀、戸川貞雄、武川重太郎、那珂考平)

▲「書誌」第三冊 郷土誌料増大冊とし「長崎市史及其参考書」(武藤)「仙台府学養堅堂版」(田中)「村上忠順と刈谷図書館」(久松)「高野山と密教の書物」(水原)

▲「古琉球の文献」(伊波)「台湾関係重要図書解題」(並河)「江戸時代蝦夷関係書目」(岡本)等

▲「郊外」三月号 よもやま(楚人冠) 支那断片(梢風) 郊外雑記(欣一) 悪作五章(孤蝶)

▲「驚の巢」三月号 青衣自画像(有為男) 結婚旅行(内山) 義父(佐々木)等

▲「青杉」三月号 短歌(御風、夕咲)等

▲創刊二つ 京都から「白銅執行」が四月◇水戸から「点」が出る

▲創作社 「詩歌時代」創刊の為め市外世田ヶ谷太子堂三〇一中野方に東京支社を置いた

▲用器画講習会 図画文検会主催で五月十五日迄礪川小学校で開催中尚ほ同会では「美術教育」を発行近郊写生会を催す

▲室内社画室 春陽会展内に出張所を設けて出品の売方を勤める

▲「原始」三月号 虚無思想の肯定性(一夫) 自由の字

宙的基础(三四郎)等

▲「地方」三月号 文化没落期にある現代農村(隆輝)

▲農村青年の当面せる一段階(季吉) 骨を飲む男(神山馬(田代倫)

▲「犀」三月号 ジャコブに就て(北川) 風格談(百田)等

▲「伝説」の創刊 藤沢衛彦氏を主幹竹内道之助の編輯で日本伝説学会から四月創刊

▲「橡」三月号 創作「父のために」(除村寅之助)「故園に索す」(加藤昌雄)「契濶」(原奎一郎) 論文「総合の精神」(葛目彦一郎)

▲「東方公論」三月号 「眉山譚」(伊藤松雄)「史実と直感に就て」(生田蝶介)等

大正十五年二月二十八日

▲徳田秋声氏 森ヶ崎大金で創作執筆中

▲安倍能成氏 三月四日頃朝鮮大学教授として赴任

▲足立源一郎氏 奈良に帰つた

▲佐々木茂索氏 片岡鉄兵氏と共に再び赤倉に赴いた

▲森曉紅氏 の「仮名文字校」は大衆文芸叢書第一篇として二松堂から近刊

▲進藤延氏 大森望翠楼ホテルに転居

▲「早文」三月号論説 脚本に関する訴訟事件の鑑定(逍遙) 世紀末文学の基調(久雄) 源氏物語新論(小林栄子) 豊重最古の一枚絵(久弥) 明治文学其他(毅)等

▲「講座」三月号 ギリシヤ自然哲学の本質(坂崎) 荘子の考察(楠本) デイルタイの教育説(勝部) 善の意識(藤井) 社会意識(綿貫) 根本学としての哲学(橋高)

▲「アララギ」三月号 田安宗武に就て(麓) 森鷗外先生(茂吉) 歌界評(文明、忠告、浪吉) 短歌(赤彦、

茂吉、憲吉、百穂)

▲「演劇改造」の創刊 林和、津村京村両氏の編輯で四谷水住町二の其社から四月一日創刊

▲「層雲」三月号 冬の水音、亡母祥忌(井泉水) 大感傷主義(郊汀)

▲「香蘭」三月号 流派に就て(白秋) 橘井堂雜筆(政一) 歌壇合評(東村、次郎、敏夫)

▲「陣痛時代」三月号 桐の花(宇賀) 岬の風景(井伏初対面(山中))

▲「彼等自身」第六輯 故暮鳥、景太郎、心平氏等執筆

▲中央公論社 従来麻田駒之助氏の単独経営であつたが去る十日株式会社に組織を改めた

▲愚会 今夜渡辺町吉田白嶺氏方で開催

大正十五年三月一日

▲正宗白鳥氏 本日出京す

▲水木伸一氏 昨日朝鮮から帰京

▲日本新劇運動史編纂会 小石川上富坂廿三に置き松永章二君が編する

▲民衆之友社 新大亜細亞主義研究会を五日一時本郷元町二の五伊藤方で開く

▲「詩世紀」三月号 混沌たる現日本詩壇(香月) 新興ニヒルの提唱(芳文)等

▲「演劇映画」三月号 随筆、菊池寛、近松秋江、小山内薫、直木三十五、白井喬二、岸田国士、水木京太、江戸川乱歩氏等外二十数氏戯曲「金鶏」(松居松翁)

▲「ド・ド・ド」第三号創作 「白い壁」(萩原野呂)「寸劇」(矢橋公鷹)「ボロ人間」(壺井繁治)

▲「江戸軟派研究」三月号 「豆男黄表紙」(尾崎久弥)「風来山人の偽作」(同) その他

▲生活芸術協会成る 畑正吉、中村順平、小松耕輔、斎藤佳三、森谷延雄の五氏を同人として帝都の建造物、公園、交通施設、色光、音、装飾、工芸、服装、公德、言語、儀礼、娯楽機関等を考究批判して我が文化の最上な実現を期すべく如上の協会が生れた

▲「波柿」三月号 高い山から、歌舞伎十八番鳴神百廿五句(東洋城)、歌仙(寅日子、東洋城)等

大正十五年三月二日

▲故有島武郎氏記念第一回講演会 毎年三月四日氏の誕生日を記念するために開催第一回は四日午後六時から本郷三丁目帝大仏教会館で「日本文芸の社会的変遷」(秋田雨雀)「表現派の戯曲に就て」(成瀬無極)「政治意識の本質と変質」(長谷川如是閑)を講演

▲北吟吉氏 十三日講演のため信州に赴く

▲三宅やす子氏 短篇集「ある夫人の手紙」刊行を記念するため先輩諸氏発起の下に四日午後五時半から三共ビル六階エンプレスに於て記念会開催

▲北川千代子氏 府下大森町新井宿新田三三八に転居

▲山中峯太郎氏 帝大附属病院塩田外科に入院中

▲造型第一回展 銀座松屋で二十三日から一週間開催

▲「新詩潮」文人」合同号 「欧米新詩進人論」(南江二郎)「英詩と東洋の交渉」(幡谷正雄)その他

▲「日仏芸術」三月号 「時評」「鵬心」「仏蘭西近代絵画概観」(ロオザン・タール)「エルネスト・ロオラン訪問記」(田辺孝次)その他

▲「主潮」三月号 「ダダリストとモラリスト」(岡沢秀虎)「武者小路実篤の位置について」(小宮山明敏)詩

▲「光のうた」(村田春海) 戯曲「開演中」(樋口正文) 小説「刺針」(杉坂幸月)

大正十五年三月三日

▲「新思潮」三月号 「博多より」(原重一)「悲しい心境」(前山鉦吉)「薄明」(秋山六郎兵衛)「小さな英雄」(矢野万里)

▲中西立頃氏逝く 一昨日夜上駒込二八七の自宅死去、卅五才であつた、氏は本名は辰五郎京都の人で黒田子に就て洋画を学び帝通報知中央等に漫画を筆とり特に演芸通として聞えてゐた

▲谷崎潤一郎氏 上海から神戸に帰つた

▲高島素之氏 監修『マルクス著作集』及び『マルクス思想叢書』は新潮社から近刊河野、堀、安部、石川、松下、神永、小栗、矢部、高島の諸氏執筆

▲吉田絃二郎氏 修善寺から帰京

▲岡田三郎氏 市外長崎村大和田二一五三に転居

▲長谷川零余子 房州方面旅行中

▲大関五郎氏 民謡集「煙草のけり」を素人社から近刊尚ほ個人雑誌「鳩」を本月から創刊「断片語」(横瀬夜雨)「霜」(百田宗治) 民謡十一篇(大関五郎)

▲御木本隆三氏 志摩多徳島御木本真珠養殖場に滞在中

▲青山吉郎氏 長篇「夜光石」を二六新報の為に執筆する

▲宮沢浩氏 麹町区下六番町四八へ転居

▲春陽会賞の発表 六日夜上野精養軒で出品者懇親会を開きこの席上で発表と決す

大正十五年三月四日

▲新らしき村奈良支部 武者小路氏の転居を機とし支部設立事務所奈良市猿沢池畔北村信昭方

○二月二十六日 「歌舞伎劇に就て」は「歌舞伎劇と時代批評性其他」、「新劇壇の女性」は「新劇壇一昔話女怪の巻」として掲載された

▲細田民樹氏 「将来の文学」と題し五日ラヂオにて放送

▲黒田辰男氏 一日から一週間の予定で関西へ旅行中尚プロオクの『運命の歌』を新潮社から近刊

▲岡本一平氏 十五日迄大森松永堂で個展を開催中

▲水木伸一氏 伊豆土肥温泉に滞在中

▲綿貫六助氏 府下北豊島郡下練馬村羽沢三、五一〇に転居

▲峯岸義一氏 (市場美術社) 四谷区新宿園内に転居

▲現代南画大結集展 四日から七日迄中外商業新報社で開催

▲春鳥会 「みづゑ」発行所本郷区元町一の八に転居

▲画断社臨津展 神木鷗神氏第八回個展を近く開くに就て本年から一般出品を受附く事務所は本郷駒込林町三五画断社

▲油絵大家の展覧会 五日から十日迄共楽美術倶楽部で

▲誕生俳句会 六日夕上野桜木町鈴木方で

▲画博堂 大井町篠谷五九二一富士見ヶ岡に移転した

▲創刊二つ 同人誌「青巻」は四月午迄新小川町一ノ四から◇「甲虫」は小沢育郎君等で、四月夫々発刊

大正十五年三月五日

▲片上伸氏 上京延期中のところ近く上京する

▲小山内薫氏 長篇小説「鏡台前」を「講談倶楽部」四月号から連載

▲佐々木茂索氏 池谷信三郎、高田保の二氏と共に別所温泉に赴いたが近日帰京

▲松平道夫氏 病気のため「雑誌の雑誌」編輯兼発行人を辞した、尚ほ少女のための「科学読本」を金の星社から近刊

▲蘇武緑郎氏 「ハイネ書翰集」(聚英閣)「夜の工場町」

「夢みる人々」(昭文堂)「心中物戯曲全集」(自彊館書店)を近刊

▲「画家と詩人」創刊 福田夕咲、伊藤弥太、岡本文弥氏等を同人とし四月号から創刊

▲「日本大学詩人」三月号 勝田、仁木、竹下、中山、その他の諸氏執筆

▲「時代夢」四月創刊 富田常雄、芳賀融、伊福部隆輝、三瀬雄次郎、甲斐省介氏等を同人として詩の評論雑誌を市外野方町新井一八七の其社から発行

▲俳句雑誌「つばぶき」 廿日に四月号を発刊石路社から再刊

▲「詩生活」復活 赤坂新町三丁目尚文堂書店より近刊

▲「戯曲研究」三月号 「八岐の大蛇」(新本幸善)「こもり」(川口昇)「下駄箱」(島本寛)「椅子」(吉田好雄)

▲「朱門」三月号 「愛唱詩話」(伊藤)「佐藤春夫論序説」(古沢)「痼疾者」(舟橋)「過去と現在」(阿部)「一夜」(堤)等

▲文芸日本社 京橋区因幡町十六に転居尚ほ新に進藤印刷所を同所に開設した

大正十五年三月六日

▲佐藤春夫氏 帰省中のところ此程帰京した

▲成瀬無極氏 大森木原山荒木方に十二日頃迄滞在

▲近松秋江氏 中野の現住所に三分熱海中田石渡別荘に七分といふ位に当分滞在する

▲広津和郎氏 処女戯曲「勝と負」(一幕)を婦女界四月に寄せる尚ほ目下氏は大阪に旅行中、一両日中に帰京

▲鳴雪翁追悼句会 六日午後六時から神田松本亭にて開催

▲山上貞一氏 短篇小説集「春鶯囀」を大阪波屋書店から

ら近刊

▲杉本泰氏 「探偵文芸」編輯部と共に東中野一七六六へ転居尚ほ同誌四月号に邦枝完二氏の戯曲を掲載

▲三宅やす子氏 長編小説「奔流」(朝日連載中のもの)近く松竹蒲田にて映画となる

▲常春歌会 七日午後一時から市外上目黒駒場七四七有坂宗治方に開催尚ほ「常春」四月号に『昨夜の火』(百首)を掲載

▲文芸雑誌「黒点」三月号 広島市上柳町六三ノ七其社から創刊

▲■棘路社 吟行歌会七日午前八時市電渋谷終点に集合多摩川久慈梅林方面へ

▲「文芸道」 風紀壊乱の廉で其筋の注意を受けた

▲太平洋画会茶話会 六日午後一時から開催「地文学より見たる芸術」を中山啓氏講演

▲「詩人倶楽部」三月創刊号 「最近世界詩壇の研究」号として「独」蕭々、「仏」柳虹、「露」敬止、「米」暉吉、「英」正雄、「愛」醉花その他詩を満載

▲「年刊詩集」 本年度から堀口大学、日夏耿之助、佐藤春夫の三氏選者となり有名、無名の差別なく厳選の上掲載する年刊詩集を第一書房から刊行

▲「街」 早大英文科の寺崎浩宇野逸夫田畑修一郎中山省三郎等十一人によつて同人雑誌「街」が四月稲門堂から発行される

▲「露台」第三次復活号 「口語歌運動の回顧」(虫明)「二月雑誌から」(高草)その他

▲「獵人」三月報 「熱海浴泉篇」(生田蝶介)「思ひ出は哀し」(萩原新生)「小秀」(石原明)「追悼」(白井喬二)「姉の結婚」(楠田敏郎)「ラウド・スピーカー」(島

大正十五年三月七日

東吉)

- ▲武島又次郎氏 七日歌道講演のため水戸に赴く
- ▲石川宰三郎氏 京都に滞在中近日帰京する
- ▲片岡鉄兵氏 赤倉から帰京
- ▲金子洋文氏 戯曲「牡鶏」(一幕)を「テアトル」四月号に寄せた
- ▲国井淳一氏 処女詩集「瘦枯れた土」出版を記念するため七日午後六時から第一相互七階東洋軒に開催発企人福田、川路、室生、千家、白鳥の諸氏
- ▲小田島次郎氏 月刊雑誌「教材楽譜」を編輯する同誌は四月号から白眉社から創刊
- ▲「講談倶楽部」四月号 童話「金の財布と命の皮」(宇野浩二) 歴史小説「天晴団十郎」(田中総一郎) 執筆
- ▲「伝説」創刊号 「伝説としてのマハバラータ」(高桑駒吉)「童話に於ける二三語」(北村寿夫)「ペテル・ギントの話」(蘆谷蘆村)

大正十五年三月八日

- ▲正宗白鳥氏 短篇集「安土の春」を改造社から近刊
- ▲小内内薫氏 本月十九日から築地小劇場上演の「役の行者」の稽古にかゝった
- ▲北原白秋氏 目下出京中
- ▲島村民蔵氏 イブセン会を脱退専心創作に従事する
- ▲佐々木信綱博士 増訂「万葉集選釈」を明治書院から近刊
- ▲中井宗太郎氏 土田、榊原、村上、小野、野長瀬の国展五同人と共に鶯谷塩原に泊つてゐる
- ▲吉田博氏 十一日から十六日迄欧米山岳写生個展を三

○三月四日 「神木鵬神」は「神木鵬津」の誤り
○三月六日 「勝と負」は「勝者敗者」として掲載された
○三月八日 「小内内薫」は「小山内薫」の誤り

越で催す

- ▲土田麦僊氏 齒痛を病んでゐる
- ▲村松梢風氏 個人雑誌「騷人」を神田区材木町二騷人社から創刊
- ▲土方与志氏 十九日築地小劇場員と共に名古屋、大阪宝塚に興行するため出発
- ▲山崎省三氏 山本鼎氏の後を承け四月から自由学園に教鞭をとる
- ▲今関啓司氏 此程山崎省三氏の令妹と結婚した
- ▲小金井素子氏 (小金井博士夫人) 歌集「窓」を桑木博士の序を添へ竹柏会から近刊
- ▲平林襄二氏 読売文芸部に入社
- ▲フロツトン氏 逝く 仏蘭西サロン・ドートンヌ創立者の一人である氏は此程六十一歳で逝去した。代表作はリュクサンブール美術館に在るが昨秋サロン・ドートンヌ出品の「風景」がその絶作となつた

大正十五年三月九日

- ▲山本有三氏 感想集「途上」を新潮社から近刊尚吉祥寺野田南一八二〇へ転居
- ▲堀口大学氏 相州金沢から帰京
- ▲今東光氏 処女戯曲「江馬冠者の妻」(一幕一場)を「テアトル」四月号に掲載
- ▲樋口幽堂氏 神経衰弱療養のため伊豆修善寺新井旅館に滞在
- ▲十日会 十日午後六時から五車堂に開催
- ▲イブセン会 十二日午後四時から中村吉蔵氏方尚ほ「演劇研究」満一周年記念として編輯同人は十三、四

両日箱根へ旅行する

- ▲「人形」五十号祝賀句会 十日夕五時から神田錦町松本亭に開催
- ▲「文芸街道」 三月号休刊、四月号は増大して本月中旬発行編輯所を下落合六四七に移した
- ▲下田惟直氏 市外西巢鴨堀の内八六に転居
- ▲詩同人雑誌「驢馬」 市外田端六四〇窪川方より四月創刊
- ▲雑誌「惑星」 二十四日頃京都市外稲荷開土町其社から創刊

大正十五年三月十日

- ▲本年度「日本詩集」推薦者 広瀬操吉、八木重吉、宮本喜久雄、国井淳一、能村潔、田中清一、田辺憲二郎、大鹿卓、泉浩郎の九氏
- ▲久保田万太郎氏 十四五日頃電話下谷一九二六番が架設される
- ▲広瀬操吉氏 上京市外高田町雑司ヶ谷六八一新倉方に転居
- ▲写真展覧会 柳川彦太郎、勝田康雄、鈴木八郎三氏の同展は十三日から十七日まで日本橋丸善階上に開催
- ▲向山丹治洋画展 欧米滞在中の作品六十点ほどを十五、十六、十七の三日間麴町有楽町一の一鉄道協会に開催
- ▲短歌雑誌「吾妹」 発行所を千駄ヶ谷稲田七九其社に変更
- ▲塔影俳句会 本日午後六時神田元柳原町八東明研究所に開く

▲神原泰氏 「未来派の劇場運動の最近」を「テアトル」四月号に寄せた

▲「劇路を歩む」 早大劇研究会関係者に依り四月より隔月発行の予定発行所牛込矢来町四ノ二〇田中方其社

▲児童美術の会 創作手工協会発企となり毎月第二土曜日夜美術家、教育家等の雑談会を催す第一回十三日午後六時より東京美術学校倶楽部に於て開催

▲「ホトトギス」四月号 「鳴雪翁終焉記」(為王)「鳴雪翁頭蓋」(柴浅茅)「鳴雪翁追懷」(鬼城)「雜詠句評会」(虚子其他)「俳句を作る是非の念」(俳談会)創作「春疊」(大岡竜男)

大正十五年三月十一日

▲狩野家歴代展 十三、四の両日大隈会館で開く

▲青甲社(西山翠嶂画塾) 第三回試作展を十三日から十五日迄京都岡崎商品陳列所で開く

▲愚会 今夜吉田白嶺氏宅で清談会を催す

▲大沢章氏 (九大助教授) 滞欧八年来る十八日横浜入港のコレア丸で帰朝

▲田村豪湖氏 昨今の病氣全快近く試作展を開く

▲大石七分氏 萩生田真吉氏と共に十五日迄資生堂で個展開催中

▲陶山篤太郎氏 「近代詩歌」四月号から編輯当務者となる

▲住谷磐根氏 (イワノフ・スミヤウキツチ) 此程結婚、池袋九九三へ仮寓

▲「変態心理」談話会 十四日一時品川御殿山日本精神医学会で開き中村古峽氏等の講話がある

▲千川絵画小研究所 地方研究者のため通信批評を開講した申込は小石川林町五八の同所

▲生光句会 十三日夜六時四谷伝馬町末広軒で

▲創作社黒土会歌会 十三日午後■時表猿楽町青雲茶房にて催す

▲プラトン社 丸ビル四階四九八区に移転

大正十五年三月十二日

▲「解放」四月創作 「影像」(山川亮)「丸焼け」(安成二郎) 戯曲「貴女来臨」(飯田徳太郎)「ころげこんだもの」(諏訪三郎)

▲新居格氏 新著創作集「月夜の喫煙」を解放社から発行した

▲額田六福氏 修善寺に滞在創作中

▲橋爪健氏 都合により「令女界」並に「若草」から手を引いた

▲陶山篤太郎氏 演習召集のため三十日まで世田ヶ谷野砲兵第一聯隊に入隊

▲鳴雪翁追悼句会 十四日正午から「枯野社」主催で小石川白山上福相寺に開催

▲正親町季薫氏 自伝「天使の油絵」を「解放」四月号に寄せた

▲「虚無思想」創刊号 新居格、石川三四郎、村松正俊、萩原朔太郎、馬場孤蝶、バツシュ、明敏、東光、知義、無想庵、喬二外数氏が執筆

▲訂正 第一書房刊行のアンソロジーを堀口大学、佐藤春夫、日夏耿之介三氏が監選は事実新潮社発行「日本詩集」に三氏が加入との報道は誤報

大正十五年三月十三日

▲「脈」廃刊 正木不如丘氏の主宰の「脈」は本月号限りで廃刊することになった理由は経済的原因でなく同人が怠け過ぎるからそれをドヤシ付け驚かせてやるためであると

めである

▲「新青年」四月号 「家常茶飯」(佐藤春夫)「火星の運河」(江戸川乱歩)「安死術」(小酒井不木)「悪戯」

(甲賀三郎)「県立病院の怪火」(正木不如丘)「秘密の相似」(小酒井不木)「銀三十枚」(国枝史郎)

▲菊池寛氏 十四日頃まで執筆のため近県旅行中

▲里見弴氏 十四日頃一寸出京す

▲中村武羅夫氏 修善寺新井に滞在十五日頃帰る

▲土田麦徳氏 今朝帰洛した

▲榊原紫峯氏 夫人出産のため一と先づ帰洛

▲シエフチュウク氏、並にルーチン氏(露国青年提琴家)

十八日午後六時から青山会館に音楽会を開催

▲宇野仁松氏 第五回新作陶磁個展を十六日から高島屋で開く

▲竜村平蔵氏 織物美術帯地個展を十六日から高島屋で開催

▲高岡小林氏愛蔵品展 十四日迄東美倶楽部で

▲神部孝氏 新訳「巡礼」(シャルビルドラック)を新潮社から近刊

▲服部亮英氏 十六日に新潟から帰る

▲萩原新生氏 市外上渋谷四十九に転居

▲並木愁人氏 本日水戸市に開催する炭木合同歌会に出席帰途霞ヶ浦に赴き帰京

▲「自由党異変」出版記念会 板垣守正氏処女戯曲集を記念するため氏の誕生日に当る十五日午後五時神田駿河台下カフェー、ブラジル階上で開催

▲「主潮」四月号 一週年記念特大号とする

▲芸術雑誌「新生」 四月京都市上京区百万遍山内新生社から創刊

▲仮面座 宅昌一氏外数氏によつて創設第一回試演エウレイノフ作「陽気な死」並に「心の劇場」と決定当分事務所を赤坂檜町乃木坂倶楽部に置く

大正十五年三月十四日

▲「婦人公論」四月特別号 創作欄「大道無門」(里見淳)
「生命保険」(近松秋江)「忘れぬ男」(前田河広一郎)
「恋の見合」(安成二郎)「信濃の春」(北原白秋)「金欄戦」(白井喬二)

▲片上伸氏 上京小石川雜司ヶ谷町一二五伊藤靖方にト
居

▲横山大觀氏 風邪並に腸を痛み静養中

▲馬場孤蝶氏 十五日出版、展墓を兼ねて約一ヶ月郷里
高知県内を講演旅行する

▲中村吉蔵氏 「井伊大老の死」をアルスから近刊

▲服部嘉香氏 長篇「愛の番兵」を「台湾日々新聞」に
連載中

▲一氏義良氏 新著「世界文化史体系」第一巻「原始及
古代の文化」をアルスから近刊

▲井上康文氏 四谷区三光町一(新宿園西傍)に転居

▲葉山嘉樹氏 上京麹町区四番町一光洋館方に転居

▲北野博美氏 御嶽行者「力剣引寄」詐欺観破の真相を
雑誌「変態心理」に発表

▲伊藤笛堂氏 印度シヤムへ遊ぶため廿八日常盤華壇で
頒画会を催す

▲竹之台三展覽会開期延長 春陽会、光風会、東京高美
研究会は共に二十一日まで延期

▲文芸思潮講演会 十五日午後六時半から神田美土代町
青年会館に於て加藤一夫、大泉黒石、新居格、金子洋
文、藤井真澄、福田正夫、八太舟三、ドン・ザツキ、
岩佐作太郎、望月百合子、今野賢三、松本淳三の十二
氏講演

▲城南柳壇第一回例会 十五日午後五時から京橋木挽町

朝日倶楽部に開催

▲宇高久敬氏 去る十三日からポートレート革命のため
銀座尾張町角八十四銀行階上に銀座アトリエを開き芸
術的肖像写真撮影を開始した

大正十五年三月十五日

▲ノエル・ヌウエツト氏 夫妻(仏詩人)一昨日来朝近
く静岡高等学校教授として赴任

▲ピエール・プノア氏 (仏新進作家)一昨日来朝

▲小杉未醒氏 名古屋大阪旅行中

▲山本鼎氏 眼を病んでゐる

▲生田春月氏 伊豆熱海方面旅行中

▲八木淳一郎氏 熱海に滞在中

▲岩田豊雄氏 翻訳戯曲「貧者」(吉幕)を雑誌「テアト
ル」四月号に寄稿

▲石田寿一郎氏 相州大磯町高麗に転居

▲「少女文芸」創刊 神田小川町新報社から創刊

▲湯島自由画室 二十日画室満一週年記念並に第二回展
を開催

▲「劇」創刊 豊岡佐一郎、川口尚輝両氏責任編輯者と
なり大阪府下箕面村桜井豊岡方から創刊

▲黒沢花琴翁古稀 並に矢田■両氏立机祝賀句会は十八
日午後五時から日本橋浪花町浪花会館に開催

▲諸家素描水彩展「マロニエ」社主催で廿日から廿七日
日米ビル室内社画堂で開く

▲「近代詩歌」散文詩号 散文詩論(汪洋、介春)散文
詩(醉茗宗治)

大正十五年三月十六日

▲橋田東声氏 地方改良講習会の用務を帯んで昨日約一
ヶ月の予定で琉球へ旅行した

▲百田宗治氏 詩集「北風と薔薇」を金星堂 散文、小
品集「阿片」を文芸日本社より近刊尚ほ五月頃詩文雜
誌「曆」を月刊の予定

▲村田丹下氏 南半球一周の絵画旅行から十日帰朝した

▲山中静也氏 「接吻」(フランツモルチア著)を八天書
房近刊

▲長谷部孝氏 「演劇研究」四月号より編輯主任となる

▲「虚無思想」創刊号 創作「獣」(加藤一夫)「ニヒリ
スト」(辻潤)を掲載尚辻氏はこの程帰京した

▲「文芸道」四月 創作「ラリーの夢」(足穂)「巷愁」
(憲)「律三とヒュマア」(三千敏)「夢五つ」(信太郎)
「死場所」(鐘一)

▲明治聖徳記念会講演 本日神田学士会館にて「古典文
学と近世歌論との関係」(久松潜一)「朝鮮民族の教育」
(笹川種郎)

▲朱葉会 第八回展を二十一日から廿七日迄三越西館六
階に開催

▲「劇と人間」四月号 戯曲「港」(社行雄)「光を求む
る人々」(景山哲夫)「天地黎明」(菅原文雄)

▲朝鮮芸術雑誌「朝」 京城舟橋町五八其社から創刊

▲「新主観派」四月号 「あざ」(健三)「或る予感」(義
信)「春の日」(康文)「丘の上」(暉吉)「二人自殺者」
(志郎)「銀座」(竜平)「疲れた空」(代司)「彼女」(正
夫) 其他

▲「新進詩人」四月号 汪洋、悟堂、郁、貞夫氏等の短
唱掲載

▲親交研究会 十八日午後七時から東京美術倶楽部に於
て「美術に対する感想」(武藤山治)の講演がある

○三月十三日 「茨木合同歌会」は「茨城合同歌会」の誤り
○三月十六日 「律三とヒュマア」は「律三と其のヒュマア」として掲載された

▲詩文雑誌「詩神」四月号 より市外世田ヶ谷下北沢八
〇九主観社に発行所を移した

▲東西文化協会 十六日午後四時から帝国ホテルに於て
クロード大使を会長として相談会を催す外務次官ベ
ルギー大使婦人、ベツツオード夫妻帝劇山本専務、有
賀長文、岡田平太郎、藤堂伯、鍋島子、正力松太郎氏
その他出席

▲「劇場」四月号 戯曲「東京の眠る時」(鈴木善太郎)

「貞操を」(井東憲)「蘭」(モルチア)

▲「烽火」 三月号から復活、発行所を京橋区本港町六
七沢方に移す

▲第十九回読画会 四月二十二日から廿八日まで三越呉
服店ギヤラリーに開催

▲浪漫劇場 事務所を府下世田ヶ谷町太子堂一〇五橋本
方に置き第一回試演は四月中旬開催、アンリイ・ルノ
ルマンの「時は夢なり」ダンサニイ「光の門」を上演
の予定

▲「日本詩壇」四月号 評論、竹内潤、山中杏、井上康
文、関口道一、詩、坂本哲郎、金田精一、坂本緋沙思
その他

大正十五年三月十七日

▲「女性」四月特別号 戯曲「白扇の下」(里見淳) 戯曲

「夢の国」(武者小路実篤)「隣の糸」(泉鏡花)「鳶の
声」(正宗白鳥)「福引」(久保田万太郎)「見知らぬ海
景」(中河与一)「ジャコブ」(滝井孝作)「天体嗜好
症」(稲垣足穂) 戯曲「葉桜」(岸田国士)「青桐」(広
津和郎)「大阪の宿」(水上瀧太郎)

▲坪内逍遙博士「当世書生気質」(明治文学名著全集第
一篇)として東京堂から近刊

▲中村武羅夫氏 伊豆から帰京

▲青野季吉氏 信州湯田中温泉に赴いた

▲榊原紫峯氏 此程末弟を喪つた尚ほ卅日頃出京する

▲木村莊八氏 廿日から廿五日迄「歌舞伎十八番」の個
展を李水画房で開催す

▲奥村博史氏 ラヂオ放送の爲め名古屋に赴いたが本日
帰京す

▲彫塑社第一回小品展 十九日から廿四日まで日本橋丸
善階上に開催

▲影塑社第一回彫刻小品展 九日から廿四日迄丸善で

▲第十六回庚申会 本日夜下谷池の端三善で開く幹事川
路柳虹、横川毅一郎の両氏

▲「太陽」四月号創作「夢を積む船」(今東光)「近代
的な話」(間宮茂輔)「慾の極楽」(岡田三郎)「傾いた
人格」(石浜金作)「祝盃」(大木篤夫)

▲睦月研究会 十八日夕五時から第三回を雑司谷金山森
信方にて

▲「画家と詩人」四月号「幽子閑語」(福田夕咲)「や
まめ」(伊藤弥太)「短歌雑感」(岡本文弥) 其他

▲某旧家の売立会 十七日から三日間共楽美術倶楽部の
主催で東美倶楽部に開く

▲京都派新作画展 春芳堂の主催で十九日から三日間日
本橋倶楽部で開く

▲革内会展 小堀軀音門の塾展は廿日から廿八日迄三越
で開かる

▲「文芸戦士」創刊号 鰻頭(甲子雄)育老人と尺八(倭
文二)舞台上の靈感(若男)

▲「石楠」四月号 現はれたる新傾向(菁々)法楽鈔(蝶
衣等)芭蕉の手紙(寥々)

▲「芭蕉」四月号 鳴雪翁追悼号とし芋銭、繞石、楽堂、
楽天、浅茅氏等執筆

大正十五年三月十八日

▲正宗白鳥氏 最近の感想集「白鳥隨筆集」を人文会か
ら出した

▲昇曙夢氏 新著「プロタリア文学の理論と実相」を新
潮社から近刊

▲高畠素之氏 今後建国会の仕事に没頭「局外」は廃刊

▲青野季吉氏 評論隨筆集「解放の芸術」を解放社から
近刊

▲加藤一夫氏 「ノンバアティザンリーク」「生の芸術と
変装の芸術」を「原始」四月号で発表

▲若月保治氏 数年間の「青い鳥」版權問題に関する記
録等を「劇と人間」に連載する

▲長谷川零余子氏 廿日名古屋へ立寄り渡台四月十六日
帰京の筈

▲津久井竜雄氏 明治神宮外苑の建国会本部に移転、急
進愛国運動に献身する

▲戸田海笛氏 パリのフアルギエール十四番へ移った、
春のサロン等の出品制作の外今後木彫作品の発表につ
とめる

▲相田隆太郎氏 山梨県北巨摩郡上手村に六月頃まで滞
在

▲大沢重夫氏 「こども文学史」を厚生閣から近刊

▲春陽会及光風会展 へ本日午後二時久邇宮同妃両殿下
がお成りの由

▲「演劇検察」の創刊 佐々木孝丸柳瀬正夢村山知義高
橋季暉佐藤誠也八田元夫倉若梅二郎氏等を同人として
五月創刊全部六号誌

▲新興大和絵会 第六回展を四月二日から五日迄三越で

▲「造型」第一回展 松屋で二十三日から二十九日まで

▲戯曲発表会 廿日夜新劇研究所
▲第二回湯島自由画室展 ボナール、マチス、プラマン
クの諸作を展覧
▲大阪演劇聯盟研究会 廿日夜大紙倶楽部で開く

▲日本美術協会 本日から電話下谷一九一〇に変更
▲「みづゑ」四月号 春の展覧会号とし写真の大道(柳虹)アルトドルフェル(知義) 国展評(柏亭) 松方氏コレクシヨン(三郎) 春陽展評(義謙) 大正十五年の春(恒友)

▲「俳諧雑誌」四月号 句(虚子) 俳画の説(癖三醉) 水のおもてに就いて(万太郎)等

大正十五年三月十九日

▲「改造」四月号 創作「痴情」(志賀直哉)「帰りを待つ人々」(池谷信三郎)「苔」(中条百合子)「赤い靈魂」(倉田百三)「高天ヶ原」(宇野浩二)「俳句会」(竜井孝作)「たのむ」(里見淳)「叔母の再婚」(池田忠一)「折靴」(徳田秋声)「戦国父子」(菊池寛)「ある物語」(武者小路実篤)

▲「文芸春秋」四月特別号 創作「城崎を憶ふ」(泉鏡花)「手袋」(室生犀星)「つつましき祝宴」(中河与一)「彼女の誓文」(有島生馬)「冬の風鈴」(牧野信一)「第四短編集」(川端康成)「武蔵とト伝」(長与善郎)「出世」(佐々木茂索)「相合傘」(里見淳)「金」(近松秋江)「定評」(久米正雄)「途上」(正宗白鳥)懸賞小説「須磨寺附近」(山本周五郎)外に随筆数十篇
▲白鳥省吾氏 市外高田町雑司ヶ谷亀原六十一に転居、尚ほ詩集「野茨の道」を大地社から近刊
▲西宮藤朝氏 新訳「哲学入門」(ベルグソン訳)を平凡社近刊

▲臼田亜浪氏 伊豆古奈温泉白石館に約一ヶ月滞在静養する

▲赤城泰舒氏 市外代々木北山谷一八五へ転居

▲額田六福氏 十七日修善寺から帰京

▲石丸梧平氏 「人生創造」四月号を「人生問答号」として執筆

▲渡辺渡氏 「近代詩歌」の編輯を辞任、新に月刊雑誌「太平洋詩人」を創刊

▲水野義正氏 洋画個展を廿一日から廿五日まで松坂屋四階にて開催

▲同人社句会 二十日午後五時半から赤坂見附清水谷公園にて

▲「雲雀」創刊 井上好澄、田中幸雄両氏により詩雑誌「雲雀」を長崎村三〇二一太田方から創刊

▲「みづゑ」春鳥会 電小石川四九一七に変更

▲「惑星の会」 第二号編輯会を二十五日午後六時京都帝大楽友会館に開催

▲土を慕ふものの会 廿日夜第六回例会を開く

▲「青年文壇」四月号 みちのく紀行(蝶介) 他人の魂と生きる男の話(ゴルキー) 蠢動(進) 或る午後の彼等(全雄) 本音の文学(清三郎) 大衆文学断片語(敏郎) 鴉と今昔(東吉)

▲「サバト」四月号 ポオル・モオランの近作「たつたこの地球だけでは」(堀口大学訳)をのす

大正十五年三月二十日

▲「中央公論」四月特別号 創作「最初の泊」(里見淳)「逆日立つ」(佐々木茂索)「母の秘密」(宇野浩二)戯曲「出鱈目」(武者小路実篤)「花束」(水上瀧太郎)「海岸にて」(葛西善蔵)「プラトニッククラブ」(志賀直哉)「松吉の立場」(犬養健) 戯曲「通り雨」(久保田万太郎)「或売笑婦と少年」(広津和郎) 戯曲「根管充填」(長谷川如是閑)「過ぎゆく日」(徳田秋声) 戯曲「巢父懐に疑ふ」(佐藤春夫)

▲「不同調」四月特大号 創作「稀に会ふ人」(谷崎精二)「三十而立」(鈴木彦次郎)「墓地」(戸川貞雄)「霜夜」(川崎長太郎)「ある女の人の死」(滝井孝作)「ある夫婦の場合」(高田保)「十五歳の秋」(吉屋信子)「女角力」(今東光)「赤い月」(新井紀二)「悪戯」(岡田三郎)「新小説」四月特輯号 「ある男の手記」(千家元麿)「彼と鼻眼鏡」(尾崎士郎) 戯曲「先生抹殺」(秋田雨雀) 他に「明治大正文芸運動大観」号として二十数名執筆

▲小山内薫氏 新訳「ピツパが踊る」(ハウプトマン作)を原始社から近刊

▲橋本閑雪氏 愛息節哉、正躬の両君が四月一日の箱崎丸で渡仏する尚ほ氏の著「閑雪随筆」は茗溪会から良書推薦をされた

▲堀口大学氏 風邪で引こもり中

▲川端竜子氏 廿五日一家を挙て修善寺へ赴き四月三日帰京する

▲中西伊之助氏 安部磯雄、水野広徳氏等と共に四国地方講演旅行中来月一日帰京

○三月十七日 「雑司谷」は「雑司ヶ谷」の誤り
○三月十八日 「プロタリア文学の理論と実相」は「無産階級文学の理論と実相」で刊行された
○三月十九日 「竜井孝作」は「滝井孝作」の誤り
○三月十九日 「ベルグソン訳」は「ベルグソン作」の誤りか
○三月二十日 「逆日立つ」は「逆目立つ」で掲載された
○三月二十日 「プラトニッククラブ」は「プラトニック・ラヴ」で掲載された
○三月二十日 「巢父懐に疑ふ」は「巢父懐に食ふ」で掲載された

▲「大衆」四月号 堺利彦、大山郁夫、藤森成吉、加藤勘中氏等の論文随筆を掲載

▲「上方趣味」春の巻 「紀の海」(成瀬無極)「中村宗十郎」(岡田翠雨)「越路太夫の放漫生活」(和紫園)その他

▲日仏芸術社の陳列替 新たに到着したゴーギャン、ドングン、オットマン、ロチロン、メンシユ、サバグ、ギゼーなどを展覧明日その陳列替をする

▲「東方公論」四月号 「祇園夜桜」(生田蝶介)「原始的なる要求」(小川未明)「高杉晋作の最期」(萩原新生)「桜の篝火」(荻原井泉水)「劇と文学との断想」(楠田敏郎)「探偵文芸」(近■延)

大正十五年三月二十四日

▲「演劇映画」四月号 脚本「茂林寺の狸」(池田大伍)「戦塵」(田中総一郎)その他小山内、長田秀雄、秋田、吉井、山岸氏等執筆

▲江口渙氏 一昨日大阪へ赴いた

▲小宮山明敏氏 二十五日から月末まで岡山県金川町草生に帰省

▲横堀角次郎氏 本郷森川町一宮脇太平館内に転居

▲高群逸枝氏 新著「恋愛創生」を神田万生閣から近刊

▲立木延平氏歓迎歌会 本日午後五時から市外角筈常春社に開催

▲「テアトル」四月号 戯曲「牝鷄」(金子洋文)「江間冠者の妻」(今東光)その他随筆数氏

▲「演劇研究」一週年記念号 は「新喜劇研究号」として吉茂、只一、延雄、衡吉、又彦、孝一郎、三好、松哉、寛、義博、貞一、寛定、孝、清太郎、融吉、佐一

郎、士行、繁敏、大伍等執筆

▲「淡柿」四月号 「鶴の行衛、俳諧茶飯語、鶯俳話」(東洋城)其他

▲「月曜」四月号から恵風館から離れて府下上落合 四二其社から刊行

▲「劇場」四月号 「創作家の小説」(本田)「アペイ座見物」(長沼)「信念の勝利」(鈴木)戯曲「二百十六の揺籃」(ロビンソン)

▲「日光」四月号 「古風俳諧鈔」(白秋)「芭蕉の妾」(羅月)「雪と野菜」(夕暮)「村莊雜筆」(善麿)「短歌」千樞、庄亮、純、東村、次郎、梨郷、翠子、白秋、夕暮、善麿等

▲「日仏芸術」四月号 「今春の仏展」(黒田鵬心)「絵画に於ける雅味」(川路柳虹)「郷土画家シャルロオ」(荒城秀夫)「ヴァロトンとザーク」(石井柏亭)「ラブラートの芸術」(ヴオドワイエ)「大阪の錦絵について」(仲田勝之助)其他

大正十五年三月二十五日

▲「演劇新潮」創刊号 戯曲論(国士、京太、吉蔵、次郎)随筆(有三、淳)合評「心中宵庚申」(伊原、池田、久保田、岡田、三宅、川尻 研究と批評(白鳥、鬼太郎、青々園)月々の感想(寛)脚本「雷鳴」(真澄)「男達ばかり」(大伍)「大名」(栄一郎)「盛遠」(薫)

▲「文芸」四月号創刊 武石氏統記(足穂)或る皮肉(清三郎)開化聖人の戒め(今日出海)島の画家(大鹿卓)海賊(今東光)芸術の本質に就いて(佐藤春夫)

▲「文芸市場」四月号創作 客(宮地)危険な拾得物(前田河)緑の芽(俊郎)頬(金子)色と形(締子)火の用心(北

明)等尚ほ附録として全国同人雑誌及同人の住所録をのせる

▲千葉亀雄氏 宇治山田市教育会主催の講演会に臨むべく廿六日西下

▲川路柳虹氏 国展の用務で近く京阪へ赴く

▲尾崎士郎氏 宇野千代氏と共に山口県の郷里に帰省中、四月初帰京の予定

▲池谷信三郎氏 リベデイスキーの「一週間」シシユコフの「オグリイゾウオオの村芝居」を翻訳単行本として改造社から近刊

▲川島理一郎氏 本日国展の用務を帯びて下阪

▲菅原寛氏 戯曲集「幻の舞踏」を彩雲堂から近刊

▲鈴木隆氏 沼津から大官御殿場へ写生旅行中

▲第一回「文庫会」 廿七日一時上野韻松亭と変更

▲日本美術協会 第七十回展は彫塑及工芸品を陳列廿七日から四月十一日迄開催

▲陽炎会 千家元麿、広瀬操吉、宮島丈二氏等で詩人俳句会を起し機関誌「陽炎」を近く創刊

▲さつき会 弥生句座を廿六日夜上野花山亭で

▲「講談倶楽部」五月号 歴史小説「恋をする武士」(今東光)探偵小説「三つの証拠」(小酒井不木)をのせる

▲「劇」四月創刊号 道(豊岡)マクロプーロスの秘密(大関等

▲「葡萄園」四月号 自殺者(蔵原)猫(加藤)日英同盟破棄(久野)ネロの死(湯浅)

大正十五年三月二十六日

▲岸田劉生氏 神奈川県鎌倉一四二二に転居

▲長田幹彦氏 湯ヶ原に滞在中

○三月二十三日 「探偵文芸」は「探偵小説に就いて」、「近■延」は「進藤進」か
○三月二十四日 「吉茂」、「松哉」、「繁敏」は、それぞれ「中村吉蔵」、「馬場哲哉」、「河竹重俊」の誤り

▲加藤朝鳥氏 市外玉川村瀬田一一七一に転居
▲松山敏氏 名を悦三と改めた尚ほ詩集「若き日の夢」を金星堂から出版した

▲宮本正晴氏 新訳「ロマン・ロオラン物語、ジャン・クリストフ」を文教書院より出版

▲日本大学劇研究会 廿七日午後五時半から三崎町大ホール及蒲田脚本朗読会を開催、岡本綺堂氏作「小栗栖の長兵衛」シュニツレル作「別れの晚餐」金子洋文作「神は微笑み給ふ」有島武郎作「御柱」武者小路実篤作「張男の最後の日」秋田雨雀作「モーゼの殺人」を朗読

▲「演劇改造」創刊 林和、津村京村氏等編輯で四月一日四谷永住町其社から創刊

大正十五年三月二十七日

▲「早稲田文学」四月号 「明治文学研究号」とし露伴、鳶魚、孤蝶、臨風、天外、左文、月郊、九華、芳次郎、青峯氏等執筆

▲近松秋江氏 熱海より四月二日の「二日会」に出席の筈

▲萩原井泉水氏 京都から上京

▲斉藤与里氏 廿九日に出京する

▲原久一郎氏 敵父兵作氏は廿三日死去した

▲外交読本要綱懸賞募集 外交時報社にて国際常識の普及涵養のため右募集す

▲「演劇改造」創刊号 戯曲「鼠小僧旅枕」(二幕林和)「心願の国」(一幕永田衝吉)を掲載

▲小椋繁治氏個展 本日から二十九日迄下谷黒門学校に於て油画並に水彩画六十七点を展覧

▲太田稠夫氏 大衆娯楽雑誌「吾楽」を創刊経営する

▲大埜勇次氏 小石川区初音町九奥田へ転居

▲「炬火」再刊 川路柳虹氏主宰で四月から再刊
▲「新興大和絵会」 来月二日から七日まで三越七階ギヤラリーに開催

▲詩雑誌「太陽花」創刊号 旧「詩」「詩の泉」「向日葵」の同人により四月号創刊発行所は静岡県賀茂郡稻梓村堀ノ内鈴木武男方

▲「枯野」四月号 「鳴雪翁追悼号」とし真鍋嘉一郎、大谷繞石、室積恒春、長谷川零余子、芥川龍之介、生方敏郎、佐藤惣之助、津村京村氏等執筆

▲「座右宝」展覧会 志賀直哉氏選編の画集及高原写真等を廿六日から卅日まで丸善で見せる

▲藤井浩祐氏 夫人武子さんの敵父銀座のパン屋木村儀太郎氏は廿三日死去廿七日に葬儀を営む

大正十五年三月二十八日

▲「文芸時代」四月号 創作「冷か」(菅忠雄)「某氏の話」(伊藤貴鷹)「孤客」(中河与一)「裏長屋」(南幸夫)評論「空の美と芸術について」(稲垣足穂)

▲藤沢清造氏 「根津権現裏」を聚芳閣から近刊

▲金子洋文氏 大阪方面旅行中月末帰京

▲沢村胡夷氏 三条会顧問兼評議員となつた

▲角田竹夫氏 紀元社と共に麻布区富士見町十二に転居

▲「香蘭」四月号 「連作論」(白秋)「歌評」(千櫻)創作「木質宿」(山田清三郎)「神と仏」(黒島伝治)「靴」(延藤謙)

▲通信省俳句会 本日午後から青山原宿明治神宮講に於て開催

▲「新短歌協会」 四月三日午後三時から駿河台カフェブラジルに開催

▲「戯曲研究」四月号 「震ふる夜」(升本)「公曉禪師」(川口昇)「武士の子」(島村)「人と人間との間」(吉田)

▲「美の国」四月号 京都特輯号とする
▲「探偵趣味」四月号 「雑文一束」(平林)「事実と小説」(小酒井)「アットランドム」(小島)「甲虫」(稲垣)

▲「いがみの権太」(土師)「アマチュアデテクチブ」(井汲)「女性と探偵趣味」(水木)「病中偶感と薄毛の弁」(江戸川)「スパイ」(前田河)創作「災難」(横溝)「東方見聞」(城昌幸)

▲「青杉」四月号 「短歌」(草哀、竜雄、夕咲、留吉、文弥)其他

▲「芝居と文芸」四月号 戯曲「希望」(佐竹守一郎)「小さき不幸」(星野暁)「街をわたる鐘の音」(池谷信三郎)その他

▲「詩歌時代」創刊号 「野口米次郎論」(萩原朔太郎)「短詩形のよしあし」(窪田空穂)を四月創刊号によせ

▲「原始」四月号 創作「施療病院」(本間)「二等車」(武三)「思ひ出の日」(金重)

▲「中央美術」四月号 シヤール・デュフレヌ(ヴィルドラック)ヴィルドラック論(内藤濯、八十、川島、岩田豊雄、掬汀)春の美術展(柳虹、荘八、清方、重義、孝則、千久馬)ヴェロツキョと十五世紀の芸術(西村貞)雪村の出生地(宅治)

▲雑誌消息 ◆乾杯群社は福島県平町へ移る ◆「浅草の片隅から」は塚本篤夫君の個人詩集として四月創刊

大正十五年三月二十九日

▲志賀直哉氏 丸善に於て座右宝展開催のため上京中のところ帰洛した

▲富士辰馬氏 新訳「赤裸々な年」(ピリニヤク原著)氏の承諾を得たもの訳了新潮社から近刊

▲「星流」四月特別号 創作堤寒三、田内長太郎、西英

作、杉原勝一、森輝、高辻秀宣、外に評論隨筆吉田絃二郎、服部嘉香、岡田三郎、大泉黒石、坂本義雄、下村千秋、武藤直治氏等

▲「辻馬車」四月号 創作「雀の媒酌」(川端康成)「椿」(崎山猷逸)隨筆、南幸夫、原奎一郎某他数氏
▲近代劇場 来月一日から「大江山」(三幕、永見徳太郎)「火二題」(須藤鐘一)「街頭小劇」(長谷部孝)を近代劇場に上演

大正十五年三月三十日

▲正宗白鳥氏 新著「正宗白鳥傑作集」第四巻を新潮社から近刊

▲久保田万太郎氏 京阪方面旅行

▲宇野浩二氏 昨日大阪に赴いた

▲三木羅風氏 新著詩集「神と人」(修道院詩集第二編)を新潮社から近刊

▲岸田国士氏 評論集「我等の劇場」を新潮社から近刊

▲邦枝完二氏 里見氏の『多情仏心』を脚色中

▲「朝」 四月号を休刊する

▲「現代文芸」四月号 「啄木研究号」として江馬修、西村陽吉その他の諸氏執筆

▲「新劇時代」 後藤竹志、鈴木源二両氏によつて四月創刊

▲藤井清水、権藤円立両氏 関西より移居せし両氏歓迎会は音楽家諸氏発企で一日午後五時渋谷道玄坂上高砂で開催

▲「社会学雑誌」四月特別号 「米国社会学号」として発行

▲「ウーマンカレント」 四月号は三周年記念号とし、若山喜志子、中河幹子、山田邦子、丹野てい子、佐々木ふさ、生田花世、長谷川かな女、岡本かの子、関鑑

子、岡田初代、鷹野つぎ、網野菊、三宅やす子の諸氏執筆

▲「講談倶楽部」 五月号 「埋れ強弓」(長谷川伸)「難波橋の血煙」(清見陸郎)「堀川夜討」(猪狩嘯谷)

▲「潮流」 四月号 「飢餓」(小川亮)「路傍の草」(黒島伝治)「丘の家の記憶」(竜田秀吉)「南京虫」(土屋長村)「春寒」(三井虎雄)「狂へる家」(壺井繁治)その他

大正十五年三月三十一日

▲北原白秋氏 童謡集「二軍虹」をアルスから近刊

▲加藤武雄氏 一兩日中に雪見物に越後に赴く

▲賀川豊彦氏 新著「神の歴史を彫む人々」を警醒社から近刊

▲長田幹彦氏 一寸帰京したが再び湯ヶ原に赴いた

▲木村莊八氏 感想集「芸苑往來」を中央美術社から近刊

▲高倉輝氏 長編小説「坂」を同じくアルスから近刊

▲神原泰氏 新著「造型の誕生」を中央美術社から近刊

▲木村徳三氏 「生物と生物進化」を警醒社から近刊

▲エスペラント講習 四月二日午後七時から火金向ふ一ヶ月間麴町元園町二の九エスペラント研究社に開講女子部は三日午後一時から毎土曜二ヶ月間同所にて

▲郵楽会 主催第二回郵便切手展は四月一日から四日迄牛込見附通信博物館で開催

▲「情熱時代」 第四輯より旧同人解散小石川区戸崎町六五鈴木方に転社

▲訂正 一昨日の晴雨計の姓名赤坂とあるは赤松の誤り

大正十五年四月一日

▲和田三造氏 辻永、太田三郎、松山省三、斉藤五百枝、

大隅為三、森岡隆三氏等と修善寺に休養中の平岡権八郎氏を見舞つた

▲森田恒友氏 山本鼎、小杉未醒氏等と春陽会展開催の爲め本日名古屋へ

▲川端康成氏 上京麻布宮村町二六七大橋鎮方に寓居する

▲遅塚麗水氏 上海に在り半歳の予定で南北支那漫遊中

▲江部鴨村氏 宗教思想雑誌「自然浄土」を創刊した

▲高野武郎氏 父君栄次郎氏廿八日死去

▲佐藤耶蘇基氏 府下十条町一〇八〇靈信庵に転居

▲渋谷俳句会 四日午前十時から芝公園増上寺前協調会館に開催

▲「兜虫」発行所 当分本郷弓町三ノ廿六に決定尚は発行五月一日に延期す

▲誕生句会 三日夕方より上野桜木町卅九鈴木方に開催

▲蒼原会山旅 二日午後十時四十分飯田町駅に集合日川屋根より伝説の大菩薩峠への旅行を試みる

▲武郎会事務所 叢文閣から市外荻窪六四八今野賢三氏方に移した尚ほ三日午後五時から牛込俱樂部で武郎会第八次例会を開く

大正十五年四月二日

▲島崎藤村氏 十日頃木曾に旅行する

▲徳田秋声氏 小説集「恋愛放浪」を聚芳閣から近刊

▲武者小路実篤氏 先月末日向の新しき村に帰つたが本月十四五日頃帰寧

▲ピリニヤク氏 昨日歌舞伎座の初日を見物した

▲西条八十氏 新著「巴里小曲集」を神田交蘭社から近刊

▲金子洋文氏 関西から帰京した

▲近藤宅治氏 チブスで藏前明治病院へ入院中

▲宮森麻太郎氏 反訳「ダイヤモンド」(マंकハウス作)を「演芸週報」五月号に寄せた

▲葛西鎮夫氏 青森より三十日に帰京

▲志田十三氏 病気のため神田駿河台杏雲堂病院七号室に入院

▲田宮謙次郎氏 「日本新同」を退社した

▲大心地敏夫氏 戯曲「甲斐の祐天」(田中介二 志劇加 入出演のための)を執筆

▲コペンハーゲン陶器展 日仏芸術社主催で十一日から十六日迄約四百点を以て三越で開く

▲「クラルテ」第五輯 「ソネット」(平沢哲夫)「師走」(小林多喜二)「親と子の間」(島田正策)その他発行所
▲新しき村奈良支部移転 奈良帝室博物館横飛鳥園内に事務所を移した

大正十五年四月三日

▲野口米次郎氏 五十年誕辰を記念する講演会は詩人並に「三田文学」主催で五月十五日三田慶応講堂に開催と決定

▲芥川龍之介氏 新著童話集「三つの宝」を改造社から近刊

▲佐藤春夫氏 短篇集「窓を開く」を改造社から近刊

▲加藤一夫氏 長篇小説「岐路に立ちて」を大阪屋号書店から近刊

▲前田河広一郎氏 本月帰京の予定であつたが夫人病氣のため当分千葉県大原に滞在する

▲村岡典嗣氏 新著「キリシタン文学抄」を改造社から近刊

▲野田半三氏 四日まで神田美土代町東京基督教青年会館内に滞欧記念個人展を開催

▲岡村二一氏 市外日暮里谷中本九五九に転居

▲日本民謡詩人会 下谷区入谷町三一七に移転した。尚ほ五月号は藤沢衛彦氏の「民謡詩壇への要望」野口雨情氏の「今後の民謡普及運動」その他を掲載

▲松の実句会 本日午後六時から京王線北沢停留所前田村肉店階上にて

▲短歌雑誌「自然」復活記念歌会 本日午後一時から上野公園松韻亭に於て

大正十五年四月四日

▲崇文院 小室翠雲氏を主幹とする同院では九日夜崇文叢書及校訂本等を華族会館で展覧す

▲小宮豊隆氏 五日頃上京す

▲長与善郎氏 短篇集「菜種園」を岩波書店から近刊

▲野上弥生子氏 短篇集「人間創造」を岩波書店から近刊

▲松岡譲氏 「法城を護る人々」下巻出版の爲め上京中

▲川端竜子氏 昨日修善寺から帰京した

▲尾竹々坡氏 昨夜発京都方面へ旅行中

▲渡辺素舟氏 編大正十五年度図案工芸年鑑を図案芸術社から出版した同年鑑には津田信夫氏のフランス万国工芸博に於ける日本並に世界工芸の趨勢論が載る

▲平木二六氏 市外田端四〇九菊屋旅館へ転居

▲兼重晴香氏 四日から八日迄青山会館で個展を開く

▲林幹演劇研究所 創立、事務所は東大久保二

大正十五年四月五日 なし

大正十五年四月六日

▲里見弴氏 久米正雄氏と共に十日頃関西に旅行する

▲故木下利玄氏 その「全歌集」を岩波書店から近刊

▲故久野久子氏追悼音楽会 十八日午後二時から上野東京音楽学校に於て一週年追悼音楽会開催出演者は武岡鶴代、山田菊江、矢田部頸吉、伊達三郎、榊原直、鳥居維子の諸氏、入場料、一、二、五円、収益を以つて故人の碑を造ると

▲南部修太郎氏 病後静養のため当分銚子町曉鶏館に転地する

▲藤井真澄氏 牛込区余丁町百一番地(余丁町下車安田邸向つて左隣)に転居

▲山田清三郎氏 文芸戦線社と共に市外雑司ヶ谷金山三三九に移転した(文芸春秋社左隣)

▲石川寅治氏 高知に帰省中だが廿日頃帰京する

▲中勘助氏 長篇小説「銀の匙」を岩波書店から近刊

▲林久男氏「ウイヘルム・マイスター」(下)を翻訳独逸文学叢書五編として岩波書店から近刊

▲小宮山明敏氏 二日帰京した

▲信濃美術協会展 十、十一の両日早稲田大隈会館に開催

▲松波治郎氏 横浜市根岸町西芝生九一八に新婚新居を構えた尚「少女新聞」の顧問となつた

▲黄橙俳句大会 八日午後五時半牛込神楽坂俱樂部に於て開催

▲「自然児」第一号 「峡江」(吉田一穂)「憂鬱」(大水歌笛)「二人に贈る」(比露思)「未来を待つもの」(平田千代吉)北海道其社から創刊

大正十五年四月七日

▲三条会第一回展 十三、四、五の三日間東京美術倶楽部で開く

▲吉江喬松氏 伊豆方面旅行中

▲久保田万太郎氏 大阪から帰つた

▲北沢新次郎氏 今月中旬頃『文化批評家としてのアプトン・シンクレア』を弘文堂から出版する

▲古荘国雄氏 科学小説「四百年後」(地球滅亡の巻)を小石川光材堂から近刊

▲畑耕一氏 随筆集「ラクダのコブ」を大阪屋号書店から近刊

▲斉藤隆三氏 新夫人此程長女を挙げた

▲東京国際倶楽部第五回例会 十一日午後一時半から小日向台町新渡戸稲造氏の庭園に開催

▲イブセン会 十日午後四時から巢鴨中村吉蔵氏宅に開催

▲楽音の夕べ 十日夜八時雑誌「文化生活」の満五年記念音楽会としてお茶の水文化アパートメントで開催永井郁子、海老名道子、前田磯、植田仁氏等が出演する

▲日本書道作振会 会頭大木伯の追善法会を十六日二時増上寺で営み記念書画展を開催す

▲文芸春秋ドラマリーグ 九日夜築地小劇場に「役の行者」を再観劇する

大正十五年四月八日

▲「厨川白村集」 全六巻は此程完了したが、その第一期事業を終った時図らずも博士の遺稿中別に「最近英詩概論」と題する約三百枚のほど完成した未発表ものを発見したので目下編輯同人の手で整理して印刷中だ、出来の暁は「白村集補遺」として白村集全巻購読者に限り実費をもつて頒つ尚ほ「文学論索引」も印刷され補遺購読者には無代で頒つと

▲幸田露伴博士 阿部次郎氏小宮豊隆氏外数氏の共著「続芭蕉俳句研究」を岩波書店から近刊

▲岡本綺堂氏 昨春来神経衰弱で執筆休止中だったが更に向ふ一年間劇作以外の執筆は一切中止する由

▲近松秋江氏 昨日熱海に帰った

▲安田靫彦氏 病氣漸く快方に向つた

▲池上秀敏氏 本日八王子から帰京する

▲玉舎春輝氏 京都東三本木丸太町上ル山紫水明処へ転居した

▲梶原貫五氏 市外上渋谷二三へ転居

▲野村吉哉氏 牛込区若松町六六国弘館へ転居

▲大沢重夫氏 松本市外岡田に転居

▲戯曲発表会 四月例会は十日夜新劇研究所で

▲変態心理談話会 十一日一時から御殿山日本精神医学会で開催中村古峽氏の「二重人格の女の実験」北野博美氏の「若返法体験談」等である

▲帝都名家新作展 石川占春堂が七日から九日迄東美俱樂部で開催中

▲京美園染織品陳列会 第三回は十二日迄高島屋で開催中

▲芥川龍之介氏 痔の爲めに臥床静養中

▲太田水穂氏 「芭蕉俳諧の根本問題」を岩波書店から近刊

▲並樹秋人氏 「桃の花磯山かげに咲く見えていま満ちくらしもりあがる浪」(九十九里にて)

▲チサト大竹氏 十二日午前十一時横浜発白山丸で渡欧

▲稲村宗政氏 「漫画漫文」十数点を青山南町二ノ六宅野田夫方で本日まで展覧

▲関根秀雄氏 「仏蘭西文学史序説」(フルンチエー原作)を翻訳岩波書店から近刊

▲「新青年」五月号 犠牲者(平林初之輔)桐の花(小酒井

不木)五階の窓(江戸川乱歩)銀三十枚(国枝史郎)ある朝(川田功)の外新進作家の創作探偵小説十篇をのせる

▲日本労働学院 新組織の下に十二日から夜学を開講する

▲現代作家色紙短冊展 九、十、十一の三日間白山上南天堂で開催上は明治、大正の新詩歌運動の記念館「詩歌堂」及び附属文庫の建築資金に充てる由

▲十日会例会 十日夜駿河台下五車堂で

▲「奈良文化」 四月号を第二上代文化号として発行

▲黒色青年聯盟 十五日機関誌「黒旋風」を渋谷代官山二七其社から創刊す

▲中外美術協会 山本豊年氏の四月用短冊を頒つ

▲アルス近刊五種 ◆竹友藻風氏「文学論」◆北原白秋氏の絵入童謡集「二重虹」◆高倉輝氏の長編小説「阪」◆山岸光宣氏の「ゲーテ伝」◆矢部友衛氏の「アルキベンコ」

大正十五年四月十日

▲「女性」五月号創作 戯曲「ソロモン王」(佐藤春夫)

▲「霧夜」(豊島与志雄)「大阪の宿」(水上瀧太郎)「文科大学挿話」(川端康成)「名づけ」(細田民樹)「雪」(ピリニヤク)

▲ピリニヤク氏 新興大和絵会を三越に昇曙夢氏と共に見物したが展覧会より特に遠藤教三氏の作品一点を同氏に贈呈した

▲幸田露伴博士 短冊会を麹町中央美術協会主催で催す

▲近松秋江氏 老母死亡の報に接し岡山県に帰省

▲松居松翁氏 「大楠公」執筆のため河内国三田市油屋方に滞在中

▲吉田絃二郎氏 長編小説「高原」を新潮社から近刊尚

氏は月末郷里長崎へ帰る

▲藤井達吉氏 鳴子温泉に転地静養中

▲尾竹々坡氏 太子展出品として「農家の花」を製作中

尚ほ今秋の帝展には大作「物々交換」を描く

▲永瀬義郎氏 大森入新井町不入斗大森幼稚園内にアトリエを借り転居

▲石川啄木追悼会 十三日午後六時から市外中渋谷二三

四家庭購買組合で開催 發起人土岐善鷹、金田一京助、

江馬修その他諸氏

▲新井紀一氏 母堂しづ子さんは去る八日死去した告別式は本日正午同氏自宅にて

▲鴛田英太郎氏 創作座第二回試演「狂人になるまで」(吉田絃二郎作)を演出する

▲第二回美術と教育の会 本日午後六時から東京美術学校倶楽部階上に開催

▲文芸大講演会 本日午後六時神田駿河台主婦之友楼上で日本芸術協会主催で秋田雨雀、加藤一夫、新居格、

松本淳三、本荘可宗その他数氏

大正十五年四月十一日

▲三浦周行博士 新著「大日本史」(全十二巻)愈々完成

その第一巻が改造社から近刊される

▲北原白秋氏 十三日小田原から上京する

▲近藤浩一路氏 昨日九里四郎氏と共に出京帝国ホテルに投宿

▲黒田鵬心氏 腹を病み引籠中

▲武野藤介氏 去る四日々比谷大神宮で結婚式を挙げた。尚ほ「文芸日本」社の編輯部を辞した

▲幡谷正雄氏 新訳「イヴンヂェリン」(ロンフェロオ作)を新潮社から近刊

▲尾池義雄氏 論文「封建制度に於る支配階級の没落行

程」(二百枚)を「解放」五月号に寄稿した

▲五十公野清一氏 新著「農民」は当局の忌諱にふれカツトの儘発売した

▲「草の実」短歌会 本日青梅線日向和田方面へ吟行雨天の節は午後一時から小石川駕籠町大和村倶楽部にて歌会を催す

▲「詩歌時代」創刊号「俳句格調の本義」(山崎樂堂)「すももさらし」(佐藤惣之助)「由るところ無き話」(島田

青峯)「深い感情の表現について」(橋田東声) 其他

大正十五年四月十二日

▲河田嗣郎博士 十四日上京す

▲三木羅風氏 新著「トラビスト歌集」をアルスから近刊

▲近藤浩一路氏 十三日夜発腸病の爲め帰洛、尚ほ氏は太子展へ紙本「白雲無尽」を出品する

▲茨木猪之吉氏 月初めからアルプス山麓にて写生中

▲マヴォ大聯盟建設のため肖像画会を設め基金募集をする、申込所本郷西片町十の六号「文芸社」宛

▲「松の実会」俳句会 十八日午前九時から北沢村田村肉店楼上に於いて

▲テアトロ・ジャズマニア 同人宇留河泰昌、アリーア・

デ・カストロ嬢、マイケル・E、オルトマン、青山広

吉の諸氏によつて去る十日創立事務所京橋区西紺屋町

宇留河方

▲好画堂新作展 第三回を十三日から十五日迄東美倶楽部で開催

大正十五年四月十三日

▲「隨筆」再創刊 六月号から沢田謙、水守亀之助、藤

井悌、真山青果の四氏同人で牛込矢来三人文会から刊

行

▲藤森秀夫氏 富山高専学校へ転任高山市総曲輪二六三

ノ二六に移転

▲塩田三良氏 夫人この程長女を出産

▲五十公野清一氏 長篇「農民」を市外長崎村草原社から出版

▲尾崎放哉氏 死去した荻原井泉水、内島北朗両氏によつて小豆島に埋葬

▲無名座パンフレット 第四号は三年追憶号として十五日発行

▲懐風会例会 十五日三時上野三宜亭で開会

▲金子光晴氏 森三千代氏と共に南支旅行中

▲中野正人 市内小石川区小日向台町二ノ二一平和館内に転居

▲「源氏全講会」 国学院大学内同会は廿四日午後二時から開講

▲高麗李朝古陶売立会 十三日から三日間共楽美術倶楽部主催で東美倶楽部に開かれる

大正十五年四月十四日

▲文芸家協会は会則により故渡辺露亭氏遺族梅彦氏へ五百円母堂を喪つた近松秋江、新井紀一両氏へ各壹百円を贈つた

▲「婦人公論」五月号 創作「大道無門」(里見淳)「兄弟」(田山花袋)「忘れぬ男」(前田河広一郎)「金蓮花」

(細田民樹)「金欄戦」(白井喬二)

▲青野季吉氏 新著「解放の芸術」を解放群書第二篇として解放社から発行した

▲川路柳虹氏 一両日中に京都に行く

▲大関五郎氏 新著民謡集「煙草のけむり」出版を記念

するため十五日午後五時半から友人数氏発起で湯島切通し上江知勝に同会開催

▲大宅壮一氏 昨夜一週間位の予定で関西へ行つた

▲水郷洋画研究所 土浦町新治病院内に設立した講師永瀬義郎氏

▲外国刺繍学会第一回作品展 十七日から廿一日まで日本橋通三丁目丸善本社階上に於て開催

▲蒼原会四月写生会 十八日午前九時から中渋谷鉢山西郷邸附近にて

▲「少女文芸」五月号 「兄の結婚」(水木京太)「泣虫」(小山内薫)「其時々の感想」(小川未明)

▲草土吟社第六回句会 十七日午後五時から日比谷公園正門前愛国生命娯楽室にて

大正十五年四月十五日

▲ヴキルドラツク氏歓迎講演会 三田文学会及青山会館の主催で十六日夕六時半同会館大ホールで開会、「現代フランス文学序説」(井汲清治)「政治と文学」(町田梓楼)訳詩朗読(西条八十)「ミシエルオオクレエルの思出」(内藤濯)「ヴキルドラツク氏の戯曲演出について」(小山内薫)「ユナニミスム」(ポール・クロードル)

「ポール・ヴェルレーヌの生涯と作品」(シャルル・ヴキルドラツク)がある

▲ヴキルドラツク氏 本日三時川島理一郎氏の案内で高輪車町の浅井倍之助氏の新築和風住宅を見学に行く

▲朝倉文夫氏 等身大の裸女像「微笑」を太子展に出品すべく製作中

▲中川紀元氏 三十号の「裸婦」と「静物」を太子展に出品す

▲池部鈞氏 五十号の「庭球」を太子展に出す

▲関口隆嗣氏 太子展出品「裸婦」(廿号)を完成

▲里見弴氏短編集 「をんな」を聚芳閣から近刊

▲邦枝完二氏 戯曲集「青春」を宝文館から近刊

▲内藤辰雄氏 十八日松本市しなの新聞社講堂で長講文芸講演会を開く、尚ほ同市に「労働者の家」を建設、労働者ばかりで書く「労働文化」を発行する

▲「椽」四月号 休刊した

▲山田清三郎氏 創作集「幽霊読者」を解放社から近刊

▲「幻の舞踏」の会 菅原寛氏の戯曲集出版記念会は廿日夕六時共楽軒で開催

▲絵更紗展 元井三門里氏及画塾の同展は十七日から三日間保険協会で開催

▲日本美術協会 十八日から廿七日迄第七十一回展を開き書及篆刻を蒐集陳列す

▲「解放」五月特輯号創作 おれはさびしい(水守)労働者のゐない船(葉山)旧友(新井)スパイの写真屋(北山哲平)巡礼(シュービン作原田健生訳)

▲「主潮」一周年記念号 は五月号として発行

大正十五年四月十六日

▲「改造」五月号創作欄 「歓迎されぬ男」(正宗白鳥)「赤い靈魂」(倉田百三)「この三つのもの」(佐藤春夫)

「楠正成」(松居松翁)「金を借りに来た男」(谷崎潤一郎)外に「島木赤彦臨終記」(斎藤茂吉)

▲近松秋江氏 母堂の葬儀を了へ十三日再び熱海に赴いた

▲石川寅治氏 土佐柏島に在り月末帰京す

▲真野紀太郎氏 廿日台湾から帰京の筈

▲浜田広介氏 童話集「飛んで来い」を牛込叢文閣から近刊

▲蒼原会 人体研究例会は十九日から廿四日迄毎夜上中里十一多々羅アトリエで開く

▲成人教育深川講座 本日午後六時半から深川平久町第二商工学校に於て伊部貞吉、田辺尚雄両氏講演

▲京舞妓芸術印画頒布会 土田麦僊氏装幀及び選後藤元彦氏撮影で京都四条新町西くろふね画房内から発売

▲麻生義氏 新著「無産階級芸術論」(ボグダノフ原作)を牛込矢来人文会から出版

▲春仙似顔集 第九回分左団次の「鳴神」を日吉町渡辺版画店から出した

▲同人雑誌「同志」 市外中野町打越一九五五畝台社から六月創刊

▲同人社句会 十七日午後五時から赤坂見附内清水谷公園皆香園に開催

▲創作社黒土会吟行 十八日午前十一時上野発下総北小金駅附近吟行

▲山田応水氏写真展 十七日から来月十七日まで銀座明治製菓階上に開催

▲「ネオ・ドナチ・コメット」 ヘルクレス嬢の電気分解(宮川) 未完成の演劇へのプロットニブ(直治)恋探(公麿)等

▲樺島猶一氏 新著「ペン画の書き方」を弘文社から近刊

▲「文芸戦線」五月号 本荘可宗、茂森唯士、村松正俊、伊福部隆輝、淳三、潤、格、孝丸、敬止其他

▲「歌舞伎絵版画集」 岡本一平、木村莊八、河野通勢三氏の芝居絵を六月から向ふ一年間頒布として予約募集す申込所歌舞伎座内同会

○四月十一日 「イヴァンチエリン」は「イヴァンチエリン」として刊行された
○四月十四日 「里見淳」は「里見淳」の誤り

▲『詩篇時代』本月号 碎珠破片(川路柳虹)『試作六篇』(能村潔) その他

大正十五年四月十七日

- ▲ヴィルドラツク氏将来画展 ヴィ氏蒐集の仏国十九世紀名画二十余点と現代巨匠の新作三十余点を柏亭、理一郎、掬汀、柳虹氏等委員となり廿五日から来月五日まで日本橋北横町日米信託ビルに特別展覧会を催す
- ▲「太陽」五月号創作 「河畔初夏」(下村千秋)「時田先生」(片岡鉄兵)「一個の存在」(加宮貴一)「寂寥」(長谷川浩三)「道中」(大木雄三)
- ▲菊池寛氏 病氣静養のため当分原稿執筆を中止する
- ▲三宅克己氏 夫人と共に去る十三日神戸に帰着
- ▲伊藤時雄氏 赤坂区檜町六乃木俱樂部に転居
- ▲小宮山明敏氏 本月から早稲田高等学院文学部講師となつた
- ▲小西正太郎氏 廿三日から廿八迄三越で滞欧個展を開く
- ▲大森光彦氏 芸術陶器展を十八日迄大森望翠楼ホテルで開催中
- ▲小森忍氏 陶雅堂小品展を廿一日から廿七日迄三越で開く
- ▲高梨直郎氏 新越方面旅行中
- ▲紅玉堂金剛社近刊物 新訳「山上憶良歌集」(尾上篤二郎)「蓮月尼の人及歌」(伴時彦)「祇園まつり」(高橋新吉)「ボオ全集」(伊藤喬信)「浮かれおしどり」(佐藤惣之助)校訂「徒然草」等を近刊
- ▲人生創造座談会 十八日午後一時から芝三田南寺町三三南台寺に開催、石丸梧平、折口信夫、大月隆伏、江部鴨村、松原寛氏等出席
- ▲「常春」五月号 「歌壇合評」(道氣、泰輔、秋人)「長

塚節と女性」(横瀬夜雨)その他尚ほ並樹秋人氏は「新興文芸」と関係を絶つた

▲香蘭短歌会 十八日午前から浮間ヶ原に於て開催

▲「解放」五月号 「日本最初のメーデー」(堺利彦)「豊多摩監獄よりメーデー挙行に際して」(レーニン追想)(佐野学)掲載

▲詩雑誌「愛誦」創刊 西条八十、生田春月、吉屋信子、水谷まさる諸氏によつて本月二十日創刊号発行

▲森陶華園 万古焼陳列会を廿日から廿六日迄三越で開く

▲吾楽主催工芸品展 廿一日から廿七日迄三越で開催

▲新古書画入札会 共楽美術俱樂部が催主で廿日から三日間東美俱樂部に開催す

▲「ホトトギス」五月号 「近詠百句」(虚子)「入院」(竜男)「作品難航」(誓子)「江の島紀行」(虚子)その他

大正十五年四月十八日

▲「中央公論」五月号 「歴史」(室生犀星)「蔭ひなた」(牧野信一)「疲れた人々」(宮島資夫)「一票」(長与善郎)他に論文随筆、高柳賢三、平林初之助、太田正孝、山本勝太郎、大山郁夫、吉野作造氏等、「文芸時評」(正宗白鳥)氏等

▲「新小説」五月号 創作「妄執」(稻垣足穂)「絵のない絵本」(林房雄)「たはむれの会話」(中村正常)「影の如くに」(新井紀二)「群犬」(藤森成吉)その他

▲ピリニヤツク氏 来る廿一日日本の田園趣味体験のため日露芸術協会委員茂森唯士、金田常三郎両氏と共に信州方面に旅行する尚ほ去る四月五日モスクワに開かれた「日露の夕べ」に本協会からの祝電に対し全露対外文化連絡協会長カーメネフ夫人から懇篤な返電があつた、尚ほ本日午前十一時新宿駅二等待合室に集合日露芸術家協会員と小金井にピクニックをする

▲長谷川如是閑氏 講演のため信州に赴いたが二十日帰京する

▲北原白秋氏 上京中だったが一昨日小田原へ帰つた、尚ほ近く同地を引払ひ東京住居をする

▲関口次郎氏 戯曲「母親」出版を記念するため菊池、長田両氏幹事で十九日午後六時万世橋瓢亭に開催

▲九里四郎氏 昨朝発小田原に立寄つて帰洛した

▲石井林響氏 千葉県大網町に滞在画室を新築中

▲鶴田五郎氏 市外長崎村地藏堂九七一へ再転居

▲長谷川零余子 一ヶ月台湾旅行を終へ近日中に帰京する句あり「雪残るシルビヤ椰子の先に見ゆ」

▲日本プロレタリア文芸聯盟本部 市外杉並町天沼六八水野正次方へ移転新に部内に講演、美術漫画、映画部、音楽部等を設置する

▲「文芸行動」五月号 感想「折にふれて」(島崎藤村)創作「おつうの養父」(中村星湖)を掲載する

大正十五年四月十九日

▲故岩野泡鳴氏七週年 徳田、田山、その他の数氏発企で五月九日記念晩餐会を催す

▲荒木十畝氏 名古屋に在り廿日帰京する

▲中条百合子氏 廿日頃から九州方面に旅行をする

▲佐藤清氏 欧州留学中の氏は来月十六日頃横浜着で帰朝する

▲今東光氏 新訳「小泉八雲隨筆集」を人文会から近刊

▲萩原恭次郎氏 本郷区駒込千駄木町六十五に転居

▲「白山文学」五月号 「詩二篇その他」(中川省三)「愛染」(中西勝)「純情」(加納元信)「破れルバーシユカ」(杉本捷雄)

▲「人生創造」五月号 「哲学観」「戯曲」「千手観音」
(石丸梧平)
▲「郊外」五月号 「翡翠の歎き」(柳田国男)「おどり
三昧」(高原慶三)「女敵討について」(前田春三)「遊
女一もと」(岡野知十)「嘘について」(杉村楚人冠)
▲「みづる」五月号 「浮世絵版画の芸術的価値」(田中
喜作)「北極光のジアル」(里見勝蔵)「アンリ、ルッ
ソオの詩」(税所篤二)「新美術館建築所感」(黒田鵬心)
「他山石」(木村荘八)

大正十五年四月二十日

▲「文芸春秋」五月号 創作「彼と丁子」(武者小路実篤)
「新星」(石浜金作)「春」(豊島与志雄)「弱虫」(小杉
天外)「質物」(徳田秋声)「大阪にて」(久保田万太郎)
「密輸入」(田島準子)
▲故武田仰天子氏 去る十四日午前四時半死去告別式は
廿一日午後一時から二時まで下谷中坂町臨江寺に於
て告別式を行ふ

▲倉田百三氏 編輯の求道体本位の思想文芸雑誌「生活
者」は五月創刊能成、市子、狄嶺諸氏執筆
▲吉井勇氏 府下淀橋角筈四二〇(電四谷二一五〇)に
転居

▲室生犀星氏 来月初め金沢へ帰省する
▲犬養健氏 家族と共に沼津に滞在中だが近く帰京
▲板垣守正氏 長篇映画物語「神僧伝」を「サンデー毎
日」誌上に連載中

▲湯浅真生氏 郷里福岡に滞在中
▲安岡黒村氏 神奈川県足柄下郡根府川小学校に移転
▲「早稲田文学」五月号 「坪内逍遙論」筑水、吉蔵、
不倒、繁俊、真次、毅、融吉、弘毅、豊、利彦、天溪、

松翁、清作氏等執筆
▲「探偵趣味」五月号 創作「人を呪はば」(国枝史郎)
「記憶術」(甲賀三郎)「警察医」(正木不如丘)「黒い
ジョン」(長谷川伸)「Aさんの失敗」(川田功)
▲能と講演の会 来月四日午後三時半から九段靖国神社
能楽堂に開催講演、坂本雪鳥、戸川秋骨、山崎楽堂、
野々村蘆舟外に素謡能、仕舞、狂言等
▲「解放」五月号 附録として「社会運動団体現勢年鑑」
を附す外に芦田安一、新居格、津田光造、加藤昇氏等
執筆

大正十五年四月二十一日

▲「三田文学」五月号 戯曲「牧場の花嫁」(小山内薫訳)
「物質の門」(久野豊彦)戯曲「俺達の石仏」(勝本清
一郎)「親五人」(原奎一郎)「憂愁の眼鏡」(加宮貴一)
戯曲「春の花」(水木京太)「月二回づゝ」(小島政二郎)
等

▲シャルル・ヴィルドラック氏 二十二日午後二時半か
ら築地小劇場に来場同氏作「ミシエルオオクレル」の
稽古に立会ふ

▲室伏高信氏 電大森三八一を架設した

▲北吟吉氏 千葉佐貫に滞在原稿執筆

▲「馬車」五号 多田不二、平沢貞二郎、富田充、阿部
哲氏等執筆

▲「文芸行動」五月号 藤村、伸、喬松、源吉、絃二郎、
精二、季吉、御風、武雄、春月、鳶魚、薫、成吉その
他数氏執筆

▲「新進詩人」五月号 「短詩と短唱」(汪洋)「燕尾服
の囚人」(五郎)「春の挿話」(則比吉氏等尚ほ詩集「月
と樹木」(高木秀吉氏著)を新進詩人社から近刊

▲土を慕ふ者の会 二十四日夕六時から三田四国町竹内
方に開催中西伊之助氏 出席談話をする

▲「日露芸術」第九号 「ピリニヤーク」号とし、曙夢、
秋雨、ピリニヤーク、敬止、シードロフ氏等執筆

▲「戯曲研究」五月号 戯曲「南無阿弥陀仏」(川村花菱)
「父を討つ」(津村京村)

▲内山天壇氏 報知新聞美術記者をやめて横浜支局長と
なる

▲南江二郎氏 北越方面旅行中

▲伊藤成一氏 油絵画会 十ヶ月払ひとして文壇、画壇諸
氏後援の下に画会開催、申込所市外大久保四八九増井
方

▲木彫彫金展 岩井美術店が催主で五月十日から廿日迄
岡崎市で開く

▲「青年文壇」五月号 「デス・マスク」(新井紀一)「村
の朝」(戸川貞吉)「化ける」(井東憲)「父と子の心」
(モルナア)その他

▲辰巳利文氏 二十五日まで杉並町阿佐ヶ谷六〇五新田
方に滞在

大正十五年四月二十二日

▲「不同調」五月号 創作 蛍光板(小剣)春の外套(綿
貫)歎楽(武川)立台庵の秋(下村千秋)空虚(浅原
六朗)

▲「文芸戦線」五月号 孟子の追放(直治)子供頌歌(山
田定平)どっちへ行くか(嘉樹)メーデーをうたふ(諸
家)ピリニヤーク氏の印象(諸家)

▲「生活者」創刊号 地涌のすがた(狄嶺)旅心(能成)
認識の問題(証信)断想(市子)自分に言ふ言葉(敏
彦)善悪を横に載る道(倉田百三)

○四月二十二日 「立台庵の秋」は「五合庵の秋」として掲載された

▲「社会科学」五月号 封建制度の崩潰、中央集権的国

家出現の時代に於ける貨幣学説(高橋誠一郎) 経済史

の研究(福本和夫) 江戸に於ける売笑制度と非人

制度(上林豊明) シュタムラーの無政府主義論(堀真

琴)等

▲小室翠雲氏 信州小諸に滞在中

▲藤井浩祐氏 「浴女」と「涌泉」の二作を太子展に出

した

▲真野紀太郎氏 五月十日から一週間三越で台湾写生個

展を開く

▲速水御舟氏 「昆虫二題」(葉蔭魔手、粧蛾舞戯)を太

子展に出品

▲国枝史郎氏 悪性風邪で臥床中

▲長野草風氏 「深秋霽月」を太子展に出品

▲小林柯白氏 「群山曉色」を太子展に出品

▲石川幸三朗氏 京都からの帰途下野芳賀に立寄つた

▲真道黎明氏 「白き寂寥」を太子展に出品

▲本莊可宗氏 全訳バクニンの「神と国家」アテネ書

院から出版

▲原白光氏 流感から急性肺炎併発目下面会謝絶自宅療

養中

▲竹内越村氏 新潟へ帰省

▲ヴィルドラツク氏 将来画展 廿五日から五月五日迄日

米ビルで開く

▲日本美術協会展贈賞 書の部では飯塚春莊、飯島総葉、

近藤竹蔭、榊原浩逸の四氏に銅賞を今井松堂氏外六十

一名に褒状を篆刻では関野香雲氏に銅賞を岩崎黄麟氏

外十二名に褒状を贈る件昨日発表

▲白山卓吉氏 十八日松本を去つて出京する

▲星野潤一氏 肋膜炎で臥床中

▲本郷絵画研究所 廿五日夜講演会を開き「仏像の頭髮

がある

▲札幌詩学協会 札幌市北二条西十丁目に移居

▲創作ポスター展覧会 五月一日から三越に開催

▲ジェーバン立休図案社 高等工業学校卒業生亀井武夫

氏外三名によつて四谷区南伊賀町六十二に創設

▲「原始」五月号創作 桜散る(一夫) 彼(進藤) 墳墓

清浄(河東)等

▲「劇と人間」五月号戯曲 滝口と横笛(若月) 銀貨(社

行雄) ノアの子達(景山)

▲「文芸道」五月号 露伴、草平、小波、天溪、杏村、

秋江、柳虹、武雄、その他の諸氏執筆

▲「劇場」五月号 戯曲「六十に近く」(鈴木善太郎)「キ

ツス」(モルナア)「歌劇サアカス楽劇」(本田満津二)

▲「詩神」五月号 福田正夫、金子夫晴、その他

▲「驢馬」五月特別号 高村光太郎、福士幸次郎、千家

元麿、百田宗治、佐藤惣之助、芥川龍之介、佐藤春夫、

稲垣足穂、萩原朔太郎、室生犀星氏等執筆

▲「近代詩歌」五月号 犀星、宗治、正夫、惣之助、元

鷹、省吾、悟堂、八郎その他

▲「青巻」創刊号 創作「卵」(今福竜文)「或陰影」(田

中直一)「首」(小泉久雄)「雑景三種」(井上徳二郎)

▲「人間群」編輯所と共に市外高円寺一六富士見館に

移動

▲「文芸行動」 創作「おつうの養父」(中村星湖)「一

夜」(湯浅真生)「怨霊」(下村千秋)

▲佐藤紅緑氏 廿四日午後七時から大阪演劇聯盟主催で

南船場「大紙俱樂部」に於て「現下の演劇に就て」の

講演をする

▲青野季吉氏 市外代々木西山谷二三五に移転

▲杉本清氏 第一歌集「処女林」を正文堂から近刊

▲本田庄太郎氏個展 郷里浜松市に於て廿四、五、六の

三日間、法月歌客氏の短歌と合作で「子供と女に寄す

る」八十点の半折作品展を開催

▲「文芸春秋」ドラマ・リーグ 本日午後六時から築地

小劇場に「ホオゼ」を観劇する

▲創作金工芸展 香取正彦、村越三千森、信田不洋三氏

の同展は本日より廿七日まで日本橋丸善楼上に開催

▲「生活者」創刊号 詩歌欄、宮崎丈二、田内静三、山

田邦子、小西弓次郎氏等執筆

▲「虚無思想」五月号 「生きていること」(片岡鉄兵)「巨

石」(鈴木彦次郎)「道化もの」(水守亀之助)「一場面」

(室生犀星)

▲「辻馬車」五月号創作欄 「明日」(藤沢恒夫)「かつ

みさん少しばかり」(武田麟太郎)「X化された鼻」(中

河与一)「ルビツチェの悪戯」(小野勇)「日光騎手」(稲

垣足穂)「女と子供」(崎山正毅)「第二のレニン」(久

野豊彦)

大正十五年四月二十四日

▲「演劇新潮」五月号 戯曲「殉死」(水木京太)「署長

さんはお人好し」(岸田国士訳)「小判拾遺」(真山青

果)外に「役の行者に就て」(坪内逍遙)「創作的力其

他」(武者小路実篤)随筆、雨雀、鬼太郎、彈、有三、

万太郎、周太郎「合評会」「役の行者」(関口、北村、

宇野、岡、高田、藤沢、菊池、三宅)

▲小杉未醒氏 日光に旅行中

▲野口雨情氏 山形民報社の招聘により昨日より一週間

の予定で山形県各地で講演をする

▲伊藤松雄氏 病後静養のため長野県上諏訪町に移転但し執筆は継続する

▲訂正 中河与一氏の「幽居独語」中の「彼はいゝ奴だ、家をいつも開放しておく」の「彼」は「死」の誤植

大正十五年四月二十五日

▲北原白秋氏 今月中に小田原を引上げ下谷区谷中天王寺町十八番地（朝倉文夫氏隣り）に転住す

▲三木羅風氏 新著論文集「神への道」をアイデア書院から近刊

▲広津和郎氏 大森望翠楼に移る

▲津田青楓氏 京都市岡崎法勝寺町に転居

▲白井喬二氏 府下中野町下町四〇六七（西武線電車にて宝仙寺下車）に転居

▲橋田東声氏 講演のため長岡市に赴いた

▲藤田健次氏 市外高田町雑司ヶ谷五七〇中島方に転居

▲太田水穂氏 新著「芭蕉俳諧の根本問題」を岩波書店から近刊

▲故土屋残星氏 遺稿「裾野の雲」は藤村、水穂両氏共論で潮音社から近刊

▲卜部幾太郎氏 新著「植村先生の面影」（第二篇）をアルパ社から近刊

▲葛原繭氏 敵父病氣見舞に岡山に帰省中であつたが帰京した

▲「演劇映画」五月号 戯曲「賊」（小山内薫）「剣」（金子洋文）シナリオ「地藏教由来」（直木三十五）「差配の親切」（関口次郎）随筆、武者小路、久保田、正宗、佐藤、小山内、吉井外二十数氏

○四月二十二日 「金子夫晴」は「金子光晴」の誤り
○四月二十五日 「葛原繭氏」は「葛原茂氏」の誤り

大正十五年四月二十六日 なし

大正十五年四月二十七日

▲早大独仏文学講演会 来月一日午後一時早稲田第一高等学院に於て『仏蘭西文学の特質』（吉江喬松）『表現主義の思想的考察』（山岸光宣）『題未定』（舟木重信）『仏蘭西文壇の印象』（西条八十）の講演がある

▲佐々木味津三氏 去る二十五日敵父浩一氏慶応病院で死去昨日遺骨携へ帰郷した

▲藤森成吉氏 処女戯曲「磔茂左衛門」（五幕六場）を「新潮」五月号に発表する

▲宮島資夫氏 長篇小説「金」を神田万生閣から近刊

▲加宮貴一氏 月末から南海方面に旅行する

▲直木三十五氏 一昨日奈良に帰つた

▲宇野四郎氏 五月帝劇上演「狸寺の深夜」の舞台監督をする

▲井上康文氏 散文詩集「華麗な十字街」を草原社から出版予約募集中

▲尾崎久弥氏 新著「洒落本集成」（第一巻）「軟派漫筆」

「江戸時代小説脚本浄瑠璃随筆翻刻物索引」「大首美人浮世絵集」を春陽堂から近刊

▲湯浅真生氏 この程帰京市外板橋町中丸三〇六に仮寓

▲「苦楽」六月号 戯曲「お化師匠」（岡本綺堂作）尚ほ同誌七月号に佐藤春夫氏は支那花柳小説を執筆の為下阪中だが月末帰京する

▲エスペラント普及講演会 来月一日午後二時から本郷三丁目帝大仏教会館に開催

▲「文党」五月号 創作金子洋文、今東光、間宮茂輔、萩原野呂、太田詰一、富田常雄

▲佐藤均氏 （不遇の洋画家）数日前谷中清水町の自宅で死去した

▲河野義博氏 戯曲「故郷」（二幕）は宝塚国民座に來月八日から二十二日まで上演

▲神戸雄一氏 本郷区元町二の六六望雪館に転居

▲三浦彦太郎氏 印度、シヤム、安南、支那の古陶器其他美術工芸品百点を二十八日まで日本橋三共ビル六階に陳列する

▲文人画展覧会 五月一日から七日迄三越で

▲郷土会第十回展 五月一日から七日迄三越で

大正十五年四月二十八日

▲アルフレッド・フシエ氏 印度より帰仏の途次来朝せる氏は本日午後一時から慶応義塾の講により同塾内三田演説館に於て仏教美術に関する講演を行ふ因に氏は仏教図像学の大家で巴里大学教授である

▲ピリニヤーク氏夫妻歓迎会 来月二日午後六時から三共ビル七階エンプレスで文壇諸氏発企で自由な歓談会を催す

▲シャルル・ヴィルドラック氏 来月下旬シベリヤ経由で帰仏する予定だ

▲藤沢衛彦氏 小石川区小日向台町一ノ二十八に転居

▲比屋根安光氏 新著「世界宗教史」を三共出版社から近刊

▲「文芸街道」 麹町区永田町二ノ卅一に移転

▲「香蘭」五月号 「幽居余楽」（白秋）「短歌」（白秋、翠子、忠、広浩その他）
▲「洪柿」五月号 「俳諧難行道」（東洋城）その他
▲「自然科学」第二号 桑田、瀨瀬、西村、脇水、駒井

中野、牧野、早坂氏等執事

▲演劇雑誌「劇術」創刊 五月五日芝区新幸町明治書房から発行

▲「心の花」五月号 「百代草」(新村出)「詠集跋」

(野口米次郎)「竹柏漫筆」(佐々木信綱)その他

▲「層雲」五月号 「春寒くして」(京都より)「荻原井

泉水)「虚空実相」(尾崎放哉)他二篇

▲「思想」五月号 「漂泊」(谷川徹三)「原始仏教の根本的立場」(和辻哲郎)「民謡として見たるソロモンの歌」(土居光知)「ウプサラの半日一夜」(安倍能成)「上下関係論」(小松堅太郎)「天文学上より見たる支那上代の文化」(小松堅太郎)その他

▲一九二六年詩人協会 平井、南、亀井、桑野、佐藤、伊藤氏等によつて新潟市に創立、合同詩集第一篇「胡祿亜」を六月出版

▲「戯曲研究」五月号 「南無弥阿陀仏」(花菱)「李白と杜甫」(三二)「火つけ」(平民)「父を討つ」(京村)

「その後」(吉田)「玄蕃役者」(川口)「五月雨」(榎本)

「仇討免許状」(島村)その他

▲佐藤隆三氏 本年七月は故有島武郎氏三周年相当に付遺墨編纂目下蒐集中

▲「生命」五月号 創作「三人」(中村白葉)「枯木」(坪

田譲治)「白鳥の歌」(米川正夫訳)「トロイラスとクレシダ」(木村莊太訳)「暮の一日」(井口正名)「三代の影」(福田久造)「屋根裏編輯局」(宮原晃一郎)

▲新燈社洋画展 二十九日まで三越東館六階に開催

▲「秀才文芸」創刊号 新居格、若山喜志子、高群逸枝、武野藤介、井上康文、その他執筆尚ほ編輯は島田芳文氏

▲「光」五月号 「近詠」(善鷹、葩夕、幾忠、薫園)「隨筆感想」(青楓、その他)「萩之家歌集新講」(薫園)

▲歌麿展覧会 日本浮世絵協会主催で歌麿没後百廿一年

記念展を諸家愛蔵の遺作百点を以て廿六日から五日間鳩居堂で開催

▲「演劇検察」五月創刊号 「劇評」(雨雀、梅二郎、正夢、誠也、源三)「評論」(孝丸、是也、賢三)

大正十五年四月二十九日

▲プロ小説最近傑作選集 中西、宮島、諏訪、秋田、前田河、加藤、小川、今野、新居、藤森、安成、守田、吉田、山内、山川、飯田、犬田、小堀、渡部、松本、青手の廿一氏の一篇宛を輯め解放社から近刊

▲「新青年」七月増大号 手を下さざる殺人(正木不如丘)従弟の死(甲賀三郎)山岡老人の犯罪(岡田三郎)印象(小酒井不木)失はれた書籍(水守亀之助)懸賞当選作「窓」等

▲「文芸時代」五月号創作 伯耆(三宅幾三郎)虚(加宮貴一)裏長屋(南幸夫)弟の結婚(鈴木彦次郎)結婚破壊時代(石浜金作)

▲長谷川天溪氏 七十枚の長論文「ハムレットの精神分析」を七月増大号の「新青年」に寄す

▲中村吉蔵氏 関西へ旅行中來月早々帰京の予定

▲千葉亀雄氏 一昨日名古屋から帰京

▲三宅克己氏 せい子夫人と共に神奈川県真鶴に卜居

▲山本鼎氏 岐阜から帰京五月一日信州へ向ふ

▲木村莊八氏 五月一日から五日迄平水画房で画稿展覧会を開く

▲吉野臥城氏逝く 廿七日夕四時死去三十日午後三時長崎村地藏堂三九八の自宅で告別式を営む

▲石田幸太郎氏 京都上京区小山下総町三五へ転居

▲川端康成氏 森ヶ崎から帰る

▲小寺融吉氏 上旬から旅行中だったが兩三日帰京

▲宇野四郎氏 五月帝劇の「狸寺」を舞台監督する旨記

載したは二宮行雄氏の誤りに附訂正す

▲本方昌氏 染色品の製作に耽つてゐる尚近く「俳句旅日記」を出版

▲石野隆氏 「アトリエ」五月号から「素描と東洋古名画」を連載、目下児童美術団開設準備中

▲白山卓吉氏 大井町水神下二〇八三へ転居

▲大島総一氏 栃木県河内郡富岡屋村下町へ転居

▲川勝堅一氏 去る十五日ロンドンからパリに向ひ六月末アメリカへ渡る

▲東西百七十大家新作展 五月一日から五日迄数寄屋橋畔共楽美術倶楽部で開催

▲句会二つ 渋柿句会は五月九日協同会館で◇早大句会三十日夜大隈会館で

▲「詩歌時代」創刊号 長詩(犀星、光太郎、元麿等)俳句(碧梧桐、鬼城等)短歌(千櫨、牧水、夕暮等)童民謡(白秋、雨情等)散文詩(柳虹等)評論(朔太郎、空穂等)

▲「解放」五月特輯号 創作「俺は淋しい」(水守亀之助)

「労働者のゐない船」(葉山嘉樹)「旧友」(新井紀一)「スパイの写真屋」(北山哲平)「シュービン作巡礼」(原田健生)

▲「虚無思想」五月特別号 「現代の諸景相」(村松正俊)

「科学と抽象」(石原純)「ニイチエの詩」(生田長江)

「無性格論」(稲垣足穂)

▲日本プロレタリア文芸聯盟第一回会報 近刊、尚ほ演劇部、佐々木孝丸、映画部、今野賢三、講演部、水野正次、美術部、柳瀬正夢、音楽部、江馬修氏担当研究生を募集する

▲「東方公論」五月号 創作「ある事件」(楠田敏郎)「海賊船の餐宴」(綿貫六助)

▲「とねりこ」五月号 「線と陰影との一考察」(観風)

「良寛雜纂」(花束)その他

大正十五年四月三十日

▲「テアトル」五月号 戯曲「陸のつぎる処」(前田河広一郎)映画台本「無宿者」(村山知義)「春の夜」(関口)

▲「貧者」(ヴィルドラック)随筆、菊池、中村、吉田、小山内、秋田、その他

▲三木羅風氏 新著童謡集「お月さま」をアルスから近刊

▲石井鶴三氏 昨夜下阪した

▲関口次郎氏 来月九日上野東照宮神前に於て結婚式を挙げる

▲菅原寛氏 都新聞を退社

▲「潮流」五月号 創作「絶壁小品」(吉田徳次郎)「憎人幻想」(坪田譲治)「放浪断片」(山内謙吾)「焦燥」(赤城信夫)

▲万里阿劇場 農民芸術研究を目的とし英田尚梧氏演出になる劇場を岡山県英田郡栗井村英田方に創設

▲「梨」五月号 戯曲「ある日の抱一」(宮川久雄)「春月小話」(和田保)その他

▲ウーマンカレント五月号 三宅やす子、山川菊栄、山田邦子、ささきふさ、岡本かの子、創作「お光」(三宅やす子)掲載

▲音楽とフランス映画の夕べ 来月十五日午後六時報知講堂に於て仮面座主催で開催

▲「女性詩人」来月市外日暮里一〇六五吉田方友田静栄編輯で創刊

▲「秀才文壇」 島田芳文氏編輯で小石川区宮下町八其社から創刊

大正十五年五月一日

▲「三田文学」春季大講演会 本日午後一時慶応義塾大ホールに開催、久保田万太郎、勝本清一郎、水木京太、南部修太郎、井汲清治、原奎一郎、小島政二郎、水上滝太郎氏等の講演がある

▲若山牧水氏 酒毒のため客を謝し静養中

▲井東憲氏 新著「有島武郎の生涯と芸術」を日本橋弘文社から近刊

▲稲田稔氏 新著「演劇小論集」を緑葉社から近刊

▲大関柊郎氏 市内四谷区花園町九八に転居

▲川崎小虎氏 府下阿佐ヶ谷五〇六に転居

▲英美子夫人 府下長崎村北荒井五一三に転居

▲金子千春氏油絵頒布会 文壇、画壇有志発企で後援会を設置申込所市外滝之川町六七五同後援会

▲文芸入門講座 本月開講「小説」(水守)「戯曲」(藤井)「文芸批評」(伊福部)「映画」(田中)「長詩」(百田)

▲「叙事詩」(福田)「名詩評釈」(生田)「小曲」(勝田)「民謡」(大関)「童謡」(佐藤)「短歌」(金子)「口語歌」(西村)「俳句」(吉田)月一回三十銭本郷素人社發行

▲「淑女界」 六月一日から目黒聚楽社から創刊

▲「葡萄園」五月号 「都会へ帰る」(左右田)「弥吉と祭り」(熊沢)「浮浪者」(蔵原)「腹いせ」(加藤)「沈黙」(湯浅)

▲「新進文壇」創刊号 遠山陽子氏編輯田口正雄、鳴海四郎、上野義雄、高梨秋人その他数氏執筆

▲「童詩」創刊号 北原白秋、野口雨情、その他執筆

▲早大英文学会例 八日午後一時から早稲田大隈会館学生ホールに開催「精神分析学より見たるハムレット」(長谷川天溪)「劇の要業としての現実と象徴」(吉田絃二郎)

▲「東京美術雑誌倶楽部創立」 大下春子、田口掬汀、垣見泰山、北原義雄、原田春鈴、中川愛氷、芳川起、石川帛水八氏によつて創設事務所は市外西大久保二■一

▲東京俳句会 二日正午から浅草公園仁王門前伝法院に於て

▲燕巢会展 六月四日から十五日まで日本橋丸善階上に開催

▲詩雑誌「青い手」創刊 牛込区横寺町卅一日本詩学協会より創刊

▲「人間群」五月号 実篤、盛弥、浩太郎、邦太郎、光造、茂索、延造、秦氏他執筆

▲明治大学仏蘭西学会 去月二十六日から六月二十五日まで駿河台明大内同会に於て

▲「日仏芸術」五月号 仏展号として鵬心、篤二、隆徳、季雄、柏亭、ヴオドワイエ、吾郎、五郎氏等執筆

▲説文会 川合孝太郎氏を講者として五月一日午後零時半から永楽ビル安田銀行六階智恵乃輪倶楽部に開催

大正十五年五月二日

▲堀進二氏 家族と共に近日仙台から米沢へ旅行十日帰京の筈

▲川田順氏 去月末発京城、奉天、大連と満鮮を旅行廿日に帰阪す

▲尾崎士郎氏 先頃関西方面旅行を終へ帰る

▲佐藤八郎氏 新著抒情小曲集「爪色の雨」を金星堂から近刊

▲津田光造氏 池上大坊を出、信州穂高町清沢清志方にて長篇小説を執筆する

○四月二十八日 「南無弥阿陀仏」は「南無阿弥陀仏」の誤り
○五月一日 「季雄」とあるがこれは荒城季夫のことであり「季夫」の誤り

▲湯浅真生氏 市外野方町上沼袋一三〇に転居

▲「美の国」五月号 「作家とパトロン」(竹内逸)「大

仏の讃歌」(春山武松)「美術と教育との間」(石野隆)

「三条会雑感」(脇本榮之軒) その他

▲華蔓草社創設 京都に於ける陶器、色染に関係のある

伊藤信助、渡辺彦之助、河合卯之助、塚本繁、近藤悠

三、平館酋氏等によつて組織されたその第一回展を十

八日から二十三日まで銀座松屋階上に開催

▲「演劇改造」五月号 戯曲「小曲二篇」(池田大佐)「役

者の子」(清見陸郎)「扉」(津村京村)外に小山内、徳

田、金子、今その他三十余氏執筆

大正十五年五月三日

▲北吟吉氏 新著「哲学行脚」を新潮社から近刊

▲真山青果氏 新著「富岡先生」を新潮社から近刊

▲細田民樹氏 亡父七年忌のため郷里広島壬生町に帰省
中

▲関口隆嗣氏 松村巽氏と共に十五日頃出発仙台の宮城

県美術展鑑別に赴く

▲池田永治氏 本郷駒込動坂町百十二へ転居

▲黒田辰男氏 市外貫田ヶ谷太子堂一三四に転居

▲竜村平蔵氏 昨日帰洛

▲尾瀬敬止氏 新著「芸術戦線」を事業の日本社から発
行した

▲坂本石創氏 九州桜島方面旅行中

▲須山計一氏 本郷区根津権現前松翠閣に転居

▲佐藤寛氏 詩集「幻想夜曲」を日本橋紅玉堂から近刊

▲「羊歯の葉」五月号 「光に打たれ」(比企)「雨の家」

(翠太郎)「父の時計」(念素) その他

▲「仮面」第一号 「チャベック雑感」(八住)「仮面座

の使命」(黒田)「マクロポウロス家の秘法演出に就て」

(宅)

大正十五年五月四日

▲片上伸氏 吉江喬松氏等と共に十五日頃出発伊豆方面
に旅行する

▲故島木赤彦氏追弔会 本月十六日午後正一時から芝増

上寺本堂にアララギ主催で営む

▲矢部道気氏 第二歌集「瑞杉」を常春社から近刊

▲近代劇場 近日白鳥座に於て第五回公演をする

▲「野獣群」 漫談会を八日午後七時から駿河台ブラジ
ルで開催

▲「文芸戦線」五月号 安寧秩序紊乱の廉で一日其筋か
ら注意を受けた

▲エスプラント講習会 五日より以後火金の午後七時か
ら元園町二ノ九エスプラント研究会に開催

▲「新思潮」社 本郷区菊坂町十五富士見軒に移転

▲東洋美術仏像展 仏画仏器を併せ七日迄丸ビル二階で
開催中

▲博物館の特別陳列 御物聖徳太子御画像(伝阿佐太子

筆) 聖語藏経巻及法隆寺献納御物を十五日迄表慶館で
展列中

大正十五年五月五日

▲里見淳氏 志賀直哉、久米正雄両氏と共に十七日頃出
発廿日間の予定で上海に赴く

▲橋本関雪氏 上京中だつたが三日発旧東海道を自動車
で帰洛した

▲北原白秋氏 新著童謡詩集「からたちの花」を新潮社
から近刊

▲中河与一氏 創作集「氷る舞踏場」を金星堂から近刊

▲生田蝶介氏 切支丹に関する大長篇斬壕史蹟踏査のた
め長崎方面に旅行中

▲菅忠雄氏 相州逗子町新宿二一七に転居

▲橋浦泰雄氏 秋田雨雀氏、小川未明氏等後援の下、上
野広小路芋水画房にて邦再個展を開く六日より九日ま
で

▲日仏芸術社 第五回仏展の特別見会四、五の両日開催

▲「陣痛時代」五月号 「犬」(豊)「指」(和季)「悪夢」

(元矩)「道づれ」(行蔵)

▲詩話会 十五年版「日本詩集」新潮社から近刊

▲白水社 神田小川町三十電神田二七四九に移転

▲新古画即売会 百和堂の主催で五日東美俱樂部に開催

▲短歌雑誌「鴨頭草」 楠田敏郎氏監修 杉浦貴一氏編
輯で早稲田鶴巻町近代詩社から六月創刊

▲「新思潮」五月号 「薄明」(秋山)「柳」(前山)「髑
髏の館」(丸山清)「白い仮面」(丸山)「耽溺」(原)

▲石器時代遺跡見学遠足会 東京人類学会主催で九日
(雨天の際は十六日)千葉大柏村に遠足

大正十五年五月六日

▲下村観山氏 観山会一行と共に十日発京都へ赴く

▲結城素明氏 南薫造氏と共に朝鮮美術展審査の為本日
発京城へ

▲中村吉蔵氏 関西旅行中のところ此の程帰京

▲長与善郎氏 両三日中に上京東京住居となる尚ほ鎌倉
扇ヶ谷の家には中戸川吉二氏が引越す

▲野口雨情氏 童謡詩集「螢の灯台」を新潮社から近刊

▲川田順氏 京城にて「殯する新喪の国と思へども五月
真昼の日のしみらなり」

▲御木本隆三氏 市外、中渋谷七二五へ転居

▲津久井竜雄氏 「コムトの実証哲学」を実業之日本社

から近刊尚ほ氏編輯の「建国新聞」一日号は公安を素
る廉で発禁

▲岡田道一氏 夫人女兒を挙げ博子と命名

▲伊藤永之介氏 十日迄甲府百石町酒井旅館に滞在

▲高橋新吉氏 四国八幡浜へ帰省

▲内山茂松氏 横浜市神奈川青木町字台町一七六八へ転
居

▲駿台会バザー 文化学院後援のため文芸家の書画及び
生徒作品を八九両日資生堂で展列する

▲文芸漫談会 野獸群社主催で八日夜七時駿河台カフェ
ブラジル

▲句会二つ 「さつき」一周年記念句会は九日一時浅草
伝法院◇きやり川柳句会は九日五時浪花会館で開催

▲文学世界社再興 文芸出版をする外雑誌「ゴシツプ」
を創刊す

大正十五年五月七日

▲泉鏡花氏 夫人と共に修善寺温泉から帰京

▲正宗白鳥氏 創作集「白鳥傑作集」(第四巻)を新潮社
から近刊

▲石井林響氏 島渡帰京したが再び両三日中に上総へ赴
く

▲和氣律次郎氏 歐洲見学旅行を了へ帰朝した

▲関口次郎氏 市外西大久保四四に転居新家庭を持った

▲故木下利玄氏 「木下利玄全集」を岩波から近刊

▲川端康成氏 牛込区市ヶ谷左内町二六に転居

▲鈴木斐子女史 新訳「生ける過去」(レニエ著)を新潮
社から近刊

門釜煎(上司小剣)「妹」(室生犀星)

▲文化学院主催文壇画壇展 七日八日の両日銀座資生堂
に開催色紙、半切短冊等を即売して学院の維持費に充
てる

大正十五年五月八日

▲横山大観氏 大智勝観、中村岳陵の両氏を伴ひ鳴門へ
旅行中だが十日頃帰京の筈

▲里見弴氏 戯曲集「妬心」を新潮社から近刊

▲長与善郎氏 戯曲集「武蔵と十伝」を新潮社から近刊
する

▲森田恒友氏 昨夜下阪した

▲馬場孤蝶氏 二十日頃土佐から帰京

▲室伏高信氏 著作集第一「共產主義批評」を批評社か
ら近刊

▲長谷川昇氏 中川一政、石井鶴三氏と共に大阪に滞在
中

▲山本鼎氏 島渡帰京九日再び信州へ

▲堀口大学氏 風邪の為引籠中

▲正富汪洋氏 眼病療養中

大正十五年五月九日

▲長野草風氏 長谷川光孝氏を伴ひ十二日神戸発支那漫
遊をする

▲永田竜雄氏 関西旅行から十四五日頃帰京する

▲宇野千代氏 右腕を狂犬に噛まれて静養中

▲佐々木味津三氏 七日帰京した

▲西川一草亭氏 十一日から十三日迄生花会を三越で開
く

▲高山巖氏 牛込区喜久井町六十二小松館(電牛込三三

六一)転居

▲渡辺進氏 長野県小県郡神川村大屋日本農民美術研究
所内転居

▲三井光弥氏 新著「独逸文学十二講」を新潮社から近
刊

▲三好十郎氏 新訳「バイロン評伝」(ジョン・ニコル著)
を新潮社から近刊

▲雑誌「劇と評論」再刊 休刊中のところ小山内薫氏編
輯、編輯所を市外目黒三田三五田中総一郎方発行所歌
舞伎出版部とし六月一日から発行

▲伝神洞第八回展 九日から十五日迄三越で

▲訂正 一昨日関口次郎氏の転居中西大久保四四は四七
の誤植

▲慶応劇研究会 慶応に於て十三日午後一時から小沢愛
囀氏、十四日午後一時から「漫談」(久保田万太郎氏)
の講義がある

大正十五年五月十日 なし

大正十五年五月十一日

▲菊池寛氏 関西方面へ旅行中

▲長与善郎氏 市内芝区神谷町十八(仙石屋敷内)に転
居

▲堀進二氏 仙台から米沢に向ひ中尊寺方面見学中

▲斎藤与里氏 十日出京五六日滞在する

▲内藤濯氏 ヴィルドラツク氏の新作劇「ペリアル夫人」
を作者の指導を得て翻訳中

▲三木羅風氏 修道院第二詩集「神と人」並に童謡集「小
鳥の友」を新潮社から近刊

▲西条八十氏 関西旅行に赴く

▲細田源吉氏 新潟県方面旅行中のところ今日中に帰

京

▲幡谷正雄氏 新訳「イヴァン・ジェリン」(ロング・ヘロー著)を新潮社から近刊

▲富田范溪氏 名古屋を引ひ近く東京住居となる

▲鷹野つぎ夫人 長男病気のため当分信濃町慶応病院はの上二十八号室に附添として起居する

▲下田惟直氏 抒情小曲集「永遠の瞳」を交蘭社から近刊

▲発売禁止 「文芸街道」五月号は当局の忌避に触れ発売禁止さる

▲日本プロレタリア文芸連盟 英国罷業に対してデエリイヘラルド紙を通じ激励の打電をした尚ほ演劇、美術各部では街頭に又劇場に応援資金募集運動を開始した

大正十五年五月十二日

▲松崎実氏 編著「切支丹鮮血遺書」の会を十五日夕方から主婦之友社楼上で開催、発企人は鳥居、吉野両博士、三木羅風、木村毅氏等

▲岸田劉生氏 「初期肉筆浮世絵」を岩波書店から近刊

▲白井成允氏 カントの「道德哲学」を岩波書店から近刊

▲武者小路実篤氏 改版「耶穌」を新潮社から近刊

▲落谷虹児氏 サロン・ナショナルへ二十五号二点出品して入選した

▲小林量造氏 渡欧後援会展を十五、六、両日有楽町共美倶楽部に開催

▲生田春月氏 詩聖評伝集「詩魂礼讃」を新潮社から近刊

▲河野通勢氏 郷里長野へ帰省中

▲熊沢復六氏 新訳「薄幸の孤児」を原始社から近刊

▲多田文三氏 大阪市東区高麗橋五ノ二一に転居

▲「婦人公論」六月号 「大道無門」(里見淳「子を取りに」(徳田秋声)「忘れぬ男」(前田河広一郎)「恋を失ふ」(川端康成)「金欄戦」(白井喬二)

▲「草の実」 六月号は特別号として女流歌人自歌号を発行

▲一九三〇年協会 洋画家、木下孝則、小島善太郎、里見勝蔵、前田寛治四氏にて同会を設立その第一回滞欧作品展を近日中に開催

▲劇夜学生募集 小石川駕籠町新劇研究所にて第十四回男女劇夜学生募集中

▲素描社 十二日から十六日まで銀座松屋呉服店七階に開催

▲「創造文芸」同人会 本日夕六時小石川水道端東郷館で開催

▲「青色の室」第三回詩展覧会 十五日から早大裏カフェー松原で

▲「解放」六月号 全誌女流執筆特輯号とし、市子、逸枝、菊枝、むめお、つぎ、伊都子、君子、真琴、やす子、千代子、花世、郁子、幹子、百合その他数十氏

大正十五年五月十三日

▲岡田三郎助氏 廿日発東北へ旅行する

▲石井柏亭氏 (二科会事務所) 電話下谷六二〇三に変更

▲故中村彝氏遺稿 「芸術の無限感」は岩波から近刊

▲小川未明氏 「未明選集」完成を機として今後専ら童話を書くこと

▲加藤武雄氏 長篇小説「愛の道」を新潮社から近刊

▲生田蝶介氏 温泉ヶ岳有明ホテルに滞在

▲岩谷莫哀氏 水蘊社と共に本郷駒込追分町五五へ移転

▲西村二郎氏 メンデルの「遺伝法則論」を訳了新潮社

から近刊

▲金原金之助氏 ベルンシュタインの「マルクシズム批判」を訳了岩波書店から近刊

▲清水彦太郎氏 下谷区谷中天王寺町二二へ転居

▲漫画市場 昨日は神楽坂本日は神保町十四日は銀座で開催英の罷業応援資金を募集す揮毫出席者は木部、柳瀬、村山、麻生氏

▲「金」の会 宮島資夫氏の新著出版記念を十五日夜小川町常盤

▲日伊親善音楽舞踊大会 十五日夜七時日比谷音楽堂でムツソリーニ氏からのメッセージ披露式を兼ねて開演

▲日仏会館 では十五日四時半前ブレスト海軍兵学校教授リユエラン氏の講演「アヂュール海岸」がある

▲農民文芸会 十六日二時加藤武雄氏宅で例会を催す

▲改造社 十五日から当分京橋南鍋町二の一(電銀座三六八四、四五五八)に移転

▲鳥谷部陽太郎氏 新著散文詩集「愛を歌ふ」を三土社から近刊

▲小林操氏 小林綾子氏と共著で感想集「運命に従ふ者」を文芸社から近刊

▲新人紹介音楽会 十六日一時半小石川淑徳高女講堂で

▲創作社 東京黒土会歌会は十六日一時中野長谷川方で

▲「生活者」創刊号 倉田百三氏の同誌は再版を発行する

▲「ホトトギス」六月号 「鳴雪先生の追懷」(能成)「白あぢさゐ」(鍋平朝臣) 俳談会記事等

▲大正川柳編輯所 大井町五二〇四に転居

▲写真芸術作品募集 資生堂主催二十五日締切銀座資生堂内月報編輯部宛のこと

▲文芸雑誌「綜合芸術」 本月下旬創刊号を発行

▲蒼原会人体研究例会 十日から十五日多々羅アトリエで

▲詩雑誌「棕櫚の葉」 六月号から復活

大正十五年五月十四日

▲ロシア文学講演会 十五日第一早高第一教室にて「ロシヤ文学の力、特質」(小宮山明敏)「ソログロブに就て」(除村吉太郎)「ゴーゴリについて」(岡沢秀虎)「露仏文学の比較研究」(吉江喬松)

▲「太陽」六月号創作 「生の歎び」(水守亀之助)「竹内先生」(斎藤竜太郎)「藤の花咲く頃」(戸川貞雄)「踊」(和田伝)「機会を失った話」(浅原六郎)

▲逍遙選集刊行記念講演会 早稲田文学社主催、国民新聞社後援で十五日午後二時から国民講堂に開催蘇峰、辰之、筑水、吉蔵の四氏講演

▲三木羅風氏 全集的詩集「三木羅風詩集」を第一書房から刊行既著の詩集十四種を網羅して続刊する

▲高須芳次郎氏 早稲田大学に於いて連続科外講演として「明治文化史及び支那文学に就て」を十七日から月曜毎に二時間宛三回「維新三傑を中心として見たる明治史の裏面」を六時間の予定で続稿

▲武島羽衣氏 本日出発京都、名古屋に歌道講演のため赴く

▲平岡雅英氏 新訳「彼等が生活の第一年」(ピリニヤーク著)を新潮社から近刊

▲東郷青児氏 此冬頃帰るが現住所は39 Causse Daurin Paris

▲矢吹慶輝氏 「三階経」を岩波から近刊

▲黒田辰男氏 新訳「運命の歌」(ブロープ著)を新潮社から近刊

▲岡田竜夫氏 純正行動聯盟創立事務所を中野谷戸二四

○五に置いた

▲学術講和会 本日夕六時から丸の内工業倶楽部に於て「海はどうして安全に渡れるか」(米村末喜少将)講演
▲同人社東京句会 十五日午後五時半から赤坂見附内清水谷公園皆香園に開催大阪から青木月斗氏出席

大正十五年五月十五日

▲「改造」六月号創作 戯曲「犠牲」(藤森成吉)「影」(佐々木茂索)「この三つのもの」(佐藤春夫)「秋の一夜」(広津和郎)

▲佐藤春夫氏 新著「佐藤春夫戯曲集」を第一書房より近刊

▲吉井勇氏 小説集「蝶花楼全集」をプラトン社から近刊

▲千葉亀雄氏 十六日新潟市処女会主催の講演会に赴き「十字街頭に於ける日本の婦人」を講演

▲高昌素之氏 改訳「マルクス資本論」(第三巻)新潮社から近刊

▲米川正夫氏 改訳「カラマゾフ兄弟」(第三巻)新潮社から近刊

▲加藤武雄氏 木村毅、大宅壮二氏と共に廿三日新潟新発田町に講演旅行する

▲江戸川乱歩氏 熱海滞在執筆中
▲須藤鐘一氏 随筆集「神に通ずる心」を昭文堂から近刊

▲広瀬哲士氏 新訳「芸術哲学」(■訳テエヌ)大村書店から近刊

▲田島淳氏 新著「田島淳戯曲集」を第一書房から近刊

▲坂井犀水氏 会津方面を仏像撮影旅行中

▲松田康一氏 最近四年間の詩と絵を「詩集納骨塔」として青雲堂から近刊

▲石井香夢氏 新著「名劇物語」第一篇を宝文館から近刊

▲伊藤永之介氏 甲府方面旅行中

▲今野賢三氏 映画と文芸雑誌、「紅陽」を編輯する

▲三好十郎氏 六月より、詩雑誌「アクシヨン」を創刊する

▲小田秀人氏 『社会学の根本問題』を大村書店から近刊

▲「人文地理」創刊 六月一日牛込叢文閣から発行

▲とねりこ春季歌会 十六日午後一時から笹塚其社で開催

▲常春歌会 十六日午後一時から市外十二社林間店に開催

▲「枯野」六月号 「せんだんの花ちる下に」外二項(長谷川零余子)「春山賦」(秋園)等

▲「文芸道」六月号 「留置場物語」(江口渙)「馬の葬式」(前田河広一郎)「涙」(下田将美)「蕎麦練る夜」(江見水蔭)「金平糖」(田代三千穂)「階段の十分間」(須藤鐘一)

▲川柳さつきの夕 廿一日午後五時半から日本橋浪花町浪花会館に開催

▲逍遙選集出版記念講演会 既報の十五日国民新聞講堂に於ける講演会題目は「題未定」(徳富蘇峰)「明治文学と逍遙博士」(金子筑水)「読本に於ける逍遙博士の功績」(高野辰三)「逍遙博士と新悲劇」(中村吉蔵)

▲石橋俳句会 十六日午後一時から靖国神社境内洗心亭に開催

▲「演劇研究」六月号 五月号休刊中のところ六月号よ

○五月十二日 「菊枝」は山川菊栄のことであり「菊栄」の誤り
○五月十五日 「芸術哲学」はテエヌの著作であり「■訳テエヌ」は「著テエヌ」の誤りか

り続刊する

▲「詩歌時代」六月号 「流行唄と民謡」(柳田国男)「感想断片」(相馬御風)その他

▲詩世紀社 王子町三一七へ編輯部を小石川水道端町二の六四へ移す

▲大阪無名座パンフレット 第五号は須藤鐘一楠田敏郎氏等執筆

大正十五年五月十六日

▲「新小説」六月号 一幕物号として「和田の酒盛」(松居松翁)「光秀の恋」(今東光)「田園小景」(坪田譲治)

「月の出」(高田保)「春の夜の秘密」(藤井真澄)「天宝遺跡」(池田大伍)小説「二つの不幸」(上司小剣)

「南京ちやぶ」(長谷川伸)「モノグラム」(江戸川乱歩)

▲藤森成吉氏 信州方面旅行中三四日中帰る

▲河合卯之助氏 十五日上京す

▲細田源吉氏 千葉県君津郡奈良村に月末まで滞在の予定

▲楠瀬日年氏 上海へ漫遊中

▲故内藤鳴雪翁追悼句会 本日午後一時上野鶯谷伊香保に開催

▲加藤介春氏 福岡市薬院西川端十に転居

▲永尾嘉多留氏 個人展を廿日まで京橋際大日本書画協会に開催

▲日曜講演会 本日午後一時から「大罷業に対して日英両国民性の相違を思ふ」(三上参次博士)「日本文化の淵源」(高島米峯)

▲紅緑会同人展 本日から二十日まで明治製菓銀座喫茶店に開催

▲「文芸行動」六月号 「プロメエテ」(喬松)「印象と表現」(星湖)「墓」(絃二郎)その他数十氏

▲華蔓草社展 河合卯之助氏等で十八日から廿三日迄松屋で開催

大正十五年五月十七日

▲「中央公論」六月号創作 戯曲「光秀と紹巴」(正宗白鳥)「生きて居る」(谷崎精二)戯曲「伊豆の頼朝」(近松秋江)「木から下りて来い」(宇野浩二)「おみち」(久保田万太郎)

▲長谷川如是閑氏 昨夜満鉄の招聘にて浜洲方面に一ヶ月位の予定にて講演旅行に行く

▲久米正雄氏 母堂病氣のため上海行を中止した

▲加能作次郎氏 姪死去のため遺骨を送つて郷里に帰省中のところ兩三日中に帰京

▲中戸川吉二氏 既報の鎌倉町扇ヶ谷二九八(長与善郎邸跡)転居

▲日露芸術協会 本日夕ピリニヤーク氏夫妻と共に築地小劇場に「暗の力」を総見する

▲尾瀬敬止氏 六月号「文芸市場」附録として労農ロシア代表作家六人の作品を寄稿

▲中根弘氏 府下田園調布上沼部三五八に仮寓

▲伝神洞画塾同人 十七日埼玉県不動岡へ写生旅行する

▲黒木勘蔵氏 新著「元禄時代の歌舞伎劇」研究を新潮社から近刊する「文学思想研究」第三巻に寄せた

▲石原明氏 現代座試演の「楽園を出づ」(佐竹守一郎)「あふむ」(鈴木善太郎)の演出を担当す

▲古川柳研究会 二十日午後七時から牛込神楽坂俱樂部に開催

▲「牧人」五月号 当局の忌避にふれ発売禁止された

▲ラスキン講座 市民自由大学主催で廿、廿二、廿六、

卅、卅一来月二、五各日六時半から開講御木本隆三、

浦口文治、太田正孝の諸氏講演、卅日は科学博物館に

て「欧米科学博物館について」(秋保督学官の講演並に

映画)六日は御木本隆三邸でラスキン遺品並に関係文

献展覽会を開く(全講会費二円半)

▲野口雨情氏 風邪に肺炎を併発し自宅療養中だが絶対

面会謝絶重患だと

▲藤井達吉氏 奈良へ旅行中

▲佐藤清氏 十五日英国留学より帰朝大久保百人町二七九に卜居

▲下村為山氏 俳画の大家為山氏の紙本画傑作会を麴町区元園町中央美術協会で開催中希望者は葉書にて申込の事

▲川田順氏 大連旅行から近く大阪に帰る

▲石川宰三郎氏 九州方面の旅行を了へ近く帰京

▲中田信子氏 詩集「女神七柱」を紅玉堂から近刊

▲本田美禪氏 府下荏原郡駒沢町上馬九五に転居

▲岡田道一氏 関西から二十日頃帰京

▲磯部和義氏 経営の戸塚町報を譲り「都新聞」演芸部の囑託となる

▲「常春」六月号 歌集「白空木を評す」(嘉香、秋人、その他)「長塚節と女性」(横瀬夜雨)その他

▲「俳諧雑誌」 「俳画の説」(癖三醉)「草餅と蓬餅」(蒼梧)「蕪村の画趣」(迂外)「俳句」(露月)

▲詩と舞踏の会 二十三日零時半から沙翁社主催にて大森城南女学校にて川路柳虹、福田正夫、白鳥省吾その他数氏出席

▲「劇と評論」再刊一号 戯曲「ステツセル」(北村小松)「都会片影」(佐竹守一郎)「葬式」(田中総一郎)「狂人を守る三人」(北村喜八)「辻堂の春」(鴛田英太郎)

「如阜と黙阿弥」(田島淳)

▲慶応義塾理財学会 春季大講会を十八日午後零時半から三田慶應大学大ホールに開催「独乙に於ける社会学の創生」(加田哲二)「学生の社会学研究」(永井亨)「題未定」(山本悌二郎)「労農ロシアと農民」(小泉信三)「詩解体」創刊 姫路高等学校文科有志によって創刊

大正十五年五月十九日

▲「不同調」六月号創作 見えざる敵(土郎) 遠藤老人(浩二) ある対位(ふさ) 足の誘惑(辰次)「虚無思想」六月号創作 三つの退屈(如是閑) 彗星問答(足穂) 悪夢(資夫) 自我像(与二) 出帆暮日(知義)

▲倉田百三氏 「正義感と連帯の体験」と云ふ論文を「エスプラント文芸」六月号に寄す

▲津田左右吉氏 「文学思想研究」(第三卷)として「肅慎考」の研究を新潮社から近刊

▲土田麦僊氏 上京中だったが一昨日帰洛した

▲山本鼎氏 昨日名古屋へ農民美術展の為に赴いた

▲真野紀太郎氏 福島県へ旅行中

▲黒田重太郎氏 京都烏丸通り一条上ル西入へ転居

▲安成二郎氏 十八日夜竜野へ

▲樋口幽堂氏 上京下根岸守田勘弥方に一週間程滞在する

夕六時から品川駅前京浜ビル中央亭に開催

▲「劇場」六月号 「ノエル・コワアドと其性欲劇」(鈴木善太郎)「鷗」(小野金二郎)その他

▲「文芸戦線」六月号創作 「苦力頭の表情」(里村欣三)「退屈主義者」(井東憲)「開墾」(犬田)「鉄橋」(佐々木孝丸)

大正十五年五月二十一日

▲ヴィルドラック氏 廿二日午後四時半から日仏協会主催で日仏会館に於て「ヴェルレン氏の著述及生活」の講演をする

▲里見弴氏 上海行を中止した

▲田中王堂氏 論文「判断論」を近刊の「文学思想研究」第三卷に寄せた

▲柴山武矩氏 松本へ旅行中

▲十菱愛彦氏 関西地方旅行中一週間位の予定

▲古賀残星氏 市外西果鴨宮仲二二八二東谷方に転居

▲元朝書画名蹟展 本日から廿四日迄大東美術振興会主催で東京美術学校に開催廿三日一時から講演会を開く 出演者は山本悌二郎、正木直彦、中川忠須、中村不折の四氏

▲「文芸春秋」六月号 創作「嘉門と七郎右衛門」(山本有三)「子供の便り」(加能作次郎)「貴族の結婚」(横光利一)「馬券」(久米正雄)長篇「明眸有罪」(佐々木茂索)

▲「三田文学」六月号 創作「十年」戯曲「武士と町人と狼」二篇(水上瀧太郎)「純の上京」(間宮茂輔)「酸の実」(原奎一郎)戯曲「フウセツト」(ヴィルドラック作高橋邦太郎訳)「転任」(宇野四郎)その他

▲「演劇新潮」六月号 戯曲「女優宣伝業」(関口次郎)「法林寺異記」(山本周五郎)「喫煙室」(豊島与志雄)

▲ピリニヤーク氏 本日日光見物に赴いたが帰京後直ちに台湾に赴き再び帰京せざる予定

▲百田宗治氏 府下中野町上町二七五六に転居

▲生田蝶介氏 九州旅行から帰京

▲菅野泉氏 帰朝歓迎会を廿三日午後五時半万世橋みかどに開催

▲光影会 本日から二十三日まで日本橋丸善樓上に第四回写真展を開催

▲現代座試演 二十二日午後一時六時の二回万世アーケードにて「楽園を出づ」(佐竹守一郎)「鸚鵡」(鈴木善太郎)「幻想」(須藤鐘二)を上演

▲早大劇研究会特別講座 廿二日一時大隈会館で「三味線を中心とする邦楽の変遷に就て」(町田博三)

▲日本プロレタリア文芸聯盟 振替口座東京四八五七四番新設

▲「馬車」 六月号から「帆船」と改題調布下沼部七〇五其社より

▲南の会 小波、天溪、栄作、耕花氏等発企で二十一日

▲大野麦風氏 神戸御船通一の十福井方を申込所として作画を頒布する

▲川端康成氏 短篇集「感情裝飾」を金星堂から近刊

▲佐野文雄氏 新訳「マルクス弁証法研究」(ルカチ著)を叢文閣から近刊

▲慶応医学部栄誦会講演会 十九日午後三時から慶大病院外来玄関二階平面講堂にて「修道院の歴史と精神」(三木羅風)「信仰の力」(岩下壮一郎)のカトリックに関する講演がある

大正十五年五月二十日

○五月十五日 「流行歌と民謡」は「流行歌と民謡」として掲載された

○五月二十一日 「酸の実」は「酸漿の実」として掲載された

▲宮川実氏 河上肇氏厳密校訂のマルクス著「経済学批判」を叢文閣から近刊

▲坂井犀水氏 廿日夜奈良へ

▲橋爪健氏 北海道方面旅行中

▲島田芳文氏 秀芳閣出版部と共に本郷区元町二の七七ライオンハウス第三号に移転

▲岡本潤氏 小石川区表町一〇九太平洋詩人協会に当分寓居

▲文芸春秋ドラマ・リーグ 本日午後五時から築地小劇場に「闇の力」を観賞する

▲新日本劇場 二十三日四谷左門町三和会館に於て「穴」(山本有三)「無抵抗主義者」(藤井真澄)「薪緑」(小山内薫)を上演演出金杉恒弥氏

▲「DIYAN」の創刊 伊藤永之介氏等十二名の同人に山崎省三武田繁、平塚運一氏等六名の賛助同人で代々木富ヶ谷一五六八から六月発刊

▲「演劇改造」六月号 戯曲「履」(畑耕一)「心中」(伊藤松雄)「幸福とは?」(小寺融吉)「後より来る者」(小田切照)

▲「青巻」六月号 「恋を取逃す男」(井上)「影」(筒井)「草王の夢」(禹)「冬夜」(土本)「嵐」(小泉)「彼と彼女」(蘆原)「釣竿」(田中)「朱蟲贅言」(園城寺)「代価」(小峯)

▲教育談話会第百五十回記念大会 「本邦女子教育の過去及現在」(春山作樹)「自我の社会的意義と教育」(林博太郎)「教育学の現在及将来」(吉田熊次) 廿二日午後一時半から帝大工学部講堂

▲「生活者」六月号 「罪への意識」(宗悦)「めひらきそむる魂」(麻吉)「自分の知つてゐること」(実篤)「或る主人と客との対話」(善郎)「善悪を横に載る道」(百三)その他

▲「サバト」六月号 「ヴェルレエヌ詩抄」(堀口大学)

「日曜日の失策」(秀生)その他

▲国学院大学万葉集十回講座 廿五日から来月四日まで折口信夫氏担任講師として渋谷同大学内白鳥社に開講
▲霸王樹五月例会 二十三日午前八時半東中野に参集武蔵野を吟行する

大正十五年五月二十二日

▲小林古径氏 近々半月の予定で京都奈良へ赴く

▲白鳥省吾氏 大地舎を創設雑誌「地上楽園」を六月一日から創刊「叙事民謡の研究」(白鳥省吾)、「田園詩人フロスト」(清水輝吉)「フランス農民詩」(犬田卯訳)その他尚ほ大地舎第一回出版として詩集「野茨の道」(省吾著)を出版した

▲生田春月氏 伊香保温泉香月館高木方に滞在

▲板垣守正氏 戯曲「閑人」「足跡」各一幕物を週刊朝日と婦女界七月号に寄せた

▲樋口幽堂氏歓迎茶話会 廿三日午後五時から神田駿河台下五車堂に開催

▲「隨筆」創刊号 花袋、白鳥、春夫、作造、国男、磯雄、謙、亀之助外四十氏執筆

▲「文芸市場」八月号から編集一切を井東憲氏が担当編輯等の用件は府下駒沢町上民引沢五二七同氏方

▲「造型」同人 矢部友衛氏は新潟県へ、浅野孟府氏は金沢へ、岡本唐貴氏は神戸へ旅行吉原義彦氏、新潟から帰京

▲端館紫川氏 牡丹写生のため福島県須賀川町に滞在

大正十五年五月二十三日

▲横山大観氏 『自叙伝』を「中央美術」六月号より連載する

▲神近市子氏 鈴木厚氏と共に市外駒沢町上馬七二八に転居した

▲下村為山傑作会 麴町元園町中央美術協会開催中のところ好評につき三十日限り締切希望者は至急申込のこと

▲蔵田周忠氏 新着「ロダン以後」を中央美術社から近刊

▲内藤辰雄氏 六月七日頃水戸から帰京

▲「探偵趣味」六月号 創作「彼女の前身」(橋爪健)「短刀」(保篠竜緒)「桃色の封筒」(福田正夫)「彼女と彼」(川田功)「保菌者」(正木不如丘)「煙突奇談」(地味井平造)「死面」(水谷準)

▲「漫画市場」 二十日その売上収益全部をデエリイ・ヘラルドを通じて英国罷業団に送金した

▲「社会科学」六月号 「私法学に於ける人格の意義について」(広浜嘉雄)「カントに於ける弁証法」(デボーリン)その他

大正十五年五月二十四日

▲菊池寛氏 戯曲「敵討以上」を六月沢田正二郎が邦楽座に上演

▲吉江喬松氏 胃腸を害し病床にあつたが快方に向ふ

▲三木羅風氏 一昨日日出発秋田市、盛岡市、三本木、大湯方面に講演旅行する

▲辻潤氏 府下荏原大岡山一二七へ転居

▲金子洋文氏 戯曲「剣」は六月沢正によつて邦楽座に上演

▲清水輝吉氏 詩集「自画像」を主観社から発行

▲木岡英三郎氏 巴里から帰朝パイプオルガンを毎火曜日夜七時神田青年会館にて演奏する

▲乙寺与志夫氏 処女詩集「夜蘭の馬車」を池袋四紅社

から近刊

▲尾池義雄氏 新著「切支丹宗門戦の研究」を昭文堂から近刊

▲石井漢舞踊研究所 市外武蔵境研究所では十四歳以上の女子舞踊練習生を募集

▲「郊外」六月号 「お茶漬」(曼魚)「商売上手」(高橋)その他

▲「白山文学」六月号 中川、杉本、中西その他執筆

▲ラスキン講座 二十六日午後六時半から神田青年会館で浦口文治氏は「ラスキンと其芸術観」を講演

▲海港詩人倶楽部 同人一柳信二氏は詩集「樹木」を発売、山村順氏は第二詩集を、橋本実俊氏詩集「街頭の春」を近刊

▲「星流」五月号 創作「坂本、上村、浜田、西、玉手」

▲「霞堂」電下谷四三八九番開通

▲「街」五月号 玉井、寺嶋、中山、田畑、岸本、宇野氏等執筆

▲「新使命」六月号 清瀬一郎、相馬由也、坂本真琴、津村秀松、その他数氏執筆

▲「主観」六月号 創作「一致」(工藤恒)「幽霊」(清水輝吉)「白魚の料理番」(南江二郎)「家出」(安倍志郎)その他

▲「少女文芸」六月号 沈黙の塔(将美)座布団と初恋(貴一)詩の戯れ(惣之助)青い石(未明)青き国(羅風)桜桃と蜜柑と(信子)春小景(阿佐緒)木莓の花(喜志子)傷心篇(幹子)等

▲無名詩人連盟の創立 九州詩人連盟で實際運動の第一線として機関雑誌「詩連盟」を創刊

▲「青巻」 小峯八郎氏同人として加入、尚ほ青巻社は日本橋小田原町二三文芸春秋社出版部に発行所を移した

▲「芭蕉」五、六併号 瓢亭、稲青三允、浅茅、六助氏

等執筆

▲「郷土」 「芸術解放」は「文芸戦争」と合併「郷土」と改題信州北佐久大里村土屋秀夫氏方に編集を移した

▲「青年文壇」六月号 「有島武郎追憶号」として晃一郎、憲、眠歩、その他を掲載

▲現代座試演 都合により延期

▲「原始」六月号 江森盛弥、山中映村両氏推薦号として二篇掲載

▲「劇」六月号 戯曲「蜜境」(四幕八場全訳山田松太郎)「星空」(豊岡佐一郎)その他

▲「みづゑ」六月号 「聖徳太子奉讃展」号とする

▲「劇と人間」六月号 戯曲「親鸞と弁円」(若月保治)「林檎」(社行雄)「ノアの子達」(景山哲夫)「帰朝の午後」(菅原寛)その他

▲「生活者」六月号 詩歌欄に小西弓次郎、平塚明子、片山敏彦、宮崎丈二、友常幸一氏等執筆

▲草土吟社俳句大会 本日午後五時から日本橋区北槇町池の尾に開催

▲「講談倶楽部」七月号 「馬鹿な男」(徳田秋声)「盗癖は遺伝せず」(生田長江)を掲載

▲いろいろな小劇場 第一回脚本朗読会は本日午後六時日本橋魚河岸寿楽に開催

大正十五年五月二十五日

▲日本美術院同人遊行 六日午前八時三十分東京駅集合 逗子に赴き清遊する

▲長与善郎氏 赤坂区青山南町五丁目三十三に転居

▲山本勇夫氏 長篇「業平」は風俗壊乱で発売禁止され

▲「文芸戦線」六月号 「帝国主義と芸術」(青野季吉)「社会、芸術共産主義」(千田是也)その他

▲「日光」六月号 「天王寺より」(白秋)「雪」(夕暮)

▲「宵節句」(庄亮)その他

▲「生活者」六月号 創作「約拿」(吉田泰司)「嬌争ひ」(番匠谷英一)「塔」(山根邦夫)「造られたもの」(光瀬俊明)

▲「文芸行動」社講演 主催で廿九日午後六時半から神田明治会館に文芸講演会を催す

▲「新劇時代」六月号 戯曲「仮面」(藤田草之助)「半時間の出来事」(鈴木源二)外に随筆感想数篇

▲「問題」夏期号は「社会主義愛国論を駁す」の記事で発売禁止になつた

▲手納嘉久弥氏 第二歌集「砂埃」を神田錦町平凡社から近刊

▲朝鮮高麗李朝古陶器その他展 二十七日まで京橋際大日本書画協会内二階

▲「洪柿」六月号 「連句新式起承転結」その他(東洋城)

▲「北斗」同人会 三十日午後一時から青山原宿五八辻方に開催

▲「梨」六月号 戯曲「歌」(富田常雄)「雨」(和田百太郎)「秋冷」(宮川久雄)その他

▲「近代詩歌」六月号 「評論」加藤介春「詩」高村光太郎、福田正夫、陶山篤太郎、高橋新吉、井東憲その他

大正十五年五月二十六日

▲西田幾多郎博士 兩三日中に上京岩波方に滞在する

▲松居松翁氏 近日京都に赴くと

▲坂井犀水氏 奈良に滞在中

▲南光二郎氏 詩集「悩める駁者」を日本詩壇社から近刊

▲大西登氏 未来派作品頒布会二十七日まで日延べ

▲心座第三回演出 第一カイゼル作「ユーデット」第二舟橋聖一作「痼疾者」第三「光秀の恋」廿七、八両日新橋演舞場に開演

▲遊戯三味会展 第十回文墨作品展を廿九、三十両日上野公園東照宮前梅川亭に開催

▲土を慕ふ者の会 二十九日午後六時半三田四国町竹内方に開催

▲「詩歌時代」六月号 「長詩」(武者小路実篤外十三氏) 「短歌」(土田、阿佐緒、邦子等) 「散文詩」(犀星、惣之助)

大正十五年五月二十七日

▲松居松翁氏 左団次一座の舞台監督のため大阪に行く
▲ヴィルドラツク氏 二十四日夕神田のアテネ、フランセにて自作の「発見」「愛の書」の朗読をなしたが近々京城、北京を経て帰国する

▲国枝史郎氏 名古屋市西区柳町四三に転居

▲後藤城四郎博士 二十九日六時から東大山上御殿にて「自殺の研究」の講演を為す

▲相田隆太郎氏 今秋頃まで山梨県北巨摩郡上牛村の郷里に居住

▲ルネサンス複製展 廿六日から来月五日まで京橋宗十郎町白鳳社にて

▲洋画家の日本画展覧会 丸ビル二階にて二十六日から一週間出品者、不折、生展、柏亭、劉生、莊八、恒友、一政、貞雄、得三郎外十数氏

▲「早稲田文学」六月号 「続坪内逍遙論」として蘇峰外数氏執筆

▲「文芸時代」六月号創作 香水(鉄兵) 好まぬ生存(真人) 墓のなかの恋人(恒夫) 調律師よ(昌雄) かくの

如き仕末ぢや(諏訪三郎) 泉(竜男) 児戯(猷逸) 懸賞小説余譚(貴鷹) 上野(竜彦) 妻を慈む(忠雄) 追憶断片(貴一)

▲「日本詩壇」六月 坂本哲郎氏病臥中のため一週間ばかり遅れる

▲「日仏芸術」六月号 仏展開会前後(黒田鵬心) ルイダビットを思ふ(坂崎垣) 巴里より(田辺孝次) ラブレードの芸術(ヴォドワイエ) アンデパンダン展回顧(税所篤二) マルヴァル夫人(荒城秀夫)

▲「芸術と自由」六月号 現代語歌の論拠(土田杏村) 新短歌と旧短歌(服部嘉香) 口語歌の未来性(安成二郎) 口語歌壇月評(松本昌夫、土田穆) その他

▲「アララギ」六月号 鷗外先生(茂吉) 万葉論講(文明、茂吉、三郎、浪吉) 閑暇雑記(喜代之介) その他

▲「辻馬車」六月号創刊 岬(上道直夫) 散歩(三宅幾三郎) 祖母の守唄(崎山正毅) 投げ出された心臓(福井二) 孝子塚(崎山猷逸) 冬の虹(小野勇) その他

▲「街」六月号 小説生活(三好李雄) 戯曲出帆(寺崎浩) 詩三篇(五十嵐二郎) 見知らぬ女(中山省三郎)

大正十五年五月二十八日

▲不同調文芸講演会 六月一日夜六時から京橋西紺屋町読売新聞社講堂に開催。「文芸講演会に就て」(野島辰次) 「文芸の新時代」(森本厳夫) 「演題未定」(尾崎士郎) 「轆轤亭戯論」(戸川貞雄) 「文芸雑感」(岡田三郎)

▲「恋愛と人生」(藤森淳三) 「文学運動の消長」(今東光) 「文壇生活二十年」(中村武羅夫) 会費三十銭

▲改造社近刊 菊池寛氏著「文芸常座帳」岸田国士氏著「言葉、言葉、言葉」三宅やす子氏著「奔流」鈴木麦子氏訳ヴィルドラツク作「見つけもの」持地六三郎氏著「日本植民地経済論」村岡典嗣氏著「切支丹文学抄」

を近刊する

▲シヤルル・ビルドラツク氏 既報の同氏は三十日夜八時半東京駅発帰国の途につく

▲文芸行動社講演会 廿九日午後七時既報の如く明治会館に於て吉田絃二郎、三田村鳶魚、生方敏郎、中村星湖、細田源吉五氏が講演する

▲昇曙夢氏 来月一日関西方面に旅行する

▲木村毅氏 富士辰馬氏と共に新潟方面の講演を終へ一昨日帰る

▲杉原寛氏 市外京王沿線、松原(松沢村)七〇二に転居

▲「心の花」六月号 「藤原定家自筆本近秀歌考証」(佐々木信綱) 「歌集窓に題す」(桑本厳翼) 「西周氏と森鷗外博士」(相沢英二郎) その他

▲「演劇研究」六月号 戯曲「女教師の家」(大関修郎) 「愚かなるもの」(朝家一郎) その他

▲「文芸春秋」ドラマ・リーグ 本日午後四時から新橋演舞場に心座を来月六日築地小劇場に「朝から夜中まで」四日に邦楽座に沢田二日に築地小劇場に青い鳥劇場を見物する

▲早大仏文学語学講習会 三十一日から四週間開講、申込早大文学部事務所

▲「爪色の雨」の会 サトウハチロー氏の同著出版を記念するため二十九日午後六時から上野公園前三橋亭に開催主催文壇詩壇四十余氏

大正十五年五月二十九日

▲北葎吉氏 八田元夫氏と共に「日本」新聞を退社した

▲近藤浩一路氏 明日上海から京都に帰る

▲高須芳次郎氏 本日早大文学部大会で「最近の感想」の講演をする

▲巴里絵画展 五日から十三日まで日仏会館図書室に於て

▲美の国主催東西大家郷土展 二日から七日まで三越ギヤラリーに開催

▲「芭蕉」俳句例会 五日午後六時から本郷其社に於て

▲「人間群」主催第一回文芸雑談会五日午後五時半から日本橋交叉点ソーダ・ファウンテンに開催

▲渋谷社 六日午前十時から芝公園増上寺前協調会館に開催

▲発売禁止 解放社発行「解放群書」中第三篇「プロレ詩大家最近傑作選集」は風俗紊乱で発売禁止され直ちに改訂版を出した

大正十五年六月三日

▲黒田鵬心氏 「日本美術史概説」中の第一冊「序説及原始時代」第二冊「飛鳥及白鳳時代」を弘文社から近刊猶隔月一冊づゝ十冊にて完結する

▲森田恒友氏 丹波の旅から帰る

▲井上白楊氏 越後から帰った尚ほ夫人は次男を挙げた

▲清見陸郎氏 市外西巢鴨町庚申塚三二〇に転居

▲内藤振策氏 「詩歌堂」建設基金を得るため現代作家の色紙短冊展開催の目的で関西に赴いた

▲川田順氏 出京したが両三日前帰阪、来月中旬又上京の筈

▲田村松魚氏 市外日暮里渡辺町一〇四四に転居

▲畑喜代司氏 越山堂編集部を辞した

▲「羊齡の葉」六月号 比企、家光、念素、三重その他執筆

▲戯曲発表会 六月例会を六日午後六時から小石川駕籠町新劇研究所に於て開催

▲「婦人運動」六月号 奥むめお、らいてう、山田わか、

原田実その他執筆

▲京都四園展 三、四、五の三日間丸ノ内商工奨励館に開催

▲豊多摩教員作品展 五日から八日まで千駄ヶ谷会館に開催

▲第一回婦人大学講座 六日から七月廿五日まで毎日曜日に千葉市千葉女子職業学校に於て文芸講座石丸梧平、婦人講座杉山教授、法制講座関氏等

▲「生命」六月号 「三代の影」(福田久道)「屋根裏編集局」(宮原晃一郎)「三人」(中村白葉)「肩」(宮崎丈二)その他

▲「霸王樹」六月号 「万葉調短歌集成訓話疑義」(山脇「大森より」(橋田)その他

▲「鷲の巢」六月号創作 「友」内山「ネクタイピン」松永「一日」飯木「オブラート」佐々木その他

大正十五年六月四日

▲菊池寛氏 面会日を月、金午後一時から三時までとする

▲小山内薫氏 四日午後東京発京都に滞在、五日大阪放送局にて「演劇と時代生活」を放送する

▲室伏高信氏 小田原に旅行中

▲古泉千樞氏 短冊色紙頒布会開催〆切七月十五日まで申込所市外巢鴨宮下一六九四日光社並に青山南町六ノ一〇八古泉方

▲堀義二氏 四谷区荒木町二七、(わノ二〇)に転居

▲佐々木千之氏 「新潮」の編集を前月辞す

▲五十公野清一氏 市外下戸塚荒井山四九 光玉館に転居

▲「文芸春秋」 麹町区下六番町十電四谷四九八三に移転尚ほ編集同人出勤日を毎週月水金午後とする

▲中外俳句会 中外商業新報社主催で六日午前十時から上野公園韻松亭に開催

▲「幽霊読者」の会 山田清三郎氏著の同書出版を記念する為め本日午後六時神田小川町カフェー天下堂に開催

大正十五年六月五日

▲故大町桂月氏一周忌 十日午後五時から上野精養軒に追悼会開催芳賀、武島、杉、猪狩氏幹事尚ほ一般参列も出来るので前日までに申込のこと

▲白鳥省吾氏 福田正夫氏と共に昨日から一週間の予定で富山長岡方面に講演に赴く

▲石川三四郎氏 府下杉並町字成宗七一思仏庵に転居

▲関口隆嗣氏 長女関子さん重態にて駿河台瀬川病院に入院中

▲山下品蔵氏 梅原竜三郎氏外数氏の推薦で個展を開催申込は荏原郡入新井町新井宿二六九〇田中喜作方山下品蔵宛

▲八田元夫氏 麹町区平河町六の廿四鶴田英太郎方に仮寓

▲仏展の陶器新着 セーヴル陶器新着六日から陳列する

▲創作社黒土会歌会 本日午後六時から瀧の川中里二五一越前翠村方に開催

▲演劇検察社 高橋季暉氏と共に市外高田町雑司ヶ谷五六二転居

大正十五年六月六日

▲芥川龍之介氏 本日午前再び鶴沼に行く

▲森田恒友氏 両三日中に秩父方面へ写生旅行に行く

▲平山芦江氏 中句再び「唐人船」の材料を得るため長

崎に旅行

▲景山哲雄氏 府下荏原郡玉川村下野毛四九一に転居

▲下川四天氏 代々木初台五七三(京王電車初台下車)に転居

大正十五年六月七日 休刊

大正十五年六月八日

▲秋田雨雀氏 五日夜東京駅発神戸関西学院の文芸講演会に講演し帰途奈良を廻つて九日頃帰京すると

▲谷崎潤一郎氏 上京中のところ一昨日神戸に帰つた

▲小野玄妙氏 新著「仏教美術」を甲子社書房から近刊

▲馬場文翁氏 新著「現代の哲学」を甲子社書房から近刊

▲宮川久雄氏 戯曲集「杵屋弦次郎」を明窓社から近刊

▲浅野梨郎氏 「日本歌会」及「橄欖社」と共に市外千駄ヶ谷八五〇に転居

▲寺内銀三郎氏 (表装界の元老) 四日死去昨日谷中長安寺で告別式を営んだ

▲十日会例会 十日午後六時から神田五車堂にて

大正十五年六月九日

▲「劇と評論」講演会 十一日六時半報知講堂に於いて里見弴、佐藤春夫、藤森成吉、藤井真澄、吉井勇、小山内薫、田中総一郎、北村喜八の諸氏講演

▲正宗白鳥氏 上京東京ステーションホテルに在り

▲畑耕一氏 赤坂区松木町六乃木坂倶楽部内に転居

▲浜村米蔵氏 新著「簡易なる日本国劇史」を新潮社から近刊

▲片岡鉄兵氏 市外雑司ヶ谷金山三三九に転居

▲村田豊秋氏 新著「哲学上より見たる新しき婦人の修養」を博進堂から近刊

▲駒沢大学文芸講演会 十二日午後一時半から「明治以前の劇場」(岡本綺堂)「白光三題」(杉浦一)

▲南柯吟社 十二日午後六時から芝赤羽橋際福井亭で開催

大正十五年六月十日

▲佐藤春夫氏 新著随筆集『退屈読本』を新潮社から近刊

▲山本鼎氏 新潟県新発田町に於て講演をするため近日越後に赴く

▲谷川磐雄氏 新著「民俗叢話」を坂本書店から近刊

▲文芸春秋ドラマ・リーグ 十二日帝国劇場、十一日から十七日まで真夏の夜の夢、十八日から廿四日まで殴られる彼奴、以上武蔵野館に自由鑑賞、十八日歌舞伎座、廿二日邦楽座に石井漢舞踊会を総見する

▲高工文芸部講演会 十二日午後一時から東京高工第七教室に於て「芸術創造の三要素」(秋田雨雀)の講演がある

▲村田丹下氏外遊作品展 二十日から五日間銀座明治製菓売店樓上に開催

▲詩集「雲雀」の会 広瀬操吉氏同著出版を記念するため十二日午後六時銀座竹川町カフェ・アルプスに開催

▲マヴォ再興基金募集 街頭に於て即席肖像画大販売を開始する

大正十五年六月十一日

▲石井林響氏 十七日頃千葉大綱へ赴く

▲三宅やす子氏 長編小説「奔流」を改造社から近刊尚近日伊香保に旅行する

▲小杉未醒氏 十五日朝鮮から帰京の筈

▲山中峯太郎氏 府下練馬武蔵野高等学校隣に転居

▲詩集「自画像」の会 清水暉吉氏の同著上梓を機として十三日午後五時銀座アルプス・レストランに祝賀会開催

▲「婦人公論」夏期特別号創作「大道無門」 淳「一九二六年式結婚」 東光「濤声」 武雄「荒唐言」 白鳥「金欄戦」 喬二

▲「文芸行動」七月号 「むだごと」(相馬御風)「人の講演私の講演」(正宗白鳥)「二三のこと」(近松秋江)「心象断片」(細田源吉)その他数十氏

▲松瀬青々氏歓迎句会 十六日五時から品川海晏寺にて兼題「若松」五句

▲「若草」七月号 宇野千代、三宅やす子、川端康成、北川千代、片岡鉄平、南部修太郎其他執筆

▲日大社会学講演会 十二日一時から日本大学講堂「都市の進化と都市計画」重永潜「社会現象の考察」銅直勇「農民階級の流転と農村社会生活」小野武夫

▲「俳諧雑誌」七月号 榎山梓月、増田竜雨、伊藤島二、小泉迂外その他数氏執筆

▲詩雑誌「黒鐘」 市外西巢鴨堀の内八七文芸今日社から六月創刊

▲「銅鑼」 休刊中の同誌は草野心平方から続刊

▲早大映画研究会 十二日午後六時から第一学院ホールに於て十勝岳大爆発義金募集のため「ダルシー」外数篇を公開する

大正十五年六月十二日

▲「女性」七月号創作「氷蔵の二階」(中条百合子)「夏

ちかきころ」(牧野信一)「いゝ良人です」(北尾亀男)
「海の子」(前田河広一郎)「青桐」(広津和郎)「泥ま
みれ」(岡田三郎)

▲改造社近刊 菊池寛氏「文芸当座帳」正宗白鳥氏「飲
迎されぬ男」細井和喜蔵氏「無限の鐘」ブハリン「唯
物史観」(富士、横田両氏訳)長田新氏「現代教育哲学
の根本問題」等

▲片上伸氏 嚴父死去のため北海道函館に帰省した
▲藤森成吉氏 戯曲「磔茂左衛門」は十九日から井上正
夫一座で松竹座に替り上演

▲三木羅風氏 講演を了へ山形から帰京

▲細田源吉氏 武州御岳方面へ旅行中月末帰京の予定書
信は牛込区河田町十九文芸行動社宛

▲水島爾保布氏 府下滝の川西ヶ原六九(聖学院中学先
に転居

▲正岡蓉氏 新婚大阪市港区九条中通二の一五五に卜居
▲山本秀煌氏新著 「切支丹の新研究」「西教史談」を近
刊

▲「解放」七月号 創作「老坑夫と電燈」(小川未明)「緒
い骸骨」(中西伊之助)戯曲「小作人」(高橋秀暉)「繭」
(林房雄)

▲本郷絵画研究所 十三日午後七時から「日本画の描き
方に就て」(野田九浦氏)の講演会がある

▲草の実一周年記念大会 十三日午後一時から小石川大
和村倶楽部大ホールに開催古泉千樞氏講話

▲日本画会 十九日から七月十一日まで上野公園府美術
館に開催

▲「愛誦」 西条、生田、窪田、小谷、幡谷氏等執筆

大正十五年六月十三日

▲野依秀一氏 昨日欧米漫遊を了へ帰朝した

▲千葉亀雄氏 「大毎」学芸部長に就任昨日大阪に赴任
した

▲永瀬義郎氏 河口湖から両三日中に帰京

▲中原綾子氏 府下千歳村烏山一七七〇の九号に転居
▲石丸梧平氏 十五日午後商科大学に「文芸と人生」を
講演

▲若月一步氏 朝日新聞社を退社した

▲田沢良夫氏 麻布区狸穴町三八へ転居

▲南江二郎氏 本月から九月初旬まで京都府亀岡町字沼
原に滞在

▲関東美術社 柳原白蓮女史の半切、色、短冊頒布会を
催す

▲選考日本画展 十四日から廿日まで中外商業新報で開
催

▲「講演と音楽の夕」 卅日午後七時より報知講堂に開
催「ラスキンの倫理的経済学」(御木本隆三)「ラスキ
ンの経済思想」(太田正孝博士)音楽立花房子、斎藤静
子各独唱

大正十五年六月十四日 なし

大正十五年六月十五日

▲「改造」七月号創作欄 映画脚本「ゼンマイの戯れ」
(岸田国士)戯曲「犠牲」(藤森成吉)戯曲「赤い靈魂」
(倉田百三)長篇「この三つのもの」(佐藤春夫)

▲武者小路実篤氏 「不二」講演会のため二十二日上京
尚ほ長篇戯曲「孤独な魂」を「中央公論」七月号に寄
せた

▲小林古径氏 夫婦京都奈良から岐阜、湯河原を経て去
る十日帰京した

▲近藤浩一路氏 京都鞍馬口室町上ルに転居

▲相馬泰三氏 相州大磯町化粧阪今泉荘に転居

▲二科会 第十三回二科美術展は九月五日から十月四日
まで上野美術館に開催、一般出品受付は八月二十九、
三十の二日間。一人の出品は十点以内。事務所外日
暮里渡辺町石井柏亭方

▲菊池画塾展 第二回展を京都岡崎第二勸業館に十八日
から二十日まで開催

▲「劇と映画」七月号 吉井勇、高田保、小山内薫、永
井鳳仙その他の執筆

▲新進詩人七月号 「翼に絡る網」(正富汪洋)その他

大正十五年六月十六日

▲「不同調」七月号 創作「野田山」(室生犀星)「石の
見た世の中」(小川未明)「弱い喇叭手」(川崎備寛)「街
に描く記憶」(間宮茂輔)「柿」(池谷信三郎)「長い橋
の上から」(武川重太郎)「ヒヨリ」(佐々木千之)「白
い馬と人形」(浅原六朗)「糞」(森本巖夫)「二人の病
人」(徳田秋声)

▲「文芸行動」七月号 創作「片隅の人々」(小野浩)「招
かぬ客」(坂本義雄)「心残り」(西村豊吉)「柩の前の
二人」(片田江全雄)「オーヴァアシュ」(長谷川浩三)
▲「文芸戦線」七月号 戯曲「二階の男」(佐野碩)「転
轍手」(小堀甚二)小説「妻」(山田清三郎)「敵」(壺
井繁治)

▲室伏高信氏 新著「新しき時代とは何乎」を批評社か
ら近刊

▲林俊衛氏 来月二日諏訪に帰朝する

▲加藤武雄氏 越後方面に講演旅行中

▲宇井伯寿氏 新著「印度哲学」(第三卷)甲子社書房か
ら近刊

▲村松正俊氏 新訳「西欧の没落」(スペングラール著)

を批評社から近刊

▲能島武文氏 新著「明治代表戯曲史」を新潮社から近刊

▲川崎備寛氏 相州鎌倉、停車場裏安斎方に転居

▲石川準十郎氏 新訳「機能的社會と國家論」(コール著)を新潮社から近刊

▲春草会第百回祝賀会 廿五日午後五時から東洋ビルディング中山文化研究所談話室に開催

▲土を慕ふ者の会 二十日午後一時吉祥寺駅前井の頭公園で例会開催主席加藤一夫氏

▲「青年文壇」七月号 初夏隨筆号とする

大正十五年六月十七日

▲「三田文学」七月 創作「ナタアシヤ夫人と銀煙管」

(久野豊彦)「仲秋」(富田正文)「喧嘩と子供」(倉島竹二郎)「太すぎる指環」(安達勝弥)「父と子」(高橋広)「亡母と蠅」葛目彦一郎「プウセツ」(高橋邦太郎訳)

▲藤森成吉氏 木村毅、大宅壮一氏等は加藤武雄氏と共に越後方面に講演旅行中

▲三上於菟吉氏 本日午前東京発大阪に行く

▲中西伊之助氏 二十日まで大阪交通労働本部に滞在

▲帝大文芸部 十七日午前十時半から帝大山王御殿にて帝劇少壮俳優との新劇団聯盟会の発会式を挙げる

▲本荘可宗氏 本日午後六時から東大講書会で「科学のプロレタリア性」を講演

▲「芭蕉」七月号 碧梧桐、樂堂、霽月、稻青、三九法師、蒼梧その他数氏

○六月十五日 「大磯町化粧坂」は「大磯町化粧坂」の誤り

○六月十七日 「高橋広」は「高橋宏」の誤り

○六月十八日 「太閤の夢」は「太閤の夢」の誤り

▲サバト七月号 堀口九萬一、堀口大学、日夏耿之助、矢野目源一氏その他数氏執筆

▲「同人社」東京句会 十九日五時半から赤坂見附清水谷公園皆香園にて兼題薰風三句

大正十五年六月十八日

▲志賀直哉氏 近日上京する

▲前田河広一郎氏 十六日出発講演のため京都に赴いたが二十日頃帰る

▲須藤鐘一氏 新著創作集「女難懺悔」並に「秘密の園」を白楊社から近刊

▲長谷川零余子 妙高山方面旅行中「夏霧に妙高の湯の濁りけり」

▲児玉勉伍氏 日本詩学協会々員となる

▲小宮山明敏氏 病気の為め牛込区神楽坂上藤本医院に入院経過よし

▲森田義郎氏 子規二十五周年を記念として近く文芸雑誌を発刊

▲石楠俳句会 二十日午後一時から靖国神社境内洗心亭に開催

▲仏蘭西語夏期講習会 七月十二日から三十一日まで東京外国語校内に開催

▲「新進詩人」社 詩談会を二十日午後六時から銀座出雲町カフェ「あざみ」に開催

▲子規庵歌会 十九日三時から上根岸八二正岡子規旧廬に於て課題つゝじ十首持参

▲東洋大学文芸講演会 十九日正午から同校講堂にて北吟吉、久保田万太郎氏講演

▲松の実例会 二十日午後一時から杉原淵天壮方に開催

▲「石楠」七月号 「大空を翔りて」(亜浪)「芭蕉の手紙」(寥々) 其他

▲「文芸道」七月号 創作「暢気な会話」(豊島与志雄)「影」(戸川貞雄)「南二番館さん」(若杉鳥)「三勝三敗」(萩原野呂)

▲「劇と評論」七月号 戯曲「ある敵討」(小山内薫)「L NEOESSITAS VISI RERSTAS」(北村小松)「太閤の夢」(巖谷三二)その他

大正十五年六月十九日

▲山本鼎氏 昨日越後に赴いた

▲長谷川昇氏 月末飯坂温泉へ

▲小杉未醒氏 此程朝鮮で母堂を喪つた

▲近藤浩一路氏 紀州へ旅行中

▲山崎今朝弥氏 文集「甘粕は三人殺して仮出獄? 久さん未遂で無期懲役!」を解放社から近刊

▲服部亮英氏 北海道巡遊中

▲梅原北明氏 牛込赤城元町三四に「文芸市場」編輯部と共に転居

▲岡田竜夫氏 マヴォ即席肖像画会と共に中野谷戸二四〇五転居

▲ニコルスキー氏生徒音楽会 二十日午後二時半から麻布アメリカンスクールに開催

▲「人間群」七月号 ビリニヤーク、佐藤春夫、武川重太郎其他執筆

▲香蘭短歌会 二十日午後一時から角筈田中方に開催

▲築地小劇場二週年 廿一日鶴見花月園に記念内祝会を

催す

▲東洋大学主催講演会 本日正午より講堂に於て「明治末期の劇壇」(久保田万太郎)「哲學的精神に就て」(北聆吉)

▲「日仏芸術」七月号 「桜ヶ岡より」(黒田鵬心)「ルイ・ダビットを思ふ」(坂崎坦)「鑄金瑣談」(高村豊周)

▲「枯野」七月号 零余子、惣之助、柴舟、迷花氏等執筆

大正十五年六月二十日

▲「中央公論」七月特大号 創作欄に戯曲「森有礼」(小山内薫)「大商人」(滝井孝作)戯曲「嫉妬」(水木京太)

「逃げた小鳥」(徳田秋声) 戯曲「孤独の魂」(武者小路実篤)「春の人々」(佐藤春夫)「街へ出るトンネル」(横光利一) 戯曲「仇討出世譚」(菊池寛) 戯曲「大塩平八郎」(真山青果)

▲「新小説」七月号 南蛮紅毛号とし創作「お蝶の訪れ」(牧野信一)「婚禮と葬礼」(川端康成) 戯曲「エリザベスの指環」(鈴木彦次郎)「吠える」(中条百合子) 戯曲「安珍清姫」(大村嘉代子) 戯曲「天寶遺跡」(池田大伍) 戯曲「初恋の影」(永田衡吉)「この人生は」(金子洋文)「出水」(宇野浩二)

▲「太陽」七月号創作 「へんな喜劇」(新井紀一)「虹のよる風景」(佐々木千之)「考へる人」(武川重太郎)「或る女給の話」(武野藤介)「ニヒリストとはいれ屋」(坪田譲治)

▲「隨筆」七月号 創作「路傍の建札」(小川未明)「ある女の立場」(松本替吉)「天国と地獄」(水守亀之助)「探偵趣味」七月号 創作「判事を刺した犯人」(沢田撫松)「隼お手伝ひ」(久山季子)「仮面舞踏会」(城昌幸) 其の他

▲児島虎次郎氏 上京中の処退京

▲金子洋文氏 秋田に帰省中月末帰京

▲佐々木千之氏 福岡市今川通二丁目二九五泰氏方に約一ヶ月滞在する

▲渡辺素舟氏 新著「現代日本の図案」を芸術社から近刊

▲杉本静太郎氏 市中渋谷七十八へ転居

▲「原始」七月号 「文壇の社会的地位」(加藤一夫)その他

▲日本プロレタリア文芸聯盟 本日午後一時から牛込矢来クラブで「集團運動としての芸術」といふ題下に研究座談会を催す

▲「詩歌時代」七月号 「長詩」芥川龍之介、尾崎喜八「俳句」河東碧梧桐、村上鬼城その他

大正十五年六月二十一日

▲日本美術院第十三回展 九月五日から十月四日まで上野東京府美術館に開催、八月廿九日から卅一日まで美術館事務所受付

▲中村憲吉氏 大阪毎日新聞社を退社郷里広島県備後国双三郡布野村に帰った

▲高安月郊氏 兵庫県武庫郡東芦屋井の尻に転居

▲間宮茂輔氏 府下馬込村中井一五四三へ転居

▲柳瀬正夢氏 漫画市場とは何等関係がないと第十六回鑄金展 二十一日から二十八日まで三越四階に開催

大正十五年六月二十二日

遠さ」(小島政二郎)「カルメン」(芥川龍之介)連作長篇「明眸有罪」(池谷信三郎)

▲横山大観氏 明日来朝中の支那画家招待の宴を開く

▲千葉亀雄氏 兵庫県西宮市外夙川甲南荘に卜居毎月一回上京の予定

▲安田靫彦氏 明日出京する

▲土田麦僊氏 伊豆修善寺新井方に滞在

▲村上華岳氏 当分兵庫県武庫郡芦屋八田八六一に滞在する

▲橋爪健氏 旅行を了へ帰京

▲川口松太郎氏 七月上旬よりプラトン社東京支社勤務となり、「苦楽」演劇映画」を編輯

▲葉山嘉樹氏 当分地方旅行につき手紙は市外雑司ヶ谷金山三三九文芸戦線社氣附

▲河合卯之助氏 自刻木石版陶画集を一部廿五円で希望者に分つ

▲岡田紅陽氏 渡欧記念芸術写真画会を丸の内仲通三号館丸の内商店に開催

▲「青巻」七月号 「窓」(筒井)「赫い月」(鐵村)「花を貰った男」(井上)その他

▲「演劇研究」七月号に戯曲「高村院長」(河野義博)「大晦日の酒」(伊藤恣)

▲芸術写真展 アルス主催で廿三日から廿九日まで銀座松屋七階に開催

▲東西会美術展 廿三日から廿九日まで銀座松屋樓上に開催

▲「無政府主義研究」 水戸市市区其社から創刊

▲「社会科学」七月号 「日本経済史研究」号とし、滝本誠一、牧健二、滝川政二郎、西田政二郎その他数十氏執筆

▲日本大学映画会 二十七日午後六時から神田三崎町日大講堂に開催

大正十五年六月二十三日

- ▲「演劇新潮」七月号 戯曲「ロマンティズム」(高田保)「討手」(三上於菟吉)「焚き火」(北尾亀男)「嫌々ながらの悲劇役者」(島川職雄訳チエホフ原作)
- ▲「文芸時代」七月号 創作「第一幕」(岸田国士)「新道徳寛書」(稲垣足穂)「挿頭の花」(神崎清)「かくれた原稿」(三宅幾三郎)「青春挿話」(石浜金作)「こんな風な接吻」(佐々木味津三)
- ▲「文芸市場」七月号 「魔窟小説号」とし「唐妓の死」(大泉)「白象のやうな女」(村松)「異人臭い髪」(長谷川)「ストライキ中」(前田河)「行燈部屋」(井東)「一九二二年」(村山) その他
- ▲志賀直哉氏 上京中
- ▲野村吉哉氏 詩集「三角形の太陽」をミスマル社から出版のため二十七日午後六時神田小川町多賀羅亭に記念会開催

大正十五年六月二十四日

- ▲武者小路実篤氏 本日の夜行で奈良に帰る
- ▲川路柳虹氏 千葉に赴く
- ▲大野麦風氏 兵庫県武庫郡大社村広田神社前に転居
- ▲長谷部孝氏 廿六、七両日国民講堂で上演の「モルナア作」(リリウム)八場の演出をする
- ▲萩原新生氏 巢鴨町字宮下一八二〇番地に転居
- ▲文芸講演会 本日午後二時から早稲田スコット・ホールに於て早稲田第一高文芸部主催で開催、講演者、武者小路実篤、吉田弦二郎、谷崎精二

○六月二十三日 「新道徳寛書」は「新道徳寛書」の誤り
○六月二十四日 「吉田弦二郎」は「吉田絃二郎」の誤り
○六月二十六日 「末黒野」は「末黒野」の誤り

大正十五年六月二十五日

- ▲中条百合子氏 湯浅芳子さんと共に市外駒沢新町住宅地内(東大通三丁目)に転居
- ▲中村不折氏額面会 書並に画額面会を麹町区元園町中央美術協会に開催中御覧又は申入随意
- ▲江渡狄嶺氏 「民族の自己の道」建設社を創立、内容東京府豊多摩郡上高井戸原、江渡方
- ▲生田蝶介氏 此程木礼子さんと結婚した
- ▲千田是也氏 佐藤基、石川治氏と共に創生劇へ出演
- ▲伊藤恣氏 『選挙と路ゆく人』を創生劇一座で二日から四日まで国民新聞講堂で開催
- ▲潮座試演 廿六日午後五時から早稲田スコット・ホールに開催、鈴木泉三郎、岸田国士、金子洋文、鉄村大二、山本有三氏等の作を上演
- ▲文芸講演会 女子英学塾同窓会主催で七月三日午後一時から報知講堂に開催、吉屋信子、三宅やす子、野口米次郎、久米正雄、芥川龍之介、菊池寛六氏講演(文芸春秋社後援、女性並に女性同伴の男子に限る)
- ▲松島夏季大学 八月一日から六日間松島小学校に開催、柳田国男、石原謙、福井利吉郎、土居光知、栗生武夫その他
- ▲第三回「窓を開くの会」 廿七日午前九時から午後一時まで西ヶ原二本榎七社神社内で一般人士の縦覧に供す出品者佐部真、徳田耕作、田中比左良、宮路嘉六
- ▲日本犯罪学会講演 二十八日午後六時から東大御殿に於て「殺人の研究」(菊地甚二)「死刑囚の話」(藤沢正啓)の講演がある
- ▲「中央美術」七月号 「甲山の如意輪観音」(春山)「カスターニヨ」(柏亭)その他

大正十五年六月二十六日

- ▲徳田秋声氏 三四日の予定で房州に赴く尚ほ来月二日亡夫人浜子さんの埋骨式を谷中臨江寺に催す
- ▲里見弴氏 昨日鎌倉より上京
- ▲馬場孤蝶氏 大阪から帰京した
- ▲藤森成吉氏 戯曲集「磔茂左衛門」を新潮社から近刊
- ▲柚木久太氏南支旅行展 三十日まで京橋銀座一丁目オーガルリギンザに開催
- ▲横光利一氏 夫人君子さんは去る二十四日死去告別式二十八日午後一時麹町下番町十文芸春秋社に催す
- ▲本荘可宗氏 廿八日東京発、アラスカ、カムサツカへ旅行
- ▲今東光氏 長篇小説「愛経」を「日日」へ来月から連載する
- ▲中村白葉氏 トルストイの「アンナ・カレニナ」を訳了岩波書店から近刊
- ▲中村亮平氏 市外中渋谷五清水方に転居
- ▲藤田健次氏 日光湯元に旅行
- ▲松山敏氏 新著「生きんが為に」並に「新生の首途」を緑蔭社から出版尚ほ市外戸塚町上戸塚一〇三二に転居
- ▲「梨」七月号 戯曲「夢」(宮川久雄)「俺のもの」(青柳信雄)
- ▲「演劇・映画」七月号 戯曲「招待券」(久保田万太郎)「初夏」(豊島与志雄)「湯屋の二階」(岡本綺堂)
- ▲「早稲田文学」七月号 創作「お金婆」(戸川貞雄)戯曲「ある夜の客」(鈴木善太郎)「嫉妬」(大岡竜男)
- ▲「生活者」七月号 創作「末黒野」(小川葭太郎)「約拿」(吉田泰司)「嬌争ひ」(番匠谷英一)「ある鳴動」

〔板垣守正〕「伴天連アロンゾの最後」(村上秀)

大正十五年六月二十七日

▲片上伸氏 二十五日に函館から帰京した

▲久保田万太郎氏 府下日暮里一〇八九(電下谷三三三)に転居

▲村山知義氏 創生劇「選挙と路ゆく人」を演出する

▲麻布義氏 新訳「芸術の危機」(グロス著)を金星堂から近刊

▲小泉癸巳男氏 版画頒布会申込所下谷区清水町一大河内信敬方

▲柴山武矩氏 長野市花咲町十七に転居

▲木村晴三氏 俳画頒布会を催す、申込所牛込南横町五七、五彩洞

▲「霸王樹」七月号 歌集「あかね」批評号として御風、薫園、東声、大翼、莫良氏等執筆

▲「生命」七月号 「愛よりも強き知識の話」(ピリニヤーク、米川正夫訳)「ある画家の話」(増田五郎)「三人」(中村白葉)その他

▲南柯吟社集鴨支社 一周年記念句会を来月四日午後五時から神田錦町松本亭に開催

▲「地上楽園」七月号「ある村の事件」(白鳥省吾)その他数十氏

▲プロオク死後五年記念会 来月五日午後六時から読売講堂に於て講演並に朗読の夕を催す「プロオクの戯曲」(八住利雄)「抒情詩人プロオク」(黒田辰男)「詩朗読」(ゴロフシニコフ)「同」(加藤猛太)「講演」(片上伸)「プロオクと故国」(ブブーワ)「運命の歌」(仮面座員演出)

大正十五年六月二十八日

▲神原泰氏 「文学の表現様式としての未来派の自由語」を本日午後七時から神田青年会でワイ・エム芸術中心会主催で講演

▲川路柳虹氏 千葉から帰京

▲今野賢三氏 千葉県船形町西行寺内に七月一杯滞在の予定

▲大森光彦氏 芸術陶器展覧会、大森氏製作の陶器を六月二十八日から三十日まで丸の内帝国鉄道協会で展観する

▲日本美術協会 十月十日から三十一日まで第七十二回美術展を美術協会に開催

大正十五年六月二十九日

▲岡田三郎助氏 来月初旬写生旅行に出る

▲加藤武雄氏 農民小説集「桑の実」を新潮社から近刊

▲坂本石創氏 牛込区弁天町一に転居

▲野本文雄氏 山東省並びに上海蘇州南京杭州地方を旅行中のところ廿六日帰京

▲石川寅治氏 令息正夫君の自動車で受けた負傷は殆ど全快した

▲小島達之助氏 七月一日から五日迄李水画房で第二回個展開く

▲井上よし子氏 相州鎌倉額田病院に入院中

▲解衣社展 その第一回を七月十一日から銀座松屋で開催と決定

▲山上々泉氏 早大の大乗文化会で「日本文学と法華思想」の連続講座を開いた

▲細田源吉氏 面会日を毎週日曜日と定めた

▲北●吉氏 本日千葉へ行く

▲山内簡介氏 オプロモフの「ゴンチャロフ」を解釈新潮社から近刊

▲日本美術学校校友会 主催で第二回名画複製展をセザンヌ集とし来月三日同校に開催

▲生田蝶介氏 長篇「聖火燃ゆ」を「主婦の友」八月号から連載

▲花野富蔵氏 新訳「揺籃の歌」(シエルラ作)を新潮社より近刊

▲文明協会講演 卅日午後六時から学士会館に開催、塩沢昌貞博士の「英国労働争議管見」及び島谷亮輔氏の「最近の英国」の講演がある

大正十五年七月一日

▲「文芸戦線」七月号 安寧秩序紊乱で発売禁止された

▲池谷信三郎氏 今夏片岡鉄兵、岸田国士、横光利一、川端康成氏等と相州逗子に一家を借り夏を送ると

▲故島木赤彦氏 遺著「柿蔭集」を岩波書店から「第三童謡集」を古今書院から近刊

▲秋庭俊彦氏 府下玉川村字等々力山谷六五に等々力農園を経営

▲渡辺光徳氏 画会開始申込所小石川区水道端二ノ二番洋画研究社

▲「悩める駁者」出版記念会 南光二郎氏同著を記念するため三日午後六時から銀グソル・銀座に開催

▲「美の国」七月号 郷美号として荘八、百穂、梅松、春城、清方、翠雲、恒友、豊、氏等執筆

▲「劇と人間」七月号 戯曲「切支丹の悲劇」(若月)「ノアの子達」(景山)「花姿錦絵」(小原)

▲「心の花」七月号 信綱、斎藤、宏、柴

▲「常春」七月号 五週年記念号とし、茂吉、千捏、善

鷹、秋人氏等執筆

▲「路上」廃刊 六月号限り廃刊

▲川柳祭のこと 四日午後一時から井上剣花坊氏方に開催

▲東京俳句会 四日午後明治神宮講で開催

大正十五年七月二日

▲菊池寛氏 小島政二郎、三宅周太郎、高田保、川端康成氏等と四日東京発名古屋に講演旅行に赴く

▲川端康成氏 処女創作集「感情裝飾」の出版を記念するため「文芸時代同人」発起で三日午後六時日本橋三越前三共ビルエンプレスに開催

▲本山荻舟氏 改訂「名人畸人」を至玄社から近刊

▲池田大伍氏 電京橋五六二九に変更

▲本小白雲氏 故坂本龍馬、中岡慎太郎両氏の銅像原型完了近く京都円山公園に建設

▲小島辰之助氏 印度風俗展を五日まで上野孚水画房に開催

▲内田伝一氏 新訳「軌道」(アンブ著)を新潮社から近刊

▲安成二郎氏 市外杉並町阿佐ヶ谷松山二七七に転居

▲中井繁一氏 新著「ゼリーピンスの函」を恵風館から近刊

▲清水弥太郎氏 市外大久保百人町二二二に転居

▲日本少年工芸研究所 第四回研究実習を四日午前九時から日比谷小学校で開催

▲エスプラント講習会 五日午後七時から麴町元園町エスプラント研究会にて

▲水曜会ドラマリーグ 築地小劇場を第一水曜日に観劇

○六月二十六日 「伴天連アロンゾの最後」は「伴天連アロンゾの最期」の誤り
○七月二日 「水曜会ドラマリーグ」は「水曜会ドラマリーグ」の誤り

▲訂正 一昨日の山内簡介は封の誤りゴンチャロフの「オプロモフ」改訳を新潮社から近刊

▲「葡萄園」七月号 創作「猿」(蔵原伸二郎)「横浜の幻」(高橋邦太郎)「掏摸」(加藤元彦) 戯曲「解剖室」(湯浅輝夫)

▲東洋大学夏期大学 田山花袋、藤村作、紀平正美、中島徳蔵、垣内松三、入沢宗寿、山口察堂氏等講師七月十二日から十八日迄

▲「ウーマンカレント」七月号 三宅、鷹野、らいてう、関鑑子、吉屋、かの子、創作「愚な疑ひ」(やす子)

▲文芸詩「Z・Z」 市外西巢鴨江幡方から七月創刊

▲「早文」七月号 「一茶百年記念号」と藤村、御風、剛、晋風、絃二郎、青峰、井泉水、川島、和風、直太郎諸氏執筆

大正十五年七月三日

▲「改造」臨時増刊 「現代支那号」とし創作欄は戯曲

「圧迫」(丁西林)「キュラソー」(張資平)「酒後」(凌叔華) 戯曲「王昭君」(郭沫若)「阿蘭の母」(楊振声)「美しき肉体を見た話」(徐志摩)「短篇三つ」(陶昌孫)

戯曲「昼飯の前」(田漢)「蘇東坡と米元章」(幸田露伴)「剥げた仮面」(正宗白鳥)「大同城内外」(犬養健)「真生活へ」(武林無想庵)「返り討」(菊池寛)「李鴻章」(佐藤春夫)「蒙古の太陽」(ピリニヤーク)

▲小山内薫氏 戯曲「ある敵討」(四幕)は井上正夫一座に依り十日から松竹座に上演する

大正十五年七月四日

▲北吟吉氏 を主幹として七月号から学芸雑誌「学苑」を創刊、同人、松永材、井上忻治、土田杏村、増田慈良、大峽秀栄その他数氏発行所芝白金三光町聖山閣

▲岸田国士氏 近日軽井沢千ヶ滝に赴き九月まで滞在の予定

▲水木京太氏 戯曲「殉死」(二幕)は十日から井上一座によつて松竹座に上演

▲土師清二氏 六月限り「大阪朝日」を辞した

▲川崎備寛氏 長女淑子さん急死のため帰郷した

▲片岡銀蔵氏 南支風景展を八日から十三日まで三越七階ギャラリーに開催

▲小説家協会 一九二六年版「日本小説集」を新潮社から近刊

▲九日会 故森林太郎、上田敏両博士を記念する同会は九日午後五時から上野公園精養軒に晩餐会開催

▲「解放」七月号 秩序紊乱の虞を以つて発売禁止

大正十五年七月五日 なし

大正十五年七月六日

▲菊池寛氏 久米正雄、佐々木茂索、小島政二郎氏等、名古屋の講演を了へ本日帰京の予定

▲「黄橙」七月例会 八日午後六時半神楽坂倶楽部で開催

▲田中宇一郎氏 月刊雑誌「世界文学」を近く創刊

▲斎藤要氏 新訳「判断力批判」を新潮社から近刊

▲発売禁止 勝原雅大氏著「マルキシズムの国家理論」は発売禁止された

▲支那語夏季講習会 十四日から廿九日まで日本大学に

於て開催

▲太田耕治氏 時事新報社を退社

▲篁重国芝居スケツチ展 六日から八日まで銀座明治製菓階上で

▲「文芸街道」七月号 秀湖宮越その他執筆

大正十五年七月七日

▲片上伸氏 七月中旬から避暑のため高野山に赴き約一ヶ月滞在

▲秋田雨雀氏 八月一ヶ月間郷里秋田に帰省する

▲新島栄治氏 市外高田町雑司ヶ谷五六七富本方へ転居

▲梅田寛氏 新訳「ヤーマ」(クロープリン作)を新潮社から近刊

▲石橋孝悦郎氏個展 十日から十二日迄銀座明治製菓樓上に開催

▲青嵐会展 七日から十一日まで伊勢佐木町越前屋呉服店で開催

▲「獺祭俳句会」 八日午後六時から小石川蓮華寺に開催

▲生光句会 十日午後六時から四谷伝馬町末広軒に開催

▲「大衆文芸」八月号 湊邦三氏の「花骨牌」掲載同時に同人に推薦された

▲児童芸術協会 七日午前十時から日比谷尋常小学校に開催

大正十五年七月八日

▲藤井浩祐氏 本年の院展出品作「脱衣の女」を製作中

▲藤田浪人氏 獄中で書いた「死後物語」を問題社から出版した

▲「不二」七月号 「或る者への通信」善郎「心覚え」

実篤「昔の家」元麿「市井俳人の死」惣之助「朝日をよめる」犀星「散文二つ」喜八「シェイクスピア」荏太沢「ゲーテと対話」英四郎訳其他

▲歌舞伎研究七月号 逍遙、臨風、青々園、鳶魚、楽堂、錦花其他数氏執筆

▲高梨直郎氏 九州方面へ旅行中

▲真道黎明氏 本郷区根津西須賀町十五へ転居

▲新日本劇場 第二回試演会を十日土七時から本社講堂にて「首は飛ぶ」貞一作「カツフェー女物語」真澄作「東京の眠る時」善太郎作を上演する

▲庭瀬信太郎氏 十日六時から東大御殿にて「足跡の研究」を講演

▲「みづゑ」七月号 「仏国現代画家ルオー」(里見勝蔵)

▲「西洋廣余談」(西村貞)

▲「演劇改造」七月号 戯曲「一年後」(大関修郎)「三右衛門の売出し」(林和)

大正十五年七月九日

▲「劇と評論」八月号 脚本号「死生流転」(紀久雄)「或隠栖者の朝」(久保直方)「四年間」(北村寿末)「彼等の秋」(鴉田英太郎)「シネマトグラフ」(小山内薫)

▲故厨川白村氏 新著「最近英詩概論」を銀座福永書店から近刊

▲広津和郎氏 府下馬込村字東九一五に転居

▲細田民樹氏 千葉県大原町在御室山崎別荘に転居

▲山内義雄氏 新訳「弟子」(ボオル・プウルジエ)新潮社から近刊

▲永井鳳仙氏 第二回個展を十六日から廿一日迄三越で開く

▲北斗歌会 十一日午後一時日本橋永島方に開催

▲「学苑」創刊号 「模写説の克服」(北)「カントの実

践理性の概念」(松永)「カントと近代文化の哲学」(リツケルト)その他

▲「ブラツク・バット」創刊 及び「水戸及水戸人」水戸市下市山中十三郎方から

▲正誤 六日の分「徹して通ずる」は「徹して通ずる」

「口語体詩歌」は「口語体短歌」七日の分「私たちは現時の他の口語歌には真に敬服する。少しでも見劣らない」は「見当らない」の誤植

大正十五年七月十日

▲田山花袋氏 十三、五の両日東洋大学夏期講座で「最近の文芸思潮」を講演

▲岡田三郎氏 関西に旅行

▲西条八十氏 一週間の予定で東北地方に旅行

▲井上康文氏 詩集「華麗な十字街」出版記念既報の読売講堂に於ける講演の外午後六時から銀座アルプスに於て文壇詩壇数十氏発企 晩餐会を催す

▲土岐善麿氏 学芸部から調査部に転任

▲新居格氏 麻生義氏と共著で「無産階級芸術論」を脱稿九月出版の予定

▲中西悟堂氏 府下北多摩郡千歳村烏山二〇〇八に転居尚ほ新著「評釈大正詩読本」を近刊する

▲文士対全雑誌記者団野球 十一日午後二時から国分寺箱根土地グラウンドで開催

大正十五年七月十一日

▲「解放」八月号 創作「戯曲探照燈」(山田清三郎)「老人と寡婦」(小堀甚二)「大地の抱擁」(岡下一郎)「黙する魂」(大田卯) 幸徳秋水文集号とする

▲故細井和喜蔵氏 遺著「無限の鐘」中「泥沼呪文」は

其筋の注意で昨日切取った

▲加宮貴一氏 家族と共に長野方面へ旅行中月末から四日市、明石方面へ廻る

▲高橋邦太郎氏 友人数名と共にフランス語講習会を三崎会館に開く

▲三好十郎氏 市外世田ヶ谷代田一一五九に転居

▲宮尾しげを氏 新著「風来国」を浅草草文社から近刊

▲赤松洋画研究所 作品展を大阪心斎橋丹下ハウス階上に二十日まで開催

▲仏蘭西美術陳列 日仏芸術社にて昨日からピサロ、シスレー、その他拾数氏のを陳列

▲文芸行動社主催陶器展 下荻窪平和村小野賢一郎邸内で開催

▲郷土芸術俳句会 本日午後一時明治神宮前清楼上で開催

大正十五年七月十二日

▲「太陽」八月号 「創作」洋服の死（川崎備寛）「春」（大木篤夫）「時三郎の復讐」（湯浅真生）「死」（柴山武矩）

▲青野季吉氏 長野県下高井郡角間温泉越後屋に滞在

▲伊藤喬信氏 日本橋紅玉堂より自撰詩集「北方人」を出版

▲支那書道展 十三日から十五日間丸ビル二階丸ビル美術館に開催する

▲「文芸戦線」八月号 特輯労働及農民文学研究号として平林、犬田、本荘氏等執筆

▲渋谷定輔氏 新著「野良に叫ぶ」を平凡社から近刊

▲人形座 会員募集中だが第一回公演を九月の二十四、

五、六の三日間築地小劇場にウィットフォーゲル作「誰がいちばん馬鹿だ？」を上演

大正十五年七月十三日

▲井汲清治氏 昨日出発広島備後方面へ旅行、更らに備中の北部を経て美作津山に帰省

▲三宅やす子氏 十八日頃から九月まで千葉県御宿に滞在

▲加藤朝鳥氏 新訳「南の幻」（コンラッド著）を春秋社から近刊

▲池谷信三郎氏 相州逗子町三二四に滞在

▲辻沢菫水氏 盲腸炎で帝大呉内科に入院

▲小宮山明敏氏 牛込区神楽坂上藤本病院から近日退院

▲「劇と人間」八月号 「殉教者の群」（若月保）「憎悪一幕」（榎本雅彦）「金峯山神社由来」（菅原寛）「第二の扉」（ノブセン）

▲白日荘主催 関東五十大家半折画頒布会十八日午前十時より芝浦いけすに開催申込所日本橋馬喰町白日荘

▲発売禁止問題打合会 昨日文芸家協会幹事並に雑誌協会幹事会合万世橋瓢亭に於て発売禁止に関する対策の協議をした

▲文芸時代対梨同人撞球試合 十五日午後六時半日勝亭で開催

大正十五年七月十四日

▲正宗白鳥氏 信州軽井沢夏季大学前野沢湖別荘に滞在中

▲「映画時代」八月号 シナリオ「女優」（村山知義）「富

士に立つ影」（白井喬二原作、田中総一郎脚色）「木霊」（畑耕一）「受難華」（菊池寛原作、小田喬脚色）

▲「文芸行動」片上伸、吉田絃二郎、源吉、勉、季吉、精二外数十氏

▲片岡鉄兵氏 電話牛込六二八九が近日中に開通する

▲桜間道雄氏 十五日から二十一日まで神田五車堂で習作洋画展開催

▲日本童謡集出版記念会 日本童謡詩人会主催で明日午後六時から日本橋三共ビルエンプレスに開催

▲「婦人公論」八月号 創作「大道無門」（里見弴）「三年の後」（水守亀之助）「濤声」（加藤武雄）「白い木柵のある家」（宇野千代）「金欄戦」（白井喬二）

▲「早文」七月号 一茶百年記念号は去る十二日再版を発行した

▲「おひろめ」例会 十五日午後五時半から麴町三番町草木鉄扇花店に開催

▲関東美術社 白蓮、正臣、稲青、麦人等の俳歌、短冊頒布会を開催申込所牛込区市ヶ谷台町十六其社

大正十五年七月十五日

▲室生犀星氏 二十日頃郷里金沢へ帰る

▲金子薫園氏 昨夜一週間の予定で京都に赴く

▲山崎斌氏 「藤村の歩める道」を弘文社から近刊

▲「不同調」八月号創作 「恋と欠伸」片岡鉄兵「怖ろしき揺籃」小島島「黒人」トシー遠藤

▲「女性」八月号創作 「枯れる小松」加能作次郎「春は馬に乗つて」横光利一「泥まみれ」岡田三郎「愛憎」

谷崎精二「少年の抗議」金子洋文「少暴君」里見弴

▲「日本童謡集」審査委員 改選の結果白秋、雨情、八

○七月八日 「西洋贗余談」は「西洋贗作余談」として掲載された
○七月九日 「北村寿末」は「北村寿夫」の誤り

十、羅風、広介、の五氏ときまる

▲「同人社」東京句会 十七日五時半から清水谷公園皆香園にて兼題土用波三句

大正十五年七月十六日

▲「改造」八月号 創作「青塚氏の話」(谷崎潤一郎)戯曲「聚楽の人」(吉田絃二郎)戯曲「あかつきを待つ」(関口次郎)「この三つのもの」(佐藤春夫)

▲「文芸時代」八月号 「怪奇探偵小説」号として石浜、川端、鈴木、遠藤、田中、加宮、南、酒井、稲垣、片岡の十氏創作執筆

▲佐藤春夫氏 廿一日岐阜市に於て講演するため赴く予定

▲安田靫彦氏 荒海の写生の為め外房を旅行中

▲「文芸行動」八月号 創作「阿南の誘惑」(多田鉄雄)「友情」(坪田譲治)「朝」(新居格)

▲橄欖歌会 十八日午後一時から神田一つ橋学士会館に開催

▲森珠星漆芸展 十九日から二十一日まで銀座資生堂に開催

▲古川修氏 家族と共に伊東温泉桜屋旅館に来月中滞在

▲「劇」八月号 戯曲「君寵」(豊岡佐一郎)「驕帝踊る」(川口尚輝)「出雲の阿国」(森田信義)「大将」(山上貞一)「燕子花」(大西利夫)「応仁秘記」(坪井正直)「日の御子」(坪内士行)等

▲田沢良夫氏 此程結婚した

▲近藤宅治氏 本日伊香保へ転地静養に赴く

大正十五年七月十七日

▲長谷川如是閑氏 大山郁夫氏と共に廿日信州上田に講

演に赴く

▲徳田秋声氏 山田順子氏と共に秋田に滞在中近日帰京の予定

▲野口米次郎氏 エドナー・ポーター女史に依つて英詩選集を点字訳了米国にて盲人の為に近刊される尚氏は家族と共に十七日頃富士登山する

▲菊池寛氏 戯曲「仇討出世物語」は中村吉蔵氏の「道化役者」と共に七月二十七日初日で沢正一派によつて帝劇に上演

▲近松秋江氏 二十日頃から伊豆熱海中田石渡別荘に行き今夏を同所にて送る

▲土方与志氏 ハルピンに赴いたが月末帰京

▲武島羽衣氏 講演のため名古屋へ赴いた

▲二科会 本年度海外出品はアスラン、ロート、ビツシエール、ザツキン、ジエレニウススキー等の会員、会友、及びルオール、フレエニ氏のもの総数二十八点

大正十五年七月十八日

▲「中央公論」八月号 創作「温泉ゆき」(久保田万太郎)「半生」(明石敏夫)「耳」(宮地嘉六)戯曲「海辺小景」(広津和郎)

▲吉田絃二郎氏 岐阜方面の旅行を了へ当分伊豆に滞在中
▲佐々木茂索氏 相州鎌倉大町蔵屋敷七七九(久米正雄氏前)に移り今夏を送る

▲犬田卯氏 加藤武雄氏と共著で「農民文芸の研究」を春陽堂から近刊

▲里見岸雄氏 十八日午後二時から国民新聞社講堂に於て「人類生存の原則としての日本国体」に就て講演

▲石井漢氏 三十、三十一兩日比谷音楽堂に野外舞踊公演に「青い美しきダニユープに沿ふて」外数番上演
▲「文芸戦線」八月号 創作「踏み台」(里島伝治)「都

会」(飯田徳太郎)戯曲「地獄の審判」(佐々木孝丸)「飢饉」(ネウエーロフ)其他

▲「強い男」の会 辻本浩太郎氏著短篇集「強い男」出版を記念するため二十日午後七時から日本橋交叉点ソーダ・ファウンテンに開催

▲「ウーマン・カレント」八月号 評論三宅やす子、長谷川かな女、生田花世、岡本かの子、感想吉屋信子、網野菊、厨川蝶子、山田邦子、若山喜志子、さゝきふさ
▲プロレタリア文芸聯盟 美術部事務所を芝区桜田町秋山ビルディングに移転した

▲香蘭短歌会 本日午後一時から角筈香蘭社にて

▲古川柳研究会 二十二日午後七時半込神楽坂俱樂部

大正十五年七月十九日

▲戸川秋骨氏 新著「英文学覚帳」を大岡書店から近刊

▲真野紀太郎氏 一週間の予定で小名浜へ写生旅行中

▲川崎長太郎氏 相州小田原町万年三に帰省中

▲竹内逸氏新著 「児童の愛育」(例話百篇を明治図書株式会社から新訳)「美と智慧の生活」(ロオリツヒ原著)を聚芳閣から出版した

▲南画会展 廿四日迄丸ビル二階で開催中

▲「ホトトギス」八月号 「俳句趣味に於ける一般民性涵養」(俳談会記事)創作「麦の月」(大岡竜男)
▲日本工芸美術第一回展 十月十五日から十一月十五日まで上野府美術館に開催

▲「戦車」八月号 戸川、蔵原、葛目、赤木、伊藤永之介、鈴木彦次郎、伊藤貴麿数氏執筆

▲「文芸戦士」 六月号発売禁止になったため七月十六日八月号として発売創作「鎖をつけた女」(鷹野つぎ)「生活」(松井締子)「会話と思想」(若杉鳥子)「新しき戦線へ」(藤枝文夫)「待間」(小島健三)「自由への

行進曲」(キネ・西村)

▲「原始」八月号「虚無思想の応用性」(加藤一夫)「消費組合と無政府主義」(新居格)

大正十五年七月二十日

▲鹿子木貞信氏 最近独逸より帰朝小石川高田老松町自宅に入る

▲和辻哲郎氏 新著『日本精神史の研究』を来月上旬岩波書店から出版

▲浜田耕作氏 京大教授の同氏は青陵の雅号で随筆「橋と塔」を来月岩波書店から出版

▲広津柳浪氏 大森木原山一五一八に転居

▲石丸梧平氏 「人生創造思想体系」(全七巻)完成したので近く記念講演会を催す

▲中村不折氏 書画額面会の申込締切は本日限り申込所麴町元園町中央美術協会

▲生田春月氏 徳島県板野郡松島村泉谷に当分滞在

▲金子光晴氏 府下杉並町高円寺谷中六〇九に転居

▲正岡蓉氏 短篇集「風船紛失記」を大阪阿波座改善社から近刊

▲日本プロレタリア文芸聯盟 美術部二十四日午後四時から本社前いづみやに漫画展を開催

▲現代作家色紙短冊展 廿一日から廿五日まで日本橋白木屋階上に開催主催詩歌堂

▲書道夏季講習会 八月一日から十四日迄本郷区湯島天神町二ノ十二大日本竜禅会教化部に開催

▲「中央美術」八月号 「フォコニエー」(黒田)「亜欧

○七月十五日 「春は馬に乗つて」は「春は馬車に乗つて」として掲載された
○七月十八日 「里島伝治」は「黒島伝治」の誤り
○七月二十二日 「美術解剖学」は「趣味の美術解剖学」として掲載された
○七月二十二日 「中川」は「中井」の誤り
○七月二十二日 「日会評」(古賀)は「白日会第三回展覧会評」(前田)の誤り

堂田善」(竹内)「モンマルトルの今昔」(大隅その他

▲「劇と映画」八月号 「音楽と舞踊」(山田耕作)「劇壇雑感」(広津和郎)その他

▲「石楠」八月号 「猪山を憶ふ」(亜浪)「雲峯三句評」(茂吉、龍之介、縞堂その他)

大正十五年七月二十一日

▲北原白秋氏 主幹大綜合詩歌雑誌「近代風景」九月アルスから近刊

▲佐藤清氏 京城から帰京した

▲小島政二郎氏 佐渡に旅行、先頃帰京

▲須藤鐘一氏 近日房州岩井海岸佐野方に行き不時帰京の心得なりと

▲細田民樹氏 一昨曉強盗に入られた尚氏は近々に大原を引上る

▲中河与一氏 今夏支那に赴くと

▲大藤次郎氏 病氣重態にて時事新報社を当分欠勤

▲長谷川零余子氏 浅間方面旅行中「大浅間夏木立早や目に飽きし」

▲杉原寛氏 上総興津町に避暑ウインデルバンドの哲学執筆

▲葉山嘉樹氏 市外井荻町上荻窪七二二に転居

▲水木伸一氏 道後温泉に滞在中

▲加藤三郎氏 新著「今日と明日」(フォード作)を翻訳中

▲横田儔氏 近く除隊の上再び舞台の人となる

▲「詩歌時代」八月号 「長詩」(佐藤春夫、清、八十、介春)その他

▲「アトリエ」八月号 「慶州の古美術」(小杉放庵)「びいどろ」(小川三樹)「私の学生時代」(白亭、昇、武二)その他

▲造型事務所 市外長崎村二二四二番に転居

▲「演劇新潮」八月号 戯曲「六月の幻想」(秋田雨雀)「榎本武揚」(吉井勇)「奇蹟」(フォルメルル作高橋邦太郎訳)「独り」(池谷信三郎)

▲「新小説」八月号 創作「父親」(葛西善蔵)「鷺の村」(有島生馬)「巴旦杏の下」(室生犀星)「影に問ふ」(尾崎士郎)「鶉の巢」(岡田三郎)戯曲「宝慶印塔」(悦田喜和雄)戯曲「六月の秋」(岡康雄)「明正尼のゆくへ」(小寺融吉)「正太樹をめぐる」(坪田譲治)「狭気」(豊島与志雄)

▲「文芸春秋」八月号創作「家出」(吉田絃二郎)「返へさず」(佐々木茂索)「港町の女」(葉山嘉樹)「現はれ」(菅忠雄)「敵薬」(菊池寛)連作小説「明眸有罪」(片岡鉄兵)

大正十五年七月二十二日

▲「早文」八月号 「土の文学」号として吉江、帆足、白鳥、大槻、和田、中村、大田、五十公野、下村の諸氏執筆

▲「みづる」八月号「亀茲の仏画」(中川)「美術解剖学」(西田)「日会評」(古賀)その他

▲小室翠雲氏 箱根長与山荘に滞在中

▲安田鞆彦氏 房州白浜に在り近々大磯へ帰る

▲小山内薫氏 名古屋に赴いた

▲織田一磨氏 「浮世絵十八考」を春陽堂から近刊尚氏は八月初旬松江市に夏期洋画講習会に講師として近日発売する

▲伊藤響浦氏 廿四日夜代地河岸二葉で花火鑑賞の会を開く

▲斎藤与里氏 松江に近日赴く

▲大阪演劇聯盟 創立満五週年記念のため新会員募集中 申込所北区木幡町十八同事務所

▲「こども時代」 児童創作雑誌として綴方手紙童謡、童話、物語その他を募集、会員組織にして市外西ヶ原三二四時代社から十月創刊

▲草土吟社句会 二十四日六時木挽町朝日倶楽部

▲演劇研究八月号 戯曲取り残された人々(小寺融吉)アバタの勝利(羽田義朗)地に悶ゆる者(水木久美雄)その他吉蔵、秋江、貞一、柊郎、真澄、清太郎、伊之助氏等執筆

大正十五年七月二十三日

▲野口米次郎氏 佐藤春夫、堀口大学、長谷川巳之吉の三氏と共に八月一日講演の為新潟に赴く

▲笹川臨風博士氏 新訳「水滸伝」を九月号から講談倶楽部に連載

▲服部亮英氏 帝展出品として五十号大の自画像を製作中

▲小森忍氏 大連市裾野町六〇へ転居

▲亀井信氏 京都新棋木町通竹屋町上ルへ転居

▲京阪名家新作展 廿六日から廿九日迄高島屋で開く

▲プロレタリア文芸聯盟美術部漫展市場 二十六日に延期

▲「戯曲研究」八月号 戯曲「おれんの死」(小野金次郎)「扉をたたく」(島村寛)「疑心暗鬼」(升本幸喜)「崖」

(川口章)

▲「造形」第二回展 本日から八月二十九日まで三越呉服店七階ギャラリーに開催

▲文芸講演会 福井市順化小学校に二十五日開催、佐々木千之外四氏出演

▲日本南画院第五回展 九月十日から日本美術院協会にて搬入は八月卅一日限り

▲陽源社研究会 廿五日午後一時から日本美術学校内に開催

▲「文芸市場」八月号 創作「青窓」(正岡蓉)「生を抱く」(青山倭文二)「今年のメーデーと私」(豊田宏文)

「赤い蒲団」(岩田八重子)

▲「愛謂」八月号 西条、生田、永田、南江氏等執筆

大正十五年七月二十四日

▲中村吉蔵氏 仲木貞一氏と共に赤城に登山昨日帰る

▲岡田三郎助氏 京都へ旅行中月末帰京

▲江戸川乱歩氏 相州片瀬新屋敷かき屋敷に今暑中滞在

▲辻永氏 明治神宮壁面画揮毫中

▲岡田八千代氏 伊勢旅行中

▲太田三郎氏 市外西荻窪九一九にアトリエと共に住宅を新築月末引移る

▲楠田敏郎氏 京都府宮津町に九月一日帰省

▲吉田謙吉氏 「新しい舞台装置の出発点」を本日午後七時クリスト教青年会会議室に講演

▲赤松月船氏 市外杉並区天沼二八八に転居

▲本郷絵画試作展 九月一日から八日まで丸ビル二階丸菱呉服店にて

▲俳句雑誌「藁筆」 正雄、惣之助、徂春、勇、二郎、幹彦、正夫、宗治、京村、太田三郎氏等文壇、劇壇、

詩壇二十七氏同人となり九月創刊する

▲「随筆」八月号創作 「岸へ」(諏訪)「近火」(康成)米次郎、帰一、正孝、白秋、絃二郎その他諸氏執筆

▲野生司香雪氏 廿四日から廿八日まで三越呉服店七階ギャラリーに開催

▲彫塑社 市外戸塚町諏訪二三四に転居

▲「婦人グラフ」八月号 創作「なりゆき」(柳原煤子)「合掌」(川端康成)「陰影」(江戸川乱歩)

▲「生活者」八月号 創作「約拿」(吉田泰司)「嬌争ひ」(番匠谷英一)「末黒野」(小川蓑太郎)「五月神仏」(面足千木)「朝」(磯長ゆり)

大正十五年七月二十五日

▲「アララギ」八月号 「外先生」(茂吉)「閑曠雑誌」(喜代之介)その他

▲「性文学」創刊 羽太鋭治、青柳有美、沢田順次郎氏等同人となり小石川表町其社から創刊

▲神山宗勲氏 福島へ旅行

▲「思想」八月号 「庭苑」(谷川)「原始仏教の縁起説」(和辻)其他

▲「劇術」八月号 休刊

▲「梨」八月号 戯曲「裏長屋の出来事」(和田保)その他

大正十五年七月二十六日

▲三著出版記念納涼会 本日午後六時から神楽坂カフェ・オザワに於て木村毅著「文芸東西南北」新居格氏著「月夜の喫煙」大宅壮一氏訳「赤い星」の出版連合記念会を催す

▲正宗得三郎氏 昨夜信州渋へ旅行に赴く一週間の予定

▲片山潜氏 論文「日本労働者諸君に告ぐ」を「実業之世界」八月号に寄せた

▲「常春」八月号 「歌壇合評」(純宗治、泰輔、秋人)その他

▲明治文学雑談会 本間久雄、神代種亮、木村毅、柳田泉、の諸氏発企で毎月五日午後駒込神明町のんき亭に開催出席随意

▲「探偵趣味」八月号 創作地味井平造、荒木十三郎、穴戸昌吉、川田功、大下宇陀児、他に翻訳随筆

▲蒼原会夏季写生旅行 三十日から八月一日へかけて静岡方面へ赴く

▲光瀬俊明氏 新著戯曲「造られたもの」を神田駿河台印刷所から近刊

▲蝙蝠座 創立事務所を牛込横寺九芸術倶楽部へ置く

▲「俚謡研究」八月号 「創作」(野口雨情)「選者としての感想」(湯朝竹山人)その他

大正十五年七月二十七日

▲賀川豊彦氏 草津鈴蘭荘に滞在二十九日から御殿場東山荘イエスの友社に出講

▲新井紀一氏 市外高田町雑司ヶ谷上り屋敷一一二七に転居

▲服部嘉香氏 市外松沢村上北沢左内町東三ノ五に転居

▲「郷土」八月号 創作「しげ姉妹」(武藤直治)詩歌、ピリニヤーク赤松月船その他

▲新作紙本展並に盆栽石展 廿一日まで丸ビル二階丸菱呉服店で

▲芸天映画を見る会 廿八日神田日活館に「暗の天使」を観る

▲「日光」八月号 「短歌作者として」(白秋)「雪と野」

○七月二十三日 「水滸伝」は「水滸伝」の誤りか

菜」(夕暮)「アララギ評」(千樫)その他

大正十五年七月二十八日

▲木村武山氏 山形市に旅行一昨日帰京

▲黒田鵬心氏 廿八日から別府へ仏蘭西現代美術展、並講演の為旅行八月十三、四日ころ帰京、尚仏展は別府、福岡にて九月中旬から大阪にて開催する

▲石井柏亭氏 鎌倉にて二科出品作を製作中

▲正木不如丘氏 甲信越地方講演旅行中三十一日帰京

▲故有島武郎氏 新らたに発見されたる「愛する人々へ」を改造社から近刊する

▲野口雨情氏 富田淑雄氏と共に日光中禅寺湖畔鳶屋に八月一日から五日間滞在、児童芸術夏期大学に出講

▲中川紀元氏 岡本一平、小杉未醒外数氏霞ヶ浦に遊山に行き一昨日帰る

▲白鳥省吾氏 犬田卯氏と共に盛岡方面に講演旅行中

▲江口渙氏 月末から郷里栃木県烏山に旅行

▲三宅幾三郎氏 月半から千葉県大原町渡田に住宅を新築、九月のはじめ迄同所にて暮す

▲井東憲氏 静岡県旅行中三十日帰京

▲小林定美氏 新著「最新映画脚本の書方要諦」を本郷日本映画芸術研究会から近刊

▲尾崎久弥氏 校訂「洒落本集成」第一巻春陽堂から近刊

▲ロシヤ講演会 二十八日七時から神田青年会館「労農ロシヤの教育の実況」志垣寛氏「サウエート連邦の小印象」一氏義良氏

▲「枯野」俳句会 二十九日から八月二日まで浅間山麓吾妻で開催

の予定

大正十五年七月二十九日

▲武者小路実篤氏 感想集「平和の民」を新潮社から近刊

▲片上伸氏 高野山宝城院に滞在中今夏を同所にて送る

▲吉田絃二郎氏 長崎に旅行中

▲林重義氏 上落合七二六に転居

▲松波治郎氏 今般女児出生律子と命名「苦熟なほ堪ゆべうもなしうらぶれの父となりたる日の慌しうて」

▲樋口紅陽氏 伊豆半島旅行中明日帰京の予定

▲「解放」八月号 犬田氏の創作は秩序紊乱、高橋氏の詩、岡下氏の創作は風俗壊乱にて発売禁止直に第二版を発行すると

▲「随筆」三千部 三十日夜日比谷公園にて石井漢野外ダンスに先着順三千人に「随筆」を呉れる、後援水守亀之助、武藤翠雲

▲「創作」八月号 批評と添削(若山牧水)天城と湯ヶ島(大悟法利雄)短歌(若山喜志子)その他

▲「明暗」 九月一日創刊発行所静岡岡県志太郡広幡村明暗詩社から

大正十五年七月三十日

▲近松秋江氏 伊豆熱海中田に滞在中、来年四月まで同所にて暮す由

▲加藤武雄氏 山梨県甲府に講演旅行に赴く

▲佐藤春夫氏 越後方面の旅行を中止した

▲石川六郎氏 東京朝日学芸部長となつた

▲青野季吉氏 佐々木孝丸氏と共に信州下高井郡角間温

泉越後屋に滞在中八月一杯同所に暮す

▲吉田絃二郎氏 長崎の旅を終へ目下修善寺に滞在、八月三、四日頃帰京する

▲木村毅氏 京都の旅を終へ昨日帰京安部磯雄氏と共に即日北海道札幌に向け講演旅行に赴く

▲富士辰馬氏 ピリニヤークの「裸の年」を訳了新潮社から近刊する

▲「新青年」九月号 「現場不在証明」(角田喜久雄)「ラヂオの怪」(伊藤松雄)「盗者被盜者」(武井治)「山野先生の死」(大下宇陀児)「幽明」(牧逸馬)「浅草趣味」(江戸川乱歩)

▲「主観」八月号 康文、志郎、文一、正夫氏等執筆

▲「学苑」八月号 「哲学の分類に就て」(北吟吉)「富士谷御杖の言霊論」(土田杏村)他に増田慈良、渡辺秀方、河合讓その他の諸氏執筆

▲「伝説」八月号 「印度鰐」(武田豊四郎)「水中に於ける火」(藤沢衛彦)「木乃伊の話」(竹内道之助)「竜江院の貨狄像」(村上直次郎)「医王山の説」(室生犀星)等

▲「江戸軟派研究」八月号 「一九の異本反古張障子」(尾崎久弥)「濯頂巻」

大正十五年七月三十一日

▲堺利彦氏 自叙伝「堺利彦伝」を改造社から近刊する

▲小山内薫氏 戯曲集「森有礼」を改造社から近刊する

▲三上於菟吉氏 長編小説「日輪」の後篇を新潮社から近刊する

▲青山俊文二氏 先頃牛込早稲田鶴巻町四四四東北館に転居

▲北吟吉氏 「学苑」を自ら編輯担当する

▲岡田三郎氏 石川県方面旅行中八月半帰京する

▲熊岡美彦氏 大阪に肖像画揮毫中八月中旬帰京の予定

▲小倉右一郎氏 帝展出品作群像「蜜」を製作中

▲恩地孝四郎氏 目下小田原に滞在中近日一度帰京の上家族と共に今夏同所に暮す

▲津村京村氏 来月九、十兩日築地小劇場に於ける「としみ座」第一回公演に自作「詩人と女」を自ら演出する

▲津田光造氏 松本市南源地信陽タイムス社に入社当分同地に暮す

大正十五年八月一日

▲小杉未醒氏 小品滝十題展を一から五日まで王子水画房で開く

▲有島生馬氏 鎌倉に写生旅行中一昨日帰る

▲井上白陽氏 院展出品に応募すべく「芭蕉翁」を製作中

▲秋田雨雀氏 四日頃から郷里青森に一ヶ月位の予定にて帰る

▲近松秋江氏 熱海から上京中野の自宅にある

▲加藤武雄氏 短篇集「桑の実」を、細田源吉氏は長篇小説「大港」をいづれも新潮社から近刊

▲里見弴氏 上京中

▲小島政二郎氏 再度佐渡に赴いたが数日中に帰京の予定

▲中西伊之助氏 房総方面旅行中のところ一昨日帰る

▲新井紀一氏 先頃市外高田町雑司ヶ谷上り屋敷一一二七へ転居

▲河野慎吾氏 亡父十三回忌の法会のため播州赤穂へ帰つた

▲橋田東声氏 二十九日講演と墓参を兼ね土佐に赴く

▲武島羽衣氏 本日から富山、山形、宮城方面に講演旅行に赴く

▲「辻馬車」八月号 「憑かれた頭」角田健太郎「三本のパイプ」紺弓之進「六月の朝」上道真夫「秋の嘆息」大木雄三「夏の記憶」門脇義一郎その他

▲「霸王樹」八月号 第二あかね批評号とする

▲「同人社」東京句会 四日五時半から赤坂清水谷公園皆香園にて開く

▲創刊雑誌 「麒麟」本郷駒込動坂三二七其社から、「文士と詩人」名古屋中区西日置町十五文芸改造社からいづれも八月創刊

▲納涼書画骨董特別入札売立会 一日から共楽美術倶楽部で開催

▲「層雲」八月号 「木頭片記」「放哉を葬る」「初夏雑興」(井泉井)「放哉追悼俳談」「放哉書簡集」(層雲同人)

▲「層雲」八月号 「木頭片記」「放哉を葬る」「初夏雑興」(井泉井)「放哉追悼俳談」「放哉書簡集」(層雲同人)

大正十五年八月二日

▲片岡鉄兵氏 逗子行きを中止し十日頃から舞子にゴルフを練習に行き当分同地に滞在すると

▲鷹野つぎ子氏 長男正弥さん慶応病院に入院中の処三十日死去、昨日世田ヶ谷自宅にて告別式を済ませ本葬は郷里信濃松原湖畔で行ふ

大正十五年八月三日

▲児島善三氏 父君このほど逝去したが同氏は予定年限だけは在仏すると

▲石浜智行氏 上京中

▲戸川貞雄氏 堀木克三氏と共に上京中のところ平塚と大磯へいづれも昨夜帰る

▲厨川蝶子氏 「白村随筆集」を編み人文会出版部から

近刊

▲白井喬二氏 今夏中相州鎌倉長谷光則寺前白井宅に転住する

▲「不同調」 九月号から連載小説「文壇」を載せる第一回執筆者は戸川貞雄氏ときまる

▲日本作歌協会 白秋、至大、雨情、信綱、鳴秋、その他数氏発起のもとに組織し作者の許諾なくして作曲、振付、演奏、出版、放送その他作歌者本然の権利と利益を主張し擁護する

▲「ラ」 日本プロレタリア文芸聯盟美術部の略称「ラ」と決定

▲「悍馬」 休刊中のところ九月から再刊

▲吉田絃二郎氏 一昨日帰京した

▲梅原北明氏 大阪に旅行堂ビルホテルに滞在中六、七日頃帰京する

大正十五年八月四日

▲小杉未醒氏 別府へ旅行中

▲辻永氏 ハルビンの義姉死去同地に急行した

▲舟木重雄氏 一ケ年の予定で奈良に移住した

▲服部亮英氏 父君死去郷里伊勢に赴く

▲生田長江氏 「少し元気が出かかってゐました処数日前から突然またまた盲腸炎といふ難物に見舞はれて臥床、絶対安静を厳守させられることになりました経過は余り悪くない方ですけど当分の内執筆は駄目らしく思はれます」

▲築地小劇場パンフレット 三巻八月号は休刊した

▲清水弥太郎氏 二児共に重態にて慶応病院に入院中

大正十五年八月五日

▲故岩村透氏十年忌記念講話会 十七日午後二時から相州三崎桜の御所本堂（氏の墓所）にて坂井犀水、太田三郎、三宅克己三氏出講する

▲和氣律次郎氏 先頃ロンドンから帰朝した同氏は従前通り兵庫県武庫郡精道村打出吉岡別荘に居を定めた

▲田中貢太郎氏 「剪燈神話」の新訳を新潮社から近刊

▲佐々木千之氏 九州北陸地方五十日旅程を了へて帰京 尚氏は「憂鬱なる河」第二巻を新潮社から近刊する

▲足立直郎氏 市外代々木西原千八へ転居尚氏は七月三十一日限り聚芳閣の営業と関係を絶つ

▲幡谷正雄氏 名古屋へ放送を兼ね関西方面へ一週間程旅行する

▲大槻憲一氏 九十九里浜片貝村鈴木方に滞在十五日頃帰京

▲鶴田英太郎氏 祖父三回忌法会の為陸前石の巻町に帰郷中

▲「造型」第二回展 八月二十三日から二十九日まで三越のギャラリーにて開催

▲吉田絃二郎氏 一昨桐生に赴く

大正十五年八月六日

▲藤井浩祐氏 明日から葉山へ

▲石井柏亭氏 大船駅前新鎌倉住宅に滞在中

▲山下新太郎氏 熱海へ旅行中二十日頃帰京の予定

▲吉田白嶺氏 信州方面旅行中のところ昨夜帰る

▲真山青果氏 家族と共に松島ホテルに滞在九月初め帰京の予定

▲陶山篤太郎氏 「僕はパンの活動に熱殺され毎日タライブールを急設して親子もろとも精神のこげるのを防禦して、ひたすら井戸の霊香をおがんでゐます」

▲「新潮」八月合評会 中条百合子、宇野千代、三宅やす子、佐々木房子、岡本かの子氏等女流作家のみにて昨夕開催された

大正十五年八月七日

▲高畠素之氏 マルクスの資本論三巻の下を新潮社から近刊

▲加藤武雄氏 甲府旅行中のところ本夕帰京の予定

▲倉若梅二郎氏 三児共に病床にあり長男光君は肺炎にて重態なりと

▲「春秋吟社」納涼句会 十五日一時から鶴見倶楽部 風鈴、夏草各二句赤子吟社外五社後援

▲「愛誦」 九月号 大学、八十、春月氏等執筆

▲日本交響楽協会 銀座尾張町二ノ二十二に移転

▲「大衆文芸」 九月号 「苦勞の思出」荻舟、蘆江、不木、三十五、挿雲、伸氏等執筆、表紙は河野通勢氏筆「高尾と紫式部」

大正十五年八月八日

▲木村武山氏 風邪引籠中

▲関口隆嗣氏 千葉県大原に旅行中近日帰京の予定

▲九条武子氏 鎌倉滞在中、十五六帰京して下旬は北海道に旅行、札幌の真宗聯合婦人大会に出席する

▲野口雨情氏 明日大磯へ講演に赴く

▲細田源吉氏 九月初旬まで千葉県岡津郡樽葉村石井方に居住

▲梅原北明氏 大阪から帰京した

▲仲木貞一氏 「当地へ参りテント生活を致し村長に雇はれ申候原始生活も一しほの興味二十日帰京の予定に候」新舞子にて

▲小田切史氏 山陽新報に長篇小説「青春行路」を執筆

大正十五年八月九日

▲横山大観氏 茨城方面旅行中

▲下村観山 病臥中

▲中村武羅夫氏 長編小説「瑠璃鳥」を新潮社から近刊

▲松岡譲氏 九月まで日光町四軒町大田黒別荘に滞在

▲本山荻舟氏 「名人畸人」の後篇を神田至玄社から出版した

▲「夏草」の会 千家元麿氏新詩集「夏草」の出版記念会を十四日夕六時から神田小川町大常盤にて開催する

▲今井邦子氏 信州上諏訪湯の協関三之助方に滞在中で月末帰京

▲桂人氏帰朝歓迎句会 八日夕六時から芝公園鑑蓮社にて

▲白山卓吉氏 水墨画頒布会を起す。申込所大井町水神下二〇八三月草舎

▲「耽美」九月創刊同人代表大関修郎、徳田戯三、森本秘羅、高崎章、金子文樹氏等、近代耽美派を創出し、在来の近代美よりも更にかくれたる一切の審美を文芸に依りて高唱すると

▲十日会 八月例会は暑中に付休会すると

大正十五年八月十日

▲「文芸市場」「変態十二史」出版記念のため伊豆長岡に旅行一行生方敏郎、井東憲、村山知義、沢田撫松、梅原北明の諸氏

▲木村毅氏 北海道の旅行を了へて帰京した

▲河野通勢氏 一両日中に房州方面へ旅行する

▲岡本潤氏 京都市上京区等持院南町十に月末まで滞在 九月上京

▲今井邦子氏 信州上諏訪湯の協関三之助方に月末まで

滞在

▲小栗慶太郎氏 「マルクス資本論展」(ヘルマンカーン)を訳した新潮社から近刊

▲日本エスペラント学会 財団法人の認可を得

▲藤井外喜雄氏 九月下旬華族会館に個展開催今冬再び渡欧

▲俳句雑誌「藁筆」創刊号 生田葵、林和、畑耕一、落合浪雄、吉井勇、太田三郎その他數十氏同人で淀橋柏木九五六其社から創刊

大正十五年八月十一日

▲「婦人公論」九月号 創作欄「大道無門」(里見弴)「涛声」(加藤武雄)「明るい方へ」(下村千秋)「金欄戦」(白井喬二)「嘘の第一章」(武林文子)

▲谷崎潤一郎氏 「谷崎潤一郎集」(現代小説全集第一巻)を新潮社から近刊

▲太田三郎氏 市外西荻窪丸山九百十九に転居(省線西荻窪下車)

▲井上康文氏 房州北条に滞在中

▲今野賢三氏 本夕出発北海道に赴く

▲正富汪洋氏 「短唱夏百篇」を新進詩人九月号に掲載

▲正岡蓉氏 短篇集「風船紛失記」を改善社から出版

▲「郊外」九月号 楚人冠、岡野知十、佐藤佐元、氏等執筆

▲零座 今秋帝国ホテル演舞場に第四回公演を催す関係者古賀竜視、松永章二

大正十五年八月十二日

▲前田夕暮氏 家族と共に四万温泉田村旅館に在り「ゆふべ近くまだしめりある張りたての障子にひびくかな

かなのこゑ」

▲吉田白嶺氏 再び信州野尻湖畔飯島別荘に赴く

▲牧野信一氏 今夏中小田原に帰省する

▲加藤静児氏 彦根へ旅行中

▲井東憲氏 本日出発北海道へ講演旅行する

▲綿貫六助氏 信州から会津方面へ旅行九月中旬帰京する

▲増田俊雄氏 新訳「水と焰」(ロッド著)を新潮社から近刊

▲平野止夫氏 新著「真田大助」を近刊する

▲南柯吟社 十四日午後六時芝赤羽橋福井亭に開催

▲宗達会 本日午前十時から金沢市宝円寺に第十三回忌を催す

▲旅行雑誌「旅情」を四谷区新宿一の三四日本文化旅行倶楽部から創刊

▲「隨筆」九月号 春夫、如是閑、三又、未醒、純其他の諸氏執筆

▲「劇と評論」九月号 戯曲「莫迦」(ピランデルロ)「四年間」(北村寿夫)「桶峡間」(岩谷三三)「新聞鳴動」(八田元夫)「山の喜劇」(北村喜八)その他

▲「戦車」九月号 創作江戸川乱歩、崎山猶逸、岩永胖その他の諸氏執筆

▲「デッサン」第三輯 素描の研究号とし「僕の言葉」(岡本)「素描寸感」(鶴三)「素描小感」(荘八)その他

大正十五年八月十三日

▲「女性」九月号脚本号 戯曲「みない島」(武者小路実篤)「仲秋明月」(水木京太)「盗人」(前田河広一郎)

▲「父子」(豊島与志雄)「鼠小僧次郎吉」(真山青果)「辰巳婦言」(久保田万太郎)

▲加能作次郎氏 箱根芦の湯紀の国屋に滞在中兩三日中に帰る

▲辰野隆氏 一兩日中に房州方面に旅行する

▲谷崎精二氏 近日中に信州方面の温泉地に赴く

▲松根東洋城氏 叡山上に滞在中

▲飯田莫哀氏 旅行を了へ帰京

▲日本漫画家聯盟発会式 十五日午後五時から本郷燕楽軒に開催

▲「郷土」九月号 若山喜志子、和田山蘭、その他執筆

大正十五年八月十四日

▲「解放」九月号 創作「巡查と看護婦」(吉田金重)「彼の負傷」(黒島伝治) 戯曲「奴隸」(狩野鐘太郎) 史劇

「秀吉の遺言」(落合三四郎)

▲佐藤春夫氏 「新潮」九月号に五十枚程の論文「作家の生活を論ず」を発表する

大正十五年八月十五日

▲藤井浩祐氏 三十一日東京放送局にて「美術期を前にして」と題し放送する

▲堅山南風氏 熊本に滞在、院展出品作は同地にて制作中

▲金子薫園氏 千葉県興津町海岸に八月一杯滞在「ささかにのむらがり圃へる路ばたに夾竹桃の花ざかりかな」

▲福田正夫氏 高梨直郎氏、房州勝浦海岸に八月一杯滞在

○八月十三日 「郷土」は「郷土」の誤り

○八月十六日 「文壇」(第一戸川貞雄)は「文壇」第一(戸川貞雄)の誤り

○八月十八日 「私田市」は「秋田市」の誤り

▲島田青峯氏 八月一杯千葉県大原町に滞在

▲加宮貴一氏 関西方面の旅行を了へ先頃帰京

▲岡本一平氏 昨夜大阪に赴く

▲会宮一念氏 御殿場に滞在中のところ一昨日帰京した

▲幡谷正雄氏 東海道旅行を了へ千葉に帰った

大正十五年八月十六日

▲「改造」九月号 創作「嵐」(島崎藤村) 戯曲「恋愛恐怖病」(岸田国士)「東京駅」(正宗白鳥)「雨後」(中条百合子)「元の枝へ」(徳田秋声) 戯曲「お城の人々」

(長与善郎)「黄昏」(広津和郎)「この三つのもの」(佐藤春夫)「青塚氏の話」(谷崎潤一郎) 戯曲「画室の主」

(武者小路実篤)

▲「不同調」九月号創作「断唱」(牧野信一)「お産」

(堀木克三)「味覚」(国木田虎雄) 別にゴシップ連作小説「文壇」(第一戸川貞雄)

▲吉田絃二郎氏 信州沓掛星野温泉に滞在中

▲永田竜雄氏 熱海ホテルに滞在

▲永田衡吉氏 十三日関西旅行を了へ帰京

▲「石楠」九月号 亜浪、蒼梧、露月、鬼城、その他執筆

▲「椎の木」創刊 詩句雑誌とし十月号から府下中野二七五六百田宗治方から創刊

▲小宮山明敏氏 千葉県君津郡竹岡村に滞在

大正十五年八月十七日

▲芥川龍之介氏 引続き家族と共に茅ヶ崎に滞在中

▲佐藤義亮氏 伊香保に滞在

▲津村京村氏 第二脚本集「戦国異風心中」を京橋彩雲堂から近刊

▲牧神座 九月十二日築地小劇場に第三回開演

▲小野十三郎氏 大阪市南区田島町二四に滞在

大正十五年八月十八日

▲ルビエンスキー氏 昨日東京駅発特急でポーランドに帰国数年中には再来朝の予定

▲小山内薫氏 北吟吉氏と共に本日出発講演のため新潟に赴く予定

▲池士秀畝氏 樺太に旅行中近日帰京

▲神近市子氏 「未来をめぐる幻影」山崎今朝弥氏著「解放戦線上に於ける犬の遠吠法律の悪戯」を本荘可宗氏

「解放の哲学」を解放社から近刊

▲今東光氏 銚子犬吠岬曉鶏館に滞在

▲綿貫六助氏 福島県安達郡高玉温泉春日館に滞在長篇執筆

▲伊藤永之介氏 本月一杯私田市長野下堀端町に滞在

▲岩野英枝氏 新潟に帰省中

▲井上淡星氏 「詩経」和訳中国風百六十篇を脱稿

▲林間講座会員募集 二十日から廿五日まで府下高井戸村上高井戸第六天神社前大西方講師、石川三四郎、中西伊之助、新居格、室伏高信、加藤一夫、江渡狭嶺その他の諸氏

▲「舞台評論」九月号 戯曲「清玄」(畑耕一)「破られた画像」(山本周五郎)「戦国挿話」(山下巖)

▲近代劇場 夏季講習を開始男女研究生を募集

▲「俳壇往来」九月創刊 神奈川県葉山町堀内一六七〇

菅谷方から

▲解放社 「最近解放論文、隨筆傑作選集」近刊

大正十五年八月十九日

▲岡田三郎助氏 八千代夫人と共に京都から金沢方面へかけて旅行中

▲横山大観氏 箱根から帰った

▲山本鼎氏 廿三日頃帰京する

▲堀進二氏 塩原へ旅行中

▲辻永氏 ハルピンから帰京静養中

▲梅原竜三郎氏 沼津三島館別荘に九月初めまで滞在

▲杉浦非水氏 翠子夫人と共に九月上旬まで軽井沢ヶケ滝に滞在

▲富士辰馬氏 新訳「裸の年」(ピリニヤーク)を新潮社から近刊

▲加藤静児氏 彦根に在り近く奈良へ向ふ

▲井上康文氏 小田原から帰京二十二日再び北条に赴き同地での詩話会に出席

▲中山昌樹氏 詩集「宇宙の微笑」を新生堂から近刊

▲落谷虹児氏 長男決児さんは疫痢で死去葬儀は虹児氏帰朝の後行ふ

▲故久津見藤村集 印税を遺族養老並に教育資金に充てるため小石川小向台町文化学院出版部から刊行

▲鷹田其石氏 越中黒部峡谷滞在中

▲陶山務氏 仙台に旅行中

▲川瀬巴水氏 浅草区旅籠町一ノ八に転居

▲武野藤介氏 九月一杯鎌倉由井ヶ浜町滞在毎日曜自宅に帰る

▲「新小説」九月特輯 戯曲「新宿夜話」(岡本綺堂)「枝にかゝった金輪」(坪田譲治)「門出」(藤森成吉)「秋

風と母」(尾崎士郎)「化粧学校のフラスコ」(久野豊彦)「彼の女の盛装」(川端康成)戯曲「妖婦」(池田大伍)「支那燈籠」(吉田絃二郎)

▲「解放」九月号 創作「巡査と看護婦」(吉田金重)「彼の負傷」(黒島伝治)「奴隸」(狩野鐘太郎)「秀吉の遺言」(落合三四郎)

▲「日仏芸術」九月号 「ギュスターヴ・モロー論」(ムウレエ)「彫刻雑感」(確治)その他

▲「文芸市場」九月号 創作欄「眼玉」(井東憲)「喜代子の影」(杉村善寿郎)「油虫」(高群逸枝)「海岸小景」(新井紀一)

大正十五年八月二十日

▲細田源吉氏 下野国那須郡北温泉熊ヶ谷方に滞在「夏虫や宵寝がちなる山の宿」

▲青野季吉氏 長野から近日一寸上京する

▲福田正夫氏 長篇抒事詩「破れ胡蝶」を新潮社から近刊

▲酒井真人氏 廿四日ころ四国へゆく

▲鍋田英太郎氏 「劇と評論」十月号から編輯に従事

▲「劇と映画」九月号 団、菊、左号とし三名優の写真満載する

▲「アトリエ」九月号 金原省吾、一氏義良、三浦逸雄、大野隆徳、石川欽一郎、寺崎武男その他数氏執筆

▲「新進文壇」九月号 歌壇新人号として発行

▲「地上楽園」九月号 「旅情八篇」(省吾)「詩」(勝五郎、清一、淳一、その他)

▲「文芸道」九月号 創作「失業労働者と旋盤」(新井紀一)「軽騎兵と田舎娘」(楨本楠郎)「きりぎりす」(水野葉舟)「女房と梅干」(本間一咲)

▲「演劇改造」九月号 戯曲「直助と伊右衛門」(畑耕一)

「海豪毛刺」(林和)

▲「詩歌時代」九月号 評論川路柳虹、短歌、山田邦子、土田耕平、其他長詩室生犀星、中西悟堂等

▲夏の小サロン 中原、村山、大浦、川崎、野呂その他の諸氏によつて二十四日まで鎌倉海浜ホテルに開催中

大正十五年八月二十一日

▲「中央公論」九月特別号戯曲「白日夢」(谷崎潤一郎)

▲「大石良雄」(野上弥生子)「カナリヤ」(正宗白鳥)「妹」(小島政二郎) 戯曲「オンネコタン」(里見淳)「暑さに喘ぐ」(徳田秋声) 戯曲「ありそうみ」(久保田万太郎)「亡びる」(佐々木茂索)「下女」(宇野浩二)「義経」(網野菊)「新秋の記」(佐藤春夫)

▲「随筆」九月号 創作欄「彼と彼女」(舟木董信)「煙害木に似て」(鈴木彦二郎)「同郷人」(前日夕暮)

▲水守亀之助氏 新著「死を前に」が大阪屋号から近刊

▲細田源吉氏 信州白骨温泉に移つたが月末帰京

▲額田六福氏 伊香保ホテルに滞在中

▲小栗愛太郎氏 新訳「マルクス資本論の発展」を新潮社から近刊

▲並木秋人氏 福島県に帰省

▲文芸家協会 夫人を喪つた横光利一、令息を喪つた鷹野つぎ子両氏に弔慰金を贈つた

▲「劇と人間」九月号 喜劇「馬車馬」(若月保)「本能寺の夜」(梅本雅彦)「第二の扉」(伊普泉)「お人形礼讃」(山川静)

▲二十一日会同人 八月例会を多摩河原玉華楼に開催大阪より土師清二氏、奈良より直木三十五氏上京

▲「中央美術」九月号 「ジョージ・クローゼン」(柏亭)

▲「絵画的と文学的」(幸太郎)「ソワレ・ド・パリの運動」(豊雄)「自叙伝」(横山大観)「耕魚品画談」(栖鳳)

▲「梨」 九月号から一般文芸記事をも掲載

大正十五年八月二十二日

▲「文芸春秋」九月特別号 創作「春の夜」(芥川龍之介)

「お葉小母」(滝井孝作)「螢子」(金子洋文)「呑気な離別」(武者小路実篤)「大黒像と鴛籠」(川端康成)「旧悪」(宇野浩二)「秋」(久保田万太郎)「晩秋」(志賀直哉)「連作長篇」(三宅やす子)

▲「文芸時代」九月号 創作「よくある生活」(伊藤貴麿)

「愚かなる奇跡」(菅忠雄)「温泉場物語」(田代威三)「風人」(岩永胖)「我等の配列」(飯田豊三)「祖母」

(川端康成)「田園の青春」(鈴木彦次郎)

▲「演劇新潮」九月特別号 戯曲「丈草庵の秋」(吉田絃二郎)「墜落」(北村小松)「坂」(金子洋文)「阿国出世」

(額田六福)「閉らぬカーテン」(横光利一)「身うり」(長田秀雄)「小暴君」(里見亭)

▲土田麦僊氏 腸を病んで静養中

▲伊藤深木氏 関西、北越の五十日の旅から帰った

▲萩原恭次郎氏 前橋方面の旅行から明日頃帰京

▲神永文三氏 新訳「マルキシズムの崩壊」(シンコヴキツチ著)を新潮社から近刊

▲宮沢浩氏 房州館山に滞在

▲「日光」九月号 「歌論」(白秋)「作者別万葉以後」(善麿)「宗清と芭蕉」(羅月)その他

▲心情詩社同人 三浦徳美、金尾兼勝、馬渡幸子、小松柳吉、瀬田弥太郎共著の「心情詩集」出版を記念するため本日午後一時から大阪西横堀書林俱樂部に同会開催

○八月十九日 「軽井沢ヶ滝」は「軽井沢千ヶ滝」の誤りか
○八月十九日 「彼女の盛装」は「彼女の盛装」の誤り
○八月十九日 「杉村善寿郎」は「松村善寿郎」
○八月二十二日 「大黒像と鴛籠」は「大黒像と鴛籠」の誤り

▲「造型第二回作品展」 二十三日から二十九日まで三越ギアラリーに開催

▲白山会講演会 本日午後七時小石川白山神社境内に於て第五回講演会を開催、野中貞氏、田丸卓郎氏等講演

大正十五年八月二十三日

▲「三田文学」九月号 「シレジャ織工」揆の事実」(小泉信三)「天上聖母のこと」(佐藤春夫)「母に関する記憶」(加宮貴一)「汚点を洗ふ」(倉島竹二郎)「普請好き」(藤原誠一郎)その他

▲「早稲田文学」九月号 創作「新しい町の挿話」(小川未明)「罪」(中村星湖)「八万円」(伊藤貴麿)「別宴」(和田伝)「貧民回帰」(中山義秀)「笛を流した与吉郎」(湯浅真生)「雑森」(千賀謹二)「母」(占館清太郎)

▲菊池寛氏 厳父死去郷里高松に帰省中のところ先頃帰京した

▲藤森成吉氏 信州方面旅行中

▲秋田雨雀氏 廿五日頃弘前劇研究会発会式で講演、廿八日青森市に開催の仏露文学講演会に出席、九月三日青森県エスベラント第三回大会を弘前公開堂に開催出席する

▲矢野橋村氏 水田竹圃、同硯山、矢野鉄山の三氏と共に九月一日出京

▲室生犀星氏 九月十五日頃まで軽井沢に滞在

▲真野紀太郎氏 昨日信州上高地へ出発

▲服部嘉香氏 相州鶴沼海岸に滞在中

▲斎藤氏 「カントとフツサル」及び「形而上学」の翻訳権を伯林エールリッヒ博士より得「形而上学」の方の翻訳に着手

▲国民美術協会 十一月五日から末日まで独逸現代美術展を上野美術協会に新旧両派の代表作五百十七点を出陳

▲野川隆氏 下渋谷一八〇エビスクラブに引越した尚ほ来月五日から五日間銀座一丁目岩谷冷蔵二階でポスタ原画展開催

▲河盛久夫氏 日本漫画聯盟本部委員を辞任脱退

大正十五年八月二十四日

▲横山大観氏 一昨日箱根から帰京同日常陸五浦に赴く

▲中村武羅夫氏 中禅寺湯本に滞在長篇執筆中

▲中条百合子氏 赤倉温泉に一週間滞在中のところ一昨日帰京した

▲三宅やす子氏 千葉から帰京中のところ一昨日再び千葉御宿に赴いた

▲藤井真澄氏 日本アルプスに登山一両日中に帰京の予定

▲網野菊子氏 軽井沢千ヶ滝四十二号に滞在今月帰京する

▲田中宇一郎氏 山形県鶴岡市大洪水に生家辛くも無事

▲高梨直郎氏 房州勝浦から近日帰京

▲「原始」九月号の「無限の寂寥」(江口渙)「過去の心」(村松正俊)その他

▲日本漫画家聯盟本展 二十七日から五日間白木屋呉服店に監時展開催、即席画をかく

▲「心の花」九月号 「伊勢訪古録」(佐々木信綱)「柿園詠草の作者加能諸平論」(川田順)「歌集窓を評す」

71

(新村、斎藤、常盤、九条その他)

▲「生活者」九月号 創作「洋上」(山根邦夫)「朝」(磯長ゆい)「平泉炎上」(村上秀)「引越し」(吉田泰司)「隠れん坊」(道山虎夫)

▲「探偵趣味」九月号を十月号と合併、爾後小酒井不木、甲賀三郎、江戸川乱歩三人編輯の任に当り「同人傑作集」と銘打ち新に長谷川伸、国枝史郎、保篠竜緒外十数名加はる

▲槐樹社事務所 市外巢鴨町上駒込九八に転居

大正十五年八月二十五日

▲「日露芸術協会委員」 秋田雨雀、茂原唯士、金田常三郎、高橋晩成、淡谷貞蔵の五氏は青森、函館両市に於てロシヤ文芸講演のため明日出発

▲橋本関雪氏 支那から帰洛今秋の帝展へは出品しないと

▲森田恒友氏 埼玉の郷里から帰京

▲黒田鵬心氏 福岡にて仏展開催廿一日帰京の予定

▲福永渙氏 万朝報社を退社

▲広瀬操吉氏 北海道石狩方面旅行中

▲綿貫六助氏 盤越西線高玉温泉山城屋に転宿

▲井東憲氏 北海道公園旅行を了へ本日帰京

▲並木秋人氏 飯坂温泉に滞在中

▲服部亮英氏 津聯隊へ召集

▲間部時雄氏 九月三日から五日まで三越で滞欧展開催

▲渡辺大虚氏 四川三峽の旅を了へた

▲「戦国異風心中」の会 津村京村氏の同著出版を記念するため二十八日夕六時から京橋西紺屋町実業ビル地下室共楽軒に開催

▲「演劇研究」九月号 喜劇「恋と非常線」大関修郎 外に吉蔵、松翁、広一郎、貞一、その他執筆

▲「つはぶき」九月号 田辺、生哉、正人執筆

▲「梨」九月号 創作「三田を通らず」(和木清三郎)「スウキトホーム」(宮川久雄)「虚」(青柳信雄)「ラヂオドラマニフ」(和田保)

▲「創作」九月号 若山牧水、大悟法利雄、その他執筆
▲「随筆」九月号 故有島武郎氏の書簡未発表のもの二十四通発表

▲「驢馬」九月号 創作「眼覚め」(窪川)「黒い足」(宮木)

▲「日本詩壇」九月号 「山桃■空」(坂本)「病床独語」(坂本哲郎)その他

▲四六版「解放」九月号 「幸徳秋水書簡集号」とし手紙七十余通掲載

大正十五年八月二十六日

▲前田青邨氏 大作「大友宗麟」を中止し「西遊記」を院展に出品のため製作中

▲山本鼎氏 帰京間もなく石川県へ旅行

▲辻永氏 昨日家族と共に房州へ出かけた

▲荒井寛方氏 去る廿日イタリーから帰朝

▲小杉未醒氏 水戸から帰京

▲小川芋銭氏 丹波へ旅行院展出品製作中

▲野村吉哉氏 牛込区横寺町四〇大壮寮に転居

▲「美術新論」創刊 槐樹社同人編輯とし巢鴨美術新論社から創刊

▲平沢大障氏 北海道登別カルルス温泉岩井旅館に当分滞在

▲松本昌夫氏 九州から帰京

▲「劇場」九月号 戯曲「豊臣秀次」(鈴木善太郎)「馬車の中の男」(モルナア)「舞台装置家のノート」(繁岡鑑一)

大正十五年八月二十七日

▲文芸家協会委員 菊池寛氏、山本実彦、中根駒十郎、山本有三、加能作次郎の諸氏と共に本日二度発売禁止問題にて内務大臣と第二回目の会見を為す

▲里見弴氏 大阪に講演旅行中一兩日中に帰る

▲藤井浩祐氏 葉山から昨夜帰る

▲広津和郎氏 短篇集「秋の一夜」を田中貢太郎氏は支那雑筆「蛇精」を何れも改造社から近刊

▲木村毅氏 葉山に滞在月末帰京

▲楠田敏郎氏 月末若狭へ講演旅行する
▲今野賢三氏 三部作「暁」の第三巻として「光に生きる」を新潮社から近刊

▲「新思潮」復活 文芸春秋社では主として無名作家の発表機関として十一月号から発行

▲「解放」九月号 青野季吉氏の時評により発売禁止された直ちに再版発行

▲「辻馬車」九月号 創作「最後のドンファン」(小野)「かなぶん」(今)「無額」(上道)その他

▲「思想」九月号 「原始仏教の縁起説」(和辻哲郎)「受胎告知」(矢代幸雄)「芭蕉俳諧研究」(諸家)「書籍の周囲」(林達夫)「フイヨールの旅」(安倍能成)その他

▲林俊衛氏 奈良足立源一郎方に滞在中

▲千葉亀雄氏 昨夜下阪した

▲島田芳文氏 秀芳閣秀才文芸社と共に府下駒沢新町二九七へ転居した

大正十五年八月二十八日

▲生田長江氏 ニイチエ全集第九巻として「偶像薄明」を新潮社から近刊

▲藤森成吉氏 一昨日信州から帰京した

▲有島生馬氏 一家を挙げて鎌倉別荘に滞在二十九日頃
帰京

▲吉田白嶺氏 院展出品作審査の爲め三十一日帰京する

▲石井林響氏 本月一日大網の別荘に一家を挙げて滞在中

▲斎藤与里氏 雑誌「美術新論」の用務で向後毎月一回
大阪から出京する

▲名取春仙氏 院展出品に必ずべく「姐妃」を製作中

▲福田正夫氏 長編詩「破れ胡蝶」を新潮社から近刊

▲尾崎久弥氏 愛知県古見海岸に滞在中

▲安部正義氏 久しくポストンにて作曲及び音楽研究中
であつたが廿八日横浜入港の横浜丸にて帰朝する

▲上野山清貢氏 市外野方町下沼袋九十五に転居

▲岩佐新氏 「美術新論」に入社した

▲竹内逸氏 西須磨から京都へ帰つた

▲高梨直郎氏 房州から帰京戯曲「肉親」九月早々大阪
無名座に上演のため下阪

▲「霸王樹」九月号 私燭批評倍大号とし佐々木信綱、
下村宏、相馬御風、その他執筆

▲イラ芸術社 区劃整理で神田仲猿楽町八に仮移転

▲戯曲発表会員募集 小石川駕籠町新劇研究所で募る九
月創会は四日夜六時開催

▲「学苑」九月号 「斯く余が見たる能楽」(野々村戒三)
「大隈言動のリアリズム」(土田杏村) 其他

▲新作展覧会 岡田華廷、水田硯山両氏の新作画展三十
日まで丸ビル二階丸善催物場に開催

▲「早文」九月号 「英米審美劇と他の二劇相」(日高只
一)「文学の要素としての美的情緒」(本間久雄)その
他

○八月二十四日 「監時展」とあるが「臨時展」の誤りか

○八月二十五日 「盤越西線」は「磐越西線」の誤り

○八月二十九日 「岩城方面」は「磐城方面」の誤りか

○八月三十一日 「苦悩の街」は「苦惱の街」の誤り

▲「アララギ」九月号 「短歌」(麓、茂吉、文明、百穂、
耕平)その他

▲東洋大学書道研究会 九月新学期尾上八郎、小野鷲堂、
林古溪三氏講師

大正十五年八月二十九日

▲山本有三氏 一昨夜岩城方面に旅行した

▲藤井達吉氏 脳貧血症で引続き臥床中

▲横光利一氏 風邪にて文芸春秋社に引籠中

▲河井寛次郎 長旅から帰洛した

▲葛原齒氏 栃木県新那須温泉山菜に滞在

▲高橋邦太郎氏 千葉勝浦から帰京

▲「香蘭」九月号 「言葉の吟味」(翠子)「象徴論」(敏
夫)その他

▲「常春」九月号 「百姓歌人としての魚貫」(相原)「浦
塩貝輪講」(花袋、麦の秋、駿生、秋人その他)

▲宮森麻太郎氏 英訳「細川忠興の妻」(綺堂作)は「ポー
エト・ローア」に掲載された

▲久保栄氏 新訳「解放されたウオタン」(トルラア著)
を原始社から近刊

大正十五年八月三十日

▲「文芸行動」廃刊 九月号から廃刊同人は一時解散

▲「新青年」九月増大 「パノラマ島奇譚」(江戸川乱歩)

▲「秘密」(平林初之輔)「殺人映画」(宇野春)「夢遊歩
行」(高田義一郎)「凶い日」(戸川貞雄)「急行十三時
間」(甲賀三郎)「五階の窓」(小酒井不木)「はんめう」

(正木不如丘)「あやかしの鼓」(懸賞当選)

▲神近市子氏 ラモン・コフマンより翻訳権を得て「子
供の人類史」を某書店から近刊

▲井上康文氏 昨夜北条から帰京

▲高橋季氏 市外長崎村大和田二一五八に転居

▲岡田道一氏 山形高湯温泉から三十一日帰京

▲湯島自由画室新学期 九月六日開始、同時に前田寛治
氏指導の写真研究部新設

▲本郷絵画展覧会 岡田三郎助氏主宰の本郷絵画研究所
では同会々員試作展覧会を九月一日から八日まで丸ビ
ル丸菱呉服店二階に開催

▲「講談倶楽部」十月号 「怪人」(中村武羅夫)「愛染
手綱」(今東光)「鏡台前」(小山内薫)その他

▲「戯曲時代を偲ぶ」会 来月中旬板垣守正、北村小松、
山根邦夫氏等主催で記念会を催し同人の脚本集を出版

大正十五年八月三十一日

▲北吟吉氏 佐渡から帰つた

▲小寺健吉氏 廿七日房州から帰つた

▲大宅壮一氏 「共産部落民の研究」を新潮社から近刊

▲脇本楽之軒氏 関西方面の旅行を了へ帰京した

▲北村喜八氏 新著「新しい演劇へ」を原始社から近刊

▲池田永治氏 支那旅行から帰つた

▲佐々木千之氏 「憂鬱なる河」の第三巻として「苦悩
の街」を新潮社から近刊

▲マヴォ主催劇及舞台装置展 九月一日から十日間京都
高島屋呉服店に開催

大正十五年九月一日

- ▲近松秋江氏 近日熱海を引揚げ帰京する
- ▲山下新太郎氏 四日夜「美術の話」を放送する
- ▲近藤浩一路氏 京都室町通鞍馬口北、(小山下総町三七)へ転居院展に大作「茶摘」「九里峽」を出品本日上京五日まで滞在六日三島に立寄り帰路
- ▲岡田三郎氏 湯ヶ原中西旅館に滞在近日帰京
- ▲池田桂仙氏 橋村、鉄山、竹圃、硯山、の四氏と共に東上上野名倉屋に投宿
- ▲今井邦子氏 一昨日信州から帰った
- ▲「新思潮」九月号 「不幸な鴉の話」(丸山清)「ある朝の鈍感」(矢野万里)「薄明」(秋山六郎兵衛)「将来の舞踊」(武田忠哉)

大正十五年九月二日

- ▲北原白秋氏 年刊詩歌集「白秋」をアルスから近刊尚十月から純文芸雑誌「近代風景」を創刊する
- ▲松根東洋城氏 塩原滞在中
- ▲橋爪建氏 伊東に滞在同地小学校で講演した
- ▲本方秀麟氏 会津から帰京
- ▲平野威馬雄氏 中渋谷六六八藤田病院に当分入院
- ▲島田弟両氏 市外北笹塚一三九六へ転居
- ▲柳田泰麓氏 麻布飯倉片町二七に転居
- ▲「人間群」 九月休刊十月号より続刊

大正十五年九月三日

- ▲佐藤春夫氏 小石川関口町二〇八に芸術的の住宅を新築十月初めに引移る
- ▲吉井勇氏 新著「黒水十二夜」を聚英閣から近刊

▲富田碎花氏 上京中五日頃蘆屋に帰る

- ▲中河与一氏 支那方面の旅行を終へ去月卅日帰京
- ▲木蘇穀氏 万朝報社を退き千葉市登戸町高砂子三二二星野方に書齋を移した
- ▲中野正人氏 牛込区赤城下町三〇関方に転居
- ▲生活者演劇部打合会 十日午後一時市外高円寺板垣守正宅に開催
- ▲渋谷俳句会 五日午前十時から増上寺前協調会館に開催
- ▲「銅鑼」七輯内容 健介、刀水士、十三郎、心平、充雄、八郎、新吉その他
- ▲「伝説」特輯号 (神秘怪異号)とし「月に生物を棲ませた神秘伝説」(藤沢衛彦)「二つ目三つ目」(石川千代松)「植物の怪異に就て」(白井光太郎)「西洋の魔性の動物」(畑耕一)「操人形の怪談」(水島爾保布)

大正十五年九月四日

- ▲鹿子木員信博士 本日午後六時半帝大山上会議所に於て「日独文化聯絡機関設備について」を講演
- ▲倉田百三氏 短篇集「赤い霊魂」と論文集「一夫一婦か自由恋愛か」を岩波書店から近刊する
- ▲内藤濯氏 新訳「ベリアル夫人」(ヴィルドラック作)を脱稿白水社から近刊同社では引続き仏蘭西近代劇叢書を刊行
- ▲尾瀬敬止氏 新訳「国民教育の諸問題」(ルナチャルスキイ著)を聚芳閣から近刊
- ▲沢田撫松氏 自宅改築中の一ヶ月程を長野県小県郡西内村霊泉寺温泉おもだか屋旅館に仮寓する
- ▲伊藤貴隆氏 帰省中のところ昨日上京した
- ▲和田伝氏 九月一杯神奈川県厚木町在思名に滞在
- ▲「構成派」十月号から創刊発行所野獣郡社

▲「黄橙」九月例会 八日午後六時から神楽坂クラブに開催勝峯普風氏出席

- ▲常春歌会 五日午後一時から中野宝仙寺に於て歌会開催
 - ▲樺火俳句会 七日夕五時から代木上原一二六五石上方に開催
 - ▲牧神座 第三回試演十二日午後六時築地小劇場に開演
- 大正十五年九月五日

- ▲北村喜八氏 新訳「地平線の彼方、毛猿」を原始社から近刊
- ▲井田孝平氏 新訳「最新ロシア文学研究」を聚芳閣から近刊
- ▲大森光彦氏 芸術陶器展を本日から九日まで銀座松屋に開催
- ▲湊邦三氏 府下中渋谷町六四七長井方に転居
- ▲芸術評論 創刊号、村山知義、西川勉、村松正俊、その他執筆
- ▲雑誌「郷土」十月号 「藤村号」として創刊
- ▲「純正美術」(九月復活号) 三郎助、紀元、倭衛、爾保布、荘八、鉄五郎氏等執筆
- ▲「文芸時代」十月号 「特輯映画号」とする
- ▲「人と芸術小劇場」 津村京村氏主任として市外代々木初台五三九に事務所を置く

大正十五年九月六日

- ▲長与善郎氏 信州から帰京病氣静養中
- ▲村松正俊氏 新訳「西洋の没落」(第二冊)を批評社から近刊
- ▲額田六福氏 三日に帰京した

▲中村亮平氏 市外世田ヶ谷下北沢六六へ転居
▲イブセン会 七日夕六時から中村吉蔵氏宅に開催

大正十五年九月七日

▲久米正雄氏 夫人と共に箱根環翠楼に滞在執筆中
▲園池公功氏 武者小路氏作「ある画室の主」(本郷座上演)の舞台監督をする

▲霜田史光氏 相州三浦郡三崎町上橋荒井邸内に転居

▲安成四郎氏 府下北多摩郡下保谷村二六七に転居

▲日本漫画家聯盟 十九日辻川観古堂主催で同会後援の漫画茶焼会を開催(早稲田終点下車)

▲民衆之友社 新民族研究会九日午後一時から牛込余丁町藤井真澄方で開催

大正十五年九月八日

▲芥川龍之介氏 上京中のところ一昨日鶴沼に赴き今月一杯同地に滞在すると

▲楠田敏郎氏 丹後方面の旅行を了へ一昨日帰京した

▲文芸家協会 敵父を喪った菊池寛氏に弔慰金を贈った

▲今井潔氏 金子薫園氏の媒妁で五日帝国ホテルに結婚式を挙ぐ

▲平野威馬雄氏 退院し東神奈川御殿場町八三〇平野佑次郎方に卜居

▲佐々木秀光氏 詩集「ひとりこる」を新潮社から近刊する

○九月二日 「橋爪建」は「橋爪健」の誤り

○九月三日 「黒水十二夜」は「墨水十二夜」として掲載された。「聚英閣」は「聚芳閣」の誤り

○九月四日 「赤い霊魂」は「赤い霊魂」の誤り

○九月四日 「野獣郡社」は「野獣群社」の誤りか

○九月八日 「ひとりこる」は「一人凝る」として掲載された

○九月九日 「野獣郡」は「野獣群」の誤りか

○九月十日 「孔独の霊魂」は「孤独の魂」の誤り

▲代表的名作選集 宇野浩二氏「苦の世界」と佐藤春夫氏「わびしすぎる」を新潮社から出す

▲ヨグレ本の安売 八日午後から銀座警醒社にて

▲十日会 十日午後六時神田五車堂にて例会開催する

大正十五年九月九日

▲北吟吉氏 改訳「近世哲学史」(ヒフディング原著)を新潮社から近刊

▲小宮豊隆氏 上京牛込南町夏目方に滞在

▲高島素之氏 改訳「資本論」(第三巻の下)新潮社から近刊

▲久米正雄氏 佐々木茂索氏夫妻箱根から鎌倉に帰った

▲小野十三郎氏 市外杉並町馬橋三五五に転居

▲「詩洋」十月再刊 前田鉄之助氏主宰で再刊

▲「野獣郡」第十二回文芸漫談会を十一日午後六時半から神田カフェー天下堂に開催

▲『毛糸のある静物』二科出品小出楢重

▲「銅鑼」社主催 詩の朗読漫談会は九日午後七時半から駿河台下五車堂に開催

▲福永書店近刊 横山正幸氏訳「アルルの女」(ドオデエ著)岡本鶴松氏著「異国の華を尋ねて」を近刊

▲「ホトトギス」十月号 「ホトトギス三十年祭」近詠百句(虚子)「旅と俳句の話」(橙黄子)その他

▲「耽美」創刊号 創作「エゼネラルス・ダブル」(徳田歳二)「復活」(金子文樹)戯曲「秋寒む」(森本明彦)その他

▲「大衆文芸」十月号 荻舟、土師清二、三十五、乱歩、史郎、盧江、仲氏等執筆

▲「同人社」句会 十一日午後五時半から赤坂見附内清水谷公園に開催

大正十五年九月十日

▲武者小路実篤氏 新著「孔独の霊魂」を改造社から近刊

▲末弘厳太郎博士 新著「労働法研究」を改造社から近刊

▲田中貢太郎氏 新著支那小説「蛇精」を改造社から近刊

▲佐々木味津三氏 帰省中のところ帰京

▲横田儔氏 習志野に演習中

▲句仏上人短冊分頒会 麴町元園町中央美術協会主催で句仏上人四季短冊分頒会開催希望者は同会に詳細規定書申込みのこと

▲「瀨祭俳句」会 十三日午後六時小石川指ヶ谷町蓮華寺に開催

▲「人と芸術」復活号 戯曲「鄭成功」(永見徳太郎)「雨もり」(小野金次郎)「評論」(津村京村、新居格、菅原寛)その他

大正九年九月十一日

▲藤井真澄氏 仙台方面の旅行を了へ帰京

▲黒田鵬心氏 日仏展の爲め十日下阪二十日頃帰京の予定

▲島東吉氏 「文芸と講談」の編輯顧問となつた

▲鈴木春浦氏 四谷区左門町二四に転居した

▲馬の俳画讀会 芝区桜田町六秋山ビル黎明社で巖谷小波氏作品を頒布する

▲日仏芸術展 十五日から来月十五日まで大阪心斎橋高島屋旧館に開催

▲子規忌 枯野社主催で十二日小石川白山上福相寺に句会開催

▲「木星」復活 十月号から井口正名、増田五良、福田久道三氏によつて復活

▲上野成子氏 歌集「鹿鳴草」を紅玉堂から近刊

▲「文芸道」十月特別号 創作、未明、貞雄、土郎、孝、鐘一、義信、三千穂、徹太郎、浩三其他

▲農民文芸会例会 十五日午後五時大隈会館学生ホールに開催尚ほ同会編著「農民文学十六講」は春陽堂から近刊

▲美術に関する特殊研究講義一、「藤原時代の仏画」(廿五日より十月三十日迄)(田中豊蔵) 一、「日本木彫の技術に就て」(十一月六日から十二月四日まで)(高村光雲) 一、「レオナルド・ダ・ヴィンチの研究」(九月廿五日から十二月四日まで)(矢代幸雄)申込東京美術学校

大正十五年九月十二日

▲「婦人公論」十月号 創作「大道無門」(里見淳)「八月の夜」(広津和郎)「他人になりきるまで」(相馬泰三)

▲「美少年」(邦枝完二)「雨の降る朝」(三宅やす子)「金欄戦」(白井喬二)

▲近藤浩一路氏 山陽、四国方面巡遊中

▲小林古径氏 湯ヶ原へ旅行中

▲藤井達吉氏 日光湯本で静養中

▲麻生豊氏 柳瀬正夢氏と共に日本漫画家聯盟支部拡張の爲旅行

▲伊東夜叉郎氏 (川柳家) 九日死去本日午後一時から自宅で告別式挙行

▲本小白雲氏 府下駒沢新町深沢百廿五にアトリエ新築転居

▲正富曉氏 中耳炎で牛込小野病院に入院中
▲「劇と評論」十月増大号 戯曲「お使ひ姫」(田島淳)
▲「罪と罰」(狩野鐘太郎)「残されてゆく」(川口松太郎)
▲「釈迦堂夜話」(鴫田英太郎)「田園有客」(上泉秀信)
▲「誰れが一番馬鹿だ」(ウィットフォーゲル)

▲香蘭短歌会 本日午後一時から角筈田中方に開催

▲日本プロレタリア文芸聯盟美術部 芝南佐久間町二ノ二へ移転

大正十五年九月十三日 なし

大正十五年九月十四日

▲谷崎潤一郎氏 新著「赤い屋根」を改造社から近刊

▲谷崎精二氏 四万温泉方面の旅行を了へて先頃帰京

▲河田嗣郎博士 新著「社会問題綱要」を改造社から近刊

▲白井喬二氏 新著「神変異越草紙」並に「忍術已来也」を衆文社から近刊

▲小野武夫氏 新著「日本農民史語彙」を改造社から近刊

▲「みづゑ」十月号 「仁科展号」として鍋井、神原、税所氏等執筆

▲宝塚国民座 林和氏の「三右衛門の売出し」その他を

十四日から上演

▲蒼原会人体研究部 十三日から十八日まで市外滝野川多々羅氏アトリエにて裸婦研究

▲「早文」十月号 戯曲「楠正成」(島村民蔵)「田之助懺悔」(林和)

▲川柳祭 廿四日初代川柳翁慰霊祭を午前十一時より浅草新堀端竜宝寺に於て開催、第二部として午後一時から上野公園東照宮社務所に於て川柳講演会を開催

▲「霸王樹」社秋期特別歌会 十九日午後一時から下板橋四つ又冬日荘に開催

▲「石楠」句会 十九日九段靖国神社境内洗心亭に開催
▲永見徳太郎氏 「長崎版画集」を近く刊行長崎版画展覧会近日市外高井戸中高井戸永見方で開催

大正十五年九月十五日

▲「女性」十月特別号 創作「過去」(志賀直哉)「オカアサン」(佐藤春夫)「慈善事業」(正宗白鳥)「辰巳婦言」(久保田万太郎)「盲嬌」(十一谷義三郎)「読唇難」(佐々木茂索)「乞食と夢」(関口次郎)「鼠小僧次郎吉」(真山青果)「法然と教阿弥」(吉田絃二郎)

▲「太陽」十月号 創作「道化師よ」(鈴木彦次郎)「外套」(間宮茂輔)「あぢやこ」(小島健三)「生活と遊戯」(森本厳夫)

▲江原小弥太氏 個人雑誌越山堂と意見合はず一時中止

▲南画院新院友 岸浪静山、衛藤晴村、園部普

▲日本自由画壇 今回和仁潤天崖氏を壇友に推薦、十月一日より七日まで東京三越呉服店、十月十三日より十八日まで名古屋松坂屋で、十月廿九日より十一月十日まで京都岡崎公園で開催。

▲人生創造座談会 十九日午後芝南寺町南台寺に開催、石丸、江部、大月、折口其他の諸氏出席

▲麦田三四郎氏 新著「近世刺客伝」を弘文社から近刊
▲「文芸城」創刊 「主潮」「朝」合併十月号から雑司ヶ谷文芸城社から近刊

▲「地上楽園」十月号 「田園散文詩」(白鳥省吾)「詩」(省吾、淳一、喜久、恭二郎)その他
▲古書籍陳列即売会 廿六、七両日大阪書林俱樂部に開催

大正十五年九月十六日

▲秋田雨雀氏 帰省中の氏は、青森、弘前その他にて講演を為したが非常な盛会なりと、尚氏は近く帰京の予定

▲「新小説」十月号創作 「結婚苦」(重信)「新しいそつぷ物語」(房雄)「或る二人」(善之助)「西郷と大村」(松翁)「西南拳兵録」(彦次郎)

▲「郷土」十月号 藤村号として藤村、宇一郎、斌、治部、秀夫、源吉、月船、恒氏等執筆

▲「山樞」出版記念の会 著者野溝七生子氏の為に花袋、秋声、藤村、魯庵、白秋、亀雄、辻郎其他数氏発起のもとに二十五日五時半から三共エンプレスにて開催する

▲大鹿卓氏 詩集『兵隊』を小石川文芸社から近刊

▲土屋秀夫氏 信州小県郡西内村鹿教温泉斎藤別館に滞在

▲「レディース」並に「愛する人」と婦人雑誌青山聚楽社から十月創刊

▲詩と版画「さとぼろ」 毎月一回札幌市南三条西十三丁目西村真琴氏方より出す会費三十銭

大正十五年九月十七日

▲「改造」十月号 創作「点鬼簿」(芥川龍之介)「兄を罰せよ」(村山知義)「父子一面」(佐々木茂索)「この三つのもの」(佐藤春夫)「山径」(田中純)
▲大木篤夫氏 新著詩集「秋に見る夢」をアルスから近刊

▲松本淳三氏 個人雑誌「黒馬」を十月から創刊

▲陶山務氏 新著「生きることの論理」を武蔵野書房から近刊する

▲黒土会 十九日午前九時上野駅出発埼玉県与野方面に吟行

▲「随筆」十月号 創作「烈しき友情」(菅忠雄)「恋の明暗」(長谷部孝)「苦い追憶」(長谷川浩三)

▲「江原小弥太個人雑誌」 江原氏は十月号より執筆せざるも雑誌は越山堂から引続き発行

▲蒼原社写生例会 間所一郎君二科新入選祝を兼ね十九日石神井方面に出かける

▲「アララギ」十月号 「島木赤彦追憶号」とし諸家の追憶、故人の書簡及遺稿を掲載する

▲「光」九月号 目黒初秋(善鷹、葩夕、薫園)萩之家歌集新講(薫園)その他

▲倉垣辰雄氏 洋画小品展を本日から二十一日まで京橋千代田館地下室富士見軒本店に開催

▲劇夜学生募集 小石川駕籠町新劇研究所で補欠募集中

大正十五年九月十八日

▲「探偵趣味」十月号 同人傑作集号とし創作「木馬は廻る」(江戸川乱歩)「反齒」(伴太郎)「刺青の手」(延原謙)「山と海」(春日野緑)「恋人を喰べる話」(水谷

準)「奇術師」(田中早苗)「名人伍助」(角田喜久雄)「無頭」(本田緒生)「嵐と砂金の因果律」(甲賀三郎)随筆(佐藤春夫、久米正雄、小酒井不木)

▲三木羅風氏 詩集「小鳥の園」を新潮社から近刊
▲宮地嘉六氏 奈良に当分滞在する
▲邦枝完二氏 新著小説集「雨中双景」を聚芳閣から近刊

▲浜田広介氏 病氣臥床中

大正十五年九月十九日

▲横山大観氏 十月一杯関西方面への旅に出る

▲小林篤里氏 湯ヶ原から帰った

▲山本豊市 十四日帰京した

▲丸山晚霞氏 八月初めから樺太北海道の旅をしているが近日帰京の筈

▲関口真也氏 十月三日熱海温泉で彫金作品頒布会を開く

▲埴原久和氏 山梨県の郷里に帰省中

▲吉田博氏 月末迄近県を写生旅行中

▲加藤部兎氏 再び旅に出たが月末頃に帰る

▲茨木猪之吉氏 市外大井町元芝八七〇に転居

▲今東光氏 大阪で「愛経」上演につき下阪中

▲井上康文氏 山口県方面旅行中

▲野溝七生子氏 処女作「山樞」出版を記念するため二十五日午後五時半から文壇数氏発企で三共ビル七階エンプレスに記念会を催す

▲山田順子氏 秋声氏の程近き本郷台町二十八に移転、子供さんと共に別居した

▲句仏上人短冊会 麹町中央美術協会主催の同会は入会者多数に付き本月二十日締切

▲東洋大学文芸協会 終期文芸講座を毎週土曜一時から開催講師三木春雄、昇曙夢、村田良策、松居松翁、宮森麻太郎の諸氏

▲「秦皮詩社」秋季歌会 十九日午後一時から赤坂見附

内皆香園に開催

▲アメリカボスター展 二十、二十一両日丸ビル丸菱に於て開催主催商店界社

▲「騷人」十月号 「自叙伝」(秋山定輔)を連載

▲「椎の木」創刊号 「秋の水」(犀星)「偏見」(柳虹)

▲「とんぼの一筆」(惣之助)「人々ともにある詩」(宗治)

▲「橄欖」十月号 幾忠、庄亮、梨卿その他執筆

大正十五年九月二十日

▲「中央公論」十月号創作 戯曲「オンネコタン」(里見

淳)「嵐と月の妖術」(小川未明)「旧痕」(近松秋江)戯

曲「金玉均」(小山内薫)

▲「不同調」十月号創作 「梨」(三宅やす子)「沈黙」

(木蘇毅)「姉」(浅原六朗)「文壇ゴシップ小説」(森本

岩夫)

▲片上伸氏 高野山に滞在中今月末か来月初旬帰京する

▲佐々木茂索氏 房子さんと共に鎌倉を引き揚げ目黒に

帰った

▲前田河広一郎氏 戯曲「ストライキ中」は心座第四回

演出に決定

▲長谷川伸氏 夫人まさみさんは十七日死去した

▲大木篤夫氏 ギフテリアにて高熱臥床中

▲加藤昌雄氏 「つるばみ」同人十六日病気で死去

▲加藤謙氏 関西に赴いたが月末帰京

▲「改造」十月号 「学生事件批判号」として未弘厳太

郎、森戸辰男、長谷川如是閑、大山郁夫、清瀬一郎、

宮本英雄、淡徳三郎の諸氏執筆

大正十五年九月二十一日

▲谷崎潤一郎 上京中のところ一昨日退京

▲大泉黒石氏 府下下落合二丁目七四四に転居

▲梶浦正之氏 青山南町七ノ十一久保田方へ転居

▲大鹿卓氏 詩集「兵隊」出版記念会は二十五日午後六時三上公園前川橋亭に開催

▲「文芸城」十月創刊 「朝」と「新潮」とが合同して

同誌を出す同人井葉野篤二、逸見広、岡沢秀虎、尾崎

一雄、中村康敏、村田春海、山崎剛平、小宮山明敏、

紺弓之進、浅見淵、城谷敏夫、樋口正文、杉坂幸月以

上十三人

▲文芸市場十月号 「悪童短篇集」金子洋文「壊れ易い

玩具」木田開「マツチの火」今野賢三、その他高橋周

吉、上森健一郎、梅原北明氏等執筆

▲「梨」十月号 「岩本末次郎の死」梨清三郎「警鐘」

(戯曲)宮川久雄「戦友の午後」(戯曲)富田常雄「外道」

(戯曲)松本喜郎「秋」(戯曲)下店静市

大正十五年九月二十二日

▲「新潮」十月特輯新人号 創作「子を失ふ話」(木村庄

三郎)「N監獄懲罰日誌」(林房雄)「恋人を確かめる」

(八木東作)「白い腕」(舟橋聖一)「アルバム」(浅見淵)

「晴れた富士」(崎山猷逸)「晩秋の旋律」(坪田勝)「桃

色の象牙の塔」(久野豊彦)「結婚の花」(藤沢桓夫)「姉

の死と彼」(中山信一郎)「早春の蜜蜂」(尾崎一雄)

▲新居格氏 松本淳三、中川敏夫三氏は講演のため静岡

に赴いたが帰京

▲照井栄三氏 六ヶ年の滞欧音楽行脚を了へ本月初旬帰

朝市外下渋谷三五〇にト居した

▲「新小説」十一月号を以て名義を「認識」と変更発行する

▲服部亮英氏 波切村で製作中

▲四十年社第六回展 廿三日から廿八日まで三越ギアラ

りに開催

▲故落合直文氏追憶会 廿四日午前十時から市外向島萩寺に開催世話人、武島、内海、与謝野、鈴木、川俣の諸氏

▲南木摩天楼氏 小石川原町三一尚仙洞に仮寓

▲春草会 畑耕一氏のために本日本郷座を総見す

▲「三田文学」十月号 創作「枕の命令」(勝本清一郎)

▲「肥瘦」(原奎一郎)「草の中」(蔵原伸二郎)「形見」

(水木京太)戯曲「一九四年頃の覗き絵」(北村小杉)「誘

惑」(コロンフェルト作茅野蕭々訳)

▲初代川柳忌 久良岐氏病氣中に付き久良岐社に廿三日

午後六時から作句供養する

▲「早文」十月号 「劇壇時言」として(青々園、松翁、

大伍、小剣、善太郎、その他)

▲「生活者」十月号 創作「末黒野」(小川蓐太郎)「朝」

(磯長ゆい)「夜の人」(板垣守正)「平泉炎上」(村上秀)

「地獄」(光瀬俊明)

▲「驢馬」十月号 創作「錯覚」(堀)「秋」(宮木)

大正十五年九月二十三日

▲「探偵小説出版記念会」二十四日午後二時から麴町

山下町東拓ビル内レーンボーグビルに於て「琥珀のパ

イプ」(甲賀三郎)「広告人形」(横溝正史)「死の接吻」

(小酒井不木)「湖畔亭事件」(江戸川乱歩)「運命の塔」

(延原謙)「笑ふ骸骨」(田中早苗)「都会冒険」(牧逸馬)

「砂漠の古都」(国枝史郎)八氏の創作出版記念会を開

催

▲木下奎太郎 仙台医科大学皮膚科科長として近日中に赴任

▲室生犀星氏 軽井沢から帰京夫人はこのほど男児を出産した

▲若山牧水氏 約二ヶ月予定で北海道に旅行

▲邦枝完二氏 昨日一茶百年忌を見物に信州柏原へ出かけた

▲島田青峰氏 温亭翁の後を受け「土上」を主宰、尚十月温亭翁号には百穂、楽天、三重吉、楽堂、青峰、野鳥、落晩居其他数名執筆

▲本小白雲氏 市外駒沢新町住宅地にアトリエ新築落成

▲亀井信氏 京都修学院山端平八前へ転居

▲浅川伯教氏作品展 二十五日から三十日まで上野広小路平水画房で開催

▲源氏物語全講会 二十五日午後二時から国学院大学内に開催新会員募集

▲都市美術研究会 本日午後六時から市政調査会会議室に開催

▲早大劇研究会 二十五日十二時半から早大文科卅一教室で「演出の実際について」(池谷信三郎)の講演会がある

▲「奈良文化」十月号 「上代文化研究号」として発行

▲「日仏芸術」十月号 「チュイリーのサロン」(ミモザ)

▲「美術季の感想」(鍋井)「フランソア・ポンポン」(税所篤二)その他

▲井高帰山氏 軽井沢から帰京よしを夫人は第二回楽陶個展を廿四日迄銀座松屋に開催

▲泰西名家素描古版画展 廿四日から廿九日まで共楽美術倶楽部に開催

▲「文芸春秋」十月号 創作「半島一奇抄泉」(泉鏡花)

「蛾はどこにでもゐる」(横光利一)「ある一つの時代」(近松秋江)「彼」(広津和郎)「安楽椅子」(菊池寛)「明

眸有罪」(石浜金作)

▲小林愛雄氏 大腸カタルの為一時重態を伝へられたが少しく快方に向つた

▲黒田鵬心氏 新著「天平時代」(日本美術史概説)第三冊を趣味普及会から発行

▲小牧近江氏 新訳「シャル・プランシヤール」(フィリップ全集第一巻)を叢文閣から近刊

▲吉田金重氏 信州浅間温泉石川燭骸庵に来月一杯滞在

▲今沢慈海氏 新著「図書館経営の理論及実際」を叢文閣から近刊

▲今野賢三氏 秋田方面の旅行を了へ帰京

▲馬場二郎氏 新著「音楽の基礎智識」を厚生閣から出版

▲「演劇新潮」十月号 脚本「勇ましき主婦」(村山知義)

「二階の男」(北村喜八訳シンクレア作)「秋の夜」(久保田万太郎)

▲「心座」第四回演出 第一「二階の男」(シンクレア作)第二「白い腕」(舟橋聖一)第三「兄を罰せよ」(村山知義)第四「ストライキ中」(前田河広一郎)

▲「演劇改造」十月号 戯曲「結城と大友」(島村民蔵)

「パテ倶楽部」(伊藤時雄)

▲「文芸時代」十月号 創作「暑中休暇」(酒井真人)「毒を持つ真江」(南幸夫)「習作」(稲垣足穂)「獣の叫び声」(富田常雄)「御名算也」(飯田豊二)「転身」(鈴木彦次郎)「睡蓮」(片岡鉄兵)

大正十五年九月二十六日

▲菊池寛氏 来月七日頃東京発大阪に講演に赴く

▲野口米次郎氏 越後方面講演旅行中だが両三日中に帰京

▲藤森浩一路氏 和歌山に滞在六曲一双の製作に没頭してゐる尚ほ氏は十一月末渡支する

▲津田青楓氏 廿三日夜帰洛した

▲細田民樹氏 十月初旬大原を引揚げ帰京

▲小林柯白氏 酒井三良氏と共に今秋十一月三越で処女個展を催す

▲野長瀬晩花氏 紀州へ写生旅行中

▲西村五雲氏 京都、一条通鳥丸西人北側ろうじへ転居

▲鈴木氏亨氏 母堂死去仙台に帰省中

大正十五年九月二十七日 なし

大正十五年九月二十八日

▲昇曙夢氏 来月二日午後一時東洋大学第十二教室にて「革命後ロシアの演劇運動」を開講

▲吉田絃二郎氏 信州沓掛から近日帰京川中島にて「早稲田までは十日ばかりか山寒し」

▲細田源吉氏 千葉県檜葉に十月中旬まで滞在する

▲岡田三郎氏昨日 湯ヶ原に赴く

▲池谷信三郎氏 川端康成氏と共に伊豆から帰る

▲石丸梧平氏 明日午後第二高等学校にて文芸講演会を開催

▲税所篤二氏 「アトリエ美術年鑑」原稿約千枚を脱稿月未刊行

▲土師清二氏 兵庫県宝塚新温泉川下に転居

▲邦枝完二氏 柏原から帰京

▲橋爪健氏 小石川区小日向台町三ノ九十三に転居

▲古谷栄一氏 新著「人間の自我は錯覚」(虚無哲学体系第一巻)を春秋社から近刊

▲井上康文氏 山形から帰京

▲志田十三氏 牛込区横寺町九芸術倶楽部に転居

大正十五年九月二十九日

▲竹内栖鳳氏 来月四日発上京す

▲神谷万吉氏 この程五十嵐力氏の肖像を書き上げ直ちに渡辺千冬氏の肖像を揮毫中

▲前田河広一郎氏 千葉から上京当分の間下谷区上野山下、山下館に滞在

▲牧野信一氏 小田原から阿佐ヶ谷の自宅に帰った

▲伊藤貴麿氏 市外下落合四三八に転居

▲井口華秋氏 卅日上京

▲綿貫六助氏 来月上旬福島から帰京

▲加藤謙氏 来月一日頃関西より帰京

▲「文芸市場」十一月から連作小説「顔」を掲載第一回は「目」(中野正人)ときまる

▲臼田亜浪氏 一茶百年忌講演のため信州方面旅行中近日帰京

▲「叢筆」十月号 勇、和、完二、惣之助、正夫、不如丘、三郎、その外数十氏執筆

▲「原始」十月号 「農村問題の眼目」(加藤一夫)創作「予言の街」(井東憲)「水神ヶ淵」(里村欣三)

▲エスペラント参考品展 本月まで九段坂下大橋図書館にて

▲説文会 来月二日午後三時半から麴町永楽ビルディング智恵乃輪倶楽部にて

▲水田竹圃氏 「普陀山」「山峡」の対作を六年振りで完成に出品すべく製作中

▲水田硯山氏 帝展出品「朝霧散」「暮色来」の対作を完

成した

▲「四六版解散」 新興消費組合号として発行

大正十五年九月三十日

▲「早文」十月号 戯曲号として「楠本一族」(島村民蔵)

「田之助織悔」(林和)「山の言葉」(秋田雨雀)「磐神森」(松井松翁)「呪文」(畑耕一)「信玄筒」(木村富子)「裏切り」(清見陸郎)

▲「三田文学」秋季講演会 来月二日午後一時慶応大ホールにて小島政二郎、宇野四郎、三宅周太郎、佐々木茂

索、菊池寛、久保田万太郎の諸氏講演

▲吉江喬松氏 相州鎌倉五八八和田邸内に転居

▲横山健堂氏 長府に旅行中

▲尾瀬敬止氏 ルナチャルスキイの各種論文翻訳中

▲富田碎花氏 詩集「手招く者」を神田同人社から近刊

▲平木二六氏 府下西新井村大字太田四二一清水方に転居

▲「芭蕉」十月例会 来月二日午後六時から本郷其社で開催

▲「乱読時代」十月上旬 自由と生活社から創刊

▲「無産者の夕」 来月二、三の両日午後六時半から協調会館に開催、音楽劇等がある

▲「辻馬車」十月号 創作「幽霊坂」(崎山)「待ち人遅し」(福井)「国館グレース」(崎山)「かもめ」(高橋)

その他

▲東京国際倶楽部 本日午後五時半からお茶水文化アパートメントに開催鄭安立氏から「世界平民連邦に就て」の講演がある

▲六家俳句短冊会に大塊、勝田主計、肋骨、不折、碧梧、桐、句仏六氏短冊会麴町元園町中央美術協会主催で開催中申込み同所

大正十五年十月一日

▲田山花袋氏 腸を害して臥床中

▲長与善郎氏 芝白金台町伝染病研究所附属病院に療養の為入院

▲横光利一氏 一両日中に京都に赴き当分同地にて静養する

▲香田勝太氏 白日会々員である同氏は去る九月十四日白山丸で渡欧したがパリに暫く滞在上スペインのマドリッドに住む

▲畑耕一氏 明日十二時半から早大劇研究会で「浄瑠璃の一方面」を講演

▲矢野橋村氏 岡山へ旅行中だが近日帰阪する

▲永見徳太郎氏 来月十六、七、八日東京美術学校内美術倶楽部に於て長崎版画の展覧会を開催

▲藤井外喜雄氏 徳川義親侯等後援の下に来る三日から五日まで華族会館で個展を催はす

▲蘆谷蘆村氏 日本童話協会と共に市外高田町亀原四二へ転居

▲写真展覧会 明日から四日まで代々木幡ヶ谷同校に開催

▲青山俳句会 十月六日午後五時半より青山南町青山会館で開催

▲「京都詩人」十月号 「短い詩に就て」(柳虹、杏村、汪洋) 其他

▲「新興文芸」十月創刊 府下上落合二二一新興文芸社から近刊

▲「劇と人間」十月号 戯曲「心境」(景山哲夫)「漫画的戯曲」(棋本雅彦)「月明」(小原慶一郎)「父の真似」(若月保)

▲「主観」十月号 「アントワンと自由劇場」(安部)「大井ツトマン評伝」(長沼)その他

▲「中央美術」十月号 「二科作品合評会」「美術院評」「二科院展の彫刻」「南画院評」その他

▲「思想」十月号 「三階教」「矢吹慶輝」「掬伽經に及ぼせる仏教の影響」「木村泰賢」「和国の教主」「金子大栄」「仏性本具の思想に就いて」「羽溪了諦」「真如」「佐藤泰舜」その他

大正十五年十月二日

▲「新青年」十一月号 創作「赤い法服」(真野敏三郎)

「パノラマ島奇譚」(江戸川乱歩)「童貞」(山本禾太郎)

「執念」(横溝正史)「藻くづ」(山下利三郎)

▲ポール、クロードル氏 アテネフランセ出版部編輯「新

フランス語講座」に「日仏文化に関する論文」を寄稿

▲橋本関雪氏 十月中旬支那へ向ひ十一月初めに帰洛の

予定

▲川端竜子氏 夫妻十日頃京都から和歌山へ向ふ

▲西山翠嶂氏 帝展出品二曲半双大の「漁夫」を製作中

▲福田平八郎氏 帝展出品巾一丈四寸、竪六尺の「朝顔」

を製作中尚ほ近く大分へ帰省する

▲武島羽衣氏 講演のため長野県下に旅行

▲平山蘆江氏 長篇「唐人船」(天ノ巻)を至玄社から近

刊

▲中塚一碧楼氏 海紅社と共に帰京上目黒五九三に卜居

▲西村五雲氏 十二年振で親子の「狐」を帝展に出品す

べく製作中

▲小林観爾氏 六曲半双の「軍鶏」を製作帝展へ出す尚

ほ氏は小康を得た盲腸を近く手術する由

○九月三十日 「国館グレース」は「D館グレース」として掲載された

○十月一日 「若月保」は「若月保治」の誤り

○十月三日 「戯曲傑作集」は「現代戯曲傑作全集 第一篇」として刊行された

○十月三日 「無産階級芸術の危機」は「芸術の危機」(社会文芸叢書第二篇)として刊行された

○十月三日 「幽鬱になつた話」は「憂鬱になつた話」の誤りか

▲「人間群」十月復活号は発売禁止になつた

大正十五年十月三日

▲菊池寛氏 新著「戯曲傑作集」を新潮社から近刊

▲片上伸氏 新著「文学評論」を新潮社から近刊

▲芥川龍之介氏 鶴沼から帰京

▲吉田絃二郎氏 信州から帰京

▲「新思潮」十月号 創作「薄明」(秋山六郎兵衛)「断

髪」(原重)

▲「日光」十月号 「民謡論」(白秋)「頬白」(夕暮)「ラ

デオ」(善麿)

▲麻生義氏 本郷区大学正門前双葉館に転居尚新訳「無

産階級芸術の危機」を金星堂から近刊

▲国民文芸会 十日午後一時から帝国ホテル演芸場で十

五年度総会を開催事業報告をする

▲「人と芸術」十月号 「幽霊」(津村京村)「善か悪か」

(永見徳太郎)「喰はされた男共」(菅原寛)「幽鬱にな

つた話」(遠山静雄)

▲「草の実」会 十日午後一時から和田堀和泉小西方に

例会を開催

▲文芸雑誌「九軒」 本月から大阪市新町廊九軒吉田屋

から創刊

▲「伝説」十月号 「巨人伝説分布、巨人怪異譚」(藤沢

衛彦)その他

大正十五年十月四日

▲前田河広一郎氏 市外杉並町高円寺六百十一に転居

▲和田伝氏 この程帰京市外目白上り屋敷三五九一に転居

▲松本淳三氏 市外野方町下沼袋九四六(役場手前)に

転居

▲イプセン会 五日巢鴨中村吉蔵氏方に開催

▲古硯観賞会 五六七の三日間上野公園東照宮前梅川亭

に開催

▲新劇研究所 第十六回私演を九日午後六時半から同所

に開催

▲「炬火」十月号 「詩壇空席」(川路柳虹)「詩」(川路、

村野、板垣その他)

大正十五年十月五日

▲片上伸氏 六日大阪にて「文学と社会」を放送、その

夜大阪発帰京する

▲細田源吉氏 先頃一度帰京したが昨夕千葉へ赴く

▲白石維想楼氏 大正川柳編輯所共に大井町森前五三八

五に転居

▲「亜細亜詩脈」創刊 京城詩話会は上記に改称十月創

刊する

▲「現代文芸」 松本清太郎氏、鳴海四郎氏と共に入社、

新年号から定価も二十五銭にし面目を一新すると

▲竹内越村氏 「青空社」と共に下谷区三の輪一二八矢

吹方に転居

▲片岡鉄兵氏 腸を害し病臥中

大正十五年十月六日

▲三木露風氏 雅号「羅風」を廃し旧の露風に帰った「羅風は親しみがないといふことをあちらこちらから聞かされたから」

▲加藤武雄氏 長篇「彼女の貞操」を神田交蘭社から近刊

▲木川秀齡氏 今秋より号を「大泉」と改号

▲東洋大学文芸協会 九日午後一時十二教室に於て村田良策氏の「文芸と社会的興味」を開講

▲金子洋文氏 講演その他の要件で秋田へ帰郷したが月末帰京

▲饒平名智太郎氏 社会万般の綜合雑誌「世界」を十一月から独力で創刊

▲「乱調時代」 第一輯発売禁止された

▲文芸講話の夕 十六日午後六時から女子青年会館に於て「茶に就いて」(横山青娥)「秋に憶ふ」(寺下辰夫)

「詩をめぐりて」(西条八十)の講演がある

▲故島木赤彦氏追悼歌会 来月十六日午後三時半から信州上諏訪

▲「日本古典全集」 与謝野寛、晶子、敦夫三氏校訂の同書は第一期刊行五十冊を近く完結第二期五十冊を決定

▲「渋柿」十月号 「歌仙」(寅彦、豊隆、東洋城)その他

大正十五年十月七日

▲正宗白鳥氏 上京ステイションホテルに滞在

▲日本美術院同人 大観氏は昨日電子氏は十一日、他の諸同人は十三日京都へ赴く

▲石井柏亭氏 廿日頃大阪へ赴く

▲田中香涯氏 新著「愛慾に狂ふ痴人」を大阪屋号から近刊

▲佐藤朝山氏 関西旅行中

▲亀高文子夫人 今春八年振で出産後わろく帝展出品を見合せた

大正十五年十月八日

▲藤井真澄氏 京都市上京区大將軍鷹司町一に日本映画俳優学校と共に転居

▲池谷信三郎氏 相州逗子新宿菅忠雄方へ転居

▲福永煥氏 健康を害し伊豆大島湯場に滞在

▲大関柊郎氏 麹町区元園町一ノ七に転居

▲芳川起氏 牛込区若松町百廿一番地に美術春秋社と共に転居

▲原田春鈴氏 日本新聞社を辞す

▲大下春子夫人 正男氏並に「みづる」社と共に本郷区西片町十ほノ廿七へ転居

▲人と芸術小劇場 第一回試演を今月末開催男女優研究生を募集

▲同人社東京句会 九日午後五時半から清水谷公園に開催

▲演劇講演会 十二日午後二時から慶応大ホールに開催

出演者河竹繁俊、久保田万太郎、小山内薫、岡鬼太郎、竹柴梅松の諸氏

▲黄橙句会 本日夕神楽坂クラブに開催

▲南柯吟社 九日午後五時から芝区赤羽橋畔福井亭に開催

▲かの子吟社 俚謡正調第四十一回例会明日午後六時から麻布区飯倉片町七名倉方に開催

▲「光線」創刊 早大弘文科中心となり文芸創作雑誌とし来月創刊

▲「戦車」 十、十一号を休刊

▲「詩文学」十一月創刊 芳賀融、伊福部隆輝、松本淳三の三氏代表として青山北町中外文芸社から創刊

▲「大衆文芸」十一月 創作「初恋」(正木不如丘)「艶書殺人」(湊邦三)「仇討共倒れ」(本山荻舟)「小説以上」(土師清二) 新人二木鮎三氏の探偵小説「身替り」を推薦

▲「木星」十月復活号 創作「叔母の死」(増田五良)「第一の一面」(福田久道)「無花果を食はないわけ」(井口正名)

▲「江戸軟派研究」 「江戸の水」(三馬戯作)「洒落本禁止考」

大正十五年十月九日

▲馬場孤蝶氏 四国方面旅行中

▲藤森成吉氏 大阪より一度帰り目下信州に滞在中十三日頃帰京する

▲十日会 十日午後六時から神田五車堂に開催

▲「ホトトギス」十一月号 創作「むすめごころ」(山家和尚女)「母病む」(大岡竜男)「鮮満旅行記」(たけし)

▲蒼原会人体研究部 十一日午後六時半から滝の川多々羅氏方で開催

大正十五年十月十日

▲細田民樹氏 市外東中野一〇六三(塔ノ山通り)に転居

▲川端康成氏 昨日伊豆に赴いた

▲関東麻雀大会 久米正雄、佐々木茂索、広津和郎、片岡鉄兵、其他文壇人四十数名寄り関東麻雀大会を開く場所は鎌倉クラブ若しくは文芸春秋社十七日か二十四

日の日曜に行ひ勝利者に文芸春秋社から大カップを贈ると

▲ゲイ倶楽部 本日国分寺グラウンドに於て雑誌記者団と聯合で里見淳氏の上海行送別野球戦を開く

▲香蘭詩社 短歌会を十日午後一時から角筈其社に開催

大正十五年十月十一日

▲「世界」十一月創刊号 「白服の悲しみ」(佐藤春夫)

▲「ピストル」(尾崎士朗)「ゴッホの花」(藤森成吉)「身を固める」(片岡鉄兵)「生物動揺」(小川未明)「鴉片」(芥川龍之介)

▲「女性」十一月号 創作「村で一番の栗の木」(岸田国士)「地熱」(渾大防小平)「音楽と料理」(室生犀星)

▲「まだらたび」(鈴木彦次郎)「村の騒動」(稻垣足穂)「引越し」(徳田秋声)

▲片上伸氏 一昨日関西方面の旅行を了へ帰京尚ほ風邪引籠り中

▲小山内薫氏 明日の慶応劇研究会主催本読みの会に「夜の宿」第四幕目をやる

▲楠木清方氏 牛込区矢来町三山里三十(電話牛込三六五三)へ転居

▲三木羅風氏 本日午後二時から上智文学文芸研究会に於て講演

▲佐々木味津三氏 村松梢風氏、田中貢太郎氏等と共に浦和方面に講演旅行に赴く

▲村松正俊氏 新訳「西洋の没落」(第三巻スペングラ―著)を批評社から近刊

▲沖野岩三郎氏 長篇「宿命」を銀座福永書店から近刊

○十月十日 「紅湖新聞」は「江湖新聞」の誤り

○十月十一日 「尾崎士朗」は「尾崎士郎」の誤り

○十月十二日 「改修日本小説年表」は「新修日本小説年表」として刊行された

▲今東光氏 伯父の本葬のため青森県弘前に帰省十五日頃帰京する

▲神近市子氏 鈴木厚氏と共に駒沢町上馬五八九に転居

▲菅忠雄氏 明春四月まで逗子に滞在尚ほ既報の池谷信三郎氏が同氏宅に転居は誤報につき訂正

▲小野秀雄氏 「もしほ」と「紅湖新聞」とを一冊に取纏めて福永書店から近刊

▲広瀬操吉氏 二ヶ月の北海道旅行を了へ帰京近く又伊豆に赴く

▲堤寒三氏 堺市東湊川四三二の自宅に滞在中尚八日から十二日迄大阪白木屋に於て文芸画の個展を開催廿日頃帰京する

▲石川善助氏 仙台より上京当分広瀬操吉方に滞在

▲瀬繁俳句会 十三日午後六時小石川指ヶ谷蓮華寺に開催

▲「歌舞伎絵」展 日本浮世絵協会主催で十二日から十六日まで銀座鳩居堂、廿五日から廿九日まで大阪高島屋に開催

▲槐樹社 電小石川一六〇四番開通

▲詩集「空に翳す」の会 古賀残星の同著を祝する為二十三日(土)神楽坂カツフェーオザワにて開催発起者米次郎、武雄、未明、柳虹、正夫、嘉六、勉、隆輝その他数氏

大正十五年十月十二日

▲三宅やす子氏 犬吠方面に旅行

▲勝田香月氏 新著「詩に就いて語る」を交蘭社から近刊詩雑誌「自由詩人」を勝田香月氏方から再刊

▲牧寿雄氏 日活映画「五人の女」の舞台設計を引受け

▲朝倉無声氏 絶版「日本小説年表」を「改修日本小説年表」と改題本日春陽堂から発売

▲関西漫画会の創立 和田茂生、吉岡鳥平、奈良首三、名越国三郎、小寺鳩甫、紫谷柴舟諸氏の顔ぶれで、事務所は大阪白木屋に置き毎年春秋二回漫画展を開催第一回は来春早々開き、会員出品の外に一般の出品を歓迎すると決切十二月十日

大正十五年十月十三日

▲「婦人公論」十一月号創作「大道無門」(里見淳)「けだもの」(北尾亀男)「他人になりきるまで」(相馬泰三)

▲「浮雲」(さつきふさ)「金欄戦」(白井喬二)

▲土田杏村氏 新著「日本支那現代思想研究」を第一書房から近刊

▲都路華香氏 夫人病気のため帰洛した

▲田中貢太郎氏 随筆集「土佐五名家随筆集」は題名が忌諱にふれ「土佐五家随筆集」と改題

▲新居格氏 市外杉並町高円寺八一に転居

▲額田六福氏 一昨日大阪に赴いた

▲小川芋銭氏 丹波竹田の西山泊雲居に在り来月半迄滞留すると

▲松岡譲氏 新年号より「婦人倶楽部」に長篇を執筆

▲松波治郎氏 関西旅行に赴く

▲日仏芸術展 二十二日まで京都岡崎公園第二勸業館に開催

▲「吾妹」 十六、七両日箱根堂ヶ島温泉大和屋旅館に

開催

▲鈴木隆氏 福岡に滞在中

大正十五年十月十四日

▲ポール・クロードル氏 富田溪仙氏と共著で詩画集「四風帖」を近刊する

▲島崎藤村氏 両三日中に木曾に一週間位の予定で帰省する

▲吉田絃二郎氏 随筆集「静かなる土」を新潮社から近刊

▲榎山半三郎氏 同氏著「仏教読本」出版を記念するため十七日午後三時から日本橋倶楽部に知友諸氏発企で祝賀会を開催

▲太田喜二郎氏 十六日佐世保から帰京する

▲小野竹喬氏 来月五六日頃から富士山麓を写生旅行する

▲真道黎明氏 父君の重病で熊本へ帰省中の処帰京昨日京都へ

▲長野草風氏 神経痛で臥床中

▲長尾和男氏 第一詩集「隠沼」の出版記念会を十六日夕六時から白山上南天堂に開催

▲十菱愛彦氏 府下野方町上沼袋六に転居

▲兼光豊治氏 巧芸社支配人として入社

▲第六回芸術院展 十一月四日から十二日迄大阪に廿一日より廿六日まで京都で開催 東京出品受付は来る十八、九両日永楽町丸の内ホテル

▲「太平洋詩人」「女性詩人」の会 十七日午後六時から神田カフェ・ブラジルに歓談会を催す

大正十五年十月十五日

▲小山内薫氏 明日、明後日の両日立教大学講堂に於て「演劇に於ける俳優価値と芸術価値」を講演

▲長田幹彦氏 伊勢から奈良、岡山を経て宮島へ赴いたが更に長崎を振り出しに九州一円を巡遊廿五六日頃帰京

▲吉田絃二郎氏 廿日頃から静岡京都から信州方面へ講演を兼ねて旅行に出る

▲堀口大学氏 西条八十、鈴木信太郎、山内義雄の四氏はクロードル氏の新詩集「四風帖」の訳詩を担当

▲千家元麿氏 百田宗治、大関五郎三氏は常総詩談会に招かれて明日水戸に赴く

▲故三富朽葉氏 遺稿を一冊に纏めて第一書房から近刊

▲南江二郎氏 京都府亀岡町に転居

▲北村喜八氏 関西方面に旅行中十八日頃帰京

▲並樹秋人氏 「常春」発行所と共に市外中野町本郷五九五に転居

▲木内打魚氏 処女詩集「無夏樹」出版祝賀会を明日午後五時から神楽坂カフェ・ラザワで開催

▲「新緑」文芸茶話会 十七日午後四時から深川霊岸島石井方に開催

▲無名座第九回試演 十六七両日午後五時から大阪新町演舞場で高田保氏作「公園の午後」吉井勇氏作「兄弟」鈴木善太郎氏作「ある夜の客」宮川久雄氏作「ある兄弟」を試演

▲文芸市場社電話 牛込三九〇六番を架設した

▲華曼草社展 十六七両日京都で開催

大正十五年十月十六日

▲「資本論」の会 廿三日午後五時本郷三丁目燕楽軒に於て知友数十氏発企で高島素之氏の同著邦訳完成上梓を祝賀する

▲山元春挙氏 マラリヤ熱で臥床中大分快方に向った

▲小室翠雲氏 新作画個展を来月八、九、十の三日間日本橋東美倶楽部で開催主催白日荘

▲石井林響氏 久々で帰京した

▲河合讓氏 新訳「宗教哲学」(ヘフディング著)を新潮社から近刊

▲尾瀬敬止氏 一週間の予定で関西旅行に赴く

▲三木春雄氏 本日午後一時から東洋大学文芸協会主催十二教室で「演劇と政策」を講義

▲川崎備寛氏 相州鎌倉停車場裏通り安斉方に卜居

▲「太陽」十一月号 創作「冷視」(塚原健二郎)「秋」(赤松月船)「嘘と理解」(倉田潮)「寒月」(下村千秋)

▲「不同調」十一月号 創作「葉巻」(山田順子)「去りゆく者」(長谷川浩三)「キング・トイス」(藤森淳三)

▲川勝堅一氏 十一月九日桑港出帆の大洋丸で帰朝する

▲永見徳太郎氏 長崎版錦画百数十点を十六日から十八日美校倶楽部で展覧する

▲常春歌会 丸山忠治氏の歌集、「湖に描く」の出版記念会を兼十七日午後一時から開催

▲「原始」十一月号 創作高群逸枝、本間巷一郎、堀田昇一、山中映村氏等

▲詩談会 十七日太平洋詩人協会と合同することになった

▲現代歌人作品即売展 本日まで芝三田カフェ・白十字に開催

大正十五年十月十七日

▲「改造」十一月創作 「暗夜行路」直哉「喧嘩三昧」三郎「青塚氏の話」潤一郎「万年大学生」正雄

▲「探偵趣味」十一月号 黒岩涙香追憶号として亀雄、漁郎、初之輔、耿之介、浩二外に不如丘氏の「熊公随

筆」等

▲「唐人船」の会 平山蘆江氏の同著出版記念会を二十
二日五時から日比谷陶々亭にて発起者挿雲、荻舟、不
木、恒助外数等

▲尾瀬敬止氏 昨日東京発名古屋にて講演と放送をなし
静岡に赴く予定

▲湯浅真生氏 九州方面へ旅行

▲新日本劇場試演会 本日午後六時から四谷区左門町三
和会館(塩町下車)「壺」森熊蔵翻案「税」中村吉蔵作
「野島先生の夢」武者小路実篤作「弱き者」仲木貞一
作

大正十五年十月十八日

▲小林徳三郎氏 慶応病院患者慰安の為近作小品展を本
日から二十三日まで同病院内

▲「愛誦」武蔵野散策会 二十四日午前九時上野駅集合
男女読者五十名限り参会を得

大正十五年十月十九日

▲「三田文学」十一月号 創作「地下室」(水上瀧太郎)
「第一課」(小林きよ)「結婚愛」(和木清三郎)戯曲「紅
茶とウキスキ」(加藤昌雄)「告吉の道化」(倉島竹二
郎)その他

▲「解放」十一月号創作 戯曲「叛逆者周黎」(武藤直治)
「顔」(松村善寿郎)「殺意」(神山宗勲)戯曲「船は踊

○十月十五日 「無憂樹」は「無憂樹」として掲載された
○十月十九日 「紅茶とウキスキ」は「紅茶とウキスキ」として掲載された
○十月十九日 「告吉の道化」は「浩吉の道化」として掲載された
○十月十九日 「叛逆者周黎」は「叛逆者周黎」として掲載された
○十月十九日 「牛区」は「牛込区」の誤り
○十月二十一日 「叛逆児周黎民」は「叛逆者周黎民」として掲載された

る」(井東憲)

▲室伏高信氏 相州藤沢町鶴沼二二一七に転居

▲ミハナジアン氏個展 二十日から十日間京橋日米ビル
室内社画堂に開催

▲文芸雑誌「文芸公論」創刊 橋爪健氏編輯責任者とし
て明春創刊する

▲今東光氏 郷里から帰京した尚ほ月末下阪する

▲飯塚友一郎氏 「歌舞伎細見」を第一書房から近刊す
る

▲生田春月氏 牛区弁天町一三三に転居

▲樋口幽堂氏 本日大阪から上京

▲英美子氏 敵父の病氣のため静岡に当分帰省

▲日本美術協会賞 「養兔」(野村雪江)推奨「老圃秋色」
(兼重暗香)「口紅」(影山宝星)「雨後」(佐藤華岳)

「避暑」(小野寺梅丘)

▲新興大和絵会 来月一日から五日まで大阪三越に開催

▲「空に翳すの会」 二十三日夕六時から古賀残星氏の
同著出版記念会を神楽坂カフェ・オザワで開催

▲アナルコ創案展 廿日から三日間四谷吉川キャン
デー・ホールに開催

▲歴史教育研究会創設 中村、大類、平泉の諸博士、大
森、下村、斎藤氏等発企で組織、雑誌「研究評論歴史
教育」を来月から創刊

▲新短歌協会 二十三日午後一時から上野公園韻松亭で
大会開催

▲「羅旬区」十一月号 吉田一穂、大鹿卓、その他執筆

大正十五年十月二十日

▲笹川臨風氏 関西方面の旅行を了へ帰京

▲河東碧梧桐氏 昨夜岡山から広島方面の旅に出る

▲大野隆徳氏 富田温一郎、内田象水三氏は明日出発
州方面へ写生旅行に出発

▲ドーム・シユナイダ美術玻璃器展 廿一日から廿三日
まで三共ビル六階に展覧

▲川端竜子氏 廿日京都から帰る

▲川村曼舟氏 昨日帰洛した

▲高安月郊氏 三年ぶりで東京駒込西片町十番にノ二号
(電小石川四八六三)に復居

▲島中雄作氏 本月初旬から引続き病氣引籠り中

▲「劇と評論」十一月号 戯曲「凡人」(北村寿夫)「人
物のある街の風景」(北村小松)「飛行機」(小林徳二郎)

「或る晩」(瀬戸英二)その他

▲評論家及随筆家懇親会 二十四日午後四時半から神楽
坂カフェ・オザワにて発起者如是閑、天溪、真次、久
雄、秋骨、憲二、桐谷、芳次郎、貢太郎、梢風、高信、
魯庵、米次郎、徳弥、臨風、毅、青峯、初之輔、只一、
の諸氏

大正十五年十月二十一日

▲中央公論十一月創作 戯曲「生命の王」実篤「永久の
負債」作次郎戯曲「大塩平八郎」青果

▲解放十一月創作 戯曲「叛逆児周黎民」直治「顔」松

村善寿郎「殺意」 神山宗勲戯曲「船は踊る」 井東憲

▲文芸春秋十一月戯曲号 「明君行状記」青果「驟雨」
国士「清吉の死」綺堂「おらんだ人形」信三郎「支那の王女」吉蔵「街角」保「お月様」●「明眸有罪」修太郎（連作小説六曲）

▲芥川龍之助氏 昨日鶴沼に赴く

▲吉田絃二郎氏 静岡、名古屋方面で講演更に紀州高野山に赴き月末帰京する

▲川路柳虹氏 二十四日午後六時から本郷絵画研究所に於て「洋画の文展より帝展への変遷に就て」講演する

▲平野止夫氏 名古屋新聞へ「恋愛受難」を連載する

▲中央美術協会 野田大塊、勝田主計、大谷句仏、佐藤肋骨、中村不折、河東碧梧桐氏等俳句短冊会は麴町元園町の同協会で開催中だが申込締切を本月二十五日に延期した

▲「近代風景」創刊号 北原白秋氏編輯の下に廿三日発行創作「影」（北原白秋）「船窓小戯」（中河与一）「寒い家」（野溝七生）「星」（下村千秋）「宿」（大木篤夫）

大正十五年十月二十二日

▲ポオル・クロオデル氏 二十三日午後二時から山王台日仏会館で「西洋の表意文学」を講演する

▲福田正夫氏 廿三日から廿七日まで高田市で講演のため白鳥省吾氏と同道する

▲角田竹夫氏 市外駒沢町下馬四三五に転居

▲生品新太郎氏 市外中野上野二七五二に転居

▲岡村二一氏 市外日暮里谷中本九七九

▲早大劇研究会 並にイブセン会は来月六、七両日に亘り秩父神社神楽を見学する参加希望者は六日午前七時五分上野苑にて参集のこと

▲関東麻雀大会 廿四日（日）午前八時から麴町文芸春

秋社にて行ふことにきまる

▲蒼原会茶話会 不破、間所、新道、斎藤、山口五君の仁科、帝展祝賀会を二十五日午後六時から京橋西紺屋町いづみやにて開く会費五十銭

▲草土吟社句座 二十三日午後五時から京橋木挽町朝日倶楽部にて宿題「刈田」「蔓焼く」

▲「生活者」十一月号 創作「埴輪」（吉田泰司）「朝」（磯長ぬい）「坑内」（大坪草二郎）「街の物語」（松崎映太郎）「忘れ得ぬ人々」（光瀬俊明）

▲丁曾倫理会公開講演 「政党の倫理」（友枝高彦）「海外発展の倫理」（吉田熊次）「倫理化の意義」（三宅雄二郎）二十三日午後一時から帝大工学部大講堂

▲「騷人」十一月号 特輯号とし、「俠客奇談号」とする

大正十五年十月二十三日

▲「新小説」十一月号創作「遙かなる眺望」（小島勲）「菩提樹の美」（岡田三郎）「三輪車」（坪田譲治）「最初の事」（関口次郎）「結婚苦」（舟木重信）

▲「日輪」観賞会 横光利一氏「日輪」及小島あやめ氏作「吾は海の子」を文芸春秋社ドラマ・リーグ主催で廿八、九両日本社講堂に開催

▲岡本一平氏 の恵比寿大黒対幅会を麴町元園町中央美術協会主催で開催申込は其社

▲池谷信三郎氏 逗子町披露下栗田別荘へ転居した

▲水野正次氏 クルト・アイスナア原著「神々の試練」を脱稿近日出版の予定

▲破魔弓句会 明日午後一時から本郷根津神社境内娛楽園に開催

▲中外俳句会 廿四日午前十時から上野公園韻松亭に開催

▲土を慕ふ者の会 廿四日午後六時から三田四国町竹内

方に開催

▲「早稲田文学」十一月号 二百五十号記念として「大近松研究号」とし、逍遙、露伴、紫影、作、蓬吟、辰之その他の諸氏執筆

▲「日仏芸術」十一月号 「マイヨール」（篤二）「ドンゲン頌」（ロスタン）「帝展洋画評」（桑之軒）

▲椎の木社 二十四日午後一時山王台日枝神社傍小泉亭に小会開催

大正十五年十月二十四日

▲照井栄三氏帰朝歓迎会 廿七日午後五時半から銀座アルプスに開催

▲犬養健氏 短篇集「あひるの出生」を春秋社から近刊する

▲福田正夫氏 「主観」十一月号に百二十枚の創作「煙」を寄稿

▲「椎の木」十一月号 「竹」（室生犀星）「とんぼの一箏」（佐藤惣之助）「書斎生活」（新居格）その他

▲中島田鶴子氏独奏会 来月六日午後七時から外苑日本青年館に開催

▲大西登氏 未来派作品第一回陳列会を廿五日から五日間大阪白木屋呉服店階上で開催

▲「文芸道」十一月号 創作「本人」（加宮貴一）「伊右衛門と浄念」（小野金次郎）「友達」（伊藤時雄）「一俵の米」（大江賢次）

▲「劇と人間」十一月号創作 「明智兄弟」（榎本稚彦）「眼」（若月保）「第二の扉」（伊普泉）

▲「人生創造思想体系」完成記念晩餐会 石丸梧平氏の同著完成を記念するため三十日夕六時から日本橋三共ビル六階エムプレスに開催

▲早稲田フランス語講習会 明日から向ふ五週間早大仏

文学会主催で同校に開催

大正十五年十月二十五日

▲近藤浩一路氏 二十六日京都発来月初旬まで十和田探勝に赴く

▲真野紀太郎氏 来月早々下阪の予定

▲山岸主計氏 二十八日午前九時半東京駅発午後二時横浜解纜天洋丸で渡欧と決定

▲尾瀬敬止氏 関西旅行を了へ帰京

▲水谷竹紫氏 本日夜京都南座へ舞台監督に出発

▲北川冬彦氏 第二詩集「検温器と花」ミスマル社から近刊

▲批評社 芝区烏森一番地に転居

▲青楓洋画塾 この程京都市東山霊山に塾を開設青楓氏指導の任に当る月謝七円毎月芸術茶話会を年に一度、研究作品の発表展覧会を開く

▲解放社 解放群書第六篇として「社会主義随筆集」第七篇として「幸徳秋水文集」を近刊

▲東京写真研究会 明年二月十五日から二十八日まで府美術館に開催

▲勅題「海上風静」 小石川音羽五ノ一七俳諧誠道社にて御題の俳句募集、〆切十一月三十日尚皇室中心主義の俳団体を建設する為機関紙「花笠」を発行する

▲「明暗」創刊 旧十字街同人一部に依り十一月から創刊

▲「思想」十一月号 「阿舎に現はれたる仏陀観」(宇井伯寿)「セザンヌの構図とその影響に就て」(富永惣一)「ヘーゲルの哲学」(大関将一)その他

○十月二十一日 「芥川龍之助」は「芥川龍之介」の誤り

○十月二十四日 「中島田鶴子」は「中島田鶴子」の誤り

○十月二十四日 「榎本雅彦」は「榎本雅彦」の誤り

○十月二十五日 「みづゑ」は「みづゑ」の誤り

▲「みづゑ」帝展号 孝則、義謙、荘八、一鷹、周次の諸氏帝展評その他

大正十五年十月二十六日

▲故滝田樗陰氏一週忌 追悼供養会を廿七日午後六時から臨風、貢太郎、梢風氏等発企で下谷池の端「ひつじ」に開催

▲橋爪健氏 伊福部隆輝、金子農夫雄三氏は一昨日講演のため静岡に赴いた

▲湯浅真生氏 福岡市地行東町に帰省中月末帰京

▲岡田道一氏 伊香保に旅行

▲築地水曜会 廿七日夜築地小劇場に「横つ面をはらるる彼」のドラマリーグを行ふ

▲「石楠」十一月号 「一茶百年忌子規」(垂限)その他

▲「主観」十一月号 創作「煙」正夫「限三の時計」康文その他

▲「炬火」十一月号 「正道奪還」柳虹その他

▲「演劇研究」十一月号 「思凡」(衡吉)「日本の黙劇」(吉茂)戯曲「女敵異聞」(弘津千代)その他

▲文芸雑誌「各人」創刊 早大文科の人々を中心に十一月から創刊

▲文芸街道社 麻布区狸穴町十に転居

▲「地上楽園」十一月号 「秋の彼岸他十篇」省吾「現代英詩講話」暉吉「詩壇雑誌」省吾その他詩、民謡

▲「郷土」十一月号 楠郎、治郎、威馬雄、その他の諸氏執筆

▲「光」十一月号 「明治歌壇一夕話」(小島繁雄)「萩之家歌集新講」(薫園)その他

▲「新使命」十一月号 より文芸欄を新設する

大正十五年十月二十七日

▲横山大観氏 月末京都から一寸帰る

▲竹内栖鳳氏 沼津柴田別荘に在り淡交会出品製作中

▲橋本閑雪氏 廿七日発来月半まで支那に遊ぶ

▲長田幹彦氏 九州一円の旅行を了へ帰京

▲畑耕一氏 本郷区元町一ノ五文化アパートメント内に転居

▲松根東洋城氏 塩原四季の郷滞在中

▲宮地嘉六氏 市外西巢鴨町庚申塚三八三に転居

▲黒土会例会 三十日午後六時から神田錦町芳千閣に開催

▲青山学院復興音楽会 二日午後七時から音楽会を青山学院講堂に開催

▲「藁筆」同人揮毫展 昨日から三十日まで丸ビル丸ビシ呉服店に開催

▲「文芸城」十一月号創刊 創作「地平に出でんとする者」(逸見)「まつのことども」(井葉野)「十三夜と鷗」(山崎)「むらぎ」(城谷)等

▲農村芸術講演会 来月一日夜七時から神奈川県高津村小学校講堂に於て「農村芸術に就て」中村星湖氏講演外に音楽、舞踊、劇等がある

▲詩と評論誌「一切群生蒙光照」創刊 十一月から浅草区玉姫町一二六倉島方イラ芸術社から創刊

▲日本美術院試作展 同展は二月十七日から三月四日まで府美術館で開くが搬入は二月十二、三両日である

大正十五年十月二十八日

▲徳田秋声氏 長編小説「蘇生」を新潮社から近刊尚次ぎの時事新報の連載小説を執筆する

▲秋田雨雀氏 一昨日函館から札幌方面へ講演旅行に赴く来月四五日頃帰京

▲松村梢風氏 三十日出発約十日の予定で朝鮮に旅行する

▲三上於菟吉氏 長篇小説「地上楽園」を新潮社から近刊する

▲郷倉千鞠氏 来月奈良から松江へ向ひ長崎へも赴く予定

▲富本憲吉氏 同一枝夫人と共に大和の窯を引払ひ東京移住の目的で出京目下駒沢新町の尾竹越堂氏方にゐる

▲飛田周山氏 塩原から帰京来月三日日本面会々員一行と共に黒部峡谷探勝に向ふ

▲佐藤義亮氏 郷里秋田へ帰る来月五日頃帰京の予定

▲鯨井孝氏 来月十四日午後二時から国民講堂に独唱会を開催

▲「文芸時代」十一月創作 「山径」「金作」「滑走機」(足穂)「ある猶太人の話」(石野重道)「花束を肩に」(貴二)「炭脈の昼」(橋本英吉)「夏の風景画」(彦次郎)「ハンスの死」(小堀甚二)「よくある生活」(貴鷹)

▲詩話会員総会 明日午後七時から神田駿河台カフエー・ブラジルに開催

大正十五年十月二十九日

▲武者小路実篤氏 感想集「恋愛結婚、貞操」を新潮社から近刊

▲ベッオールド夫人 既報鯨井孝氏独唱会に賛助出演する

▲「文芸戦線」十一月号 安寧秩序紊乱で廿六日発売禁止された

▲伊藤時雄氏 令弟松雄氏の病氣見舞の為諏訪に赴く両三日中に帰京

▲詩の舞踊と演劇の夕 「太平洋詩人」及び「女性詩人」両詩社の主催の下に来る十一月三日(水曜)午後六時から本社講堂で開催。自作詩朗読(尾崎喜八、大関五郎、中西悟堂其他諸氏)舞踊の他矢橋公磨氏の「二人の廃疾者」(太平洋詩人協会演劇部所演)紀久雄氏の「冥府」(和蘭陀座所演)等がある筈。

▲仮面座公演 来る十一月一、二両日午後六時から築地小劇場に第一回公演としてカレル・チャベツク作「マクロポウロス家の秘法」三幕三場を上演会員券一円五十銭。

▲演劇聯盟に俳優観客聯合茶話会本日大阪大紙倶楽部に開催藤井真澄その他諸氏出席

▲都市美研究会 三十日午後五時から丸ノ内中央亭で阪谷芳郎男主催で研究家を招待

▲遊戯三昧会 第十一回展覧会を三十日から三日間上野精養軒裏梅川亭に於て開催

▲「人生を聴く」会 東日記者永松浅造氏の同著出版記念会廿八日午後六時から芝口太田屋に開く

▲大塚画会第四回 二十九日から三十一日まで高師図書室に於て

▲若月琢一氏 文芸雑誌「マルヤネ」を創刊した

▲「日光」十一月号 「良夜」(白秋)「山道」(逍空)「棄魂」(信行)「木犀」(次郎)「秋」(梨郷)その他

大正十五年十月三十日

▲中村吉蔵氏 木村莊八氏は「大塩平八郎」上演に際し作者並びに装置者の感想を築地小劇場パンフレット上

一月号に掲載

▲小杉未醒氏 田山花袋氏と共に来月早々別府から耶馬溪へ出かける

▲石井柏亭氏 廿七日大阪から帰った

▲池上秀敏氏 赤倉久途宮別邸で襖絵製作中

▲木村武山氏 坂慶山氏を伴ひ函館五稜閣に十一月一杯滞在

▲長野草風氏 神経痛快方に向つた

▲岩井白水会秋季大会 来月十四日午前九時から府下千駄ヶ谷岩井邸内に開催

大正十五年十月三十一日

▲田山花袋氏 本日出発小杉未醒氏と共に約二十日間の予定で九州耶馬溪方面に行脚する

▲吉井勇氏 風邪で臥床中

▲山内多門氏 来月早々保田の別荘に赴く

▲木村毅氏 茅ヶ崎に赴いた

▲高橋邦太郎氏 所訳「生れた家」(コボオ作)を中央美術社から「郵船テナシチイ号」(ヴィルドラック作)を仏語研究社から近刊

▲岡本一平氏 福神会麴町元園町中央美術協会募集中本日締切

▲杉本重英氏 新著「夢の中の街」を森林社から出版

▲淡交会第三回展 明日から十日まで三越呉服店で

▲古陶器展 ペルシャ、ギリシャのもの数十点を日仏芸術社に来月四日から六日まで展覧

▲築地小劇場公演ボスタア展 四日から六日まで同志社

▲ドラマリーグ主催で四条柳馬場コマドリに開催

▲第一回六合会展 明日から七日まで丸ノ内保険協会楼上に開催

▲「演劇改造」十一月号 戯曲「摩利耶観音」(林和)「恋

の黄八丈」(気駕君子)

▲「未来人」創刊 編輯同人(会費五円) 地方同人(会費二円)を募集中発行者馬込村谷中一一二三其社、同人北野慧、須藤一郎、田辺正人、水上潮外数名

大正十五年十一月一日

▲横光利一氏 京都から帰京中その中再度京都に赴く
▲堤寒三氏 淡路から堺に帰り十日頃帰京
▲表調社第二回写真展 四日から六日まで銀座宮沢工作所楼上に開催

大正十五年十一月二日

▲正木不如丘氏 新たに書き下した長編小説「学用患者の手記」を文芸春秋社から近刊する
▲岸田国士氏 文芸春秋社で高田保氏と共に文芸春秋社で「新劇協会」の稽古中

▲中戸川吉二氏 鎌倉を引払つて巢鴨の実家にト居尚ほ夫人腹膜炎で大学病院で手術した
▲服部竜太郎氏 新著「音楽十二講」を新潮社から近刊
▲「木星」十一月 創作「家」(井口正名)「座興」(浦島義博)「叔母の骨」(増田五良)その他

▲「江戸軟派研究」十一月号 「黄表紙」(安永天明)「九種解題」その他

▲春草会 阿部竜夫氏渡欧送別会を三日夜中山文化研究所に開催

▲新進詩人社主催 詩歌展覧会を銀座一ノカフェ・ゑびすに二日から六日まで開催

○十月二十九日 「木屋」は「木屋の花」として掲載された。著者は村野次郎。「秋」「梨郷」はこの号の「日光」誌上に掲載されていない
○十月三十日 「五稜閣」は「五稜郭」の誤り
○十一月五日 「火を恋を」は「火を恋ふ」として掲載された

▲俳画会 神田区一ツ橋通俳画堂にて二日から八日迄

▲仮面座第一回上演 築地小劇場にて二日午後六時からカレルチャベック作「マクロポウロス家の秘法」三幕

大正十五年十一月三日

▲竹内栖鳳氏 四日頃沼津から出京する
▲小室翠雲氏 本日(三日)箱根から帰る
▲松岡映丘氏 京都奈良の旅から不日帰る
▲沢村専太郎氏 在外中蒐集発見せし中央亜細亜その他の壁画、城門、騎馬人物図等の中五十八点を選び本日から十四日まで表慶館に展覧

▲真道黎明氏 此程蔵文を喪つた

▲岸田劉生氏 岡山から帰京

▲岡本帰一氏 府下中野町本郷一三二に転居

▲東郷青児氏作品分頒会 四種に分ち府下蒲田町北蒲田一四九三東郷明代方で受付ける

▲芭蕉句会 六日午後五時から本郷芭蕉社に開催

▲「美の国」十一月号 帝展号とし金原省吾、藤懸静也、

鍋木清方、荒木十畝、松岡映丘その他数氏執筆

▲ターティスト倶楽部創立 新進哲学者芸術家に依り組織されたが近々其第一回の講演会を開催

▲「美術新論」創刊号 「クラシックの精神」(河東)「美術批評の基準」(孝太郎)「槐」(龍之介)其他

▲渋柿社 七日午前十時から芝公園増上寺前協調会館に開催

大正十五年十一月四日

▲秋田雨雀氏 先月廿五日に出発して此方へ来てゐます。十年前の沢田一行との旅行を思ひ出して感慨の深いものがあります。北大文芸部の人達に導かれて歩いてゐます。函館一回、札幌二回です。寒いけれども北海道は何処となく明るい感じがします(札幌にて)

▲松永材氏 新著「倫理学概論」を聖山閣から近刊

▲斎藤要氏 新著「世界哲学史年表」を聖山閣から近刊

▲村山知義氏 府下々落合七三五へ転居

▲寺尾幸夫氏 市外駒沢町上馬六三八玉虫方へ転居

▲加藤謙氏 一昨日出発京都に赴いたが十四日帰京

▲文庫会 第二回は来る六日午後五時本郷元町文化アパートメントに開催、出席希望者は千駄谷五六三溝口白羊宛申込のこと

▲三田演説会 九日午後一時から三田演説館に於て「不滅伝導学説を携へて」(加藤元一博士)「普選最初の試験」(板倉卓造博士)「題未定」(林塾長)

大正十五年十一月五日

▲佐藤春夫氏 本日午後五時半から神田キリスト教青年会館に啓明会主催で「文芸家の生活を論ず」外に下中弥三郎、奥むめお、新居格氏等講演

▲九条武子氏 十五日頃京都から帰京

▲松原寛氏 「哲学の根本問題」(上)を同文館から出版した尚(下)は近刊される

▲松岡譲氏 長編「愛人」を「婦人倶楽部」正月号から一年間連載

▲谷崎精二氏 新著長篇「火を恋を」を新潮社から近刊

▲幡谷正雄氏 明日午後一時から早大文学会に於て「英

国の農民文学」を講演

▲小野十三郎氏 新集「半分開いた窓」を小石川表町太平洋詩人協会から近刊

▲金子洋文氏 今野賢三氏と共に秋田方面へ講演旅行中

▲「新思潮」本月号 創作「工場の邦」(高木秀夫)「追ひかける話」(丸山清)「薄明」(秋山六郎兵衛)

▲四六版解放 本月号「守田有秋編輯各国革命文書集」は去る三日発売禁止を命ぜられた

▲独逸現代美術展 既報の如く六日から三十日まで上野日本美術協会に開催

▲文化学院 第三回絵画展六、七神田袋町同校に開催

▲プロムオイル写真展 六日から十日まで日本橋小西本店階上

▲日曜洋画研究所 湯島自由画室で十一月第一日曜より開始

▲とねりこ歌会 七日午後二時から上野韻松亭に開催

▲日本大学社会学会 六日午後五時から駿河台大常盤に開催

▲五星会演能 明六日午後四時半から麴町富士見町細川家舞台にて「兼平」「俊寛」「望月」等

大正十五年十一月六日

▲横山大観氏 関西から近日帰京

▲生方敏郎氏 新著「明治大正見聞史」を日本橋春秋社から近刊

▲川端竜子氏 藤井浩祐、斎藤隆三氏と共に一昨日下午阪

▲村山知義氏 八日午後三時から早大劇研究会主催で同校三十一教室に「演劇を運転する人々」の講演をする

▲真野紀太郎氏 下阪内海廻りの後奈良、松本を経て帰京

▲桐生政次氏 新著「婦人の未来と男性復興」「道德の未

来と婚姻の大赦日」「医師の未来と神経の無感覚」「科学の未来と文明破壊の脅威」を聖山閣から近刊

▲帝大映画研究会 明日午後一時から報知講堂に於て映画と音楽の夕開催独唱関鑑子氏出演映画「極楽突進」外数種

▲青山学院弁論部 本日午後六時から青山学院ホールで開催

▲劇友会 本日夜七時から横浜富士見館に開催、講演清水一郎、小林徳二郎、島津保次郎、生方賢一郎、畑中蓼坡の諸氏、朗読「同志の人々」(山本有三作)「旧友」(吉井勇作)

▲本草学会 明日午後一時から下落合一九八〇地岡不崩方に開催

▲土曜労働講座 本日午後六時半から浅草松清町講堂に於て「無産政党と地方分権」(大内経雄)「住宅問題に就て」(乾真介)講演

▲「創作人」文芸講演会 本日夕六時神田主婦之友社講堂に開催

大正十五年十一月七日

▲吉江喬松氏 「仏蘭西古典悲劇の研究」舟木重信氏「グ Rilバルツェルの小説研究」本間久雄氏「近世英文学上の唯美派運動」を新潮社より近刊の「文学思想研究」に寄稿した

▲中村吉蔵氏 昨日から秩父方面へ旅行中

▲吉田絃二郎氏 十二日頃再び信州路に旅行する

▲藤森成吉氏 信州から帰京した

▲田中貢太郎氏 本日から榛名方面へ旅行尚大毎出版部から随筆集「貢太郎見聞録」を近刊する

▲木村鷹太郎氏 湘南辻堂の自宅を研究所とし事務所を東京麴町下六番町十七日本民族協会とし休刊中の民族

研究叢書を発行し「国史オノコロ島記事とアレキサンドル大王のベルチスタン記事」を近刊

▲橋爪健氏 「婦人世界」正月から長編小説「母性凱旋」を毎号連載する

▲林重義氏 大阪及び九州方面へ旅行

▲奥むめを氏 中野町園三二四四に転居、尚十一日から信州方面に工場視察を兼ね講演に赴く

▲柳瀬正夢氏 市外杉並町馬橋三四二へ転居

▲三岸好太郎氏 岡田七蔵氏と共に上海から蘇州方面の写生旅行中

▲高野真美氏 第三回洋画個人展を十三日まで池袋中屋食料品店に開催

▲天文学講座 市民自由大学主催八、九両日夕六時半から神田青年会館に於て、「趣味の天文学」(山本一清博士)講演

▲聯合第一回英語大会 早大英語会、第一第二高等学院英語部九、十両日午後五時半早大スコットホールに開催

▲イブセン会 八日巢鴨中村吉蔵氏宅に開催

▲外邦古陶器展 明日まで延期

大正十五年十一月八日

▲幸田露伴博士 長男豊成(二〇)氏は肺結核のため六日午前四時六本木額田病院で死去

▲徳田秋声氏 十二日午後六時から草の実社主催の文芸講演会にて講演

▲橋本閑雪氏 廿日過ぎに支那から帰る

▲神原紫峰氏 十八日から一週間高島屋で東京に於ける第一回個展を開く

▲山下新太郎 京都赤まん屋に滞在中

▲正宗得三郎氏 四万温泉に滞在中

▲前田河広一郎氏 夫人一女出生友枝と命名した

▲石崎光瑤氏 七日帰洛した

▲野長瀬晚花氏 十日頃紀州から帰洛する

▲金子光晴氏 府下高円寺七四七転居

▲西村五雲氏 風邪臥床中だったが快方に向つた

▲小林柯白氏 廿一日出京の筈

▲船川未乾氏 来春東京で滞欧作其他を併せ処女個展を開く

▲松波次郎氏 関西旅行から帰京

▲詩話会総会 十三日午後六時から神田駿河台下五車堂に開催、会費五十銭

▲「京燕」創刊 本月西大久保其社から詩歌雑誌として創刊

▲岡田伊三郎氏 (温泉の日本)編輯者)市外雜司ヶ谷四八九に転居

▲築地水曜会 十日午後五時半から築地小劇場に「大塩平八郎」のドラマリーグを行ふ

▲南画院・自由画壇展 京都で開催期を十五日まで延長する

▲露伴不折勅題合作会 「海上風静」の勅題による露伴氏和歌、不折氏密画の画会開催、麴町元園町中央美術協会で申込募集中

▲年刊「日本童話選集」 童話作家協会編纂にかゝる同選集は丸善から近刊される

▲「市場美術」 井東憲、峰岸義一、玉村善之助氏等に於て、文芸、美術、工芸、音楽等の一般芸術雑誌を正月から創刊

大正十五年十一月九日

▲小山内薫氏 「小山内薫戯曲全集」(全四巻)を順次春

陽堂から近刊

▲田山花袋氏 長篇「恋の殿堂」を春陽堂から近刊

▲佐藤春夫氏 来年一月「中央公論」並に「婦人公論」のみに執筆すると尚「婦人公論」正月号から毎月長編小説「こそこの雪今いづこ」を連載する

▲三上於菟吉氏 牛込市ヶ谷左内町三十一に転居

▲永見徳太郎氏 新著「南蛮長崎書」を春陽堂から近刊

▲村山龜齡氏 個人雑誌「銀鈴」を丸の内郵船ビル五一七銀鈴社から創刊

▲水木伸一氏 飯坂温泉から塩原温泉方面へ旅行中

▲獺祭 十日午後六時から小石川指ヶ谷蓬華寺に開催

▲「躍動時代」十二月創刊 演劇、映画、舞踊、研究雑誌として四谷南伊賀町其社から創刊発売文芸春秋社

▲十日会 十日午後六時から神田五車堂に開催

▲美術家築地小劇場総見 十三日夕「大塩平八郎」の舞台装置をした木村莊八氏のために吉田白嶺氏等幹事となり総見

大正十五年十一月十日

▲徳田秋声氏 最近の短篇集たる「過ぎ行く日」を改造社から近刊

▲岡本綺堂氏 四年目で麴町区元園町一の廿七の旧居に帰つた

▲正宗白鳥氏 評論集「文芸評論」を改造社から近刊する

▲長田幹彦氏 長篇「緑の処女」を春陽堂から近刊

▲堂本印象氏 齒痛を病んでゐる

▲柳宗悦氏 上京中だったが四日京都へ帰つた

▲近藤浩一路氏 三島を経て六日帰洛

▲今東光氏 長編小説「愛経」を新潮社から近刊尚夫人

ふみ子氏は腎臓と気管を病ひ病臥中

▲尾崎久弥氏 新著「軟派隨筆」を春陽堂から近刊

▲河井寛次郎氏 廿四五日頃個展開催の為め出京する

▲茨木猪之吉氏 長野県南佐久岸野に写生旅行中

▲池田桂仙氏 痔疾で引籠中

▲広瀬操吉氏 伊豆下田町森一方に滞在

▲玉舎春輝氏 神経痛で引籠中

▲林房雄氏 市外杉並町高円寺六一一佐々木方に転居

▲宇田荻郎氏 七日発一週間ほど上京

▲原田春鈴氏 京阪の旅から昨日帰京

▲春陽堂発行「文壇新人叢書」 坪田譲治氏著「正太の馬」林房雄氏著「絵のない絵本」村山知義氏著「人間機械」小島勲氏著「遙かなる眺望」を順次近刊

▲日本写真会肖像展 十日から十四日まで銀座宮沢家具店楼上資生堂飯美術部に開催

大正十五年十一月十一日

▲「女性」十二月号創作 戯曲「男の心女の心」(広津和郎)「地熱」(渾大坊小平)戯曲「毒虫」(水木京太)「男の仲」(戸川貞雄)戯曲「中村仲蔵」(邦枝完二)紀行「旅日記」(吉田絃二郎)

▲「婦人公論」十二月号創作 「大道無門」(里見弴)「雑口」(細田源吉)「他人にならざるまで」(相馬泰二)「彼女は何を思ふたか?」(宮地嘉六)「金欄戦」(白井喬二)

▲鑄木清方氏 此の程牛込区矢来四に転居尚氏は献上物を製作中

▲岡本綺堂氏 麴町元園町一の二の旧居に新築落成此程移転した

▲岸田国士氏 シナリオ、戯曲集「麵麴屋文六の思案」を改造社から近刊

▲柳原白蓮女史 十二日午後六時から国民講堂にて草の実社主催の講演会に講演する

▲木村毅氏 昨日京都に赴く

▲富田常雄氏 十三日出発二週間の予定で上海に赴く

▲古賀竜視氏 京橋区新栄町五の一つりふねやに転居した

▲中根弘氏 市外碑文谷一八〇七へ転居

▲熊沢復六氏 「アンドレエフ傑作戯曲集」を原始社から出版

▲田中王堂氏 十三日午後一時から立教大学廿四番室にて「経説と観念論との関係の文化史考察」を津田左右吉氏は「支那思想研究の方法と其の態度」を出講当日は秋季公開講演

大正十五年十一月十二日

▲「淫売婦」「海に生きる人々」の会 葉山嘉樹氏の同著出版を記念する為明十三日午後六時から新宿駅横本郷バーにて開催する

▲伊藤時雄氏 代々幡町字幡ヶ谷本村二六七に転居

▲吉田金重氏 府下雑司ヶ谷亀原五九磯崎方に卜居

▲香蘭短歌会 十四日午前九時新橋集合八王寺にて大会開催

▲七月会美術展 十五日から来月十二日迄京都岡崎図書館に開催

▲「草の実社」文芸講演会 本日午後六時から国民講堂にて北見志保子、水町京子、古泉千樫、長岡とみ子、折口信夫、川上小夜子氏、その他に徳田秋声、千家元麿、柳原白蓮女史等が講演

▲国民自治会研究会 十五日午後五時半から神田キリスト教青年会館で下中弥三郎氏講演

▲菊池四郎氏 新著「星は隕つ」を人交会から近刊

大正十五年十一月十三日

▲文芸春秋社講演会 本日午後一時から慶応大ホールに開催、高田保、久保田万太郎、横光利一、伊沢蘭奢、畑中夢坡、村山知義、菊池寛、岸田国士の諸氏講演

▲岡田三郎助氏 大阪奈良旅行中

▲小堀鞆音氏 奈良京都方面旅行中

▲小室翠雲氏 十六七日頃京都へ

▲藤井浩祐氏 十一日京都を発丹波へ向つた

▲村上華岳氏 此程父君を喪つた

▲熊岡美彦氏 奈良に滞在中だが来月中旬愈々渡欧する

▲川端竜子氏 斎藤隆三氏と十一日夜帰京した

▲佐藤朝山氏 奈良、日吉館に滞在中

▲土田麦僊氏 腸を病んでゐる

▲津田青楓氏 近々結婚すると

▲山内神斧氏 十日大阪から帰京した

大正十五年十一月十四日

▲「太陽」十二月号 創作「梟を飼ふ女」(戸川貞雄)「よき妻、よき夫」(甲田正夫)「良夫へおくる一信」(宇野千代)「犬ころ二匹」(新井紀一)

▲中村吉蔵氏 秩父の旅行を了へ先頃帰京したが一昨夜再度奈良の旅に赴く

▲直木三十五氏 上京富士ホテルに滞在中

▲永見徳太郎氏 新篇「大西郷記念集」を夏汀堂から近刊

▲林古溪氏 新著「わがうた千首」を小石川丙午出版社から発行

▲田中宇一郎氏 講演のため茨城方面に旅行する

▲「フランスの夕」 本日夕六時半から京都帝大楽友会

館に開催

▲草詩堂霜月例会 十五日午後六時から京橋木挽町■楼上

▲「新興文芸」十二月号 創作「口」(青山倭二)「金時計」(渡平民)「楽書」(高山輝雄)その他

▲鉄道俳句大会 廿八日午後一時から丸ノ内鉄道倶楽部に開催

▲蒼原会人体部例会 十五日から二十日まで午後六時から八時半まで滝之川多々羅氏方

▲盗鈴会室内劇試演、本明日午後六時半から市外高田町大原梅田寛方に開催

大正十五年十一月十五日

▲芥川龍之介氏 新著随筆集「梅、馬、鶯」を新潮社から近刊

▲和田英作氏 丸之内倶楽部主催の下に十六日午後七時から「洋画雜観」を同所で講演

▲松岡譲氏 「婦人倶楽部」新年号より連載の長篇を都合により、「憂鬱な愛人」と改題

▲津田青楓氏 既報の同氏は本日夜京都でかの震災当時世評に上つた噂のひとつ、正式結婚をし披露をする

▲石川演治氏 高等師範の図画書修科の生徒を連れて伊東温泉山田屋方に二十二日まで滞在

▲岸田劉生氏 京都に滞在中

▲津村京村氏 京都に滞在中

▲石崎光瑤氏 本日富山県に帰省十七日頃帰洛する

▲野長瀬晚花氏 十日帰洛したが個展開催のため紀州田辺と新宮に向ふ

▲路谷虹児氏 巴里六区リウボジラル街九十三に転居

大正十五年十一月十六日

▲中村武羅夫氏 湯ヶ原から辻堂に帰宅した尚ほ気管支カタルと喘息で療養中

▲清沢冽氏 新著「モダン・ガール」を金星堂から近刊

▲内藤辰雄氏 加藤武雄氏を顧問とし日本プロ芸術研究会を起し二十一日池袋四二一木村方で第一回開催

▲ロード・ピツシエール新作画展 廿一日まで京都寺町御池画箋堂階上で開催

▲小宮山明敏氏 病氣静養のため当分岡山県金川町草生に滞在

▲星野潤一氏 去る五日歳父を喪つた

▲「文芸公論」合評会 来る十七日その第一回合評会を階楽園にて格、彦次郎、東光、タルホ、鉄兵、隆輝、士郎、正俊、健の諸氏出席する

▲親交研究会 十七日午後五時東美俱樂部に山陽遺墨展覧六時半から「頼る山陽に就て」(市島謙吉氏)の講演がある

▲鶴月左青俳画展 本日から廿一日まで日本橋白木屋に開催

大正十五年十一月十七日

▲「改造」十二月号 創作「夢遊病患者」(正宗白鳥)戯曲「集衆」(前田河広一郎)戯曲「聚楽の人」(吉田紘二郎)「プロレタリアの乳」(葉山嘉樹)「暗夜行路」(志賀直哉)「青塚氏の話」(谷崎潤一郎)

▲「不同調」十二月号 創作「陰影」(新居格)「悪猫」(武川重太郎)、「男・女・五月」(川崎長太郎)、「坂道」

○十一月十二日 「海に生きる人々」は「海に生くる人々」として掲載された

○十一月十五日 「石川寅治」は「石川寅治」の誤り

○十一月十六日 「ロード・ピツシエール新作画展」は、「ロート、ピツシエール両氏新作画展」の誤り

○十一月十六日 「頼る山陽に就て」は「頼山陽に就て」の誤り

○十一月十七日 「聚楽の人」は「聚楽の人々」として掲載された

(尾崎士郎)

▲正宗白鳥氏 長篇「愚人の唄」を新年号より向ふ一ケ年間に亘つて「婦人公論」に掲載

▲高橋新吉氏 愛媛県喜多郡大州佐海法律事務所に滞在中

▲「探偵趣味」十二月号 創作「助五郎余罪」(牧逸馬)

▲「隼登場」(久山秀子)「此の二人」(城昌幸)「南京街」(小流智尼)「悪い对手」(大下宇陀児)「ドタ福クタバレ」(夢野久作)

▲推古会第五回展 廿、廿一両日上野美術学校講堂に開催

大正十五年十一月十八日

▲武者小路実篤氏 論文集「人類の意志のまゝ」を春秋社から近刊する

▲賀川豊彦氏 本紙連載の「暗中隻語」を春秋社から近刊

▲田中良氏 十九日頃大阪から帰京

▲高山巖氏 府下高田雜司ヶ谷五〇〇武蔵野館方に転居

▲長谷川亮介氏 新著「経済革命と労働銀行運動」を大阪屋号から近版

▲大島総一氏 上京市外蒲田町北蒲田一五〇〇に仮寓した

▲「農民詩人」創刊 遠地輝武氏の個人雑誌として本月末刊行

▲赤壁吟社俳句会 二十日午後五時から神田松本亭に開催

▲「講談俱樂部」新年号 「妖美人物語」(幽芳)「華霊」

(武雄)「まゝならず物語」(三十五)「尼僧の恋」(Y子)その他季風、次郎、邦、武羅夫、蝶二、薫、天外、臨風、一平氏等執筆

▲日露芸術協会 本部を市外上目黒一九四九に移転幹部委員として雨雀、曙夢、薫、孝平、唯士、常三郎、袈婆二、正夫、青島、晩成、弘、の諸氏選任された

▲日本美術院同人 本日歌舞伎座を総見する

▲歛祭詩社主催詩展 十九日から二十三日まで歌舞伎座前カフェー白樺に開催

▲プレザントクラブ 第四回写真展を廿日から廿二日まで三共ビル六階プレザントクラブに開催

大正十五年十一月十九日

▲中村吉蔵氏 奈良から熱海へまわり先頃帰京した

▲秋田雨雀氏 北海道の旅を了へ帰京した

▲南部修太郎氏 井汲清治、水木京太氏等大阪に於ける三田文学講演会の為一両日中に下阪する

▲辻潤氏 本日出発本年一杯関西で送る

▲尾瀬敬止氏 労働作家ウラジミール・リーザン氏から日露の国書交換に関する手紙を受けた尚氏は来春発刊の雑誌「ロシヤ文学」を編輯する

▲神部孝氏 新訳「ユグオ評伝」(マビオオ著)を安部浩氏は「マルキシズムの擁護」(カウツキー著)をいづれも新潮社から近刊

▲「中央公論」十二月号 創作「天竜寺にて」(室生犀星)

▲「小鳩」(広津和郎)「家」(宇野千代)戯曲「大塩平八

郎」(真山青果)

▲解放十二月号 世界社会主義運動史号として本年度の運動大観、組合最新の調査等満載、創作「人夫市場」(山川亮)「馬の事件」(内藤辰雄)

▲「文芸戦線」十二月号 戯曲「早鐘」(小野宮吉)「神主の子」(松井絳子)「古戸棚」(平林たい子)「売薬業者の尻ツボ」(林房雄)童話「小さいペーター」(ミューレン)

▲「人と芸術」初冬号 「演劇の視野」(秋田雨雀)「具足師の三右衛門」(落合浪雄)「疾風」(石井信次)「敵対殉情録」(津村京村)

▲上野図書館 整理の為今月一杯休館する

▲飯田翠氏 新著長篇「夜行列車」を本郷文武堂から近刊

▲犬田卯氏 長篇「土に生れて」(五百枚)を平凡社から近刊尚ほ目下ギョオマンの「或る百姓の生涯」を翻訳中

▲新劇協会 第一回の公演を了へると同時に新たに男女優を募集すると

▲陽源社第四回研究会 廿一日美術学校に於て開催

▲肉筆俳画帳 府下野方町上沼袋赤壁吟社から近刊

▲訂正 一昨報「会の成立」中早稲田大学図書館内に坪内演劇博物館を完成するは誤りにて大学内に新たに十五万円ほどの経費にて鉄筋コンクリートにて新築、坪内演劇博物館を完成するものなりと

大正十五年十一月二十日

▲賀川豊彦氏 長篇「南風に競ふもの」を新年号より一ケ年間「中学世界」に執筆する

▲西条八十氏 本日出版「愛誦」主催で関西方面に寺下辰夫、横山青娥、佐伯孝夫氏同伴講演旅行に出発

▲生方敏郎氏 既報の如く明年一月から生方式社会評論雑誌「ゆもりすと」を小石川区音羽町三丁目二十一其社から創刊

▲横川毅一郎氏 新著「大観自叙伝」を中央美術社から近刊

▲林房雄氏 伊豆伊東に滞在中

▲伊庭孝氏 新著「音楽読本」文化生活研究会から近刊

▲佐藤惣之助氏 新著「情艶詩集」を新潮社から近刊

▲金子光晴氏 新著詩集「水の流浪」を新潮社から近刊

▲「新緑」文芸茶話会 廿一日午後四時から深川石井方に開催

▲白珠十一月歌会 本日午後四時から上野桜ヶ丘花山亭

▲洋々社第一回展 美校写真科出身者にて同会を組織明日から一週間日本橋浅沼にて開催

▲寺尾洸二氏個展 神田表神保町ニアカシヤにて過去三年間の作品を展覧二十五日まで

▲「女性」新年号 連作探偵小説「天祥天女の像」を甲賀、牧、横溝、高田義一郎、岡田三郎、小酒井不木の六氏執筆

▲近代劇場 来月七日から三日間第六回公演を国民講堂で開催

▲並樹秋人氏 明日出版東北地方に講演旅行する

▲法政大学社会学会 二十七日午後一時から同校講堂で「社会の精神流と其個人相」(綿貫哲雄)「新聞紙と現代文化」(小野秀雄)

▲三ツ葉会染色芸術展 藤井達吉、木村和一、広川松五郎三氏は本日から廿四日まで三越六階で第一回を開催

▲「劇と評論」十二月号 戯曲「海の呼声」(北村喜八)「伊良湖磯丸」(巖谷三十一)「次郎吉懺悔」(岡田八千代)その他

大正十五年十一月二十一日

▲武者小路実篤氏 長篇「若き人々」を叢文閣から近刊尚ほ昨日奈良へ帰った

▲吉田絃二郎氏 陸中平泉方面旅行中

▲谷崎精二氏 「アラン・ポオに関する研究」を「文学思想研究(新潮社近刊)」に寄せた

▲前田河広一郎氏 市外中野西町三五八八に転居

▲金子九平次氏 滞欧作品卅余点を国展第二部の推薦により出品尚ほ十二月中旬京都の今岡重野さんと結婚

▲成田重郎氏 廿三日午後一時から明治神宮講堂に「大戦後のフランス文学界」を講演

▲藤井外喜雄氏 廿七日横浜出帆ポール・ルカ丸にて再び渡欧

▲井上好澄氏 詩集「秋の花束」を神田東京堂から出版

▲「三田文学」十二月号 創作「級友会」(水上瀧太郎)

▲「猫のゐる風景」(萩原伸二郎)「汗の味」(平松幹夫)

▲「アレキサンドリアの太陽」(勝本英治)「酒」(藤原誠一郎)「動揺」(佐々木千之)

▲「世界」十二月号 創作「何人かの従兄弟」(宇野浩二)「開墾小舎」(宮島資夫)「ジャック・ロンドンの世界」(小島政二郎)探偵小説「犠牲」(平林初之輔)その他

▲翠紅会 廿四日まで銀座松屋呉服店に開催

▲プレザントクラブ展 芸術写真を中心のその第四回展を本明両日日本橋三共ビル六階にて開催

▲孚水画房 本日上野広小路其社で詩壇、歌壇諸氏の短冊展開催

▲「地上楽園」十二月号 「大正十五年の詩壇」(白鳥省吾)「詩」(淳一、重夫、恭二郎)その他

▲早稲田第一高等学院史学会 本日から二十三日まで人類学その他の史料展覧

▲「郷土」十二月号 「詩歌集」号として治部、竹夫、耕一郎、雄一、渡、田蘭、武矩、秋人、柊花その他執筆

筆

▲日本青年館 本日午後二時から日本青年館音楽会、午後五時からマダムトロウチイ夫人並にデヨニーツク氏演奏会、二十三日午前九時から午後五時まで林きむ子新作舞踊発表会

▲「芸芸道」十二月号 「文壇交友印象号」とする尚創作は「空しい春」(トシー・遠藤)「尊敬すべき玩具」(稲田広之介)「生」(本間一咲)「何故隠れたか」(北村刻一)「帰途」(須藤鐘一)

▲「苦楽」新年号 連載小説「ドリス」(谷崎潤一郎)「二つの愛」(徳田秋声)「狂へる孔雀」(長田幹彦)「獵奇館瓦解記」(大仏次郎)

▲帝大社会芸芸研究会 二十二日午後三時から帝大校内第二学生控室にて「プロレタリア芸芸の発生と意義」研究(葉山嘉樹、山田清三郎、金子洋文三氏出席)

大正十五年十一月二十二日

▲「芸芸春秋」十二月号 創作「明君行状記」(真山青果)「彼女」(室生犀星)「焼け跡へ行く」(田中純)「サハラ」(稲垣足穂)「雪の朝」(豊島与志雄)

▲「演劇新潮」十二月号 脚本「サロメ」(高田保)「高台に夢見つゝある独身者」(大関柊郎)「敵討増補」(水木京太)

▲田山花袋氏 九州の旅を了へ京都に滞在本日帰京する
▲高島素之氏 新著「自己を語る」(エッセイ叢書第二篇)を人文会から近刊

▲北原北秋氏 詩論「芸術の円光」をアルスから近刊
▲加藤静児氏個展 廿三日から廿八日まで三越ギヤラ

○十一月二十日 「天祥天女の像」は「吉祥天女の像」の誤り
○十一月二十一日 「萩原伸二郎」は「蔵原伸二郎」の誤り
○十一月二十二日 「北原北秋氏」は「北原白秋氏」の誤り

リーに「古都と花」六十六点を展覧

▲「一人凝る」の会 佐々木秀光氏著第一詩集の出版を記念するため明日午後六時から日本橋室町三カフエー・コーザンに開催

▲法政大学独逸語会 二十三日午後一時から同校講堂で開催

大正十五年十一月二十三日

▲土田麦僊氏 山中温泉吉野屋方で転地療養中

▲堀口大学氏 「ベルレーン詩抄」訳了第一書房から近刊

▲森田恒友氏 近県写生旅行中

▲村松正俊氏 西洋哲学史物語「デューラント」をアルスから近刊

▲石丸梧平氏 長篇論文「或る理想国」を「人生創造」十二月号から連載

▲菅原寛氏 年内一時小石川区白山御殿町一〇七今西方に転居

▲井上康文氏 昨日出発関西方面に旅行

▲宮川久雄氏 大阪に滞在中両三日中に帰京する

▲吉田一穂氏 詩集「海の聖母」を金星堂から出版

▲土屋義郎氏 市外松沢村松原八六九

▲吉田九郎氏 新著「文章作法原理」を文修堂から近刊

▲大谷浩氏 本郷駒込千駄木三八に転居

▲北村小松氏 近代劇場第六回公演として「借りた室」(三幕)を自作自演出し国民講堂に上演

▲浜田庄司氏作品展 廿六日まで銀座鳩居堂に二百余点展覧

▲「ウーマンカレント」十二月号 「大正十五年の婦人界」(三宅やす子)創作「散歩」(やす子)「道を歩く味ひ」(生田花世)「小さい部屋」(かな女)「女人一家言」(かの子)その他

▲光風会第十四回展 明春二月十九日から三月五日まで上野東京府美術館に開催事務所は市外戸塚町諏訪十八中沢弘光方

▲木版画集 明春一月から絵、横堀、土屋、久泉、飛田、彫刻、野村各氏の本郷森川町木村方野村方から刊行

大正十五年十一月二十四日

▲北吟吉氏 長男光さんは急病で去廿日死去、尚本日午後三時から四時まで自宅で告別式を催す

▲豊島与志雄氏 加能作次郎氏のと受け「福日」に長編を執筆す

▲中西伊之助氏 下旬から来月にかけて静岡、長野その他各地方の農民自治会発会式のために巡回旅行をする

▲尾佐竹猛氏 二十六日午後五時から丸ビル八階丸の内倶楽部で「賭博に就て」の講演をする

▲水守亀之助氏 新著短篇集「通り魔」を人文会から出版した

▲西条八十氏 「ランボオの初期の詩篇」研究を「文学思想研究」(新潮社版)に寄稿

▲藤田健次氏 府下西巢鴨町宮仲二一八〇上田方に当分仮寓

▲湯朝竹山人氏 本郷区森川町一宮前松本牧子方へ転居
▲京谷涼二氏 新著「基督讃歌」を厚生閣から近刊

▲「詩文学」十二月創刊号 長江、雨雀、一夫、隆輝、融、健、淳三その他執筆

▲農民文芸会例会 二十六日午後一時から大隈会館内学生ホール階上に開催

▲アナルコ創築学 世田ヶ谷太子堂其社から十二月創刊

▲「早稲田文学」十二月号 「文芸回顧一年」(星湖、小剣、敏郎、柳虹その他六氏)

▲趣味の学術講演会 廿五日午後六時から主婦之友社講堂に開催宮下孝雄、西海幸一郎、大槻憲二講演主催東京高等工芸学校

▲「生活者」十二月号 創作「海浜」(吉田泰司)「別離」(番匠谷英一)「朝」(磯長ゆい)「街の物語」(松崎映太郎)「忘れ得ぬ人々」(光瀬俊明)

▲「文芸市場」十二月号 「不遇作家号」とし創作「ドラマティックソナタ」(岩淵甚四郎)「愚かなる女の日記」(平林たい子)「砂糖泥棒」(黒島伝治)

▲大塚劇研究会 片上伸、小山内薫、秋田雨雀三氏は廿七日午後一時から高等師範学校講堂で演劇に関する講演をする

大正十五年十一月二十五日

▲三木露風氏 四国四県の講演を終へて帰京した

▲森野嘉光氏作陶展 本日から三十日まで銀座松屋呉服店に展覧

▲大木雄三氏 市外雑司ヶ谷鶴巻三七八に転居

▲新島栄治氏 西荻窪同潤会住宅二一三号へ転居

▲竹内越村氏 下谷区三の輪一二七西潟貞次方に転居

▲「日仏芸術」十二月号 「大正十五年の美術界」(鵬心)

▲「若きコロの手紙」(久道) その他

▲「新進詩人」十二月号 「詩の評価」(汪洋) その他

▲「演劇改造」十二月号 新人戯曲号とし「市長室の結

婚」(浅野歳郎)「胎児の処置」(大隈俊雄)「友情」(矢橋三子雄)「太閤の戯れ」(平峰滿)

▲「日光」十二月号 短歌号とし本年発表の同人短歌を厳選満載

大正十五年十一月二十六日

▲田山花袋氏 九州から京都の旅を了へ先頃帰京した

▲久米正雄氏 長篇「夜曲長ホ調」を一ケ年に亘つて執筆

▲片岡鉄兵氏 熱海に旅行中一兩日中に帰京する

▲堤寒三氏 京都に滞在廿七日迄高島屋にて個展開催中廿八日大丸にて漫画講演を為し月末帰京する

▲日本漫画展 第四回を明年一月十三日から十九日まで三越に開催出品受付は一月一二日三越六階ギヤラリー

▲「文芸市場」廿八日午後五時から神楽坂に於て本年最後の第五回原稿市場を開き青山倭文二、中野正人、梅原北明、上森健一郎、今東光、井東憲、金子洋文、村山知義出演

▲「ユーモア」創刊 日本漫画家聯盟本部より十二月号から創刊

▲世界詩人 新年号より復活

▲雅影会 明日から三日間三越ギヤラリーで写真展を開催

▲小品画展 廿五日から来月五日まで四谷聚芳閣楼上に開催

大正十五年十一月二十七日

▲前衛座第一回旗挙げ公演 来月六日から三日間築地小劇場でルナチルスキイ作「解放されたドンキホーテ」全十場上演

▲沖野岩三郎氏 新著感想集「宿命論者のことば」を福永書店から近刊

▲幡谷正雄氏 廿八、廿九両日大阪で放送する

▲平野威馬雄氏 愛知県定光寺駅下山下方に転居

▲中沢静雄氏 府下平塚村字小山一番地佐藤方へ転居尚ほ氏は目下肋膜炎で中野救世軍病院へ入院中

▲金子光晴氏 昨日出発吉田一穂氏と共に名古屋、京都、大阪、神戸地方へ講演旅行をする

▲高橋新吉氏 愛媛県八幡町浜町大神宮へ又帰つた

▲神戸雄一氏 市外中野町三七九六に転居

▲糸井武雄氏 「明治小説とそのモデル」を章華社から近刊

▲宮田東峰氏 此の程赤坂区福吉町一甲ノ十七号に転居した

▲本郷絵画研究所 第二回展を明春早々東京府美術館に開催

▲「アララギ」十二月号 「万葉巻二」(品田)「飯島亀子を悼む」「短歌」(茂吉、憲吉、文明、百穂、耕平、その他)

▲哲学秋季講演会 廿八日午後一時から東大法学部卅二番教室に於て「西南学派の法理学」(北吟吉)「法界観」(常盤大定)講演

▲新朝鮮社応援書画展 朝鮮問題の根本解決を目的とする姜世馨氏の同社を応援するため来月十一日から十三日まで華族会館に画壇大家の作品約百点を展覧

▲ゲイ倶楽部 廿八日午後一時から中野法政グラウンドで毎夕文芸部と野球戦舉行

▲「詩人時代」創刊 正月号から下谷区其社から

▲「隨筆」十二月号 「文人の運命」(片上伸)「鎌倉の話」(蒲原有明)「下女と略屋」(宇野浩二)「菊地寛と小久保喜七」(久米独石馬)其他

▲マトオル第一回展 三十日まで京城旧府庁跡に開催

- ▲「梨」十二月号 創作「この生くるもの」(宮川久雄)
- 「金脳の人」(湯浅輝夫)「月のよい晩に」(和田保)「泥の魅惑」(今井久雄)「諦める前後」(和本清三郎)
- ▲「常春」十二月号 「鹿野山」(谷崎光吉)「冬に入る道」(並樹秋人)その他
- ▲「太平洋詩人協会」 牛込区新小川町二のハミスマル社に転居
- ▲訂正 久米正雄氏の長篇「夜曲長ホ調」は「婦人公論」に新年から連載

大正十五年十一月二十八日

- ▲片上伸氏 風邪で自宅静養中
- ▲高須芳次郎氏 去る十日下阪大阪で明治史に就てラヂオ放送、更らに奈良に遊ぶ「天平の昔偲ぶや古都の秋」
- ▲吉田絃二郎氏 東北の旅から帰京夫妻共に風邪で静養中

▲細田源吉氏 十二月中旬まで千葉県檜葉村に滞在

- ▲「新青年」新年号 「疑問の黒樾」(小酒井不木)「癈見」(佐藤春夫)「千人の散歩者」(佐々木茂索)「魔の池事件」(甲賀三郎)「童話の天文学者」(稲垣足穂)「山吹町の殺人」(平林初之輔)「パノラマ島奇譚」(江戸川乱歩)「巴里の熊」(小島政二郎)
- ▲川柳久良岐氏丁卯春掛三拾幅会 麴町区富士見町六ノ十裏久良岐社へ申込の事
- ▲医学と文芸雑誌「匙」創刊 十二月号から並樹秋人編輯新宿武蔵野病院から創刊創作「入倉者」(藤田祐四郎)戯曲「万葉処女の死」(並樹秋人)「コスモスの死」(薄井薫)

- ▲「炬火」十二月号 「詩話会のこと」(柳虹)「詩」(今岡、板垣、栗生)その他

○十一月二十七日 「菊地寛」は「菊池寛」の誤り

- ▲「俚謡研究」十二月号 創作(江見水蔭、鶯亭金升)「俚謡と音楽」(高田守久)「俚謡小史」(山本喜一)その他
- ▲「躍動時代」十二月創刊号 「舞台装置」(小山内薫)「演劇の可能性」(新関良三)その他

大正十五年十一月二十九日

- ▲里見弴氏 正月号「苦楽」「女性」の創作を了へ、目下「中央公論」「改造」「文芸春秋」の作品執筆中尚ほ新築中の鎌倉八幡宮裏の住居は年内に落成引移ると
- ▲石川三四郎氏 来月三日午後六時から神田青年会館にて農民自治会研究会で「土の脅威」を講演
- ▲服部竜太郎氏 新著「音楽十二講」を新潮社から近刊
- ▲早大映画研究会 来月二、三、四の三日間早大図書館で映画ポスター展開催
- ▲ゲイ対毎夕野球戦 本日午後一時中野法政グラウンドと変更

▲江戸軟派研究 十二月号「江戸生艶氣樺焼」(尾崎久弥)

大正十五年十一月三十日

- ▲中村武羅夫氏 長篇「地霊」を新年度の「婦女界」から連載、尚同誌正月号は菊池、藤森、広津、正宗、細田民樹、三上、岡本、山中峰太郎諸氏の作品を満載、文芸雑誌の向を張ると
- ▲高須芳次郎氏 西鶴一代男の昔を偲ひ若州小浜港に遊ぶ

- ▲落谷虹児氏 在巴里の同氏はサロン・ドートンヌに「混血児とその親」(五十号)を出品入選した
- ▲吉田一穂氏 詩集「海の聖母」出版を記念するため来

- 月四日午後六時から神楽坂カフェー・オザワに開催
- ▲横田儔氏 本日除隊文に曰く。嬉しい、馬笑へ、たまらない、人踊れ、再び舞台へ、懐かしい私を永い間忘れなかつた舞台へ、

▲宮崎文二氏 二十六年油絵画会開催申込所は日本橋数寄屋町一春秋社内笹本

- ▲ロシアとドイツ事情講演会 明日午後五時から本社講堂で「ロシアの経済及産業事情」(二瓶兵二)「ドイツの経済及産業界の近状」(中村豊一)講演入場無料

▲林古溪氏 歌集「わが歌千首」の出版記念会を来月五日午後一時から万世ホテルに開催

▲「白山文学」十二月 創作「秋晴れと少女」(中西勝)「蒸風呂の老翁」(斉藤礼助)「雛」(杉本捷雄)

▲改造社 電話銀座一七三三を増設

▲「人の芸術」小劇場第一回試演 来月八、九両日本社講堂で開催「青春」(一幕)(邦枝完二作)「長い帰りの船路」(オニール作一幕)を上演

▲説文会 来月四日午後一時から牛込赤坂神社々務所

▲川端画学校日本画部展 明日から五日間同校に開催

大正十五年十二月一日

- ▲青野季吉氏 明年一杯「黒潮」の文芸時評担当
- ▲横光利一氏 赤坂乃木坂、乃木坂クラブに仮寓した
- ▲千田是也氏 辻恒彦氏と、共訳「解放されたドン・キホーテ」(ルナチャルスキ著)を前衛座台本として訳了金星堂から出版
- ▲大宅壮一氏 新著「共産部落の研究」を新潮社から近刊

▲日本漫画会 開催日時を明年一月十二日から十八日迄と変更

▲河野道勢氏 本月歌舞伎上演の小山内薫作「森有礼」の表看板を描いた

▲佐野碩氏 六、七、八、三日間築地小劇場公演の前衛座旗挙げの「解放されたドン・キホーテ」全十場の演出を担当する

▲第二次文芸美術家所蔵品売立会出品目録は五日まで会期は本月中旬数寄屋橋際共楽美術倶楽部

▲文学 語学との新 由講座 清見陸郎、成田重郎、由里忠勝、ケーシー嬢、梶弘和、梶真智子氏等によつて仏、英、エスペラントの文芸、語学各講座を開設麹町元園町日本文化協会で開講

▲「耽美」新年特別号 「夕靄は泣く」(徳田戯)「アイデアリズム」(寺下辰夫)「水雷笛の鳴る戯曲」(橋本健吉)「生命力と行動」(宇田江雄)「午後三時の芝居小屋」(森本秘羅)「後期芸術派」(上田敏雄)「まるめ捨てられた話」(田中啓介)

大正十五年十二月二日

▲徳田秋声氏 増築中の洋館落成一両日中に引移る尚旧書齋は記念の爲めそのまゝ残すと

▲正宗白鳥氏 七日に上京する

▲吉田絃二郎氏 病臥中のところ漸く快方に向つた

▲木村庄三郎氏 京都に旅行中

▲「思想」十二月号 「カントに於ける哲学の概念」(山口諭助)「原始仏教に於ける業と輪廻」(和辻哲郎)「受胎告知」(矢代幸雄) 外に「芭蕉俳諧研究」(諸氏)▲前衛座第一回公演 来る六七八の三日間午後六時から築地小劇場にてルナチャルスキー作「解放されたドン・キホーテ」を上演

▲渋柿俳句会 五日午前十時から芝協調会館にて

大正十五年十二月三日

▲辻潤氏 伊勢方面旅行中

▲葉山嘉樹氏 風邪の爲病臥中

▲井上康文氏 関西旅行から帰る

▲綿貫六助氏 市外長崎町三九八二に転居

▲堤寒三氏 永らく関西方面旅行中のところ卅日夜帰京した

▲文芸戦線社 杉並町馬橋三二九に移転目下里村欣三氏が同所にある

▲湊邦三氏 市外中渋谷町六六針谷方に転居

▲「人間群」十二月創作 成田、小島、永田、辻本、江森、古谷氏等執筆

▲辻本浩太郎氏 市外上落合八六九に移転

▲志田十三氏 市外滝の川町西ヶ原五五七に転居

▲板垣守正氏 市外大久保百人町一八一電(四谷一二七二)に転居

▲佐々木孝丸氏 愛嬢踏絵さん(八歳)は前衛座第一回上演のドン・キホーテに出演する

大正十五年十二月四日

▲南部修太郎氏 麻布新電土町十二(電青山四五一八番)に転居

▲菅原寛氏 市外大崎町白金猿町百十一に転居

▲暮鳥忌 明日午後二時から田端大竜寺本堂に故山村暮鳥三回忌開催室生犀星、萩原朔太郎両氏幹事

▲中川省三氏 「白山文学」同人去月廿六日大阪で死去

▲本方昌氏 新潟長野方面へ旅行七日頃帰京する

▲塩入亀輔氏 一年志願兵として歩兵第一聯隊志願兵第二班に入隊

▲日本水彩画会 明年一月廿二日から二月九日まで上野

東京府美術館に開催会員外出品は手数料壹円を取る

▲文芸公論社 電話牛込六五一五番開通(橋爪健方)

▲「詩文学」創刊祝賀会 本郷帝国大学正門前カフェー・パウリスタで本日午後六時から開催

▲驚の巢社 牛込区喜久井町六二に転居尚ほ十二月号は休刊

▲伊太利亜語冬期講習会 廿二日から一月八日まで本郷金助町第一外国語学校に開催

▲常春歌会 明日午後一時から中野本郷其社に開催

▲菅茶山逝いて本年が百年に相当するので広島県の郷友機関である飽徴同好社主催となり本日午後零時から本郷三丁目帝大仏教青年会館に記念会を催し、茶山の遺品、肖像、著書、遺墨を展覧同好者の観覧に供し尚、午後一時から花井卓蔵(挨拶)富士川游(医家としての茶山先生)和田英松(茶山翁と頼山陽)三博士、国府犀東氏(詩人としての茶山先生)の講演があり来会者は小冊子「菅茶山先生」及び絵葉書を呈すと因に展覧会には茶山の遺墨以外左記の書画をも出陳する

古賀精星、尾藤二州、柴野栗山中、竹山、中井履軒、阿部正倫公、阿部正精公、阿部正寧公、頼春水、頼春風、頼杏坪、頼山陽、西山拙斎、那波魯堂、武元登々庵、武元高林、釈六如、北条霞亭、亀田鵬斎、聴松庵、釈日謙、伊沢蘭軒、狩谷掖斎、市野迷庵、門田朴斎、市河寛斎、市河米庵、恥庵(三聞)小島成斎、太田金斎

大正十五年十二月五日

▲秦豊吉氏 ファウスト一部二部共訳了聚英閣から近刊

▲長田幹彦氏 両三日前浅草七軒町署で警官のために「小説家と小説」の文芸講演をした

▲江口渙氏 風邪にて病臥中

▲伊福部隆輝氏 中野打越二〇二九に転居

▲幡谷正雄氏 大阪の放送を終へ名古屋で放送近日帰京

▲山崎斌氏 大阪郊外豊中村新免九〇三に転居

▲松村英一氏 国民文学社と共に小石川大塚坂下町百番地に転居

▲秋季仏展 三共ビル開催中のものは本日陳列替をする

▲「女性」新年特別号 創作「彼」(芥川龍之介)「王摩詰」(武者小路実篤)「一太と母」(中条百合子)「F村での春」(牧野信一)「真夜中」(関口次郎)「英作の秘密」(豊島与志雄)「大寺学校」(久保田万太郎)「紐」(里見弴)

▲京谷涼二氏 新著「聖母頌歌」と「基督賛歌」の出版祝賀会を六日午後六時から日本橋ソーダ・ファントンで晩餐会を催す

▲七涉会洋画展 八日まで上野広小路芋水画房で開催

▲「みづゑ」新年号 南画研究号として発行

大正十五年十二月六日

▲姉崎正治博士 十一日午後二時から麴町永田町日仏会館で同協会主催の下に「切支丹の迫害」の講演をする

▲広津和郎氏 「中央公論」執筆のため下阪中

▲酒井真人氏 小石川区音羽町二の二〇に転居

▲飯田徳太郎氏 本郷区駒込蓬萊町二八大和館方に転居

▲英美子氏 市外巢鴨町二丁目広島館に転居

▲第二回宗教音楽演奏会 十一日午後七時半から神宮外苑日本青年館にクリスマス合唱演奏会を催す主催東京オラトリオ協会

▲仮面座 第二回上演脚本「最も重要なこと」(四幕)と決定

▲渡辺波光氏 休刊中の「民謡」を二月一日から仙台市光禪寺道其社から復刊

▲「性文学」創刊号 一日発売禁止された

大正十五年十二月七日

▲岡本綺堂氏 正月の歌舞伎座に市村兩座のため戯曲執筆中

▲谷崎潤一郎氏 長篇「顕現」を「婦人公論」新年号から連載

▲水谷竹紫氏 十一日午後一時から早大文科二十六教室で「米国劇界視察談」を講演

▲山田清三郎氏 市外杉並町高円寺六一に転居

▲文芸戦線社 市外杉並町馬場三二九に移転尚ほ日本プロレタリア文芸聯盟は芸術聯盟と改称して同所に並置

▲「劇」新年号 喜劇脚本とし「風雨後晴」(坪内士行)「乾杯」(豊岡佐一郎)「戯れ」(川口尚輝)「若夫婦」(大関修郎)

▲日本プロレタリア芸術聯盟 本日夜築地小劇場に前衛座旗竿公演を総見する

大正十五年十二月八日

▲稲毛詛風氏 本日独逸から帰朝

▲片上伸氏 近日中に伊豆に赴き静養する

▲西条八十氏 佐伯孝夫、寺下辰夫等と共に「愛語」宣伝のため三重県四日市で文芸講演中一両日中に帰京

▲小寺健吉氏 明年一月二日出発約一ケ年の予定で仏蘭西に赴く

▲和田三造氏 四国の旅から帰京

▲石井林響氏 秋田から十日頃帰

▲矢崎千代二氏 小石川区第六天町五三へト居

▲柳田泰麓氏 小石川関口台町二九(電牛込四一八八)へ転居

▲岡本潤氏 千葉県葛飾村小栗原一三一にト居

▲奥川夢郎氏 市外巢鴨町上駒込四〇九に転居

▲二十一日会 長谷川伸氏作「世に出ぬ豪傑」を明日浅草松竹座に総見する

▲燕巢会懇話会 十日午後六時から虎の門晩翠軒にて開催

▲浜田増治氏 共同通信社美術部に入る

▲「黒殺」創刊 萩原恭次郎氏等によつて一月創刊

▲「太平洋詩人」十二月号 発売禁止された

大正十五年十二月九日

▲姉崎正治氏 十一日午後二時から日仏会館にて「切支丹の迫害」を講演する

▲生田長江氏 永らく懸案なりし「長江全集」は来春、三巻若しくは四巻にて春秋社から刊行されることに決す

▲幸田露伴氏 中村不折両氏合作勅題頒布会は十日締切申込みは麴町元園町中央美術協会

▲米川正夫氏 「チエーホフ戯曲集」井田孝平氏「最近ロシア文学史」の両著出版記念会を銀座アルプスにて十三日午後六時から

▲山田順子氏 自叙伝「下萌ゆる草」を「女性」新年号から連載尚氏は目下順天堂病院に入院中

▲津村京村氏 大阪旅行中のところ一昨日帰京した

▲野村吉哉氏 市外中野三七九三に転居

▲富田常雄氏 上海から帰京した

▲幡谷正雄氏 大阪、名古屋の放送を了へて帰京した

▲原久一郎氏 流感にて臥床中

▲十日会忘年会 十日午後五時から京橋州間堀富多葉で開催会費五円

▲舞台照明研究会 十二日九時半から邦楽座にて「舞台

照明用語術名称」遠山静雄「照明の本質」島崎幸一郎
▲「未来人」創刊号 「打電」(大野恵造)「どん底の死」(水上潮)「死絶へたる蘭」(黒田虎臣)「藤田寿夫の結婚」(北野慧)

▲牧寿雄氏 新著「構成主義労働論」「生産構成論」「民族の処置」「構成生存に於ける芸術の地位」「組織原理の追放と招来」を脱稿順次刊行

▲福田久道氏 木星社と共に市外高田町旭出五十九番地に転居

▲古美術資料展 (主として奈良京都宇治) 早大図書館にて十一日午前十時から五時まで

▲「解放」発禁 四六版解放石川三四郎著「世界社会運動史」は六日発売禁止を命ぜられた

▲高島米峰氏 「私共は皆々すこやかに暮して居りますから御安心下さい。明年も年賀状は差上げませぬ」と

▲ホトトギス一月号「迷児」(大岡竜男)「秋」(山家和尚女)「団栗集」(永田青風)「大正十六年俳句」(文学館蔵版)「近頃雑詠名所めぐり」(ホトトギスタイムス関西特派員)

大正十五年十二月十日

▲松原寛氏 新訳「哲学の根本問題」完成五版記念会を十二日午後五時から知友数十氏発企で丸の内中央亭に開催

▲若山牧水氏 夫人と共に去る八日北海道地方旅行を了へ帰宅

▲宮森麻太郎氏 明日午後一時から東洋大学第二教室で「舞台芸術に就いて」三木春雄氏「演劇と政策」を開講

▲服部嘉香氏 本日再び鶴沼に赴く尚ほ「新しい語原解釈の字引」を実業之日本社から刊行

▲長谷川伸氏 新著「弱い奴強い奴」を神田至玄社から近刊

▲佐々木指月氏 去月中旬アメリカから帰朝

▲「文芸公論」新年創刊号 創作「ラ氏の笛」(松永延造)「アダムの前書」(十一谷義三郎)「星を喰ふ村」(稲垣足穂)「白狐」(橋爪健)「マドロスと鼠」(葉山嘉樹)

▲平山芦江氏 長篇「西南戦争」(後編)を至玄社から近刊

▲坂口二郎氏 新著「左傾か右傾か」を芝久我書房から近刊

▲童顔社第三回展 本日から十四日まで上野美術協会に開催

▲呉昌碩翁 書画個展を十一日から十五日まで高島屋で開催

大正十五年十二月十一日

▲「婦人公論」新年号 創作欄「愚人の唄」(正宗白鳥)「母颯爽」(小島政二郎)「顕現」(谷崎潤一郎)「悲劇女優ラ・モール」(今東光)「夜曲ホ長調」(久米正雄)「娘と若者」(小川未明)「去年の雪いまいづこ」(佐藤春夫)

▲吉田絃二郎氏 本日日本医専で文芸講演をする

▲片岡鉄兵氏 光枝嬢との結婚祝賀会を十五日午後五時からカフェーリッツに開催知友数十氏で祝賀の宴を張る

▲佐々木指月氏 十五日午後五時から帰朝歓迎会を有楽町一の四山水楼に催す

▲田中貢太郎氏 新年から「九州日々」夕刊に階級的歴史物を百五十回程連載する

▲日本詩作家組合準備協議会 十二日午後二時から神田駿河台下カフェー・ブラジル樓上に開催

▲タゴールの友の会 第一回講演会を明日午後一時から牛込成女学校講堂で開催吉田絃二郎、吉江喬松、西条八十、鄭、ボースミングの諸氏講演

▲新春用画幅展 十一日から十六日まで三越ギヤラリーで開催

▲秋山光夫氏 十二日午後七時から本郷絵画研究所で「御物若冲筆動植綵絵卅幅に就て」を講演

大正十五年十二月十二日

▲島崎藤村氏 「新生」以後の作品集「嵐」を来春新潮社から出版す

▲芥川龍之介氏 佐藤春夫氏の装幀にて随筆集「梅、馬、鶯」を新潮社から近刊

▲名取春仙氏 市外中野町字本郷四八五へ転居

▲橋爪健氏 先頃一子を儲け「文芸公論」の公を取り公児と命名

▲恩地孝四郎氏 明日小田原に赴く

▲椎名其一氏 新訳「ネエヌ」(ペロシオン著)を新潮社から近刊

▲「早文」正月号 万葉研究号として佐々木信綱、尾上八郎、斎藤茂吉、窪田空穂その他執筆

▲「みづる」新年号 南画号とし省吾、春風、荘八、臨風、柏亭、青楓。その他執筆

▲「新詩運動」新年号から「想華輪燈」と改題其社から発行

▲「椎の木」一月号「臘月日録」(室生犀星)「象徴について」(萩原朔太郎)其他

▲朱楽菅江五回忌 本日午後一時から市外東中野青原寺にて読経献句、遺墨展覧

大正十五年十二月十三日

▲「文芸戦線」新年号 創作「小さな田舎者」(山田清三郎)「白い阪をのぼる」(金子洋文)「無題」(小堀甚二)「世界地図」(赤木健介)「疥癬」(里村欣三)「棄てる」(若杉鳥子)「彼れ」(今野賢三)「ドールグルシヨフの死」(イサーク、バーベル)「降つて来た人」(葉山嘉樹)「足」(西光万吉)「メキシコ人」(前田河広一郎)

▲細田民樹氏 上州湯宿温泉に当分滞在

▲直木三十五氏 本郷菊坂の菊富士ホテルへ転居

▲松波治郎氏 高円寺七四一に灘の生一本を粋な料理で吞ませる小さい店を開いた

▲能代豊子氏 廿四日午後一時半から報知講堂で独唱会を催す

▲森村西三氏 府下日暮里町一一〇九に転居

▲銅鑼の会 十四日午後六時から白山上南天堂に開催

▲「人間群」新年特輯号 恭次郎、森弥、和蘭次、若男、浩太郎、知義其他数十氏執筆

▲「ロシヤ文学」創刊 昇曙夢、杉古命三、尾瀬敬止三氏によつて来年一月から名古屋市外守山町其社から近刊

大正十五年十二月十四日

▲「文芸道」新年特号 「乳房昇天」(橋爪健)「野路の宵吹雪」(宮地嘉六)「白銅貨」(林房雄)「ある父と娘」(井東憲)「聡明なる秀」(渡辺信太郎)「理想郷」(菅原寛)「死」(仲小路彰)「宣伝ビラ」(田代三千穂)「ポスターロマンス」(花田徹太郎)「太陽が西から昇る」(須藤鐘一)

▲西村五雲氏 京都新島丸通下切通し上る西側へ転居

▲五十公野清一氏 一昨日郷里米沢に帰る

▲津田光造氏 府下大岡山一二七遊林寮に転居

▲東京府師範学校同窓会冬季講習会 二十五日から廿九日まで青山師範講堂に於て開催芝、長谷川、木下、大杉、森、小林、村田、加藤、沢柳の諸氏が各専門に関する講演をする申込は青山、豊島両師範校に申込のこと

▲「新進詩人」新年号 「東洋より」「地に匂を出さむために来た男」(正富汪洋)「短唱二十五篇」(宮沢銀八郎)「落葉を聴く」(小田信一)「大弓心情」(高木秀吉)

▲「新興宗教」創刊 新春から奈良県丹波市町川原城の其社から定価三十銭菊版百二十頁

▲「新進文壇」 明春三月号まで休刊

大正十五年十二月十五日

▲平林初之輔氏 早大教授を辞し博文館に入社「太陽」編集主幹になる

▲村松正俊氏 スペングラの「西洋の没落」第四巻を批評社から刊行す

▲丸山晚霞氏 水彩画個展を十九日から廿三日迄三越七階ギャラリーにて開催する

▲室伏高信氏 亜細亜思想研究叢書として毎月一冊批評社から発行其第一号「亜細亜主義」を近刊

▲鈴木春浦氏 咽喉病にて肋膜炎併発、四谷左門町の自宅にて静養中

▲平沢大障氏 半年の温泉生活にて病氣全快此の程西巢鴨池袋大原一三五八に卜居

▲「原始」一月号 創作加藤一夫、坪田讓治、池森盛弥、高群逸枝その他石川三四郎、新居格、中西伊之助、伊福部隆輝、生田春月、大槻憲二の諸氏執筆

▲「劇と人間」新年号 倍人史劇号として「足利尊氏」(景山哲夫)「藤吉出立」(社行雄)「義経追放」(棋本

雅彦)「明智光秀」五幕(光月紫蘭)

▲絵と詩の展覧 十六日から二十日まで道玄坂百軒店台湾喫茶店にて出品者岡田光一郎、レフ・セイギー、井東憲、林芙美子、田中政義、前田河広一郎、山田清三郎その他諸氏

▲「俚謡研究」新年号 「海上風静」(野口雨情)「好きな小唄」(山本柳葉)「俚謡小史」(山本喜一)「俚謡と音楽」(高田守久)その他

▲「郷土」新年号 山崎斌、柴山武矩、田中宇一郎、大塚治部、喜多村進、榎本楠郎、務台四郎、門林兵治氏等の創作を載せる

▲「青空」一月号 「痣」(淀野隆三)「洋と俊」(北神正)「推移」(中谷孝雄)「元木氏と南海の女」(古沢安二郎)

▲日仏芸術社画廊 仏展開会後絵画数点、陳列替を行ひ其常設陳列とする

▲愛媛美術会 愛媛出身者の会合第一期の計画として展覧会をひらく事務所は小石川大塚坂下町七九水木伸一方

▲五友会陳列 明十六日まで日本橋東美俱樂部にて書画、茶器を正札陳列をする

大正十五年十二月十六日

▲「解放」新年特大号創作 「彼等蘇生へらば」(未明)「馬と人の群像」(雨雀)「断層」(吉蔵)「××××」(源吉)「甲板上の寂寥」(欣三)「大工の弟子」(金重)

「拝金家」(つぎ)「紙幣の戯れ」(万世)「石仏とお夏」(伊之助)

▲森下雨村氏 博文館総雑誌の編集主幹となる

▲神戸雄一氏 宝文館編輯部を辞任す

▲柴山武矩氏 歌集「海山山彦」を信州大里村郷土社か

○十二月十四日 「地に匂を出さむために来た男」は「地に匂を出したために来た男」として掲載された

ら近刊

▲池田孝次郎氏 牛込区本村町七番地へ転居

▲「随筆」新年号 絃二郎、犀星、作次郎、恒友、柏亭、

杏村、格、亀雄、碧梧桐、周太郎、栄一郎、秀湖、謙、素之、惣之助其他執筆

▲「探偵趣味」新年号創作 「浮気封じ」(春日野緑)「長

繻絆」(伴太郎)「四遊亭幽朝」(久米秀子)「鈴木と河越の話」(横溝正史) 他七篇外に甲賀三郎、土師清二、江戸川乱歩氏等執筆

▲「郊外」新年号 楚人冠、月郊、邦太郎、孤蝶、味津三、暁紅、秋骨、その他執筆

▲「愛語」 休刊中の「太白」は同誌と提携、西村酔香氏がその短歌欄を編集する

▲のんびり講 忘年会と席画の交換を十九日三時から戸塚諏訪町一七四田中保雄方にて会費一円

▲芭蕉忘年会 二十三日午後五時から本郷五丁目発行所にて題「冬至」三句

大正十五年十二月十七日

▲改造新年号創作 「何が彼をさうさせたか」(成吉)「奈良を立つ前」(実篤)「明るい人」(犬養健)「牡丹」(百合子)「暗夜行路」(志賀直哉)「白木蓮の咲く頃」(秋声)「私は見た」(淳)「九月一日前後のこと」(潤一郎)

▲「不同調」新年号創作 「冬の蝶」(犀星)「ある夜の父」(三郎)「生爪を剥ぐ」(嘉樹)「奇怪な舗道」(金作)「一本のシガレット」(六朗)「ろしや金」(星湖)「嫉妬」(辰次)「暗い環境」(浩三)「歌劇リゴレット」(重信)「門」(貞雄)「風」(武雄)

▲「文芸時代」新年号 全部創作を以て埋める。執筆者、康成、金作、真人、義三郎、貴麿、幾三郎、泉三郎、士郎、月船、嘉樹、タルホの諸氏

▲池上秀敏氏 山口県へ旅行中

▲辻永氏 鹿島へ旅行中

▲下川凹天氏 一月浅間温泉へ避寒

▲近藤宅治氏 胃潰瘍で聖路加病院入院中だが経過良好の由

▲矢野橋村氏 十八日から三越で個展を開く

▲津村京村氏 菅原寛両氏編纂の「一幕物新選集」は現代書房から出版された

▲青山俊文二氏 北陸地方へ旅行中三四日中に帰京

▲「炬火」新年特別号 「自由詩の可能と誤謬」(柳虹)「森の中」(大学)「散文詩二篇」(米次郎)「動物園衰亡」(卓)その他数氏

▲「京都詩人」新年号 詩劇及舞踊詩劇号として正夫、光晴、康文、陸平、二郎氏等執筆

▲「牧人」新年号 未明、省吾、十郎、残雪氏等

▲「大陽花」一月号 元麿、操吉、光太郎、憲二、丈二その他数氏執筆

▲菊池寛氏 「文芸春秋」の外に新たに、新進並に無名作家の発表機関たるべく「創作月刊」を来春二月から発行、規定は

一、新進作家として定名ある人

一、定評ある同人雑誌の同人

一、本誌と関係ある文壇諸家

(過去二年間に於て、文芸春秋に二回以上創作を発表したることある作家)の推薦に依るもの

一、本社に直接投稿したるものにして規定の選を経たるもの

大正十五年十二月十八日

郎、倉田百三の諸氏執筆

▲「演劇新潮」正月号 鼓脚本「ケルンの鐘」(小島勲)

「姉の花嫁」(能島武文)「討たず、討たれず」(岡栄一郎)「残されたもの」(関口次郎)

▲「梨」新年号 第四周年記念号、「帰れぬ善道」(富田

常雄)「公園の裏」(青柳信雄)「勇ましき行進曲」(宮川久雄)「泣き出した光秀」(平峰満)「小説をかく」(和木清三郎)「夢」(松本喜郎)

▲三宅やす子女史 当分大森望翠楼に通ひ執筆する

▲宮森麻太郎氏 近松傑作英訳をロンドンの某書肆から出版

▲「日仏芸術」新年号 「一九二七年を迎ふ」(黒田鳴心)

「アルカイック彫刻の印象」(二氏義良)「アンリ・ルウソ伝」(荒城季夫)「美術雑感」(川路柳虹)「西への旅」(加藤静児)

▲土屋秀夫氏 病氣臥床中

▲「地上楽園」新年号 「現世」(白鳥省吾)「朝鮮の農民歌謡」(金教■)「暮鳥忌句会」(諸家)

▲「赤列車」復活 正月号から四六倍判六号組にて復活する

▲破魔弓句会 明日午後一時から本郷根津神社娱乐圈にて開催

▲山岡秀樹氏 「芸術市場」市同人となる尚鶴見町生麦三三九に転居

大正十五年十二月十九日

▲秋田雨雀氏 大阪へ旅行中講演ラヂオ放送などを了へ神戸に向ふ

▲加藤武雄氏 本日から関西から北陸方面旅行年内に帰京すると

▲白石実三氏 博文館編輯第三部長「中学世界」「譚海」

編輯主任を辞し、同時に博文館を辞した。

▲木村庄三郎氏 京都に滞在中のところ帰京した

▲遅塚麗水氏 新著「新入蜀記」を大阪屋号から近刊

▲森岡柳蔵氏 府下碑衾字石川端三二〇一へ「アトリエ」を新築一昨日引移った

▲「世界」一月号 「ポールモーラン日本印象記」(大学)

「うたがひ」(不如丘) 創作「モルヒネの恋」(岩橋敏雄)「山に書き湖に叫ぶ」(倉島竹二郎)「高原にて」(宮川久雄)「南の枝」(小林きよ)「富豪と真珠」(前田河広一郎)

▲「主観」特倍新年号 重隆、四郎、志郎、正夫、直郎、千之、輝吉、久允、恒氏等執筆

▲アララギ一月号 歌壇随詠記(茂吉) 仏足跡歌碑の歌(麓) 写生の話(百穂) 久保田先生(省吾) 閑雑記(喜代之介) ふるさと(耕平) 万葉論講(同人)

▲「詩神」新年号 (評論) 野口米次郎、服部嘉香、萩原朔太郎氏等(詩) 百田宗治、佐藤惣之助、福田正夫、千家元鷹、佐々木香光、梶浦正之氏等

▲香蘭一月号 「短歌の古典化について」白秋、露風、篤二郎、薫園、牧水、杏村、柏亭、未醒、零余子、春月、朔太郎、英一、惣之助、宗治、海南、正夫、嘉香、竜雄、紀元、鶯塘、亜浪、邦子、研、秋圃、梨郷、陽吉、東声、夢三東、村、柳虹、鋳策の諸氏

大正十五年十二月二十日

▲「中央公論」新年号創作 戯曲「勝敗」(白鳥)「生きてしまった人と」(茂索) 戯曲「田舎小景」(実篤)「結婚まで」(孝作)「無明」(秋江)「山形」(直哉) 戯曲「温

室の前」(国士) 戯曲「門を毀つ」(京太)「陰翳」(淳) 戯曲「夜鴉」(万太郎)「玄鶴山房」(龍之介)「悪魔の玩具」(春夫)

▲「新潮」新年号 「酔狂者の独白」(善蔵)「計算した女」(利一)「高原から海辺へ」(白鳥)「木枯」(犀星)

「素描」(庄三郎)「曇日」(直哉)「ダーク・エンゼル」(彦次郎)「波」第二(龍之介)「泥沼」(三郎)「忠信の父」(絃二郎)

▲「太陽」一月号創作 「父と父」(義三郎)「不整形感情史」(六朗)「小さな存在」(工藤恒)「春をながめて」(淳三)「雪荒れ」(三郎)

▲「思想」一月号 現象学研究号として「現象学的領域」(山内得立)「解釈学的現象学の基礎概念」(三木清)

「非人評判論」(本多謙三)「現象学的本体論に関する一般的考案」(池上鎌三)「ことがら」(紀平正美)「社会的行為に関する現象学」(松本潤一郎)

▲「劇と評論」新年戯曲号「個人的戯曲と集团的戯曲」(薫)「榎本武揚」(邦太郎)「早春」(八千代)「飛鳥の処女」(北村寿夫)「築城一挿話」(立石美和)「神の武器」(鴫田英太郎)「武道伝来記」(巖谷三二)「曲馬団の姉妹」(吉田映二)「佐平功名録」(田中総一郎)「小猿七之助」(瀬戸英一)

▲「文芸解放」一月創刊 萩原泰次郎、麻生義、岡本潤、飯田徳太郎、飯田豊二、壺井繁治氏等二十数名にて創刊、アナ系のプロレタリア文芸の確立を期す

▲「文芸道場」創刊 神田フタバ書房から、同人井坂小夜子、林俊子、二瓶悦子、二瓶愛子、岡田源子、若尾鶴子、香春久子、田口文子、辻村澄江、野田立子、小宮敏子、赤木葉子、末光紀久子、鈴懸みよ子の諸氏編

輯の任には橋爪光雄、森輝両氏正月から創刊する
▲真野律太氏 白石実三氏のあとを承け「譚海」編輯主任となる

▲前田晃氏 「リベレイション・オブ・マンカインド」(ヴァン・ルーン著)を早大出版部から近刊

▲佐藤清氏 一昨日京城から帰京した
▲小西正太郎氏 相州茅ヶ崎海岸一二九八七にアトリエを新築、尚神田錦町三ノ四の錦町自由研究所は同氏が経営することになった

▲東京労働学校 明日第一期卒業式並に第三期の入学式を行ふ。

▲「苦楽」二月号 「秀吉と恵瓊」(秋江)「伊藤博文」(薫)「アイヌの娘」(与志雄)「被されたお面」(源吉)

「踊子になった書記の妻」(石義)「江戸城明渡し」(沢沢栄一)

大正十五年十二月二十一日

▲横山大観氏 谷中美術院で早大図書館壁画の製作に着手した

▲岸田国士氏 戯曲「屋上庭園」並に池田大伍氏作「茂林寺の狸」は来春邦楽座に沢正一派で上演

▲斎藤与里氏 出京中
▲小寺健吉氏 既報の氏は正月二日夜八時四十分発六日神戸出帆の諏訪丸で再び渡欧と決定

▲矢野橋村氏 廿三日迄名倉屋本店に滞在

▲服部嘉香氏 鶴沼から帰京

▲渋谷栄一氏 市外上北沢四六六に転居

▲「水鏡」新年号 「歌神としての住吉」(信一)「古今

○十二月十八日

「討たず、討たれず」は「討たず討たれず」として掲載された

○十二月十八日 「金教」は「金教壇」の誤り

○十二月二十日 「曲馬団の姉妹」は「曲馬団の姉弟」として掲載された

集の平淡味」(英夫)「万葉集と新年宴会」(莫哀)その他

- ▲「文芸市場」新年号 創作「さ迷へる白い影」(未明)
- 「ソナタ・ドラマテイク」(甚四郎)「一秒の後」(健介)
- 「炎天」(長村)「鴉」(紀一)「悩ましき仁丹塔」(外蔵)
- 「怒り」(憲)

大正十五年十二月二十二日

- ▲「近代風景」新年号創作 「病院」(民樹)「踊るは冥加」(耕一)「今日と明日」(鉄兵)「酒場にて」(土郎)
- 「或る倶楽部の話」(足穂)「雨の日」(広一郎)「母」(浩)「往来」(七生子)「彼女の夫は」(忠雄)「花と喫茶と」(犀星)

- ▲「三田文学」新年号創作 「順風」(滝太郎)「肉体の巨離」(勝本清一郎)「運河の夜景」(久野豊彦)「過ぎる一景」(倉島竹二郎)「半日の寂寥」(小林きよ)「玩具」(平松幹夫)「友の哀しみ」(蔵原伸二郎)「ホテルと女優」(石浜金作)「本望」(水木京太)

- ▲「演劇改造」新年号 戯曲一幕、「次郎兵衛の詩」(浜村米蔵)七場「一日の苦勞」(鴫田英太郎)三幕「天狗党異記」(伊藤松雄)その他山本帝劇専務、大谷松竹社長、根岸日活社長、城戸松竹蒲田撮影所長諸氏の評論掲載

- ▲評論随筆家協会会員募集 新潮社からその「選集」並に「年鑑」を発行することに決定就いては評論家随筆家の入会を希望申込は年内なりと

- ▲「美術新論」新年号 「美術と大衆」に関する執筆者、如是閑、未明、逸枝、資夫、一夫、房吉、渙、弥三郎、伊之助、広一郎、初之輔、近江、季吉、潤、格の諸氏
- ▲美術雑誌「美の国」一月号 『欧州学者の東方探検』滝精一『仏蘭西を中心とする近世美術思潮』板垣鷹穂

『金戒光明寺の阿弥陀三尊』古川修『現代フランスの諸画派に就て』前田寛治『南蛮画を試みたる各派の人々』竹内梅松『花鳥画の根本問題』榊原紫峰

- ▲第二次文芸美術家愛蔵品売立会 廿二日から廿六日迄秋声、薫園、曙夢、辻永、長谷川栄作、牧野虎雄、岡田三郎助、沢正氏等の九百六十九点で有楽町共榮美術倶楽部で開催中

- ▲テンペラ画研究会展覧 日本橋丸善階上にて廿五日まで出品校東京府市小、中、女師範校

- ▲青山熊治氏 下阪中

- ▲山中静也氏 戯曲「愛憎」(アルツイバーシエフ)を八天書房から近刊

- ▲中西梧堂氏 「関西方面を僕の名を騙つて歩いてゐる者がある由友人から意外な通信を受けましたが非常に迷惑してゐます」

大正十五年十二月二十三日

- ▲武者小路実篤氏 来春二月中旬まで和歌山市外和歌浦町一の一へ住居する

- ▲「中央美術」新年号から「美術教育欄」を新設、図画手工、教育方面にも発展する

- ▲「日光」一月号 短歌本質成立の時代(信夫)猿蓑集略解(蘿月)朝は呼ぶ(白秋)少年の日(東村)歌壇に贈る(梨郷)子規の滑稽歌(信行)短歌(迢空、庄亮、順、白秋其他)

- ▲「新劇時代」新年脚本号 「飢餓時代」(狩野鐘太郎)「自我」(舟橋聖一)「主よみにと近づかん」(山崎俊夫)「八月の恋」(鈴木源太郎)「高田郡兵衛」(清見隆郎)「上胤廓初春」(藤田草之助)「吹雪」(川添和基)「理想日記の第一頁」(後藤竹志)

- ▲「心の花」新年号 台湾に於ける浜田弥兵衛(新村出)

冬ごもり(相馬御風)英詩雜感(土井晩翠)山陽と茶山(和田英松)丹波市(下村宏)歌話(佐々木信綱、川田順)のし餅供養(九条武子)西片町より(佐々木雪子)

- ▲太平洋画会 新たに浅草真、布施信太郎両氏を会員に推薦尚研究所を経費一万円にて木造建四教室を造る。春の開期は二月十二日から二十七日までと決定

- ▲前衛座演劇研究所 男女研究生を募集中第一期申込切十二月末日詳細は市外杉並町高円寺六一一の同座事務所問合せの事

- ▲「光」新年号 薫園、善麿、露風、青楓、吉雄その他数氏執筆

- ▲大月隆伏氏 「孔子鑑賞」を人生創造新年号から連載
- ▲社会科学(新年特輯号) 「農業問題に於ける共產主義と社会民主主義」(河西太一郎)「土地所有権矛盾最近の展開」(青木恵一)「農村における階級構成」(オイゲン・ヴァルガ)「小作料の合理化批判」(稲村隆一)
- 「我が資本主義の行詰りと農村経済の将来」(高橋亀吉)「農業問題に関する指導原理」(ニコライ・レーニン)「農業金融の根本問題」(牧野輝智)「スコットランドの小作法」(沢村康)「農民問題に関するテーゼ」(ニコライ・ブハーリン)「我国自作農政策の欠陥」(横尾惣三郎)「現ロシア農村に於ける分化程度」(エ・ピ・スミルノフ)「マルクス主義的農業問題研究方法」(カー・カウツキー)等

大正十五年十二月二十四日

- ▲石井林響氏 廿五日大綱白閑亭に赴き越年する
- ▲田中貢太郎氏 「福日」夕刊に、「中村御所」(百五十回)を連載、目下川崎浅田旅館にて執筆中
- ▲楠田敏郎氏 市外中野町小淀七六に転居

▲英美子氏 第二詩集「春の顔」を神田平凡社から近刊
▲「ゆもりすと」創刊号 長篇恋愛小説「幻影」「社会漫談」その他

▲伊太利語講習 一月八日まで本郷金助町第一外国語学校に開催

▲日本プロ芸術研究会 廿六日午後一時から第二回研究会を池袋木村方で開催

▲「銅鑼」新年号 宮沢、尾形、佐藤、坂本、黄、その他

▲洋画十大家日本画展 廿六日から卅日迄三越で開催
▲鍛金協会 第一回展及萩焼展は廿五日迄銀座松屋で開催中

▲「潮音」新年号 「七部集俳諧研究」(水穂)「高麗陶器に就て」(省三) その他

大正十五年十二月二十五日

▲近松秋江氏 市外東中野上ノ原九五四(前住宅の直ぐ前)の新築家屋に転居

▲豊島与志雄氏 一昨日熱海に旅行一週間の予定

▲故山村暮鳥詩碑建設 敷地は常陸磯浜日ヶ原に決定建碑式は明春三月举行

▲加藤四郎氏 詩集「月に向つて」さめらう書房から近刊

▲林美美子氏 平林たい子さんと共に本郷区追分町サニコトブキ屋酒店に転居

▲「詩人」創刊 下田惟直、井上好澄両氏により市外西巢鴨町堀の内八六其社から一月創刊

昭和元年十二月二十六日 なし

昭和元年十二月二十七日

▲昇曙夢氏 風邪引籠中尚氏は社会戯曲「空氣饅頭」(ロマシヨーフ)十五幕十五場を翻訳中

▲荒畑寒村氏 新訳「なぜなの」(ミュレン著)を無産社から近刊

▲小室翠雲氏 鹿児島で越年する

▲島田墨仙氏 市外平塚町中延一七一(さいかち坂上)の新居に移転

▲広瀬操吉氏 伊豆から帰京した

▲プラトン社 牛込六五一七番編輯用電話架設

昭和元年十二月二十八日

▲佐藤朝山氏 引続き奈良の日吉館に在り近く叡山に冬籠する

▲中村岳陵氏 風邪引籠中夫人も神経痛を病んでゐる

▲神原泰氏 市外下目黒上耕地五に転居

▲百田宗治氏 新著詩集「何もない庭」を椎の木社から「詩の本」を金星堂から「詩の鑑賞」を厚生閣から順次刊行

▲長野草風氏 神経痛の治療後漸く快方に向つた

▲鍵山博史氏 「文芸時報」を辞し「文芸公論」編輯部に入社

▲松島醉壺洞氏 作陶器小品即売会を三十一日まで日本橋丸善階上に開催

▲「青巻」新年号 創作「喜代竜の顔」(井上)「寒い家」(直一)「黒夢」(大二)「宣伝日和」(筒井)

▲日本美術協会 昭和二年三月十五日から四月五日まで上野同協会で彫刻、美術工芸品展を開催

▲「詩文学」新年号 隆輝、融、格、敬止、雄三、淳三、

虎雄、俊孝、正俊執筆

▲銅鑼社 市外池袋一一三五手塚方に移転

▲白山卓吉氏 等の雑誌「青空」は来春から「芸術研究」と改題す

▲原久一郎氏 新訳「大トルストイ伝」第二巻(ビリユーコフ著)を新潮社から近刊

▲「現代文芸」新年号 新人推薦号とする

▲本郷絵画展 来春早々上野公園府美術館に開催

▲「近代文芸」「昭和文芸」と改題正月から其社から創刊一夫、淳三、格、知義、恭次郎其他執筆

昭和元年十二月二十九日

▲松居松翁氏 廿九日令息桃多郎氏と共に京都行同地で越年。

▲「労働運動」一月号 「機会は常にある」(憲二)「議会政治の正体」(作太郎) その他

▲「太平洋詩人」一月号 米次郎、新吉、卓、哲郎、渡、その他創作「共同ベンチ」(村山知義)附録「詩人宿所録」

▲「鐘」創刊 立教大学を背景とし一月号から創刊王堂、由三郎、鍊次、成吉、その他数氏執筆

▲「白山文学」一月号は休刊

▲「新思潮」新年号 新同人八名を加へ発行

▲「ロシヤ文学」創刊 スパルイン、曙夢、敬止、保雄、孝平の諸氏執筆

▲「辻馬車」新年号 「敵討卯花くたし」(神崎清)「AWALLFLOWER」(小野勇)「アムステルダムの水兵」(堀辰雄)「創」(舟橋聖一)「口笛」(長沖)「黒

い手の恋人」(村松敏)「靴の影」(中川六郎)その他
▲「伝説」(新年瑞兎号) 藤沢衛彦、武田豊四郎、中村

A Database of the Miscellaneous News Column “Yomiuri-shou”

Masahiro Ikizumi, Takumi Ishikawa, Tatsunori Ogawa,
Tsuyoshi Kusuda, Shigeo Kouchi, Yuki Kobayashi,
Seo Inwoo, Bai Jie, Azusa Hirakawa

By compiling a database of the “Yomiuri-shou” a column for miscellaneous news that appeared in the Yomiuri Newspaper from June 1898, we aim to present new information related to the research of literature, history, the arts, and other cultural activities of the period.

The “Yomiuri-shou” was one of the first examples of the media taking the initiative in reporting the notes, news and gossip of authors, artists and intellectuals. The “Yomiuri-shou” was highly regarded by newspaper readers, and led to other newspapers also introducing similar columns for miscellaneous news.

Through the “Yomiuri-shou” reports of the lives of authors and intellectuals—where they went, who they met, what they did—the reading public became familiar not only with finished works, but also with the process of creation that brought them about. In addition, the public was also able to gain an insight into the ways in which lecture sessions and research groups were organised, as well as into the personal relationships between authors.

The “Yomiuri-shou” contained a particularly wide range of information related to authors-travels, their journalistic, research, lecturing and publishing activities (particularly interesting as much information preceded actual publication, giving readers a commentary on changes of title and form), their sickness and health, their changes of address et cetera. Furthermore, it presented information not only on literary authors, but also on the arts in general. Through the compilation of a “Yomiuri-shou” database, it should be possible to reconstruct the daily changes of the cultural milieu, thus gaining a new perspective on the literature, culture and arts of the period, previously considered only in terms of information given by and about specific individuals. By including a search function, it will be possible to reorganise the information by topic or aim. Specifically, ① it will be possible to obtain concrete information on works’ inception, the personal influences on them, and the publishing processes that brought them into print; ② it will be possible to utilise this database to conduct interdisciplinary research on literature, cultural history and publishing history; ③ it will be possible to gain information not only on famous authors, but also on those whose activities have remained little known until now; ④ by examining the ways in which the mass media reported on individuals at the time, it will be possible to gain an insight on the processes of personification, deification and commodification of authors and artists; ⑤ new opportunities for further research will be created by including a search function (for example, entering the keyword “Atami” will bring up a list of results including the authors and intellectuals who visited it, the events that took place there, and the role that Atami played in modern cultural history); ⑥ new light will be shed on the relationship between the mass media and cultural phenomena; ⑦ it will be possible to investigate the forces that caused the publication of advertised works to be cancelled, or their titles and contents changed. In addition, by sharing information, it should be possible to expand the database into a system for investigating the realities and fictions surrounding a large number of historical individuals. Such a system would find extensive usage over a range of disciplines in the humanities.

The present paper is the first stage in the construction of the database. By recording the “Yomiuri-shou” from 1926, we have highlighted several points that must be kept in mind in the further expansion of the database, and outlined plans for doing so. The data input was conducted by postgraduate students at the Kyushu University School of Social and Cultural Studies, under the direction of Professor Ishikawa

Takumi, as part of the “Research Methodology” unit. Together with a thorough clarification of publishing details, we have tried as far as possible to correct mistakes in printing and editing. Please see the explanatory notes section for details. In conclusion, this paper is no more than a prototype in the compilation of a database to organise the enormous amount of information in the “Yomiuri-shou”